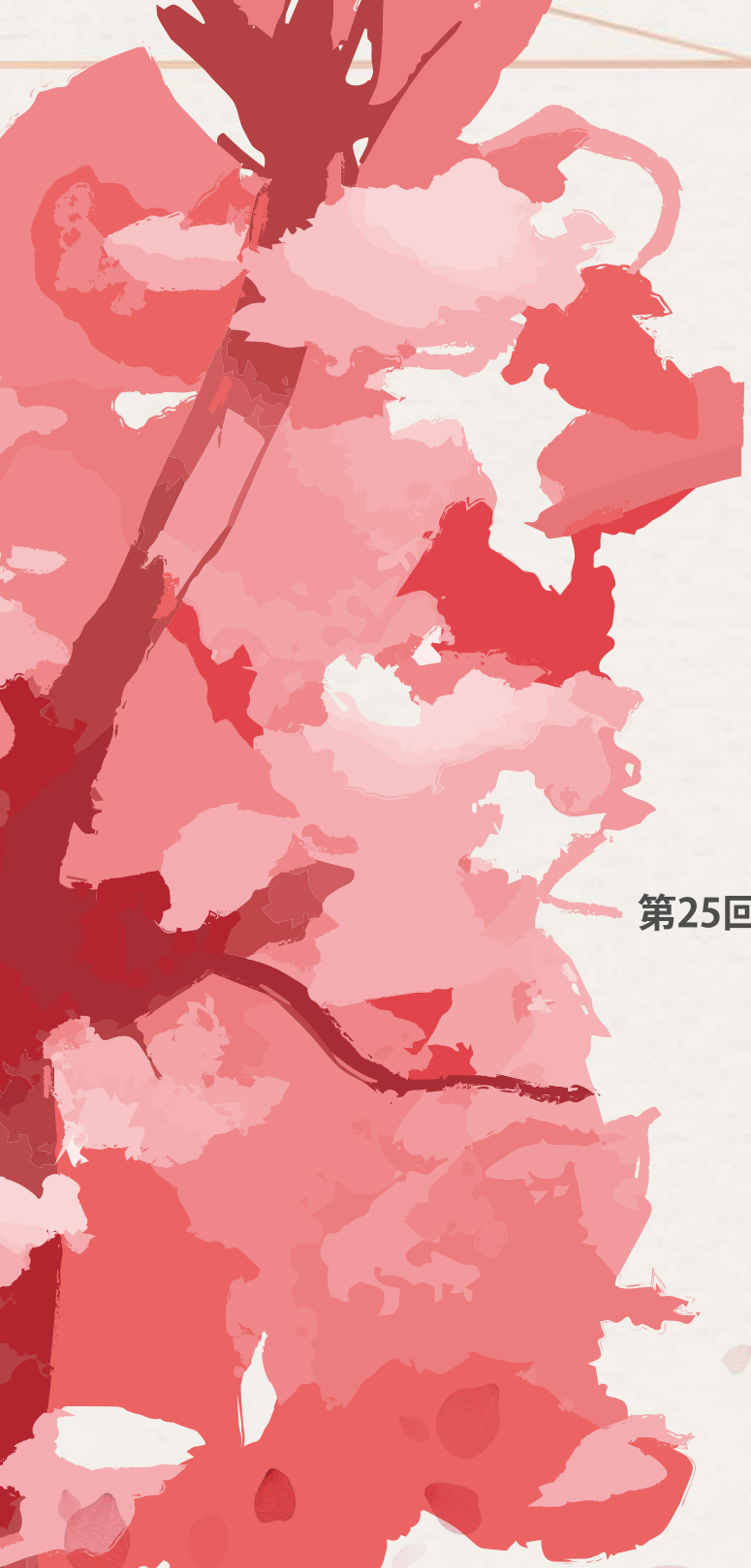
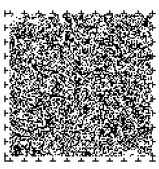


DEAFLYMPICS

TOKYO 2025
25TH SUMMER DEAFLYMPICS

第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025

大会報告書





DEAFLYMPICS

TOKYO 2025
25TH SUMMER DEAFLYMPICS

第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025

大会報告書

一般財団法人全日本ろうあ連盟デフリンピック運営委員会委員長 ご挨拶



2022年９月にオーストリアで開催されたICSD総会にて、東京が2025年デフリンピックの開催地に正式決定してから、東京都や東京都スポーツ文化事業団、全日本ろうあ連盟による大会運営組織を立ち上げ、私たちは３年間、大会成功という責務を果たすべく取り組んできました。

100年の歴史を持つデフリンピックを日本・東京で初めて開催することは、我が国におけるきこえない人ときこえる人とのコミュニケーションや、情報バリアフリー・情報アクセシビリティの推進、手話言語への理解を広め共生社会の実現につなげる責務も担っていました。

共生社会の実現に向け、全国のきこえない仲間たちと自治体、きこえる人が共に、デフリンピック啓発イベントや大会PRカー巡回に取り組んでまいりました。47都道府県全てでイベントを開催し、その数は80か所を超えました。

また、デフアスリートたちは講師となって、全国各地の小中学校やろう学校でデフスポーツ体験や手話言語指導に取り組みました。

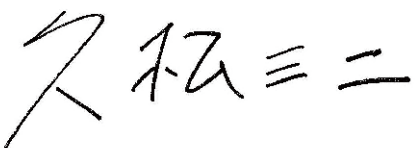
大会では、約3,000人のボランティア、競技関係者、通訳者（国際手話通訳者、日本手話言語通訳者、英語通訳者）、約33万人を超える観客たち、そして世界各国からのデフアスリートがそれぞれ素晴らしいパフォーマンスを見せてくれました。会場では大会エンブレムと同じように全ての人々の笑顔であふれていました。

東京2025デフリンピックは皆様と共に創り上げた大会となったのです。ICSD、日本国政府、東京都、JOC、JPSA、関係自治体、全国のきこえない仲間やきこえる仲間の皆様、大会に携わった全ての方々に、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

私たちは大会を通じて、たくさんの気づきと未来に向けて前進していく力を頂きました。デフリンピック提唱者アルケー氏が夢みた差別も障壁もなく、お互いを認め、支えあい、誰もが個性を活かして力を発揮できる共生社会を必ず創ることを決意し、私たちはさらに前進していきます。

この報告書がこれからのデフリンピック100年に向けて活用されるなら、こんなうれしいことはありません。デフリンピックが持つ力と価値は素晴らしいものです。2029年アテネ大会の成功を心からお祈り申し上げます。
そして、“ありがとう　Arigatou”

一般財団法人全日本ろうあ連盟
デフリンピック運営委員会　委員長



東京都知事
ご挨拶



記念すべき100周年かつ日本初開催となる東京2025デフリンピックは、かつてない感動と興奮に包まれながら、12日間にわたる熱戦を経て、大盛況のうちに閉幕しました。

共に大会を創り上げた、全日本ろうあ連盟、東京都スポーツ文化事業団をはじめ、日本国政府、都内区市町村、福島県及び静岡県、ボランティアなど関係者・関係団体の皆様、応援してくださった都民・国民の皆様、この大会に携わった全ての方々に、心より感謝申し上げます。

本大会では、デフアスリートが己の限界に挑み、素晴らしいパフォーマンスを発揮し、日本代表選手団として過去最多のメダルを獲得しました。それを後押ししたのが、ろう者やデフアスリートとともに開発した、東京発の目で見る新しい応援スタイル「サインエール」です。東京2020大会では叶わなかった、観客で埋め尽くされたスタンドで、障害の有無に関わらず一緒になって応援し、デフアスリートが活躍で応える。会場全体で笑顔と感動を共有する一体感を醸成したシーンの数々こそ、私たちが目指してきた共生社会の一つの姿でした。

また、子供たちに会場での観戦や大会運営の機会を提供するプログラムは、ろう学校の生徒たちをはじめ、参画した子供たちにとって、希望に満ちた未来への道筋を描く、またとない機会となりました。そして、ろう者の文化への理解の裾野を広げるとともに、スポーツの素晴らしさに触れ、親しむ機会を創出したことは、誰もが心豊かに暮らせる社会の実現に向けた、大きな一歩となりました。

大会開催に向けては、手話言語の普及・啓発を図るとともに、都立スポーツ施設における情報保障環境の整備を推進しました。競技会場やデフリンピックスクエア、空港や鉄道、ホテルなど都内各施設においては、ユニバーサルコミュニケーション技術の活用を促進しました。加えて、音が見える、音を感じる最新技術を活用し、新たな競技観戦の形を示すなど、いつでも・どこでも・誰とでも繋がることができる、アクセシブルな未来への道筋を具体化しました。

この報告書は、多様な人々が協働して進めた、大会に向けた準備や取組、その中で得られた経験や創出されたレガシーを、後世へと受け継ぐために作成したものです。東京都は、デフリンピックの成功を弾みに、“スポーツの力”で東京の未来を切り拓き、誰もが互いの違いを認め、尊重しあい、個性を活かして力を発揮できる、「全ての人が輝くインクルーシブな街・東京」の実現への歩みを更に加速してまいります。

結びに、本大会の開催に向けて、ご協力いただいた関係各位に改めて感謝を申し上げ、発刊にあたってのご挨拶といたします。

東京都知事



公益財団法人東京都スポーツ文化事業団理事長
ご挨拶



東京2025デフリンピックは、12日間にわたり熱戦が繰り広げられ、多くの観客の熱い声援が響き渡るなど、大盛況のうちに幕を閉じました。日本での初開催、そして100周年の記念すべき大会を成功裏に終えることができましたことを大変喜ばしく思います。

当事業団は、大会期間中、各競技や会場の運営、輸送、宿泊、競技映像の配信などのオペレーションを担ったわけですが、競技会場には28万人を超える方々が来場し、客席は子供たちをはじめ、多くの観客で埋め尽くされました。世界各国・地域から集まったデフアスリートの皆様の情熱と躍動、素晴らしいプレーの数々に多くの方々が魅了されたことでしょう。

また、競技映像についても、約320万回再生されており、世界中の人々も巻き込んで、大会が盛り上がったことが伺えます。

さらに、デフスポーツやろう者の文化への理解を深める様々なコンテンツやプログラムを用意した、「デフリンピックスクエア」には、５万人を超える方々に来場いただき、会場中できこえない人ときこえる人が交流し、障害の有無にかかわらず、誰もが共に楽しむ姿を見ることができました。

日本での開催が決定した３年前には想像もできなかったこれらの光景は、大会の運営を担う者として、大変感慨深いものでありました。

これもひとえに、日本のデフアスリートやきこえない子供たちの長年の想いに応えるため、招致活動から取り組まれた全日本ろうあ連盟及び選手発掘や気運醸成イベント、ボランティア募集など多岐にわたる御助力をいただきました東京都の御尽力があってのものと存じます。

また、競技運営面については、各競技団体の皆様から、多くの御助言や御協力をいただいたことで、円滑な競技進行につなげることができました。会場運営面についても、多くの自治体や協賛者の皆様からの御支援、手話言語通訳者やボランティア等大会に関わった全ての皆様の御活躍により、大きな問題もなく運営できたと考えます。心より感謝申し上げます。

この大会報告書は、全日本ろうあ連盟、東京都、当事業団の三者連携の下、本大会に向けた準備などの軌跡や大会期間中の取組について、後世につないでいくために作成したものです。

本大会で得た経験やノウハウが、レガシーとして今後のデフリンピックや様々な国際スポーツ大会、そして未来の人々へ引き継がれていく一助となりますことを願っております。

結びに、本大会に関わった全ての皆様に改めて御礼を申し上げ、御挨拶といたします。

公益財団法人東京都スポーツ文化事業団　理事長



一般財団法人全日本ろうあ連盟理事長
ご挨拶



デフリンピック100周年の記念すべき、そして我が国で初開催となった「東京2025デフリンピック」は、約33万人の観客の熱気と多大な成果と共に閉幕しました。

世界各国・地域から集ったデフアスリートの皆様が日頃の鍛錬の成果を発揮し、真摯に競技に臨む姿は、私たちに深い感動と勇気を与えてくれました。全ての競技で繰り広げられた熱戦や手話言語やアイコンタクトを駆使したプレーは、デフスポーツの素晴らしさを教えてくれました。

私たちがおもてなしの心を通じて、デフアスリートの皆様が最高のパフォーマンスを発揮できる競技環境を提供できたのであれば、これに勝る喜びはありません。

本大会の成功は、多くの方々の献身的な尽力によるものです。各国選手団の皆様やボランティアの皆様、手話言語を含む通訳者や国際手話通訳者の皆様、競技関係者の皆様、そして、本大会の理念に深く賛同・ご支援いただいた大会協賛企業の方々に、深く感謝申し上げます。会場に足を運び、デフアスリートへサインエールや手話言語で声援を送ってくださった、全ての観客の皆様にも重ねて感謝申し上げます。

東京2025デフリンピックが残す最大のレガシーは、“誰もが個性を活かし、力を発揮できる” 共生社会の実現です。私たちはこの大会を通じ、社会や人々、子どもたちへ「きこえないこと」や「手話言語」、「ろう者の文化」への理解を深め、手話言語や文字による視覚的情報保障やコミュニケーションの大切さを伝えることができました。また、きこえない人ときこえる人が共に対等に取り組んだ大会運営の形は、まさしく共生社会のモデルといえるものです。

この取組が「東京2025モデル」として、新たなデフリンピック100年の礎となり、今後の大会に継承されていくことを願います。

このレガシーは、全ての人々や多様な文化を持つ人々が真に活躍できる共生社会の実現への大きな推進力となるでしょう。私たちは、デフスポーツの更なる発展と、東京で花開いた共生社会の姿を次世代へとつないでいく使命を果たしてまいります。

結びに、大会を支えてくださったICSD、日本国政府、東京都、JOC、JPSA、関係自治体、大会関係者等の全ての方々に厚く御礼申し上げますとともに、東京2025デフリンピックがもたらしたものが未来を明るく照らし、世界へ広がっていくことをお祈りし、主管者の挨拶といたします。

一般財団法人全日本ろうあ連盟　理事長

石橋大吾

目次

一般財団法人全日本ろうあ連盟デフリンピック運営委員会委員長ご挨拶
東京都知事ご挨拶
公益財団法人東京都スポーツ文化事業団理事長ご挨拶
一般財団法人全日本ろうあ連盟理事長ご挨拶

写真で振り返る東京2025デフリンピック
数字で見る東京2025デフリンピック

第1章 大会概要 …… 32

大会ビジョン …… 33
大会がもたらしたもの …… 34
1 きこえない人・きこえる人の協働 …… 34
2 スポーツ大会の新たな運営モデルの構築 …… 34
3 共生社会実現への貢献 …… 34
デフリンピック …… 35
東京2025デフリンピック …… 36
1 大会概要 …… 36
2 大会エンブレム …… 37
3 大会メインカラー …… 37
4 大会公式マスコット …… 37
競技日程及び会場 …… 38
1 競技日程 …… 38
2 競技会場・練習会場及び開閉会式会場 …… 39

第2章 大会前の取組 …… 42

開催の決定から大会に向けた取組 …… 43
1 大会の立候補から招致活動・経緯・決定 …… 43
2 準備・運営体制 …… 43
3 開催基本計画等の策定 …… 44
4 ガバナンスの確保 …… 45
5 SD視察 …… 49
6 競技実施に向けた準備 …… 50
7 大会前の選手団支援 …… 54
8 コミュニケーションツール（ユニバーサル・チャットボード） …… 59
開催に向けた盛り上げ …… 61
1 都における気運醸成の取組 …… 61
2 福島県及び静岡県における気運醸成の取組 …… 77
3 ステークホルダーと連携した気運醸成等の取組 …… 78
4 全国の気運醸成等の取組 …… 79
5 大会エンブレムの選定 …… 83
6 メダルデザインの選定 …… 84
7 選手・競技団体への支援 …… 85

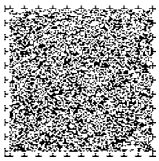
第3章　大会運営 …… 88

MOC（大会運営本部） …… 89
1　MOC（大会運営本部）の設置及び運営 …… 89
2　リスク管理 …… 92
大会期間中の各国選手団とのコミュニケーション … 94
1　各国選手団付きリエゾン …… 94
2　選手団団長会議 …… 95
3　選手団問合せ窓口 …… 96
競技・会場運営 …… 97
1　運営体制 …… 97
2　競技運営 …… 98
3　会場運営 …… 109
4　競技結果 …… 112
5　スポーツプレゼンテーション …… 112
開会式及び閉会式 …… 113
1　開閉会式の演出 …… 113
2　開閉会式における情報保障 …… 115
3　子どもたちなど多様な人たちの参加 …… 115
4　一般観覧の募集 …… 115
5　開会式 …… 116
6　閉会式 …… 120
表彰式 …… 122
1　表彰関連備品 …… 122
2　表彰運営 …… 125
聴力検査 …… 126
1　取組内容 …… 126
2　検査実施時の情報保障 …… 126
アンチ・ドーピング …… 127
1　取組内容 …… 127
2　ドーピング検査時の情報保障 …… 127
3　アンチ・ドーピング普及活動 …… 127
IDカード …… 128
1　概要 …… 128
2　発行対象及び発行条件 …… 128
3　発行場所 …… 128
4　IDカードの種類・デザイン等 …… 129
5　ゾーンアクセス …… 129
6　大会時のオペレーション …… 130
7　各会場でのデイパスの活用 …… 130
デフリンピックスクエア …… 131
1　デフリンピックスクエアとは …… 131
2　会場となる施設との事前調整 …… 132
3　オープニングイベント …… 133
4　各エリア紹介 …… 134
広報 …… 143
1　広報活動 …… 143
2　メディア …… 144
3　放映、競技動画配信 …… 147
4　パブリックビューイング …… 148
5　大会記録映像 …… 148
輸送 …… 149
1　基本方針 …… 149
2　輸送ハブ及び指定乗降地等の確保 …… 150
3　選手団輸送オペレーション …… 150
4　VIK車両運用 …… 153
5　車両の識別方法 …… 154
宿泊 …… 155
1　配宿計画 …… 155
2　宿泊予約 …… 155
3　宿泊施設でのサービス …… 158
4　大会時の対応 …… 158

出入国対応計画 …… 159
1 出入国対応計画 …… 159
飲食・物品協賛 …… 160
1 飲食計画 …… 160
2 各会場での飲食提供 …… 165
3 協賛物品の貨物輸送業務 …… 166
救護サービス …… 169
1 医療救護の基本方針 …… 169
2 会場医療救護計画の策定 …… 169
3 大会開催に備えた体制整備 …… 169
4 救護対応実績 …… 173
警備 …… 175
1 警備計画の策定 …… 175
2 警備体制・取組 …… 175
3 治安機関との連携 …… 175
会場装飾 …… 177
1 コンセプト …… 177
2 装飾一覧 …… 177
持続可能性 …… 179
1 3R（リユース・リデュース・リサイクル）の推進 …… 179
2 プラスチック削減 …… 179
3 省エネルギー・再生可能エネルギー …… 179
大会を通じた各種PR …… 180
1 ブース出展 …… 180
2 都の各種取組 …… 182

第4章 大会スタッフ及びボランティア …… 188

大会スタッフ …… 189
1 大会スタッフの確保 …… 189
2 研修等の取組 …… 189
ボランティア …… 191
1 ボランティア募集 …… 191
2 ボランティアへの研修 …… 192
3 配置・シフト調整 …… 192
4 大会時の活動状況 …… 192
5 活動を終えたボランティアの声 …… 196
国際手話通訳者及び日本手話言語通訳者等 …… 197
1 国際手話通訳者及び日本手話言語通訳者の養成 …… 197
2 日本手話言語解説のための研修会 …… 198
3 大会準備期間における活動 …… 199
4 大会時の配置・シフト調整 …… 199
5 大会時の活動状況 …… 200
6 活動を終えた国際手話通訳者及び日本手話言語通訳者の声 …… 202
筑波技術大学との連携 …… 203
1 本番に向けた連携体制構築 …… 203
2 大会準備期間における取組 …… 203
3 大会時の活動状況 …… 205
4 活動を終えた学生の声 …… 206
協賛者の社員等の参画 …… 207
1 大会時の活動状況 …… 207
2 活動を終えた協賛者の社員等の声 …… 208



第5章 財務 …… 210

収入確保の取組 …… 211
1 寄附 …… 211
2 クラウドファンディング …… 211
3 キャッシュレス募金 …… 211
4 国からの支援 …… 212
5 宝くじ支援 …… 212
6 助成金事業 …… 212
7 大会参加料 …… 212
協賛 …… 213
予算編成、大会規模（計画額）、決算 …… 219
1 大会規模 …… 219
2 大会収支の見通し …… 221
財産処分 …… 221
1 基本方針及び対応 …… 221
2 アーカイブ …… 221

第6章 大会に向けた共生社会実現に資する取組 …… 222

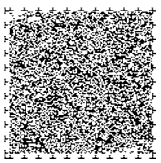
UC等の促進 …… 223
1 UCの促進 …… 223
2 オールウェルカムTOKYO ～デフ・スペシャル～ …… 227
3 国際手話の普及促進 …… 227
4 施設のアクセシビリティ …… 228
子どもの参画 …… 229
1 都における子供の競技観戦・体験活動事業 …… 229
2 福島県及び静岡県における子どもの競技観戦 232
3 全国ろう学校子ども観戦 …… 232
4 被災地子ども観戦 …… 233
5 未就学児のデフリンピック観戦事業 …… 233
6 ろう学校の子どもたちの大会運営への参画 …… 233
7 こども記者 …… 235
多様な人々の参画 …… 235
1 スポーツFUN PARK …… 235
2 ボランティア応募者等の大会への参画 …… 236
3 TEAM BEYOND観戦会 …… 236
4 分身ロボットの活用による障害のある方等の大会参画 …… 237
5 パラスポーツの振興とバリアフリー推進に向けた懇談会による発信 …… 238
6 サインエール …… 238

第7章　レガシー …… 240

大会を通じて創出されたレガシー …… 241
1　きこえない人・きこえる人の協働 …… 241
2　スポーツ大会の新たな運営モデルの構築 …… 243
3　共生社会実現への貢献 …… 245
おわりに　～未来に向けて～ …… 248

資料編 …… 250

用語集 …… 251
競技結果報告書 …… 252
詳細セッションスケジュール …… 274
大会サービスガイドの項目一覧 …… 289
第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025
宿泊ガイド（第２版）項目一覧表 …… 291
都スポーツイベントとの連携一覧 …… 292
デフリンピック・フェスティバル実施状況 …… 295
商業施設を活用したイベントキャラバン
開催一覧（2025年実施） …… 297
透明ディスプレイ設置施設一覧（令和７年度） …… 302
東京2025デフリンピック応援隊一覧 …… 304
東京2025デフリンピック実施に係る
主な会議体の開催実績 …… 307
印刷物一覧 …… 311
競技御覧等一覧・競技視察一覧 …… 314
会議体 …… 315
協賛者 …… 317
寄附をいただいた方々 …… 319
協力団体 …… 320
年表～東京2025デフリンピックの軌跡～ …… 321



写真で振り返る
東京2025デフリンピック














Japan Self-Defense Forces
自衛隊のみなさま
Japan Self-Defense Forces
自衛隊のみなさま

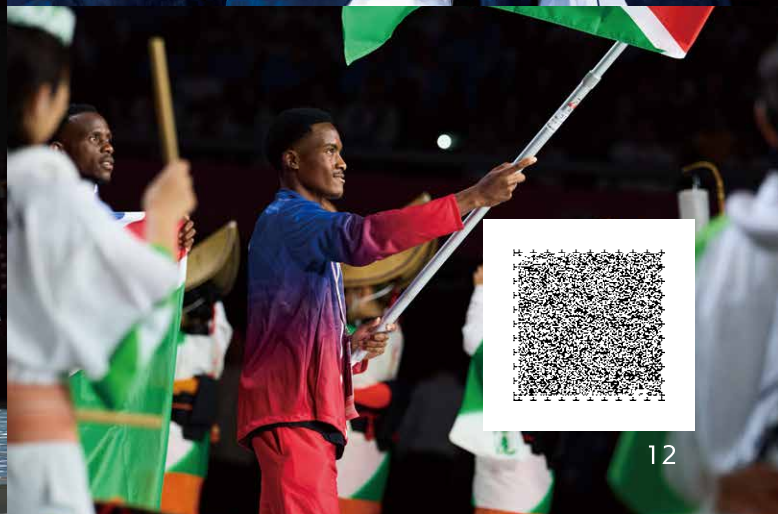

だいこん連
だいこん連












TOKYO 2025
DEAFLYMPICS
FOOTBALL
WINNERS






SoftBank


Converts voice
to text.




FOOTBALL
WINNERS






VENEZUELA
POLSA
23
TOKYO


JAPAN
17
USA
24




がんばれ！
丸山香織選手
GO FOR IT
GO！
若松優津 選手


TOKYO 2025
DEAFLYMPICS
東京新聞
water*net
SHIONOGI
TBグループ
住友電設
AISIN
TOWA
Orico
POCARI SWEAT
TOYOTA
FILLTUNE
TOKYO 20






CROT
21










こんにちは。


asics
TOYOTA






GERMANY
2
UBEN


VUČAK
10








手拍子!


2
LTU







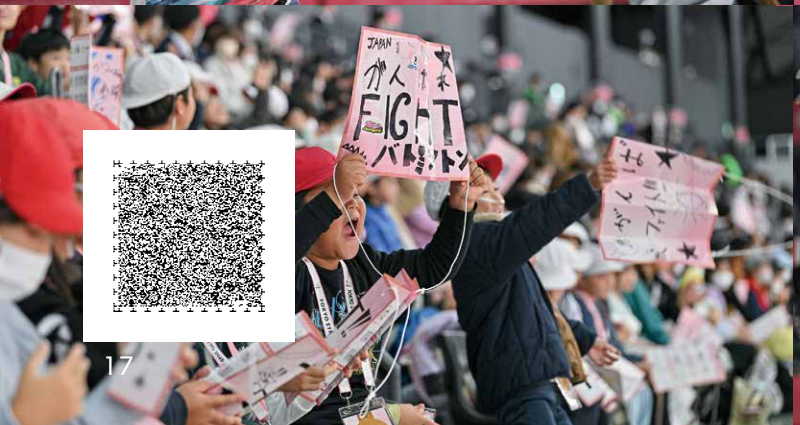

2025
LYMPICS


DEAFLYMPICS


YONEX
TOYOTA




TOKYO 2025
DEAFLYMPICS
TOYOTA
YONEX


JAPAN
FIGHT


YADAV.A
INDIA








Let's try it together!
Raise your arms
and make a power pose!
両腕を上げて、
ガッツポーズ！
International Sign
Japanese Sign Language
ながらサインを一つずつ作っていきましょう。
まずは両腕を上げて、ガッツポーズみんな一緒にやれますか？




E
READY




THANK YOU
(ARIGATO)
Danke!!
Hvala!! Paldies!!
Dekujeme!!




完全燃焼


JAPAN
asics TOYOTA
ARAYA
WANG




4
3






UBS
SUISSE
asics TOYOTA
RENNER
asics TOYOTA
POZZI


POLSKA
asics TOYOTA
KAMINSKA


JAPAN
asics TOYOTA




HELLAS
TOYOTA
14
TOKYO
MÉXICO
22


CZECHIA
TOYOTA
TOKYO

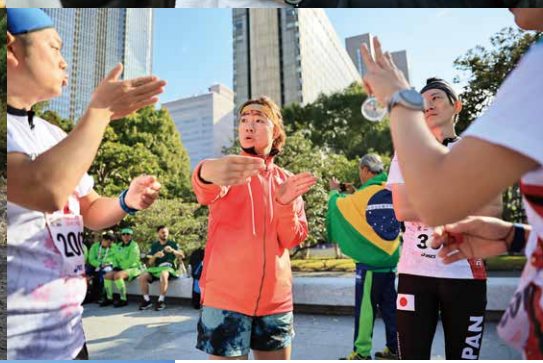

JAPAN
日本代
をつかめ！






JAPAN
USA
214
2025
218
















2025 DEAFLYMPICS
START/FINISH





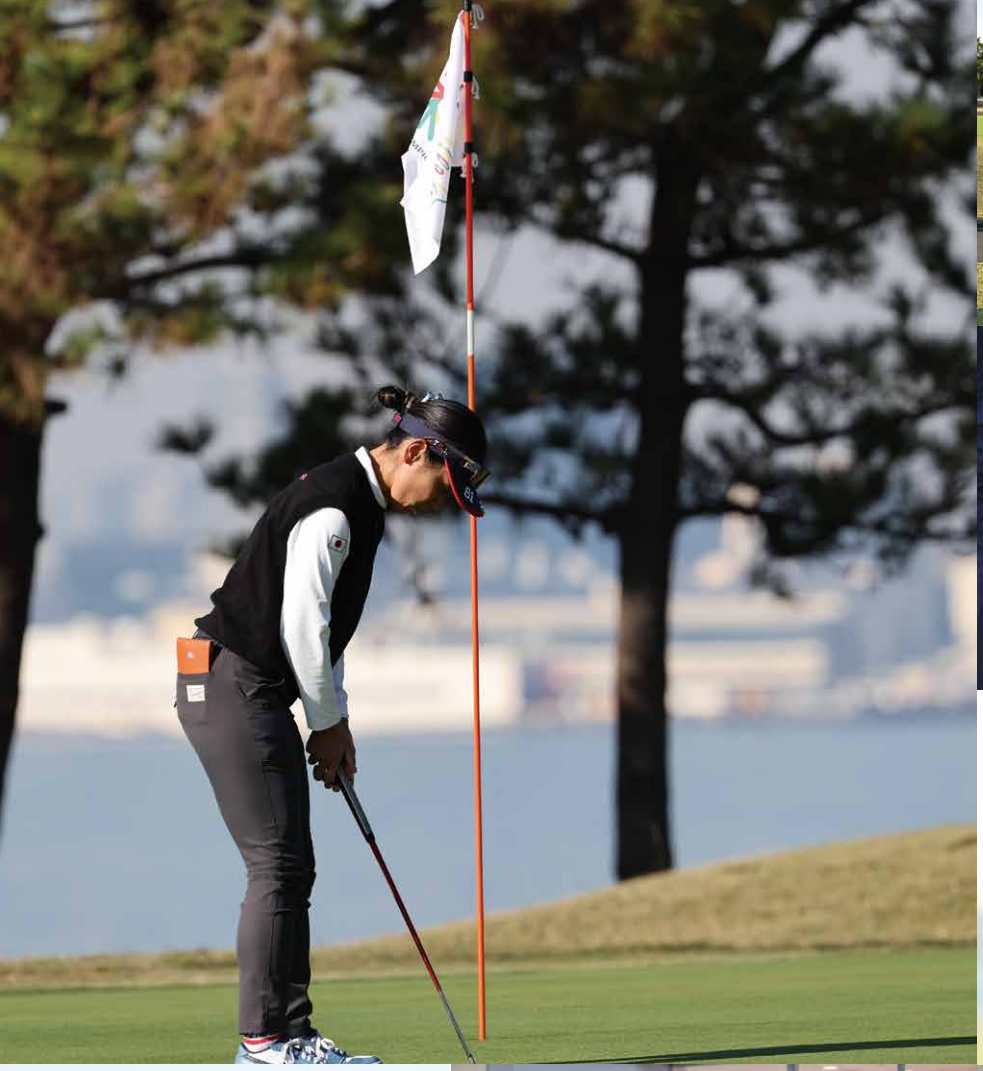



MERIDA
MERIDA
MERIDA
MERIDA
MERIDA




Show your ID Card
or Bike TagNumber






















KOREA
1212




ALG


TOKYO 2025

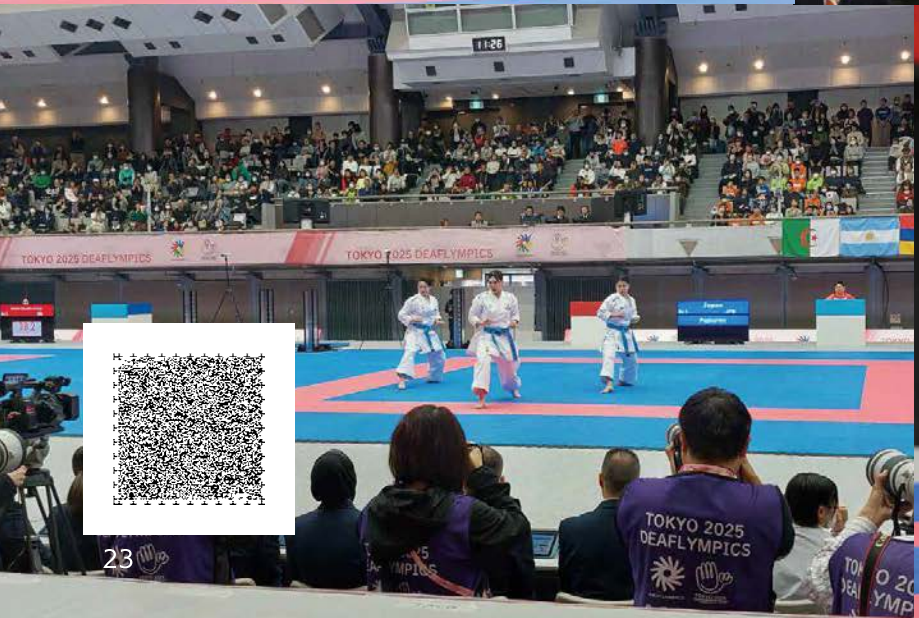



TOKYO 2025 DEAFLYMPICS



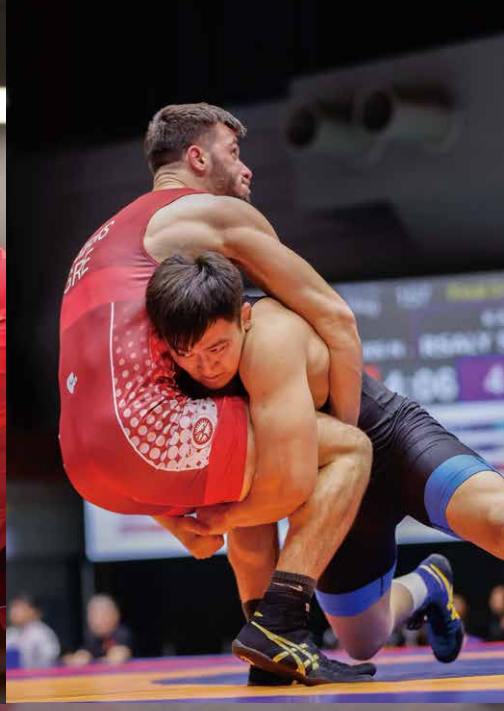



DEAFLYMPICS
TOKYO 2025


TOKYO 2025 DEAFLYMPICS
TOKYO 2025 DEAFLYMPICS
TOKYO 2025
DEAFLYMPICS



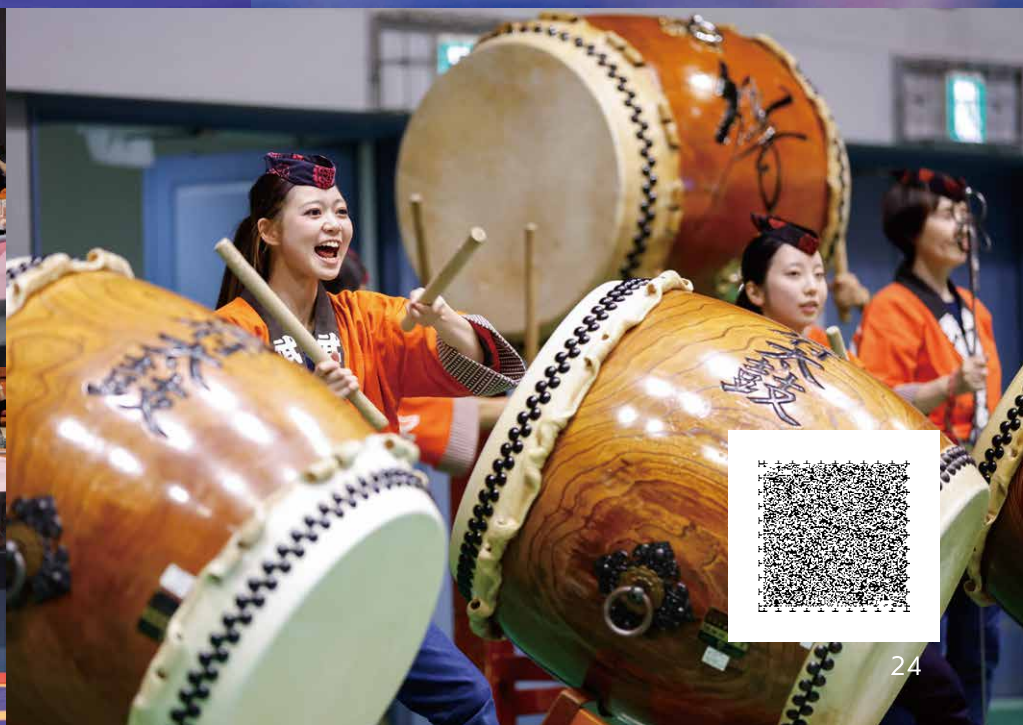
















UKRAINE


TOKYO 2025 DEAF
南
SOUTH
TOKYO 2025
DEAFLYMPICS

TOKYO
DEAFLY



1
2
3




GBR
SEIKO




SEIKO


YO 2025
EAFLYMPIC
1
2
3


SEIKO
SEIKO
2
SEIKO
3
SEIKO






NORGE
CRAFT




TOKYO 2025




TOKYO 2025
5TH SUMMER DEAFLYMPICS


日本代表選手応援メッセージボード




General Information Desk


体験する


32
1どうぞ
Everyone, together
32
1 Please


デフリンピック
手供レポーター
大出動!
体験活動



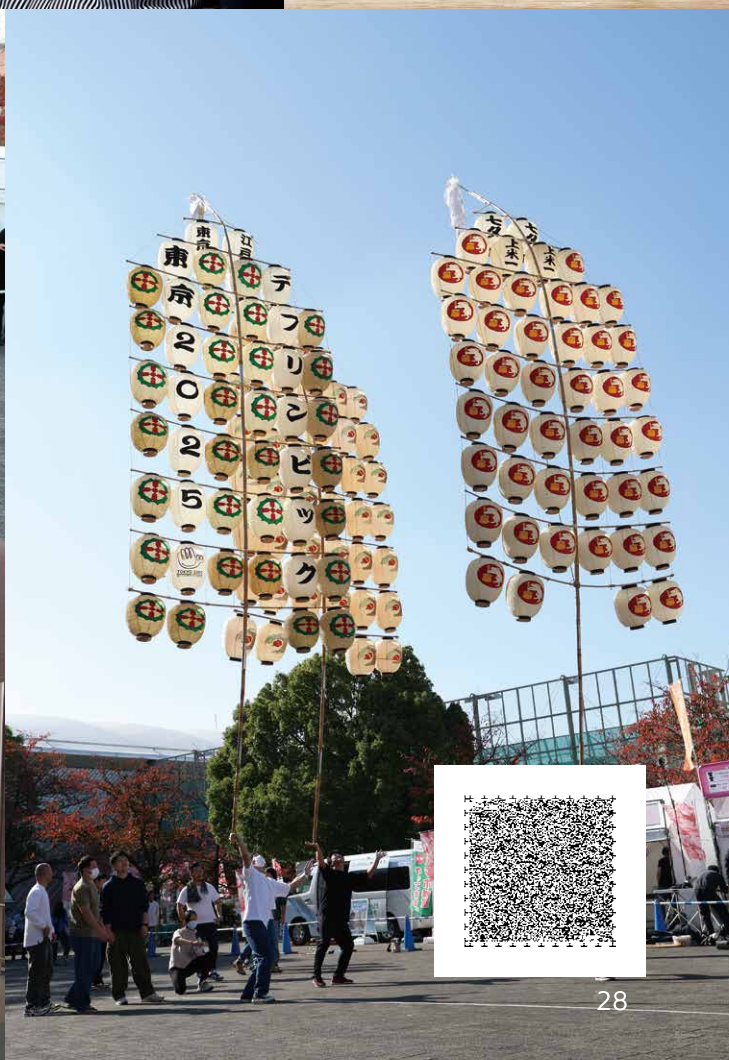









SoftBank Corp.
東京2025デフリンピック
2025.11.15 SAT - 11.26 WED


東京2025デフリンピック

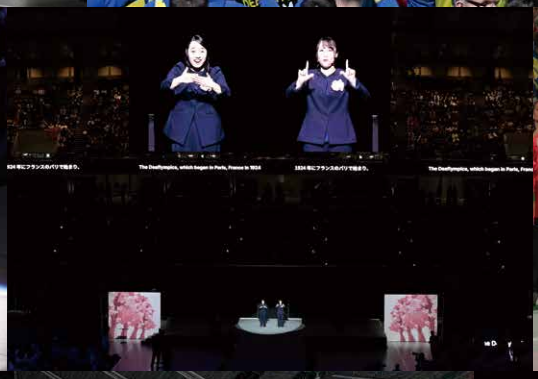

DEAF
SPORTS
HOUSE
展示コーナー




TOKYO 2025


USA
UKRAINE
Canada








GREAT BRITAIN






Good luck!!
Have fun!
-Tiara g.
19/11/25

数字で見る
東京2025デフリンピック

参加国・地域数
79か国・地域等

参加選手数
2,943人

競技会場来場者数
281,235人

子供観戦招待数
約50,000人

デフリンピックスクエア来場者数
57,168人

メダル獲得国・地域数
54か国・地域

世界デフ新記録誕生数
53件

デフリンピック新記録誕生数
78件

参加選手の最高年齢 / 最少年齢
84歳 /13歳

手話言語通訳者活動数
241人
（国際手話100人
日本手話言語141人）

ボランティア活動数
2,959人

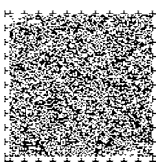
サポートスタッフ活動数
706人
（筑波技術大学98人
協賛者608人）

協賛者数
合計160者

競技会場メディア取材数
2,481媒体
3,976人

競技動画再生数
（2025年11月27日15時時点）
3,245,533回

SNS登録者数
（2025年12月1日時点）
X 5,350人
Instagram 25,285人
YouTube 36,800人



第1章

大会概要



大会ビジョン

第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025（以下「東京2025デフリンピック」又は「大会」という。）では、大会ビジョンとして、３つのビジョンを掲げた。この大会ビジョンの下、東京2025デフリンピックを契機に、デフリンピックやデフスポーツへの理解のすそ野を広げるとともに、障害のあるなしにかかわらず、共にスポーツを楽しみ、互いの違いを認め、尊重しあう共生社会づくりに貢献する大会の実現をめざした。

1 デフスポーツの魅力や価値を伝え、人々や社会とつなぐ

2 世界に、そして未来につながる大会へ

3 “誰もが個性を活かし力を発揮できる”共生社会の実現

1 デフスポーツの魅力や価値を伝え、人々や社会とつなぐ

- デフアスリートを主役に、最高のパフォーマンスを発揮できるよう大会準備を進め、その姿を通じて、本来、スポーツが持っている素晴らしさとともに、デフリンピックやデフスポーツの魅力や価値を発信し、普及・啓発に努める。
- また、あらゆる人が協働した大会運営や子どもたちの参画など、多様な視点を大切にした大会運営をめざす。

2 世界に、そして未来につながる大会へ

- 大会を通じた手話言語の理解・普及・拡大など従来からの情報保障の推進・強化に加え、デジタル技術を活用した、新しいコミュニケーションツール等の開発、社会への普及を促進する。
- このような取組を通して、国籍や障害のあるなしにかかわらず、誰もが心を通わせることのできる街・東京の魅力を感じてもらい、世界との絆を深めていく。

3 “誰もが個性を活かし力を発揮できる”共生社会の実現

- 大会開催を機に、デフリンピック・ムーブメントとして、デフスポーツやろう者の文化への理解を促進し、障害のある人とない人とのコミュニケーションや心・情報・街のバリアフリーをさらに推進する。
- このムーブメントを通して、互いの違いを認め、尊重しあい、誰もが個性を活かし力を発揮できる共生社会づくりに貢献する。

大会がもたらしたもの

1 きこえない人・きこえる人の協働

東京2025デフリンピックでは、大会の準備段階から当日の運営まで、きこえない人ときこえる人が、互いの違いを認め、尊重しあいながら協働することを大切にした。

日本で初めてデフリンピックを開催するに当たり、一般財団法人全日本ろうあ連盟（以下「連盟」という。）と、東京都（以下「都」という。）及び公益財団法人東京都スポーツ文化事業団（以下「事業団」という。）が連携し、それぞれの知見等を活かして、大会を創り上げた。連盟及び事業団には、都を中心に自治体等から職員が派遣され、日常的に三者が会議や打合せを行うなど、密接に連絡、調整しながら一体的に大会の準備を進めた。

また、ボランティアや大会サポートスタッフ、開閉会式の出演者など、大会を支える様々な役割に、きこえない人、きこえる人が協力して一緒に取り組んだ。

東京2025デフリンピックを創り上げていく過程は、連盟の「様々な壁を乗り越えて、お互いにコミュニケーションを円滑に築き上げたことが、大会の成功に結び付いた」との振り返りのとおり、共生社会の一端を表すものであった。

2 スポーツ大会の新たな運営モデルの構築

大会の運営に当たっては、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京2020大会」という。）で培われたレガシーを最大限に活用し、サステナブルで「シンプルで心に残る大会」をめざした。

会場について新設や大規模な仮設整備を行うことなく既存施設を有効活用するとともに、デジタル技術を活用した情報保障の充実など、効率的な大会運営を実施した。さらに、選手団に対するきめ細やかな宿泊サービスや、充実した輸送・飲食の提供など、創意工夫を凝らし、過去大会にはない東京ならではのおもてなしを実現した。

また、準備運営の様々な面で、ボランティアや協賛者、競技団体等の関係団体や自治体など、多くの人々の理解と参画を得て、みんなで大会を創り上げた。

こうした取組は、大会の持続可能性に資するとともに、選手の利便性と満足度を高め、国際ろう者スポーツ委員会（International Committee of Sports for the Deaf.以下「ICSD」という。）から「競技だけでなく、準備・運営でもハイレベルな大会で、大変満足している。多くの競技関係者からも、すばらしい大会だったとの声をもらっている」と評価されるなど、スポーツ大会における新たな運営モデルを示した。



3 共生社会実現への貢献

大会の開催を契機に、デフリンピックやデフスポーツへの理解のすそ野を広げ、障害のあるなしにかかわらず、共にスポーツを楽しみ、互いの違いを認め、尊重しあう共生社会づくりに貢献していくことを重視した。

子どもたちが、大会を通じて夢と希望を抱き、学び、成長できるよう、競技観戦に招待したほか、特にろう学校の子どもたちには、選手入場時のハイタッチキッズ、エスコートキッズや開閉会式・表彰式の役割を担うプラカーダー、副賞トレイベアラーなど、大会運営に参画する機会を幅広く設け、子どもたちの未来につながる取組を実施した。

また、目でみる応援「サインエール」で、会場が一体となることで、相互理解を促進するとともに、様々な場面でユニバーサルコミュニケーション（以下「UC」という。）技術を活用するなど、誰もがつながる社会を推進した。

子どもたちからは「先輩たちはヒーローで、いつか自分も同じように活躍できるよう頑張りたい」「スポーツの素晴らしさや情報保障など、様々なことを学ぶことができた」といった声があり、大会開催が共生社会の実現に向けた大きな一歩となった。

デフリンピック

デフリンピックとは、デフ（Deaf.英語で「耳がきこえない」という意味）＋オリンピックのことで、ICSDが主催し夏季と冬季それぞれ４年ごとに開催されるデフアスリートを対象とした国際総合スポーツ競技大会である。補聴器等を外した状態で、きこえる一番小さな音が55dB※（デシベル）を超えており、各国のろう者スポーツ協会に登録されている選手で、記録・出場条件を満たしている人が参加できる。「デフリンピック」の名称は、2001年に国際オリンピック委員会（IOC）が承認した。

競技は一般の競技ルールに準拠するが、競技場に入った時点から、補聴器等の使用は禁止されることや、競技運営に国際手話のほか、スタートランプや旗などを利用した視覚による情報保障を用いることが特徴である。

※dBは音の大きさを表し、数字が大きいほど音が大きい
※55dBはふつうの声での会話がきこえない程度

最近の過去大会・次期開催都市

＜夏季大会＞
2021　カシアス・ド・スル（ブラジル）
2017　サムスン（トルコ）
2013　ソフィア（ブルガリア）
＜冬季大会＞
2023　エルズルム（トルコ）
2019　ヴァルテッリーナ（イタリア）
2015　ハンティ・マンシースク（ロシア）
＜次期開催都市＞
・夏季大会 2029 アテネ（ギリシャ）
・冬季大会 2027 インスブルック（オーストリア）

ICSDロゴ

- 手の形が「OK」「GOOD」「GREAT」を意味するサインが重ねられており、それはまた「デフリンピック」の手話を表している。更に「結束」を表現している。
- ロゴマークの中央は「目」を表しており、ろう者が視覚中心の生活を営んでいることを示している。また、赤色、青色、黄色、緑色はアジア太平洋、ヨーロッパ、全アメリカ、アフリカの４つの地域連合を表現している。

デフリンピックマーク

- 「ICSDロゴ」と「DEAFLYMPICS」の文字列を組み合わせたもの。

DEAFLYMPICS



手話言語通訳でコミュニケーション



ランプの光でスタートを知らせる


審判の合図は笛だけではなく旗で

東京2025デフリンピック

東京2025デフリンピックは、2025年11月15日から26日までの12日間にわたって開催された。日本における初めての開催であり、また、1924年にパリで第１回大会が開催されてから100周年の節目となる、歴史に残る大会となった。

東京2025デフリンピックでは、大会のイメージを印象づける大会エンブレム、大会メインカラー、大会公式マスコット等を決定し、大会に向けて様々な場面で活用した。

1 大会概要

大会名称

（日）第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025

（英）25th Summer Deaflympics Tokyo 2025

略称

（日）東京2025デフリンピック

（英）TOKYO 2025 DEAFLYMPICS

開催期間

2025年11月15日（土）から 26日（水）まで（12日間）

開会式：11月15日（土）　閉会式：11月26日（水）

参加国・地域数

77か国･地域＋ろう者個人中立選手＋デフリンピックチーム

※ろう者個人中立選手：現行のろう者個人中立アスリート規則に従い、ICSDが認めた、大会に中立的な立場で出場する選手

※デフリンピックチーム：ICSD未加盟国のうち、ICSDが特別に招待した選手

参加選手数

2,943人

競技数

21競技（陸上競技、バドミントン、バスケットボール、ビーチバレーボール、ボウリング、自転車競技（ロード）、サッカー、ゴルフ、ハンドボール、柔道、空手、自転車競技（マウンテンバイク）、オリエンテーリング、射撃、水泳、卓球、テコンドー、テニス、バレーボール、レスリング（フリースタイル）、レスリング（グレコローマン））

来場者数

33万8,403人

（競技会場：28万1,235人
デフリンピックスクエア：５万7,168人）



2 大会エンブレム

国内唯一の聴覚障害者、視覚障害者のための大学である、国立大学法人筑波技術大学（以下「筑波技術大学」という。）の総合デザイン学科を中心とした産業技術学部の学生がエンブレムのデザイン案を複数制作し、ろう学校を含む都内中高生の投票により決定した。決定したデザインは商標登録を行い、ブランド価値の保護を図った。

コンセプト

・人々の繋がりを意味する「輪」をテーマとした。
・デザインでは、デフコミュニティの代表的なシンボルである「手」を表し、デフリンピックを通して競技と話題に触れ、互いの交流やコミュニティが「輪」のように繋がった先には、新たな未来の花が咲いていくことを表現した。また、花は桜の花弁をモチーフとした。
・デフアスリート同士の繋がり、観客や子どもたちとの繋がりなど様々な繋がりの輪をイメージし、子どもたちに楽しく描いてもらえるように１本の線で制作した。

①「手」
・デフコミュニティの代表的なシンボルである「手」を表現
・デフリンピックを通して、競技と話題に「触れて」欲しいという想いを込めた

②「輪」
・デフリンピックに「触れた」ことで、少しずつお互いに交流やコミュニティが「輪」のように繋がっていくことを表現



③「花」
・輪が広がった先には、「新たな未来の花が咲いていく」という意味を込めた
・桜の花弁をモチーフ

④「色」
・世界中から沢山の人々が集まる大会なので、赤・黄・青・緑の色で多様性を表現

大会エンブレム　デザイン

3 大会メインカラー

東京2025デフリンピックでは、日本の伝統色である「桜色」を大会メインカラーとした。「桜（ソメイヨシノ）」は都の花として指定され、また、日本をイメージさせる花としても国内外で広く認知されている。

桜色（さくらいろ）
（参考）カラーコード#fef4f4
Red:254　Green:244　Blue:244

4 大会公式マスコット

都のスポーツ推進大使である「ゆりーと」を、東京2025デフリンピック公式マスコットとして任命した。「ゆりーと」は、第68回国民体育大会及び第13回全国障害者スポーツ大会（スポーツ祭東京2013）のキャラクターとして誕生し、その後も東京都スポーツ推進大使として都のスポーツイベント等で幅広く活躍している。

東京2025デフリンピックデザインとして、「桜の花弁」がモチーフとなっている大会エンブレムとの統一感を生む桜色を用いたTシャツを着用している。



東京2025デフリンピック公式マスコット「ゆりーと」

競技日程及び会場

1 競技日程

競技日程は、日本国内での大会の盛り上げを図るため、以下の要件を考慮した上で、決定した。

・日本国内で開催されるスポーツ大会を含む他の大規模イベントの日程と重複しない期間であること。
・夏季大会の競技種目を実施する上で、選手がベストパフォーマンスを発揮できる気象条件が整いやすい季節及び期間であること。
・デフリンピック規約（DG2.総則４）に規定される、予選を除いた12日間以内の開催期間において、多数の観戦・来場が見込める土曜日・日曜日・祝日をより多く含む期間であること。

競技日程一覧

【凡例】 ○：競技日　＊：練習日

No.	競技名	11 火	12 水	13 木	14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月	25 火	26 水
1	陸上競技			＊	＊	＊	＊	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
2	バドミントン				＊	＊	○	○	○	○	○	○	＊	○	○	○	
3	バスケットボール				＊	＊	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
4	ビーチバレーボール			＊	＊	＊	○	○	○	○	○	○	○	○			
5	ボウリング					＊	＊	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
6	自転車競技（ロード）						＊	○	○	＊	○	＊	○				
7	サッカー		＊	＊	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
8	ゴルフ							＊	○	○	○	○					
9	ハンドボール			＊	＊	＊	○	○	＊	○	＊	○	＊	○	＊	○	
10	柔道			＊	＊	＊	○	○	○								
11	空手											＊	＊	○	○	○	
12	自転車競技（マウンテンバイク）													＊	○	○	
13	オリエンテーリング				＊	○	○		＊	＊	○	○		○			
14	射撃			＊	＊	＊	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
15	水泳							＊	＊	＊	○	○	○	○	○	○	
16	卓球						＊	＊	○	○	○	○	＊	○	○		
17	テコンドー										＊	＊	○	○	○		
18	テニス		＊	＊	＊	＊	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
19	バレーボール			＊	＊	＊	○	○	○	○	○	＊	○	○	○	○	
20	レスリング（フリースタイル）									＊	＊	＊	＊	○	○		
21	レスリング（グレコローマン）									＊	＊	○	○				

2 競技会場・練習会場及び開閉会式会場

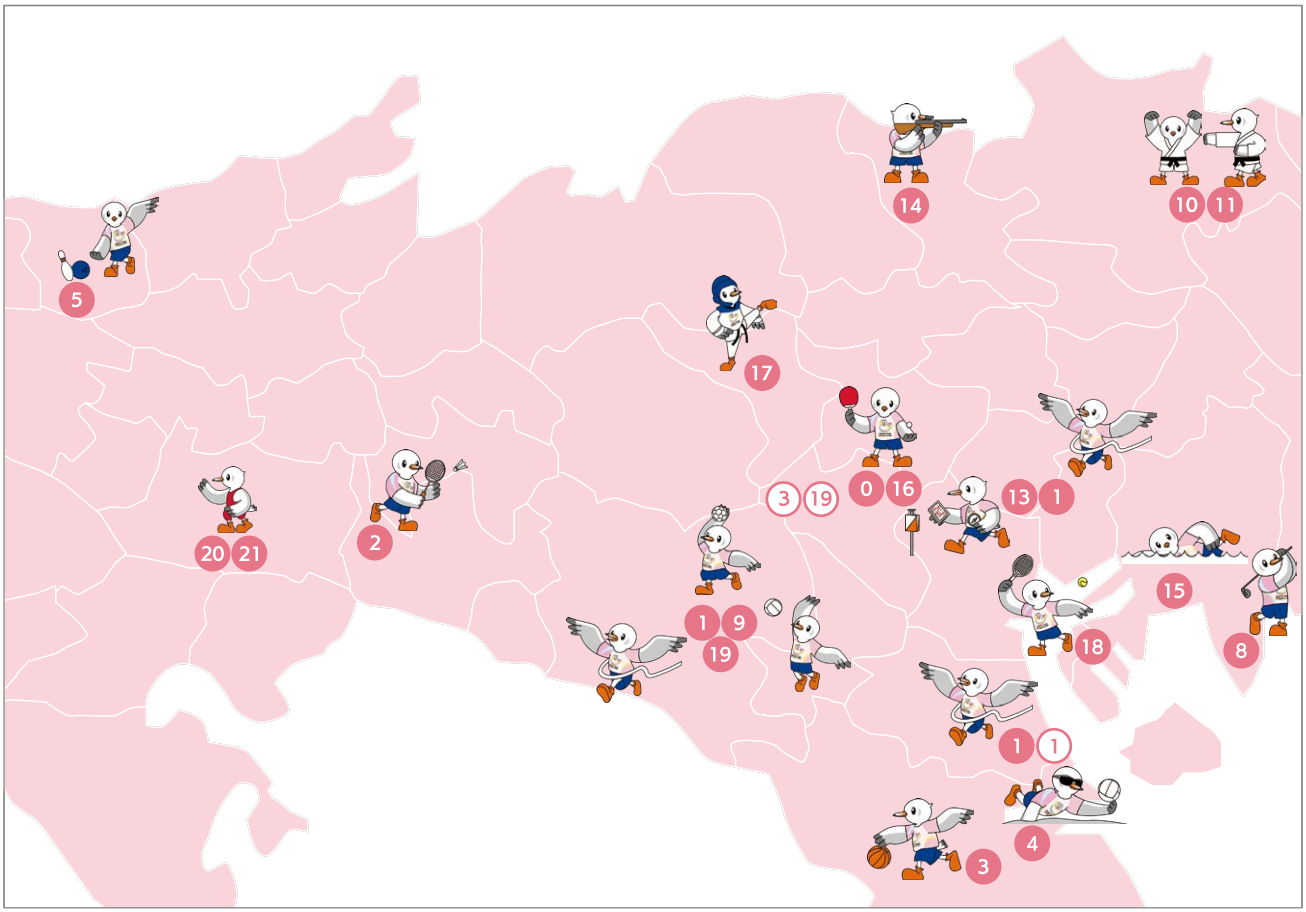
競技会場・開閉会式会場一覧

No.	競技名	会場
0	開閉会式	東京体育館
1	陸上競技	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場
1	陸上競技（マラソン）	東京高速道路及び首都高速道路高速八重洲線の一部
1	陸上競技（ハンマー投）	大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場
2	バドミントン	京王アリーナＴＯＫＹＯ（武蔵野の森総合スポーツプラザ）
3	バスケットボール	大田区総合体育館
4	ビーチバレーボール	大森ふるさとの浜辺公園
5	ボウリング	東大和グランドボウル
6	自転車競技（ロード）	日本サイクルスポーツセンター
7	サッカー	Ｊヴィレッジ
8	ゴルフ	若洲ゴルフリンクス
9	ハンドボール	駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場
10	柔道	東京武道館
11	空手	東京武道館
12	自転車競技（マウンテンバイク）	日本サイクルスポーツセンター
13	オリエンテーリング	日比谷公園・日比谷エリア、伊豆大島（裏砂漠）
14	射撃	味の素ナショナルトレーニングセンター・イースト
15	水泳	東京アクアティクスセンター
16	卓球	東京体育館
17	テコンドー	中野区立総合体育館
18	テニス	有明テニスの森
19	バレーボール	駒沢オリンピック公園総合運動場体育館
20	レスリング（フリースタイル）	府中市立総合体育館
21	レスリング（グレコローマン）	府中市立総合体育館

練習会場一覧

No.	競技名	会場
①	陸上競技	大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場
③	バスケットボール	国立オリンピック記念青少年総合センタースポーツ棟
⑲	バレーボール	国立オリンピック記念青少年総合センタースポーツ棟

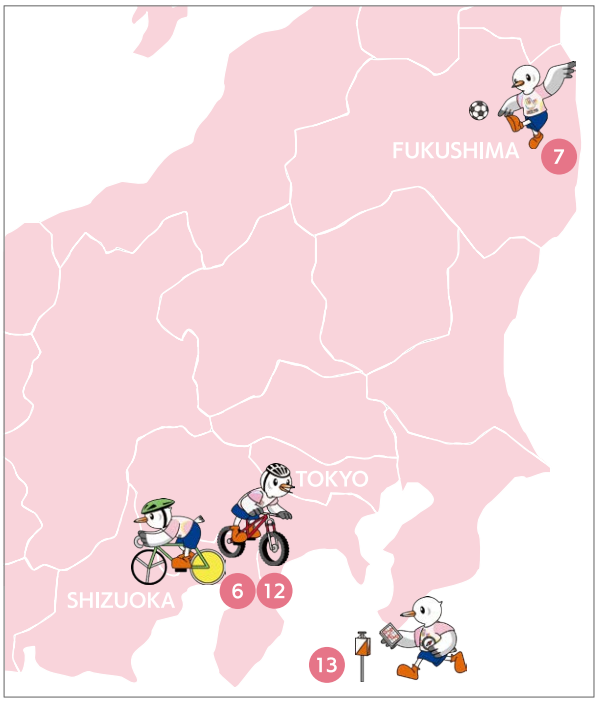
MAP　東京エリア

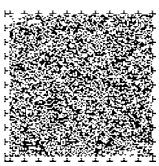


会場は、以下の要件を考慮した上で、大会にふさわしい21の競技会場、２つの練習会場及び東京体育館を開閉会式会場として選定した。

- 選手への輸送負担を軽減するため、選手宿舎からおおむね１時間以内で移動が可能な競技会場であること。
- 大会の持続性を考慮し、新設や仮設の施設整備は行わず、デフリンピック規約（DG26.場所）に規定される施設要件を満たした既存の競技会場を活用すること。
- 東京2020大会又は第18回オリンピック競技大会（以下「東京1964大会」という。）で使用されたレガシー施設を活用すること。
- 開催都市である東京の魅力を世界に発信し、大会をより多くの観客に楽しんでもらうため、都心のみならず、自然豊かな多摩地域や島しょ部においても開催すること。
- サッカーと自転車競技は、国内トップクラスの施設環境がコンパクトに整えられている福島県と静岡県において開催すること。

MAP　静岡・福島エリア





第2章

大会前の取組

開催の決定から大会に向けた取組

1 大会の立候補から招致活動・経緯・決定

連盟は、2018年に大阪で開催された第66回全国ろうあ者大会にて、『デフリンピック日本招致に関わる特別決議』が採択されたことを受け、デフリンピック招致の実現に向け、2020年10月24日にデフリンピック準備室を設置した。デフリンピック準備室には政界やスポーツ界、学識経験者等の有識者からなる顧問や委員が選任され、審議等を行った。

一方で、公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構東京都聴覚障害者連盟（以下「東京都聴覚障害者連盟」という。）は東京開催の気運を高めるべく、コロナ禍において、都内自治体を訪問し、東京開催を要望した。その結果、24区市（14区、10市）の議会から、デフリンピック東京開催を求める意見書が都に提出された。

2022年６月１日に行われた令和４年第二回東京都議会定例会における知事所信表明にて、東京都知事は、都としても大会の招致主体たる団体を国や関係者と密に連携しながら積極的に応援していくと表明した。

そして、全日本ろうあ連盟スポーツ委員会が招致主体となり、都や競技団体と協力し『2025デフリンピックの開催計画（案）』を策定の上、2022年９月８日に公開し、都を開催地として2025年のデフリンピック開催に立候補することを表明した。

同年９月９日、10日にオーストリア（ウィーン）で開かれた第49回ICSD総会にて、連盟の久松三二事務局長が登壇し、東京の魅力をアピールするとともに、デフリンピック開催100周年となる2025年にデフリンピックを日本で初めて開催したいと訴えた。

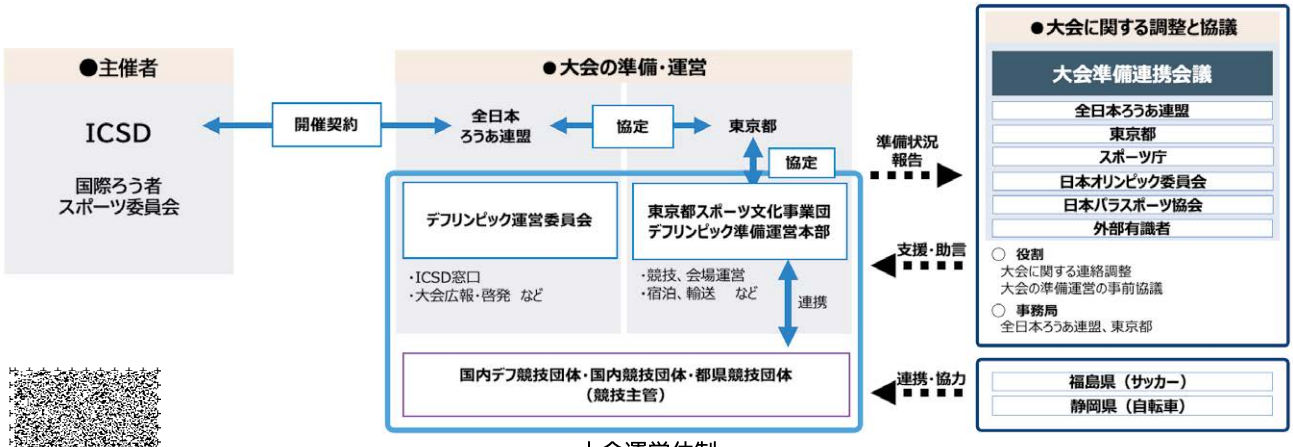
2025年デフリンピック開催立候補都市は東京のみであり、プレゼンテーションに続き、57人のICSD正会員による投票が行われ、満票となる賛成票を獲得し、東京が2025年のデフリンピックの開催地に正式決定した。これにより、2018年から取り組んだデフリンピック日本招致活動は最高の形で幕を閉じた。その後、2023年2月13日にICSD、連盟、連盟の内部機関でありICSDに加盟している連盟スポーツ委員会で、「第25回夏季デフリンピック競技大会に関する開催契約」を締結した。

2 準備・運営体制

大会運営体制

連盟と都は協定を締結し、大会の準備運営に係る業務を分担した。この分担に基づく業務を遂行するため、連盟は大会開催に係る国外の窓口など、大会開催準備を担うための組織として、連盟内部に学識経験者やデフアスリート等で構成されるデフリンピック運営委員会（以下「運営委員会」という。）を2023年４月に設置し、その下に事務局を置く体制を構築した。そして、都は大会運営の中心となる競技・会場運営などの運営実務を行うための組織として、都の政策連携団体である公益財団法人東京都スポーツ文化事業団が担うこととし、事業団内にデフリンピック準備運営本部が設置された。連盟及び事業団には、都職員が派遣され、協働できる体制を構築した。

また、定期的にICSDとのレポートミーティングや連絡会を開催し、大会運営等についての意見交換、情報共有を図り、大会準備を円滑に進めるための運営体制を構築した。



大会運営体制

2025年デフリンピック大会に係る大会準備連携会議

大会の準備・運営について、関係者間で情報共有、調整・協議を行うため、2022年11月に連盟と都が連携して立ち上げた「2025年デフリンピック大会開催に向けた準備運営体制に関する検討会」における、大会の準備・運営体制についての検討結果を踏まえて、関係者間における情報共有、調整・協議、助言等を行う場として、連盟により「2025年デフリンピック大会に係る大会準備連携会議」が2023年2月14日に設置された。多様な関係者が連携し、多角的な視点から大会を支えるため、国やスポーツ団体、外部有識者に協力を得て、連盟、都、スポーツ庁、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本パラスポーツ協会、弁護士、公認会計士で構成した。また、オブザーバーとして東京都聴覚障害者連盟も会議に参画し、大会の準備・運営に携わった。

東京2025デフリンピックに係る大会準備実務者会議

大会準備が大詰めを迎える中、これまで整理を進めてきた大会のサービスレベルについて、本大会が日本初開催の国際大会としてふさわしい内容となっているか、関係者間で最終確認を行う場として、都、連盟、運営委員会及び事業団の四者共同で「東京2025デフリンピックに係る大会準備実務者会議」が2025年９月５日に設置された。

日本国政府における閣議了解

2024年２月16日に、東京2025デフリンピックは、国際親善やスポーツの振興、共生社会の実現等に大きな意義を有することから、政府として協力する旨が閣議において了解された。

駐日外国公館向け説明会

連盟は、2024年11月29日に、文部科学省第１講堂において、29か国（39人）の駐日外国公館向けの説明会を開催し、集まった駐日外国公館関係者に対して大会の概要を説明した。

また、事業団より、各国において自国のデフスポーツ連盟や選手団とつながりを構築するよう依頼するとともに、デフリンピックやデフアスリートの周知や紹介、応援を依頼した。

3 開催基本計画等の策定

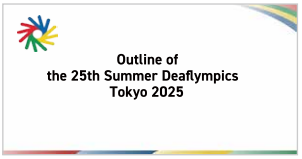
2023年２月７日に、都が、2025年に開催される世界陸上及びデフリンピックを通じ、スポーツの力によって東京の未来を創るため、都がめざす姿をまとめた、「ビジョン2025 スポーツが広げる新しいフィールド」を策定し、公表した。

そして、この「ビジョン2025 スポーツが広げる新しいフィールド」の内容も踏まえ、2023年８月22日に、連盟、都、事業団の三者で、大会ビジョンや大会名称、実施競技・競技会場など、基本情報を中心に取りまとめた「大会概要」を策定し、公表した。

また、同年11月22日には、「大会概要」の内容に加え、競技に関することや式典、聴力検査、アンチ・ドーピング、IDカード、デフリンピックスクエア、広報、輸送、宿泊、飲食、医療サービス、会場警備、清掃/廃棄物等大会運営に必要な業務について、サービスレベルの考え方などを記載した「開催基本計画」を策定し、公表した。

なお、策定に当たっては、聴覚障害当事者であるデフアスリートの視点をはじめ、世界規模の大会へ選手としてだけでなく、運営側としても参画経験があるアスリートの知見を反映させるため、「デフリンピック大会運営にかかるアスリート会議」（以下「アスリート会議」という。）を設置し、大会ビジョン等の検討を行った。

委員には、デフアスリートの設楽明寿さん（陸上競技）、竹川寿美子さん（カーリング）、パラリンピアンの根木慎志さん（車いすバスケットボール）、オリンピアンのヨーコ ゼッターランドさん（バレーボール）が就任するとともに、東京都聴覚障害者連盟もオブサーバーとして参加し、2023年７月から10月にかけて３回開催した。



大会概要



ビジョン2025



開催基本計画

4 ガバナンスの確保

国際スポーツ大会の開催に当たり、準備運営を担う組織が公正で、都民・国民に信頼されることが重要であるため、デフリンピックにおいては、法令及び社会規範の遵守、意思決定の公正性・透明性の確保等、適切なガバナンス体制の構築をめざした。具体的には、都が2022年12月に策定した「国際スポーツ大会への東京都の関与のガイドライン（以下「都のガイドライン」という。）」及びスポーツ庁の大規模な国際又は国内競技大会の組織委員会等のガバナンス体制等の在り方検討プロジェクトチームにより2023年３月に示された「大規模な国際又は国内競技大会の組織委員会等のガバナンス体制等の在り方に関する指針（以下「国の指針」という。）」を踏まえて運営組織に求められる対応を検討し、運営委員会及び事業団のそれぞれにおいて主に以下の取組を行った。このうち、大会のために新設された組織である運営委員会においては新たにルールを整備することとした一方、デフリンピック準備運営本部においては、都の政策連携団体である東京都スポーツ文化事業団の既存ルールをベースとしたガバナンスの確保を行った。

デフリンピック運営委員会（全日本ろうあ連盟内）の取組

運営委員会において、都のガイドライン及び国の指針を踏まえて、ガバナンス体制を構築し、コンプライアンスを確保するため、以下の取組を行った。

役員の適切な選考

運営委員の選考に当たっては、外部委員を含む委員で構成する「運営委員会運営委員選考委員会」を設置し、都のガイドライン及び国の指針に基づいて、外部委員、女性委員、障害当事者委員の目標割合、委員の資格、選考基準などを定めた「デフリンピック運営委員選考規程」を制定し、この規程に基づき選考委員の合議により選考した。

役職員向け研修

運営委員及び事務局役職員に対しガバナンスの確保の重要性や適切な契約手続等を理解しコンプライアンス意識を高めるため、コンプライアンス研修と利益相反管理研修を実施した。

- コンプライアンス研修：2023年度1回、2024年度２回、2025年度２回開催
- 利益相反管理研修：2023年度１回、2024年度１回、2025年度1回開催

コンプライアンス委員会の設置

運営委員会のコンプライアンス進捗状況の確認、コンプライアンス推進に係る方針及び計画作成、啓発及び研修実施、役職員のコンプライアンス違反等の問題が発生した場合の対応等を目的として設置した。

- コンプライアンス委員会：2023年度２回、2024年度３回、2025年度２回開催

利益相反管理委員会の設置

運営委員及び事務局役職員の利益相反に関する遵守事項を明確にし、運営委員会の事業活動における権限の適正な行使を担保し、社会からの信頼を確保することを目的として設置した。役職員等からは就任時に「利益相反に関する自己申告書」を四半期ごとに「利益相反管理チェックシート」を提出させ、外部委員を含む委員がチェックを行うことで役職員の利益相反を管理した。

- 利益相反管理委員会：2023年度２回、2024年度４回、2025年度４回開催

内部通報制度の設置

運営委員及び事務局役職員を対象とし、業務運営に関する違法または不正行為、暴力行為やパワーハラスメント、セクシャルハラスメント、その他組織的又は個人的な法令違反の早期発見と是正を図り、コンプライアンス確保を目的とした内部通報制度を構築した。

内部通報及び相談を受ける通報窓口として、外部弁護士（男女別各１人、手話言語対応可）を指定配置した。内部通報及び相談の方法は、電話、FAX、電子メール、書簡及び面会とした。

三様監査体制の構築

事務局内監査実施者を中心に、連盟監事及び外部公認会計士が密に連携した三様監査体制を構築し、年２回、リスク認識や監査状況等について意見交換を実施し、業務運営の適正性を確保した。

情報公開

運営委員会ポータルサイトを開設し、運営委員会の事業計画、会議概要、コンプライアンス・ガバナンス体制等の情報を公開した。また、都の条例に準じた情報公開要綱を策定し、情報公開審査会を設置した上で、情報開示請求に対応できる体制を構築した。

調達の仕組みの構築

物品、役務等の契約・調達業務について円滑かつ合理的な手続を定める契約事務規程、指名業者等選定委員会規程を策定し、外部からの重層的なチェックを実施するために、外部委員が参画する「契約・調達管理会議」を連盟、都、運営委員会及び事業団で共同設置した。

※会議開催回数や委員構成については第２章内「収入・支出のプロセス等を事前及び事後に監督する仕組みの構築」を参照。

東京都スポーツ文化事業団
デフリンピック準備運営本部における取組

デフリンピック準備運営本部においては、都の政策連携団体である東京都スポーツ文化事業団にて既に整備されているガバナンス体制をベースとしつつ、都のガイドラインや国の指針など国際スポーツ大会を取り巻く情勢を踏まえて、東京2025デフリンピックを開催するに当たっての追加のガバナンス施策を以下のとおり講じた。

役員候補者選任方針の策定

役員の選考に当たり、外部理事・女性理事の目標割合、役員に求められる資質などを定めた「役員候補者の推薦に関する方針」を策定・公表するとともに、役員が風通しの良い組織風土の形成やリスク管理などの基本的役割、職責、関係法令等を認識するような役員行動規範を策定・公表し、役員等から誓約書を徴取した。

役員向けコンプライアンス研修

国際スポーツ大会が大きな社会的影響力を有するものであり、国民や社会の関心を集めやすい公共性の高い団体が運営主体であることについて認識を深めるため、役員を対象としたコンプライアンス研修を定期的に実施し、経営層として求められるコンプライアンスの理解促進を図った。

・役員向けコンプライアンス研修：2023年度１回、2024年度１回、2025年度１回開催

コンプライアンス委員会の設置

コンプライアンス違反事案の発生を防止するとともに、発生した際に適切な対応を行うために、コンプライアンス委員会を設置した上で定期的に開催し、コンプライアンス強化に係る方針や計画の策定及びその推進、実施状況の点検、リスクの把握等を事業団として組織的、継続的に実践した。委員には外部の弁護士も配置し、コンプライアンス遵守のために法的見地からのアドバイスを受けた。

・コンプライアンス委員会：2023年度３回、2024年度３回、2025年度３回開催

コンプライアンス研修

コンプライアンス委員会によって審議・決定されたコンプライアンス推進計画に基づき、デフリンピック準備運営本部にて定期的にコンプライアンス研修を行った。年度当初には都のガイドライン及び国の指針等の国際スポーツ大会に求められるコンプライアンスの基礎知識について、また大会直前期には大会時の物品管理や会計事務に関する留意事項をテーマとした研修を行うなど、時期を捉えて適切に実施した。

・コンプライアンス研修：2023年度４回、2024年度４回、2025年度４回開催

公益通報窓口の設置

組織内部の不正行為等の防止や早期発見により自浄作用を機能させるため、外部の弁護士を含む公益通報窓口を設置した。

設置及び運用に当たっては、通報者が窓口対応者の性別を選ぶことができるよう男女の対応者を配置したほか、電話やメール等の複数のチャネルを用意するなど利用しやすい仕組みづくりを行うとともに、通報制度や通報に伴う不利益がないことなどについて役職員に対して研修等で周知を行った。

内部監査部門の設置

事業団に監査室を設置し、事業団の事務及び事業の内部監査を行うとともに、監査室と事業団の監事・監査法人が連携した三様監査体制を構築した。内部監査においては、重点監査として適切なガバナンス体制が十分に機能しているか各部署へのヒアリングや書類等の実査を行うとともに、業務監査として適正性、経済性、透明性、説明責任の担保等の観点から監査を行った。三様監査においては、内部監査計画や実施結果を報告するなど、三者で定期的に意見交換を図ることで、監査機能の強化を図った。

・内部監査：
　2023年度
　　重点監査
　　不正のリスク及び未然防止対策、ガバナンス体制の対応状況確認
　2024年度
　　重点監査
　　適切なガバナンス体制の確保、状況を踏まえた適切な見直し
　　業務監査
　　契約事務、会計事務、文書事務、服務管理、情報管理等
　2025年度
　　重点監査
　　大会運営に関する契約事務及び寄附・協賛金に関する事項
　　業務監査
　　契約事務、会計事務、文書事務、服務管理、情報管理等
　　大会時監査
　　現金保管・支出事務手続等
・監事・監査法人との意見交換：2023年度２回、2024年度３回、2025年度２回

法律相談の実施

法律相談業務を法律事務所に委託し、日常的なサポートを受ける体制を構築した。大会準備が進むにつれて法的な確認を要する事項も増加したが、法的見地から適切な助言を受けることにより、コンプライアンスの確保に寄与した。

・法律相談業務：2023年度37件、2024年度81件、2025年度103件（2025年11月末時点）

収入・支出のプロセス等を事前及び事後に監督する仕組みの構築

国際スポーツ大会の運営組織として事業団は、公正妥当と認められる会計の原則に則った会計処理を行うことに重点を置き、都のガイドライン及び国の指針を踏まえて各種規程や契約フローを整備した。契約フローについては、本大会における買入れ、請負その他の契約の手続等の公正性、公平性及び透明性を担保するために、事業団内に財務契約検討会を設置し、支出及び調達方法の妥当性、契約方式の内容に関する確認などを行った。

さらに、収入・支出の両面において事前・事後に内容・プロセスを確認する機関として、四者共同（連盟・都・運営委員会・事業団）で 契約・調達管理会議を設置し、一定額以上の契約案件や特命随意契約などの特定の条件に該当する契約案件、協賛契約等について事前に付議を行い重層的な検証を行うことで、ガバナンスの確保に努めた。

大会直前及び期間中に発生した緊急の契約案件については、迅速に対応しなければ、大会運営に支障をきたすおそれがあるため、契約・調達管理会議の運用を変更し、緊急の契約案件に該当することを確認したものは、契約・調達管理会議へ事後に付議し、承認を得ることとした。

これまでよりも厳しい基準を設定したことや、今回初めて設置した契約・調達管理会議についても試行錯誤を繰り返して運営を行わざるを得なかったことから、契約調達プロセスのみならず、本契約の関連事項まで幅広い議論・検証にも及ぶことがあった。その結果、多くの関係者によるチェックを行うことで、様々な意見が出て、チェックに多くの時間と対応を要することとなったが、公正な契約手続の実現に関しては一定の成果があったと考えられる。

今後の同種の国際スポーツ大会の開催に当たっては、公平・公正な契約手続の実現に向けて、契約手続の適正性と機動的な運用の両方の観点から、検証すべき内容及びチェック体制を検討していくことが必要と考える。

・**契約・調達管理会議**：2023年度12回、2024年度16回、2025年度20回開催（2026年1月末時点）

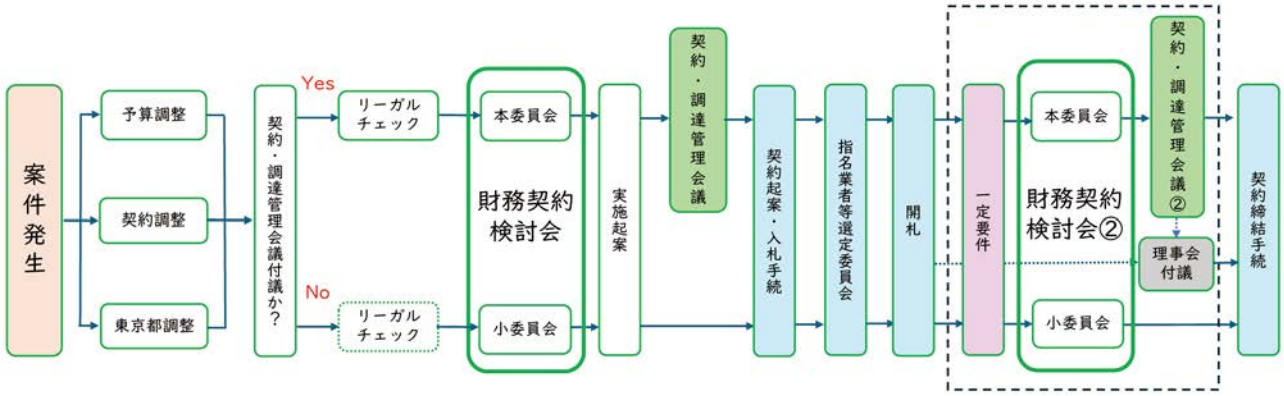
委員構成

委員長	学識経験者（公認会計士）
委員	学識経験者（弁護士）
委員	全日本ろうあ連盟
委員	デフリンピック運営委員会
委員	デフリンピック準備運営本部総務部シニアマネージャー
委員	東京都スポーツ推進本部事業調整担当部長
委員	東京都スポーツ推進本部国際スポーツ事業部事業調整第二課長

・**財務契約検討会**：2023年度30回、2024年度61回、2025年度65回開催（2026年1月末時点）

委員構成

委員長	デフリンピック準備運営本部総務部シニアマネージャー
委員	デフリンピック準備運営本部総務部財務グループマネージャー
委員	デフリンピック準備運営本部総務部総務・人事グループマネージャー
委員	デフリンピック準備運営本部大会統括部運営統括グループマネージャー



入札契約のフロー

利益相反の管理

利益相反取引を適切に管理するため、事業団における利益相反マネジメントポリシーを制定し、事業団における利益相反取引や管理の体制について規定するとともに、利益相反取引に関する審議を行う機関として、外部の弁護士を含む利益相反マネジメント委員会を設置した。

利益相反管理に当たっては、役職員から就任時に利益相反取引に係る自己申告書を徴取するとともに、役職員から四半期に一度利益相反に関するチェックシートを徴取し、その結果を利益相反マネジメント委員会で定期的に報告するなど、利益相反該当性を適切にチェックできる仕組みを構築した。

また、職員の採用・配置に当たっては、「人材の採用及び教育に関する方針」を定め採用予定者の利益相反管理の基準・方法を明確化するとともに、採用予定者の自己申告書を基に利益相反マネジメント委員会で審議の上、採用・配置を決定した。

なお、本大会では、外部人材の採用や配置における利益相反管理を非常に厳格に行ったが、こうした運用はコンプライアンスの確保に資する一方、特定の分野で即戦力となりうる人材の活用に制約が生じることから、各大会において求められる専門性や人材の確保状況等を踏まえつつ、実態に即した運用を検討していくことも必要である。

・利益相反マネジメント委員会：2023年度４回、2024年度６回、2025年度６回開催

情報公開

東京2025デフリンピック大会サイト（以下「大会サイト」という。）等において、大会概要や開催基本計画、大会計画額、競技会場や競技種目等、大会運営の根幹となる情報を継続的に公表した。

また、公益法人認定法に基づき公益財団法人として公表が求められる法定情報に加え、ガバナンス体制の基盤となる各種規程や、理事会での決定事項、コンプライアンス委員会や利益相反マネジメント委員会資料、監査報告などについて大会サイトで主体的に公表するとともに、ガバナンス体制構築のためのスポーツ庁のセルフチェックリストへの対応状況についてもコンプライアンス委員会への報告を経て大会サイトで公表した。

さらに、契約情報については入札・見積結果の公表に加え、競技・会場運営、表彰式、開閉会式等の大規模な契約については事前に発注予定表を公表し、公正な契約手続に努めた。

5 SD視察

事業団は、デフリンピック規約（DG17.財政規約4.2）に基づき、大会１年前を中心に、ICSDの各競技の運営責任者であるスポーツディレクター（Sports director.以下「SD」という。）が、担当競技の運営に関し的確な指導、助言ができるよう、本大会で使用する競技会場等の視察を実施した。

視察前に競技運営や会場の準備、その他の関係部署との調整状況について説明・協議を行った上で、本大会で使用する競技会場等を実際に視察し、競技要項や諸室配置、関係者動線等について確認を行った。

・実施日程：2024年10月30日～ 11月１日
・実施競技：陸上競技、バドミントン、ビーチバレーボール、ボウリング、サッカー、ゴルフ、ハンドボール、柔道、空手、オリエンテーリング、射撃、水泳、卓球、テコンドー、テニス、レスリング（フリースタイル・グレコローマン）

※自転車競技（ロード・マウンテンバイク）は2024年７月17日、バスケットボールは2025年４月11日、バレーボールは2025年６月26日に実施した。



SDへの説明の様子

6 競技実施に向けた準備

事業団は、大会準備を進めるに当たり、デフスポーツ特有の情報保障機器や競技運営についての課題を明確にし、実際の大会での活用を確認するため、競技ごとに国内競技団体（National Sports Federations.以下「NF」という。）、国内デフ競技団体（National Deaf Sports Federations.以下「NDF」という。）、都県競技団体（Prefectural Sports Federations.以下「PF」という。）等が主催する競技大会等において実地検証を行った。

また、大会中、競技会場で起こる様々な問題に対処するため、シナリオを作成し、それに基づいて運営実践準備管理（OPR）演習を行った。



会場視察（サッカー会場）の様子

実地検証

本大会の開催に当たり、想定される課題について、競技団体等が主催する大会等で、以下のとおり検証を実施した。（都が実施するUC技術の検証も行った。）

競技名	実施大会及び会場	実施日程	実地検証内容
陸上競技	NDF主催大会 （会場：駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場、大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場）	2024年11月	1 競技運営に係る情報保障 ・競技用具（スタートランプ）の動作確認 ・審判員の声を字幕化 ・アンケート ・応急救護、アンチ・ドーピングに関するヒアリング 2 会場運営に係る情報保障 ・リボンビジョン、LEDビジョンの検証 ・透明ディスプレイ・タブレット・モニターによる情報保障を検証 ・観客向けのアンケート
バドミントン	PF主催大会 （会場：京王アリーナＴＯＫＹＯ） （武蔵野の森総合スポーツプラザ）	2024年10月	・競技運営に係る情報保障ミルオトの動作確認、情報保障機器の設置 ・場所・配線の確認
バスケットボール	NDF主催大会 （会場：大田区総合体育館）	2025年４月	1 会場運営に係る情報保障 ・情報保障機器の運用テストを実施 2 案内誘導実施（避難シミュレーション）
ビーチバレーボール	NDF主催大会 （会場：大森ふるさとの浜辺公園）	2024年10月	1 競技の進行状況に係る情報保障 ・情報保障用テントを設置、モニターの設置場所、運用方法等について確認及び検証 2 会場運営に係る情報保障 ・大型モニターを設置し、アナウンス内容の文字発信確認及び検証

競技名	実施大会及び会場	実施日程	実地検証内容
ボウリング	NDFと高校ボウリング部との練習会 （会場：東大和グランドボウル）	2024年7月	1 選手と審判のコミュニケーション ・コミュニケーションボードの有効性を検証 2 会場運営に係る情報保障 ・透明ディスプレイとタブレットの検証 3 審判台の要否に関する検証
自転車競技（ロード・マウンテンバイク）	実行委員会（静岡県）主催大会 （会場：日本サイクルスポーツセンター）	2025年３月	観客・選手向けの情報保障テスト ・アナウンステキスト化テスト ・ディスプレイ設置、表示テスト ・ビジョンカー活用テスト ・手話言語ボランティアの配置テスト ・実施項目に関するアンケート調査
サッカー	NDF主催大会 （会場：Ｊヴィレッジ）	2024年11月	1 情報保障（UC機器の活用） ・設置位置や表示内容、色の違いによる視認性の確認及び通信環境を検証 2 審判運営（NF審判部からのアドバイス） ・審判員へのインストラクション、主審のフラッグの使用方法など課題点を検証 3 緊急時対応（避難誘導） ・地震発生時の海外のデフ選手、チームスタッフに対する避難指示方法を検証
ゴルフ	NDFの強化合宿 （会場：若洲ゴルフリンクス）	2024年６月	競技運営に係る情報保障 ・ディスプレイへのリアルタイムスコア表示の可否 ・表示項目及び機能 ・ディスプレイへの接続方法 ・配信側機器への情報出力の可否
ハンドボール	PF主催大会 （会場：駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場）	2024年８月	1 選手と審判のコミュニケーション ・きこえる選手は耳栓をつけ、デフ選手は補聴器を外し、お互い耳がきこえない状態で試合の実施、試合の撮影を行い、その上でアンケート調査 2 会場運営に係る情報保障 ・実況音声の文字化、プロジェクター・モニターへの投影等の検証
柔道	会場：東京武道館	2025年２月	会場アナウンス ・文字化情報の伝達可否を検証
空手	NF主催大会 （会場：東京武道館）	2025年８月	競技運営に係る情報保障 ・組手競技用情報保障機器の検証

競技名	実施大会及び会場	実施日程	実地検証内容
オリエンテーリング	民間クラブの強化合宿 （会場：伊豆大島・裏砂漠）	2024年12月	競技運営に係る情報保障 ・チェックポイント通過管理システム検証 ・遭難時のGPSでの対応可否を確認
射撃	会場：味の素ナショナルトレーニングセンター・イースト	2025年２月	1 競技運営に係る情報保障 ・競技特有の情報保障対応（ディスプレイの設置、動作確認等） 2 競技運営上の課題・問題抽出
水泳	事業団他主催大会 （会場：東京アクアティクスセンター）	2024年９月	1 競技運営に係る情報保障 ・競技備品（機器等）の動作確認 2 会場運営に係る情報保障 ・選手招集所における情報保障 ・UC機器の活用
卓球	NDF主催大会 （会場：赤羽体育館）	2024年11月	1 得点表示システムの検証 2 会場運営に係る情報保障 ・観客を対象にした透明ディスプレイとタブレット端末の検証
テコンドー	NF主催大会 （会場：中野区立総合体育館）	2024年９月	会場アナウンス ・文字化情報の伝達可否を検証
テニス	NDF主催大会 （会場：有明テニスの森）	2024年11月	1 得点表示システムの検証 2 選手と審判とのコミュニケーション ・プレマッチミーティングのチェック事項等をまとめた「指差しボード」の活用 3 会場運営における情報保障 ・UC機器（タブレット、透明ディスプレイ）の活用 ・試合の進行状況をモニターに表示
バレーボール	会場：駒沢オリンピック公園総合運動場体育館	2025年７月	会場運営上の検証 ・音響装置・大型映像装置の動作確認 ・情報保障に係る東京都との連携確認
レスリング（フリースタイル・グレコローマン）	PF主催大会 （会場：府中市立総合体育館）	2025年 １～２月	1 競技運営上の課題・問題抽出 ・マット下プラットフォームの検証 ・プラットフォームの搬出入等の確認 2 会場運営における情報保障 ・来場者向け情報保障モニター等の設置

OPR（Operational Readiness）

OPR演習とはOperational Readiness演習の略で、各会場／部署の運営計画等の検証や関係者間での浸透・習熟を図り、大会期間中にスムーズな運営ができるよう準備をしていくための演習である。

「シナリオ」と呼ばれる具体的なシチュエーション設定に基づき、現在の計画で各部署がどのような動きをすることになっているかを関係者で読み合わせ、実現可能な計画となっているか、また内容に漏れがないかなどを話し合った。演習を通じて改善された対応計画は、最終的に競技会場運営委託事業者（Event delivery partner.以下「EDP」という。）の作成する会場運営マニュアルに反映した。

演習については、以下の日程で実施した。

実施日	シナリオ（概略）	実施内容
2024年 ７月	バレーボール最終日。試合１時間半前に片方のチームが到着していない。	シナリオにおける、情報収集や対応方法、手順等について、自由に意見を出し合った（ファシリテーターは東京2020大会の経験者）後、ここで出た意見を課題ごとにまとめて発表し合った。
2024年 ９月、10月	・機器の不具合 ・強風 ・電車遅延 ・弁当トラブル ・ハラスメント	５つのシナリオから各競技２つずつ選択の上、それぞれ課題や対応について検討し、演習シートに記載した後にファシリテーターの下、全体に共有した。また、他の競技の想定を参考にそれぞれの検討内容をブラッシュアップした。
2025年 ２月	試合中にダブルスチームの選手同士がぶつかり、競技エリア（Field of Play.以下「FOP」という。）内で動けなくなっている等	シナリオのそれぞれのケースについて、ファシリテーターが参加者にその対応や手順等を確認した。 終了後、確定している手順、不確定要素などもまとめ、競技運営マニュアルや会場医療救護計画に入れ込む形式を整えた。

団体競技組合せ抽選

2025年７月29日に、国立オリンピック記念青少年総合センター小ホールにおいてICSDの主催により団体競技の組合せ抽選が行われた。

対象競技はバスケットボール、サッカー、ハンドボール、バレーボールの４競技で、ICSD アダム・コーサ会長、大杉豊副会長、インターナショナル・スポーツ・ディレクター（International Sport Director.以下「ISD」という。）（※）、各競技SD（※）、技術委員会委員（各競技の競技運営担当者（Sport Liaison Officer.以下「SLO」という。））が立会者として参加した。

組合せ抽選の様子はYouTubeにて、全世界にライブ配信された。

※ISD、SDはWeb中継によりリモート参加
※バレーボールはランキング順位に基づき自動的にグループ分け



組合せ抽選の様子

7 大会前の選手団支援

選手団向けガイドブック

2024年２月、東京2025デフリンピックの概要や大会運営等について記載した「選手団向けガイドブック」を作成し、各国選手団へ配布した。大会ビジョン、大会エンブレム、大会概要や準備運営体制のほか、競技会場や式典、デフリンピックスクエアの設置、選手団の輸送や宿泊予約等について案内し、各国選手団の大会前準備を支援した。



選手団向けガイドブック

ガイドブック項目一覧

内容
はじめに
準備運営体制
大会ビジョン
大会エンブレム
大会概要
大会運営
競技運営
競技会場一覧
会場マップ
実施競技・競技会場
式典
デフリンピックスクエア
聴力検査
アンチ・ドーピング
医療サービス
宿泊について
選手団輸送について
都市情報

選手団専用ページ

各国選手団へ迅速に情報を提供するため、事業団は、2024年11月に、大会サイトに選手団専用ページを開設した。

選手団専用ページには、各部署で作成した選手団向けの情報を掲載し、選手が大会に参加するに当たって必要な情報を適時適切に掲載した。具体的には、各国選手団団長向け情報、競技、輸送サービス、出入国、選手団へのサービス、デフリンピックスクエア、表彰式、開閉会式、医療サービス/アンチ・ドーピング、宿泊、協賛、大会参加料といった12項目のページを掲載した。


選手団専用ページ

選手団団長セミナー

概要

選手団団長セミナー（以下「団長セミナー」という。）とは、デフリンピック規約（DG4.組織委員会７）に定められた、大会１年前に開催される会議である。

各国選手団の代表者に対して、大会時のサービス内容や入国手続等参加に向けたプロセスを説明するとともに、本大会時に使用する競技会場等への訪問機会を提供することで、大会に向けた準備を円滑に進めてもらうために実施するものである。

・イベント名称：選手団団長セミナー
・日程：2024年11月18日～ 20日
（11月17日：オープニングディナー
11月21日：希望制での競技会場等視察
（福島県/静岡県/伊豆大島））
・会場：国立オリンピック記念青少年総合センター
各競技会場等
・参加した国・地域：30
・参加者数：62人

国別内訳

オーストラリア	１人	ブラジル	３人
カナダ	１人	中華人民共和国	２人
クロアチア	２人	キューバ	１人
チェコ共和国	１人	デンマーク	１人
エストニア	１人	フィンランド	３人
ドイツ	３人	英国	１人
ギリシャ	２人	ホンコン・チャイナ	３人
ハンガリー	２人	イラン・イスラム共和国	２人
イスラエル	１人	イタリア	２人
日本	２人	大韓民国	５人
ラトビア	１人	マレーシア	２人
オランダ	１人	ポーランド	１人
南アフリカ	１人	スウェーデン	１人
チャイニーズ・タイペイ	６人	トルコ	４人
ウクライナ	３人	アメリカ合衆国	３人

オープニングディナー

団長セミナーの開催に先立ち、各国選手団を歓迎するオープニングディナーを実施した。

オープニングディナーでは、ICSD アダム・コーサ会長や連盟の石橋大吾理事長、都の栗岡祥一副知事、スポーツ庁橋場健審議官（当時）による挨拶をはじめ、公益財団法人東京観光財団の提供による東京阿波踊りパフォーマンスや大会応援アンバサダー川俣郁美さんによるメダルデザイン発表を実施した。また、東京産・被災地（岩手県、宮城県、福島県、石川県）産食材を使った料理等を提供するとともに、東京の魅力をPRするために東京の伝統工芸品を贈呈するなど、各国選手団へのおもてなしを行った。

さらに、現役デフアスリートである茨隆太郎さん、伊藤碧紀さんを招き、本大会への意気込みを語ってもらうなど、団長セミナーはもとより、１年後に控える本大会に向けた盛り上がりを各国選手団と共有する場となった。





東京阿波踊りパフォーマンスの様子


東京産・被災地産食材の紹介



メダルデザイン発表



参加者の集合写真

提供メニュー・ドリンク一覧　※括弧内が東京産食材、被災地産食材

東京産食材メニュー、ドリンク	被災地産食材メニュー、ドリンク
ブロッコリーのペペロンチーノ（ブロッコリー）	【宮城県】宮城産トマトのカプレーゼ（トマト）
ラズベリー風味のキャロットラペ（人参）	【福島県】日本酒、桃・りんごジュース、銘菓
東京の地酒（日本酒）	【岩手県】銘菓
伊豆諸島の島焼酎（芋焼酎、麦焼酎）	【石川県】赤ワイン

東京の伝統工芸品一覧

東京彫金の「SV925ペンダント 音珠（おんたま）」
「角八津組ブレスレット（デフリンピックカラー）」
「江戸つまみ細工ピンバッチ（東京2025デフリンピック記念デザイン）」
江戸硝子の「グラス 煌き」


SV925ペンダント音珠（おんたま）


江戸つまみ細工ピンバッチ


伝統工芸品の紹介


角八津組ブレスレット


グラス 煌き

全体会

全体会では、大会前の各種手続や大会時のサービス内容等について詳細を記載した「大会サービスガイド」を各国選手団へ配布するとともに、２日間にわたり各部門の責任者から大会への参加に当たって各国選手団へ伝達すべき事項を説明した。

また、参加者が円滑に情報を受け取れるようにするためには、国際手話・日本手話言語通訳をはじめ、日英音声通訳や文字情報の投影など、様々な情報保障を行う必要があることから、事前に手話言語通訳者の配置、情報の撮影・投影方法等を念入りに確認し、準備を行った。

さらに、大会１年前の準備状況等を共有するだけでなく、各国選手団との質疑応答の時間を長く設定するなど、対面でコミュニケーションを図ることのできる機会を活用して、各国選手団の疑問の解消につなげた。



大会サービスガイド


全体会の様子


手話言語通訳の様子

競技会場等視察

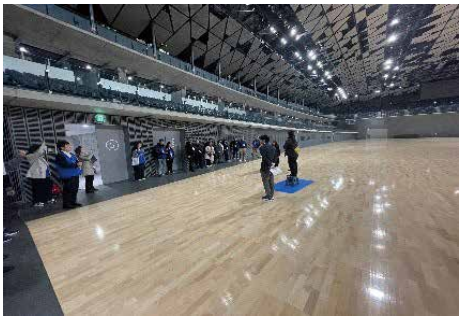
本大会で使用する競技会場等の準備状況を確認するため、
以下の日程で視察を行った。



会場視察の様子
（大森ふるさとの浜辺公園）



会場視察の様子
（日本サイクルスポーツセンター）



会場視察の様子
（京王アリーナＴＯＫＹＯ）

日程	視察会場
2024年11月18日	・駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場（陸上競技） ・駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場（ハンドボール） ・東京アクアティクスセンター（水泳） ・東京体育館（卓球） ・東京武道館（柔道、空手）
2024年11月19日	・大森ふるさとの浜辺公園（ビーチバレーボール） ・日比谷公園（オリエンテーリング） ・京王アリーナＴＯＫＹＯ(武蔵野の森総合スポーツプラザ)（バドミントン） ・東大和グランドボウル（ボウリング） ・府中市立総合体育館（レスリング）
2024年11月20日	・味の素ナショナルトレーニングセンター・ウエスト（ハンドボール練習会場（予定）） ・有明テニスの森（テニス）
2024年11月21日 福島県	・Ｊヴィレッジ（サッカー） ・いわきワシントンホテル（選手宿泊予定施設）
2024年11月21日 静岡県	・日本サイクルスポーツセンター（自転車競技） ・ホテルサンバレー（選手宿泊予定施設）
2024年11月21日 伊豆大島	・裏砂漠（オリエンテーリング）※大島温泉ホテル屋上から視察 ・ホテルカイラニ（選手宿泊予定施設） ・大島温泉ホテル（選手宿泊予定施設）

※一部の会場については、改修工事等の理由で視察を行わなかった。

情報保障の取組

国際手話及び日本手話言語通訳者を配置する（国際手話：24人/日本手話言語：52人）と共に、競技会場等視察時の移動（バス車内）では、手持ちボードの活用、発着時のアナウンスの際にライトの点滅を行うなど、視覚的に情報を伝える工夫を行った。

また、受付や宿泊相談デスクにおいては、透明ディスプレイを活用し、多言語対応を行うほか、協賛者から提供された電光掲示板を活用するなど、本大会時に活用予定のデジタル機器等を活用し、情報保障を行った。



透明ディスプレイ



電光掲示板



バス車内（手持ちボード）

8 コミュニケーションツール（ユニバーサル・チャットボード）

大会に向けて、きこえる・きこえない、または使用する言語が異なる者同士でも、アイコンを指差し、簡単、迅速に意思疎通を図ることができるツールとして「ユニバーサル・チャットボード」を制作した。

制作に当たり、事業団の若手職員を中心にプロジェクトチーム（以下「PT」という。）を設置し、都や東京都聴覚障害者連盟、現役のデフアスリートと共に議論を重ね、「誰もが、誰とでも（ユニバーサル）、気軽にコミュニケーションを楽しんでほしい（チャット）」という思いを込めて、「ユニバーサル・チャットボード」と名付け完成させた。

制作の様子

当初、約200個のアイコン候補から、一目で分かりやすく、汎用性が高いものや、コミュニケーションのきっかけになりそうなアイコンをPTメンバーで話し合い、選出した上でデザインを作成した。結果、41個のアイコンとなったが、PTメンバー一人ひとりの想いがつまったボードとなった。

また、コミュニケーションの入り口として活用してほしいという想いから、汎用的に使用できるアイコンだけではなく、「THANK YOU!」や「It's a joke!」を採用するなど、若手職員ならではの柔軟な発想を取り入れるとともに、実際の活用場面を想定して、カウンターやテーブルに置いて、すべてのアイコンが一度に確認できる「１枚バージョン」と、ポケットやカバンに入れて持ち運びが可能な「折り畳みバージョン」の２種類を作成した。

完成後は、大会サイトに掲載することで、誰もがスマートフォンやタブレット等で活用できるよう展開するとともに、印刷物としても広く作成し、選手関係者や大会スタッフ、ボランティアはもちろん、各競技会場やデフリンピックスクエア、輸送拠点、ホテル、会場周辺の飲食店等にも配布し、様々な場面でのコミュニケーションに活用された。





PTでの制作の様子



1枚バージョン（表）



共通（裏）



折り畳みバージョン（表）

開催に向けた盛り上げ

大会の気運醸成を図り、大会の認知度向上や共生社会を考えるきっかけにつなげるため、節目でのカウントダウンイベントをはじめ、手話言語への理解を深める取組やアスリートとの交流などを幅広く展開してきた。

さらに、多様な媒体による広報を継続的に実施することで、より多くの方々に情報を届け、国内の関心の高まりと参画への意識向上につなげた。

1　都における気運醸成の取組

大会に向けて、2023年度から３年間にわたり、「大会を知ってもらう」「大会のファンを増やす」「大会に参画する」という３つのステップを軸に、年度ごとに重点を置いた戦略的かつ段階的な気運醸成の取組を進めてきた。

2023年度は、大会の認知度を高めていくとともに、その魅力を伝えるため、WebサイトやSNSの開設、応援アンバサダーの選任など、情報発信の土台を整備したほか、大会２年前イベントをはじめとした様々な機会を捉えて「大会を知ってもらう」取組を展開した。

2024年度は、大会の認知度向上の取組を継続しながら、「大会のファンを増やす」取組として、大会概要の発信はもとより、注目選手の紹介や競技体験などを実施し、大会への関心を引き寄せ、多くの方々が参加する動機を形成した。取組に当たっては、都内区市町村など関係機関との連携を強化し、その結果、大会の都内認知度が14.8%（2023年）から39.0%（2024年）に上昇した。

大会当該年度となる2025年度は、これまでの取組を更に発展させ、「大会に参画する」取組として、これまでの取組に加え、サインエールのPRやデフアスリートの紹介等により、大会の特性や選手一人ひとりの魅力を伝え、応援したくなる気持ちを喚起する取組を展開した。特に、メディアとの連携や広報活動を強化し、情報発信を通じて大会を広く周知することで、競技観戦へとつなげた。

また、各年度に掲げた方向性の下、幅広い年齢層に大会の魅力が届くよう、対象とする層や発信手法を柔軟に組み合わせながら、多角的かつ重層的なアプローチを展開した。

こうした３年間の積み重ねにより、大会への関心が高まり、多くの方々の来場につながった。大会後には都内認知度が73.1％へと更に向上し、気運醸成の取組が確かな成果をもたらした。



多くの観客でにぎわう会場（陸上競技）



多くの観客でにぎわう会場（バスケットボール）

広報・情報発信

Webサイト、SNS

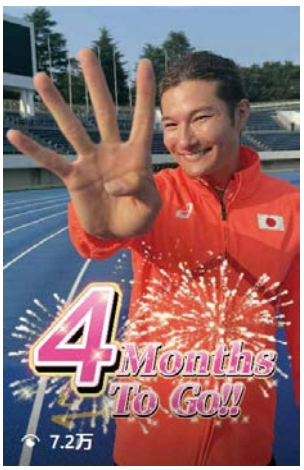
2023年度に、大会の特設サイト「TOKYO FORWARD 2025」を開設し、大会概要や関連イベントの掲載に加え、デフアスリートや社会で活躍する聴覚障害者等40人を紹介するなど、大会の気運醸成と併せて、聴覚障害への理解や多様性に対する気づきを深める内容を盛り込み、誰もが大会の魅力や意義に触れられるよう、継続的に情報発信を行った。（サイトPV数：約146万（2023年8月～2025年11月））

また、特設サイトと同時に「TOKYO FORWARD 2025」公式Instagramを開設し、サイトと連動した情報発信により大会への期待感や気運を醸成したほか、大会期間中には、注目選手と競技スケジュール等をタイムリーに投稿したことで、1億回を超える総閲覧数を記録するなど、幅広い層に大会情報を届けることができた。さらに、都のスポーツに関するXの公式アカウントでも大会関連のイベント情報などを発信した。



特設サイト「TOKYO FORWARD 2025」







Instagramの投稿

東京2025デフリンピック応援アンバサダー

東京2025デフリンピック応援アンバサダーとして、小学生の頃に国際交流団体にて手話言語を習ったことをきっかけに関心を持ち、手話言語番組にも出演された長濱ねるさん、自身もろう者であり、日本財団にてアジア太平洋地域のろう者支援事業のコーディネートを担当されている川俣郁美さん、インクルーシブ社会の実現を目的に開発された、手話言語が得意なデジタルヒューマンKIKI、オリンピアンで日本を代表する陸上アスリートである朝原宣治さんの4人を起用し、大会に至るまで、関連イベントへの出演やSNSでのメッセージ発信など、幅広くPRに協力してもらった。

多様な媒体を活用した広報

大会を知り関心を持ってもらえるよう、多くの方々が利用する都有施設や駅でのポスター掲出のほか、サイネージでの動画放映、都生活文化局と連携した町会・自治会でのチラシ回覧やかわら版による大会情報の周知など、様々な機会を捉えて大会をPRした。また、大会関連の話題が特定の時期に偏ることなく、イベント時期以外の期間でも発信が途切れないよう、Web・SNSでの広告、インフルエンサーによる大会PRなどを適宜組み合わせ、継続的な大会の魅力発信に取り組んだ。さらに、2023年から毎年、広報東京都11月号で大会の特集記事を掲載するとともに、都内区市町村との連携により、自治体広報誌等においても大会概要等を発信するなど、広く周知を図った。日本経済新聞や東洋経済などビジネス層をターゲットにしたメディアにおいても、大会やアスリートの魅力、UCなどの都事業を掲載してもらい、大会PRにつなげた。

大会直前期には、大会への期待感を醸成し、多くの方々に競技会場に足を運んでもらえるよう、従来の情報発信に加え、都庁舎プロジェクションマッピングや通勤・通学時に目に触れる機会が多いJR山手線や中央線、京浜東北線等での交通広告、日経WOMANやTarzan等の雑誌への掲載など、多様な媒体を活用した広報プロモーションを展開した。

また、都事業とそのスケジュールを紹介するメディアキットを日英で作成し、開幕10日前にプレスセミナーやメディア専用ページで国内外のメディアに提供するとともに、Webフォームを活用した事前調整を行うことで、円滑な取材受入体制を構築した。その結果、大会期間中には100媒体以上の取材が実現し、テレビ等多くの媒体での露出拡大につながった。さらに、都政策企画局と連携し、駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場での観戦を促すため、インフルエンサー７人による情報発信を行い、来場促進につなげた。



交通広告（2025年）





都庁舎プロジェクションマッピング（2025年）

イベント等による気運醸成

気運醸成イベント

大会の認知度や関心を高めるため、節目の機会を捉えて連盟、東京都聴覚障害者連盟、事業団、協賛者などと連携し、都内各所で様々な取組を展開した。

2023年度は、大会開催２年前に、デジタル技術を活用して、きこえる・きこえないにかかわらず誰もがつながることができるコンセプトカフェ「みるカフェ」を期間限定でオープンした。来場者は4,500人に上り、一方的な情報にとどまらず、きこえる人ときこえない人が交流し、大会後を見据えた共生社会の姿を体感できる場としてメディアにも取り上げられるなど、大きな反響を呼んだ。

2024年度は、より幅広い層へと関心を広げる取組を展開した。５月には、大会開催555日前の節目に合わせ、きこえる人ときこえない人のコミュニケーションやろう者の文化をテーマとした記念トークショーを開催した。続く７月には、開催500日前の取組として、「学ぼう！デフリンピック」を都内全小学校４～６年生に配布するとともに、都内小学校において、応援アンバサダーとデフアスリートによる特別授業を実施し、子どもたちがデフスポーツや手話言語に触れる機会を創出した。さらに、大会まで１年となる11月には、開催１年前イベントとして、デフアスリートや応援アンバサダーを招き、子どもたちが選んだメダルデザインの発表や手話言語体験等を実施するなど、大会への期待感を醸成した。また翌年２月には、前回好評を得た「みるカフェ」を昭和女子大学で実施した。大学の垣根を越えてきこえる・きこえない大学生たちが協働し、運営や接客、展示物などを検討するなど企画・運営に携わった。

2025年度は、いよいよ大会本番を見据え、気運を一層高める取組を実施した。５月には、都内小学校において、応援アンバサダーとデフアスリートによる大会に関する特別授業やデフスポーツのエキシビションを行い、子どもたち約120人が競技の魅力に直接触れた。開幕まで残すところ100日となった８月には、デフアスリートなどのゲストによるステージのほか、デフ卓球や手話アート等を体験できるイベントを開催し、大会を「自分ごと」として捉える契機となった。また、開幕まで50日前の節目には、デフリンピックを支える存在に光を当てる取組として、手話通訳士を招き、仕事にかける思い、社会における役割や重要性について語るトークショーを実施した。あわせて、手話言語や日本文化をモチーフとした折り紙作品の特別展示を都政ギャラリーで開催した。また、開幕１か月前には、デフアスリートとの競技体験やサインエール体験を実施した。参加した多くの子どもたちがアスリートの言葉や経験談に真剣に耳を傾ける様子が見られ、大会を間近に控えた熱気と期待感を強く感じさせるイベントとなった。



みるカフェ（2023年）



東京2025デフリンピック 1 Year To Go!（2024年）

実施イベント

日程	イベント名	場所	実施内容
2023年 11月15日（水） ～26日（日）	みるカフェ	ECO FARM CAFE 632	・デジタル技術体験、きこえないスタッフを含む店舗スタッフとのコミュニケーション、手話言語をモチーフにしたアート作品の展示など
2024年 5月9日（木）	東京2025 デフリンピック開催555日前 スペシャルトークショー 「音のない世界と“つながる”」	東京都立中央図書館４階 「多目的ホール」	・きこえる人・きこえない人が文化やスポーツなどについて、様々な立場と切り口で語り合うトークショー ・ゲスト　五十嵐大さん、中田美緒さん、朝原宣治さん ※ 特別展示を同時開催（５月９日～ 30日、東京都立中央図書館１階「中央ホール」）デフリンピックの概要や歴史に関するパネル展示に加え、ろう者の文化に関する様々な資料やデフ関連の作品等を展示
2024年 7月19日（金）	「学ぼう！ デフリンピック」 特別授業	品川区立台場小学校	・デフリンピックについての学習、手話言語コミュニケーション体験、デフスポーツ競技用具の紹介、ダンス「しゅわしゅわ☆デフリンピック！」など ・ゲスト　長濱ねるさん、川俣郁美さん、佐藤正樹さん
2024年 11月15日（金） 16日（土）	東京2025 デフリンピック 1Year To Go!	アーバンドック ららぽーと豊洲	・セレモニー（メダルデザイン、サインエールの発表）、手話言語が学べるワークショップ、UC技術の体験等 ゲスト　応援アンバサダー、茨隆太郎さん、岡田海緒さん、亀澤理穂さん、山田真樹さんなど
2024年 11月23日（土） 24日（日）	みるテクノ in 立川	GREEN SPRINGS	・UC技術の体験 ・ゲスト　伊藤碧紀さん
2025年 2月6日（木） ～14日（金）	みるカフェ	昭和女子大学３号館１階 「CAFE3」	・デジタル技術体験、きこえないスタッフを含む店舗スタッフとのコミュニケーション、手話言語をモチーフにしたアート作品の展示など ※ ２月５日にオープニングセレモニーを実施 ゲスト　長濱ねるさん、川俣郁美さん、山田真樹さん

実施イベント

日程	イベント名	場所	実施内容
2025年 5月9日（金）	デフリンピック特別授業「きこえないってどんな世界？～“異言語謎解きゲーム”で未知の扉を開こう！～」	中野区立桃花小学校	・デフリンピック特別授業、 ジェスチャー・文字を駆使した謎解きゲーム、 テコンドーエキシビション・サインエール体験 ・ゲスト　川俣郁美さん、星野萌さん、西脇将伍さん
2025年 8月7日（木）	東京2025デフリンピック 100 Days To Go!	二子玉川ライズ ガレリア・スタジオ & ホール	・セレモニー、手話言語が学べるワークショップ、 UC技術の体験など ・ゲスト　応援アンバサダー、茨隆太郎さん、亀澤理穂さん、 中田美緒さん、山田真樹さんなど
2025年 9月28日（日）	デフリンピック50日前記念トークセッション「ふたつの世界をつなぐ存在 ～手話通訳士の魅力～」	調布市総合体育館 小体育室	・手話通訳士の舞台裏やその専門性、やりがい、 社会における重要性について語るトークセッション ・ファシリテーター　川俣郁美さん パネリスト　江原こう平さん、佐藤晴香さん、 橋本一郎さん ※ 手話言語や日本文化等をモチーフとした折紙作品の特別展示を同時開催 （9月25日 ～ 9月28日、東京都議会議事堂1階 都政ギャラリー）
2025年 10月15日（水）	デフリンピック1か月前記念イベント「アスリート特別授業」	大井ふ頭中央海浜公園スポーツの森陸上競技場	・アスリートトークショー、デフスポーツ競技体験、 サインエール体験 ・ゲスト　岡田海緒さん、湯上剛輝さんなど

カウントダウンツアー

大会への関心と期待を一層高める取組として、オリジナルのモニュメントが全ての会場自治体を巡る「カウントダウンツアー」を実施した。本ツアーは、大会の開幕を祝福するとともに、大会までの残り日数を可視化し、開催が近づく高揚感を広く共有することを目的にしたもので、モニュメントは、「みんなでつくる」をコンセプトに制作され、「TOKYO 2025」の文字と大会エンブレムの背景に配置された桜の花のオブジェを、来場者がアスリートへの応援の想いを込めて折った折り鶴で満たしていく参加型のデザインとした。

ツアー期間中は、各地で来場者が折り鶴を投函し、大会への応援の気持ちを形にする取組を行い、約5,000人が参加した。2025年８月３日に静岡県で出発式及びモニュメントのお披露目を行った後、約３か月をかけて福島県や都内各地を巡り、開幕前日の11月14日にデフリンピックスクエアでゴールを迎えた。



カウントダウンモニュメントのお披露目（2025年）


折り鶴を折っている様子

大会PRツールの活用

幅広い層に大会の魅力を届けるため、2023年度から2025年度にかけて、都内区市町村や関係団体等が主催する各種イベントにPRブースを出展し、その回数は延べ332回に及んだ。ブースでは、大会概要や競技の見どころを発信するだけでなく、デフスポーツを体験・体感できる内容を組み込み、子どもから高齢者まで、来場者一人ひとりが大会を身近に感じられる取組を継続的に展開した。さらに、世界陸上の開催期間中には、明治公園で実施されたイベントにデフリンピックのPRブースを出展し、世界陸上を観戦した人々に対しても、大会を知ってもらう機会を創出した。

こうした取組と並行して、イベントや地域団体など都内各所へ大会PRツールを配布してきた。特に、区市町村への協力依頼を行い、庁舎や公共施設等での掲出・配布が進んだほか、都各局や関係者との連携を通じて学校や鉄道駅等での大会PRも展開され、日常生活の中で大会に触れる機会が着実に広がった。また、障害当事者の団体に対しても積極的に配布を行い、当事者のネットワークを通じた普及啓発への協力を得ることで、より共感を伴った大会PRにつなげた。その結果、バッジ約66万個、シール約21万枚、チラシ約49万枚などのPRツールが、都内外の多くの人たちの手に渡ることとなったことで、大会の認知度向上と関心喚起に大きく寄与した。



PRブース



PRツール

都庁展示

デフリンピックの東京開催が決定した2022年度から、都庁第一本庁舎２階中央において過去大会のメダルやユニフォーム等の展示を開始した。2024年度には２階北側にも範囲を拡大し、大会エンブレムモニュメントなどフォトスポットを設置した。大会直前の2025年10月１日からは、会場装飾デザインを基調とした展示に変更、２階に加え展望室でも展示を行い、多くの来庁者に大会をPRした。大会期間中は各国のメダル獲得数や日本人メダリストに関する情報発信を行った。



都庁２階での展示（2025年）



都庁展望室での展示（2025年）



大会時の情報発信（2025年）

応援メッセージ

選手に応援を届けるため、PRブースや気運醸成イベント等において来場者から応援メッセージを募り、３年間で１万を超えるメッセージが寄せられた。これらのメッセージは競技会場やデフリンピックスクエアに掲出するとともに、開会式直前に大型ビジョンに投影した。また、一部会場では選手からリプライメッセージをもらい、都庁舎で掲示した。

応援メッセージ掲出場所

場所
デフリンピックスクエア
東京アクアティクスセンター
京王アリーナＴＯＫＹＯ（武蔵野の森総合スポーツプラザ）
中野区立総合体育館
東京体育館 ※選手からのリプライメッセージを収集
都庁第一本庁舎２階北側 ※選手からのリプライメッセージも掲出



競技会場での応援メッセージの掲出
（中野区立総合体育館）



開会式直前に大型ビジョンに応援メッセージを投影（東京体育館）



選手からのリプライメッセージ（東京体育館）

子どもの参画を通じた気運醸成

2023年度及び2024年度に、きこえる・きこえないにかかわらず、子どもたちがデフアスリートと一緒にスポーツを楽しむ体験教室を実施し、体を動かすことの楽しさを実感するとともに、交流を通じて共生社会について考えるきっかけを提供した。

これらの取組では、きこえる子どもときこえない子どもが同じチームで活動し、音に頼らないコミュニケーションを互いに工夫し合う姿が多く見られるなど、体験を通じた学びと気付きが生まれ、大会への関心と理解の裾野を広げることができた。

また、2025年度は、特設サイトに子ども向けページを新設し、デフアスリートや社会で活躍するきこえない・きこえにくい人等のインタビューを掲載した。



子供スポーツ体験教室（2024年）



特設サイトの子ども向けページ（2025年）

実施イベント

日程	イベント名	場所	実施内容
2024年 ２月25日（日）	アスリート交流イベント for KIDS	東京都立 葛飾ろう学校	・アスリートや応援アンバサダーとのスポーツ交流 （走り方の練習、チーム対抗競走）など ・ゲスト　川俣郁美さん、朝原宣治さん、岡田海緒さんなど
2024年 10月６日（日）	子供スポーツ体験教室 「防災×デフリンピック」	東京都立 中央ろう学校	・災害時にろう者が困ること、キャタピラエスケープ、 防災知識トレーニングなど ・ゲスト　中田美緒さん
2024年 12月14日（土）	子供スポーツ体験教室 「デフサッカー体験教室 with FC東京」	東京ガス 深川グランド	・FC東京と一緒にデフリンピックやデフサッカーについて学ぶ、 デフサッカー体験など ・ゲスト　坂本大起さん、設楽武秀さん、折橋正紀さん、 宗澤麟太郎さん、土屋祐輝さんなど
2025年 １月19日（日）	子供スポーツ体験教室 「走る！跳ぶ！投げる！陸 上競技体験教室」	livedoor URBAN SPORTS PARK ブ リリアランニングス タジアム	・陸上競技体験、デフ陸上スタートランプ、サインエールなど ・ゲスト　朝原宣治さん、山田真樹さんなど
2025年 ３月１日（土）	子供スポーツ体験教室 「レッツ青トレ！ランニン グ教室 with 青学駅伝部」	武蔵野陸上競技場	・原晋監督と青山学院大学駅伝部から学ぶ青トレコンディショ ニング、青トレランニングなど ・ゲスト　岡田海緒さん

共生社会の理解促進に向けた取組

学ぼう！デフリンピック

デフリンピックや手話言語について、漫画形式で学べる学習ハンドブック「学ぼう！デフリンピック」を2023年に制作し、2024年７月の大会500日前を機に都内区市町村の全小学校の４～６年生約34万人に配布した。あわせて、スポーツ庁を通じて全国の学校（小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等）に周知を行い、体育・保健体育の授業にとどまらず、様々な教科や学校活動の場面で活用できる教材として活用を促進した。

更に2025年９月には、都内小学校の新4年生約13万人に改めて同冊子を配布するとともに、区市町村、地域の手話サークルや東京都聴覚障害者連盟等の関係団体にも広く配布し、学校現場にとどまらず、地域活動や当事者団体の学習・交流の場においても活用された。



学ぼう！デフリンピック



「学ぼう！デフリンピック」特別授業（2024年）

しゅわしゅわ☆デフリンピック！

子どもたちが手話単語に触れるきっかけにしてもらうことを目的にダンス楽曲「しゅわしゅわ☆デフリンピック！」を制作し、2024年２月に都内幼稚園で応援アンバサダーを招いてお披露目イベントを実施した。

また、手話言語や大会に関心を持つきっかけとなるよう、都内イベント等で参加者と一緒にダンスを踊ったり、都内の大学チアダンスチームがダンスを披露したほか、小学校の子どもたちをはじめ、田村淳さんやガンバレルーヤさん等の著名人にも協力してもらうなど、様々な人たちがこの楽曲で踊った動画を、SNSを通じて広く発信した。



しゅわしゅわ☆デフリンピック！



都内イベントでのダンスの様子

サインエール

一般的にスポーツの応援は声や聴覚＝音に頼るものが多く、きこえない・きこえにくいアスリートの世界「デフスポーツ」では、観客がアスリートに応援を届ける手段は限定的であった。

きこえる・きこえないにかかわらず、全ての人がデフアスリートに想いを届けることができるよう、視覚で捉える新しい応援スタイル「サインエール」をろう者やデフアスリート等とともに開発し、2024年11月の大会１年前イベントで発表した。「サインエール」は、日本の手話言語をベースに複数の動きを組み合わせた、「行け！」「大

丈夫 勝つ！」「日本 メダルを つかみ取れ！」の３つの基本要素から構成されている。

大会時の活用に向けて、2024年11月の日本デフ陸上競技選手権大会や2025年４月のデフサッカー男子日本代表エキシビションマッチなど各種競技大会で実証を重ねるとともに、多くの人たちに知ってもらえるよう、映像コンテンツやチラシを作成し、気運醸成イベント等様々な機会を捉えて幅広くPRした。2025年９月に開催された世界陸上では、世界陸上・デフリンピック両大会の日本代表選手である円盤投の湯上剛輝さんをサインエールで応援した。大会期間中には、日本人選手が出場する競技やメダルセッションにおいて、ろう者が先導する応援団を派遣し、選手の活躍を後押しした。さらに、その他の競技会場においても、多くの観客が一体となってサインエールで応援し、会場全体で選手を応援する輪が広がった。



サインエールの開発の様子



世界陸上におけるサインエールでの応援

各種スポーツイベント等との連携

都のスポーツイベントにおいて、デフリンピックの気運醸成につながる取組（デフスポーツの体験ブースの設置、デフアスリートによるトークショーの実施等）を実施した。また、都の各局施策やイベント等と連携した大会プロモーションを展開するなど、様々な機会を捉えて大会の気運醸成につながる取組を実施した。

※資料編「都スポーツイベントとの連携一覧」参照

区市町村との連携

都内区市町村と連携し、広報誌や住民に身近なイベント等で大会をPRするとともに、区市町村が独自の事業を展開できるよう、区市町村におけるスポーツ振興施策への支援の中で、デフリンピックの気運醸成に係る取組について補助率を３分の２に引き上げ、補助限度額を増額するなどの財政支援を行った。これにより、区市町村においても、地域の特性や実情を踏まえ、関係団体やアスリート等とも連携しながら、イベントや講演会、学校訪問、パブリックビューイングなど多様な手法による主体的な取組が展開された。

こうした都と区市町村それぞれの役割に基づく取組が都内各地で積み重ねられたことにより、東京全体で大会を盛り上げる気運の醸成が図られた。



デフアスリート学校訪問の様子（府中市）



100日前イベントの様子（渋谷区）

都内自治体が実施した気運醸成の主な取組

自治体名	分類	主な取組
千代田区	イベント	Let's play ！パラスポーツ・eスポーツちよだ（2024年11月10日及び12月８日、2025年12月７日）
	イベント	区民体育大会（2025年10月５日）
中央区	講演会等	スポーツ指導者養成セミナーフォロー研修（2025年１月15日及び７月30日、2026年１月13日）
	イベント	東京2025デフリンピックマラソン ブース出展（2025年11月25日）
港区	展示	Cheer on! 2025 MINATO CITY ～世界陸上・デフリンピックを知ろう～ 企画展（2024年９月13日～ 12月４日）
	イベント	Cheer on! 2025 MINATO CITY ～世界陸上・デフリンピックを知ろう～スポーツ体験会（2024年９月29日、2025年８月16日）
新宿区	イベント	デフフットボール体験会（2024年11月24日、2025年９月７日）
	イベント	世界陸上・デフリンピック気運醸成イベント（2025年８月３日）
文京区	展示	東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックパネル展示会（2025年８月20日～ 25日）
	イベント	Bunkyo Sports Park 2025におけるデフ競技体験等のブース設置（2025年10月13日）
台東区	イベント	スポーツの祭典～たいとうスポーツフェスタ2025 ～（2025年10月13日）
	競技観戦	青山拓朗さんを応援するパブリックビューイング（2025年11月17日及び25日）
墨田区	イベント	第78回墨田区民スポーツ祭総合開会式（デフリンピック交歓会）（2025年９月７日）
	講演会等	区民スポーツ健康デー（デフアスリートトークショー）（2025年10月13日）
江東区	イベント	デフスポーツ体験会・パネル展示等の普及啓発活動（2024年11月、2025年８月～ 2026年３月）
	イベント	デフリンピック観戦ツアー（2025年11月16日、19日及び23日）
品川区	広報等	シティドレッシング（2025年６月～ 11月）
	イベント	各国デフリンピック代表選手団との区民交流（2025年11月12日～ 14日）
目黒区	イベント	トップアスリート交流イベント（陸上）：世界陸上・デフリンピック気運醸成（2025年８月30日）
	広報等	めぐろ区報デフリンピック特集"Let's Go to デフリンピック"（2025年11月１日）
大田区	広報等	区内商店街フラッグ掲揚（2025年10月４日～ 12月10日 ※商店街により時期が異なる）
	講演会等	デフリンピックに係る講演会等（2025年10月４日、５日及び11日）
世田谷区	学校訪問	「学校2020レガシー推進校」へのデフアスリート派遣（2025年９月30日、10月６日及び12月19日）
	広報等	世田谷区報「区のおしらせ　せたがや　10月15日号」１面掲載（2025年10月15日）

自治体名	分類	主な取組
渋谷区	イベント	大会節目イベント（1年前：2024年11月16日～12月9日　100日前：2025年8月5日　1か月前：2025年10月11日）
	イベント	デフリンピック応援 in SHIBUYA（2025年11月23日及び24日）
中野区	イベント	東京2025デフリンピック気運醸成イベント（2025年8月9日）
	競技観戦	テコンドー体験・観戦イベント（2025年11月22日）
杉並区	イベント	音のない世界!?知ろう、学ぼう、デフリンピック（2024年7月28日）
	イベント	音のない世界で輝くアスリートを応援しよう（2025年7月19日）
豊島区	イベント	としまスポーツまつり2025（2025年10月13日）
	イベント	デフリンピックキャラバンカーイベント（2025年10月30日）
北区	イベント	デフリンピック体験イベント（開催100日前イベント）（2025年8月9日）
	競技観戦	東京2025デフリンピックパブリックビューイング（サッカー・射撃・卓球）（2025年11月14日外3件）
荒川区	イベント	デフリンピックPRキャラバンカー来庁セレモニー（2025年10月28日）
	競技観戦	パブリックビューイング事業（2025年11月23日）
板橋区	展示	デフリンピック関連展示（2024年8月6日～12日）
	展示	くらしとともに知るデフリンピックー板橋区オリジナル展示ー（2025年11月17日～28日）
練馬区	講演会等	練馬こぶしハーフマラソン2025（2025年3月23日）
	講演会等	ねりまスポーツひろば・ねりまランタンナイト（2025年10月19日）
足立区	広報等	競技会場周辺のシティドレッシング（2025年8月25日～11月26日）
	学校訪問	デフアスリートによる小中学校出前教室（2025年9月及び10月）
葛飾区	イベント	デフスポーツフェスタinかつしか（2025年6月8日）
	イベント	ユニすぽカーニバルinかつしか（2025年11月1日）
江戸川区	講演会等	各種イベント、学校における選手による講演会・体験会（2024年12月25日外7件）
	イベント	えどがわパラスポーツ体験会（講演・体験・PRコーナー）（2025年8月2日及び11月9日）
八王子市	イベント	『25周年 感謝祭』企画 スポフェス（2025年9月20日及び21日）
	イベント	第46回八王子いちょう祭り（2025年11月15日及び16日）

自治体名	分類	主な取組
立川市	学校訪問	デフアスリートによる市内小学校訪問（2025年９月）
	広報等	世界陸上及びデフリンピック気運醸成映像作成（2025年10月15日～ 11月26日放映）
三鷹市	イベント	デフバレーボール女子日本代表選手との交流事業（2025年５月25日）
	競技観戦	「デフバレーボール女子日本代表戦」応援バスツアー（2025年11月16日）
青梅市	イベント	皆さんで「デフリンピックを盛り上げよう」イベント（2024年10月20日）
	イベント	デフリンピックPRキャラバンカー来庁セレモニー（2025年11月13日）
府中市	学校訪問	デフアスリートによる学校訪問事業（2024年10月～ 2026年３月）
	イベント	大会節目イベント（1年前：2024年11月９日、半年前：2025年５月24日、1週間前：2025年11月９日）
昭島市	講演会等	デフリンピックの楽しみ方講座（2025年８月10日）
調布市	学校訪問	東京2025デフリンピック特別授業「調布市デフプログラム」（通称：デフプロ）（2025年６月～10月）
	イベント	東京2025デフリンピック応援企画「エールの花束プロジェクト」（2025年６月28日～９月30日）
町田市	広報等	町田市ゆかりのデフアスリート特集広報誌作成（2025年２月）
	展示	イベントスタジオでのデフリンピック関連展示（2025年８月４日～ 8日）
小金井市	イベント	障がい特性の理解促進講座 「デフリンピック」を知ろう（2025年８月24日）
	イベント	障害者週間スペシャルイベント（2025年12月６日）
小平市	イベント	こだいら手話フェス2024（2024年12月８日）
	イベント	デフリンピック気運醸成イベント「デフアスリートによる陸上教室」（2025年５月31日）
日野市	イベント	日野市民スポーツ・レクリエーションフェスティバル（PRブースの設置）（2025年10月13日）
	競技観戦	東京2025デフリンピックパブリックビューイング（サッカー）（2025年11月14日及び25日）
東村山市	イベント	東京2025デフリンピック応援イベントin東村山（2025年８月16日）
	イベント	ぐるスポ（2025年10月13日）
国分寺市	イベント	１DAYスポーツ教室（2025年６月14日）
	イベント	デフリンピックキャラバンカーイベント（2025年11月５日）
国立市	イベント	スポーツ子どもの日（2025年２月16日）
	講演会等	デフリンピック気運醸成に係る講演会事業（2025年９月22日）

自治体名	分類	主な取組
狛江市	講演会等	令和６年度第３回狛江市スポーツ推進講演会　デフテニスの鈴木梨子選手と専修大学教授の対談（2025年２月９日）
	イベント	デフリンピックキャラバンカーイベント（2025年10月31日）
東大和市	広報等	デフリンピック応援横断幕・懸垂幕の掲出（2025年10月10日～ 11月26日）
	イベント	デフリンピックまるごと体感フェス（2025年10月11日）
清瀬市	展示	本庁舎１階ロビーにて「東京2025デフリンピックコーナー」の設置（2025年９月８日～ 11月27日）
	広報等	市報・市公式HPでの大会紹介等（市報：2025年９月15日及び10月１日、市公式HP：市報に連動して公開）
東久留米市	広報等	市報・市HPへの記事の掲載（市報：2025年11月1日、市HP：2025年10月27日）
	展示	庁舎及びスポーツセンターでのデフリンピック展示（2025年11月４日～ 12月５日）
武蔵村山市	広報等	広報誌・市ホームページ等への記事掲載（2025年11月５日外４件）
	イベント	東京2025デフリンピックキャラバンカーイベント（2025年11月９日）
多摩市	広報等	陸上十種日本代表の岡部祐介さんの応援事業（2025年９月～ 11月）
	イベント	デフリンピック2025気運醸成イベント（2025年10月13日）
稲城市	講演会等	東京2025デフリンピック壮行会（2025年９月24日）
	講演会等	東京2025デフリンピック報告会（Iのまちいなぎパラフェス内）（2025年12月13日）
羽村市	イベント	市民スポーツまつり（2024年10月14日、2025年10月13日）
	広報等	東京2025デフリンピック全国キャラバン活動に向けたチラシ作成・配布（2025年10月～ 11月11日）
あきる野市	イベント	東京2025デフリンピック全国キャラバン活動（2025年11月12日）
西東京市	イベント	東京2025デフリンピック直前イベント　衣川選手（柔道）壮行会（2025年11月４日）
	イベント	東京2025デフリンピックキャラバンカー出発式（2025年11月４日）
瑞穂町	イベント	瑞穂町スポーツフェスティバル2025（2025年10月12日）
大島町	イベント	オリエンテーリング体験（2024年10月）
	広報等	町広報、SNS、LINE、チラシ等での周知（随時）
三宅村	イベント	東京2025デフリンピックの気運醸成に資する事業（2025年９月28日）

都外における気運醸成の取組

大会の認知度を都外にも広げ、来場につなげるため、全国規模のイベントや他自治体等と連携したPRを実施した。

国内においては、第78回国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会において、東京都選手団が東京2025デフリンピックの横断幕を掲げて入場した。また、大阪MBS本社、とっとり手話フェス、とよたスポーツフェスティバルなど、メディア拠点や地域イベントの場を捉えて大会の魅力を発信するとともに、神奈川県をはじめ、北海道や岡山県など都外自治体に大会PRツールを提供し、大会PRにつなげた。

加えて、九都県市首脳会議における都知事からの大会概要の発信や、都政策企画局の地方連携事業（共存共栄）を活用し、2023年度は熊本県、鹿児島県、愛知県、2024年度は和歌山県等５県において大会PRの協力をしてもらうなど、広域的な情報発信を行った。また、ブダペスト2023世界陸上競技選手権大会や2024年パリオリンピック開催期間中には、都産業労働局と連携し、現地において東京の魅力発信とあわせて東京2025デフリンピックを紹介するブースを設けるなど、都の各局とも連携しながら様々な機会を捉えて大会PRを実施した。

さらに、国の機関と連携し、文部科学省エントランスでのカウントダウンボード展示や大阪・関西万博における大会PRブースの出展などを実施した。また、JR東海やJR西日本の主要駅でポスターを掲出した。

これらの取組により、開催地である東京にとどまらず、全国、更には海外へと大会情報を届けることができ、大会への関心と来場意欲の喚起につなげた。

被災復興支援に係る取組

大会のPRに取り組むとともに、大会等を通じて岩手県、宮城県、福島県、石川県の復興支援の一環として、各地域の魅力等を発信してきた。節目イベントにおける東北３県の食材を用いたキッチンカーの出展やリーフレットの配布に加え、団長セミナーで食材や県産品等を提供するなど被災地のPRを展開した。大会期間中には、デフリンピックスクエアに被災地PRブースを設置し、来場者が被災地の魅力に触れることができる機会を創出した。（被災地PRブース来場者数 約7,500人）

2 福島県及び静岡県における気運醸成の取組

サッカー競技の会場である福島県、自転車競技（ロード・マウンテンバイク）の会場である静岡県においても、大会前の広報や節目イベントのほか、更に大会中における地元での大会盛り上げなど様々な気運醸成の取組が実施された。

福島県では、2年前、１年前、300日前、100日前、開幕直前と節目イベントを開催するとともに、県内プロスポーツ５チームと連携してホームゲーム等でデフリンピックのPRを行った。男子開幕戦でのオープニングセレモニーやサテライト開会式でのステージコンテンツを県主催で実施したほか、大会期間中には、キッチンカーやブースの出展、震災伝承施設へのシャトルバスの運行など、盛り上げや来場者へのおもてなしを実施した。さらに、子ども観戦招待やエスコートキッズをはじめ、共生社会実現に向けて未来へつながる取組を幅広く実施した。

静岡県では、2年前、1年前、100日前と節目イベントを開催したほか、地元協賛者と連携した広告掲出等を行った。また、学校観戦事業とあわせ事前の出前授業を実施、大会中は、日本サイクルスポーツセンター内で「にぎわいイベント」を開催し多くの観客を楽しませた。さらに、地元学生を対象とした手話サポーターの養成や観光案内所への試験的な透明翻訳ディスプレイ設置、大会後のデフアスリートによる講演会や特別授業など、大会の記憶を残すレガシーに向けた施策にも取り組んだ。



【福島県】100日前イベント「デフスポふくしま」の様子



【福島県】観戦招待の子どもたちとサインエールで応援の様子



【静岡県】100日前イベントの様子



【静岡県】スプリントに挑む選手と学校観戦の様子

3 ステークホルダーと連携した気運醸成等の取組

気運醸成として500日前に、ろう学校において「500」の人文字を作成した。また、500日前のSNS一斉配信を行うなど、事業団のSNSがハブとなり、都、連盟、競技団体、自治体、会場やアスリート等のSNSアカウントと連携した結果、話題性を高め、トレンドワード入りを果たした。

さらに、協賛者が持つ、広報媒体、商品・サービスにロゴ使用を認めるなど、連携して広報を行うとともに、協賛者が実施するSDGsイベントとコラボレーションした企画を実施するなど、協賛者等の関係者と連携してひとつのイベントを創り上げ、今後のモデルケースとなる事業を実現した。

加えて、協賛者、競技会場、会場自治体、競技団体、アスリートなど、各種ステークホルダーと連携し、大会カラーの桜色にまちを彩り、SNSにおいても都民、国民をはじめとして大会への想いを投稿し参画へと促す、さくらキャンペーンを2025年３月に実施した。実施に当たっては、桜のビジュアル、会場装飾デザインを事業団職員が制作し、統一的なデザインによるプロモーションを実施するとともに、協賛者にCMを制作してもらうなど関係団体と連携し、委託を行うことなく広報ツールも自前で制作した。



さくらキャンペーン



ポスター

4 全国の気運醸成等の取組

デフリンピックやデフスポーツへの関心を高め、認知度を向上させるとともに、大会に向けて全国の気運醸成を図るため、以下の各種取組を行った。

東京2025デフリンピック応援隊

都は、東京2025デフリンピックを多くの方々が応援し、大会に親しみを持ってもらえるよう、各自治体等のキャラクターによる「東京2025デフリンピック応援隊」を結成した。東京2025デフリンピック応援隊の活動には、166の自治体等が賛同し、キャラクター数は176となった。東京2025デフリンピック応援隊は、全国各地で大会に向けた気運醸成やデフアスリートを応援するなど、大会を盛り上げた。



2024年６月応援隊結成時イベント



デフリンピックスクエアでのグリーティング

デフリンピック・フェスティバル

連盟は、デフリンピックやデフスポーツへの関心を高め、認知度の向上、及び東京2025デフリンピックに向けて全国の気運醸成を図るため、「デフリンピック・フェスティバル」を実施した。きこえない人ときこえる人の協働を通した共生社会やつながりの実現を具体化するため、実施主体は地域ろう当事者団体と地域行政や関係機関との共催、若しくは地域ろう当事者団体主催、地域行政の後援等の形を基本とした。運営委員会はその取組を後押しするため、地域ろう当事者団体へ対象とする経費に対し１か所上限10万円の助成を行った。（実施状況は、資料編参照）



石川県で開催された気運醸成事業の様子



石川県で開催された気運醸成事業の様子

未来へつながるプログラム

連盟は、きこえない芸術文化団体や外部有識者等で構成する検討チームを立ち上げ、2023年度中に計４回会議を開催し、プログラム案を策定した。

2024年10月、デフスポーツやデフリンピック、きこえないことや手話言語、ろう者の社会活動、情報保障機器等について体験し理解を深め、障害や多様性について考えるきっかけをつくり、東京2025デフリンピックに向けた気運醸成と共生社会の実現を図ることを目的とした「未来へつながるプログラム」を策定した。学校向けの「教育ワークショップ型プログラム」、自治体・民間企業等向けの「イベントワークショップ型プログラム」、各プログラムを行うに当たり、講師や教材等を紹介する「コンテンツ紹介」で構成し、学校や自治体等からの講師派遣依頼に基づき、デフアスリートや手話言語指導講師、手話言語通訳者等の派遣を行った。また、教育機関に限り、映画「みんなのデフリンピック」の上映データを無償で提供、教育ワークショップ型プログラムの中で紹介し、デフスポーツの普及やデフリンピックの周知を図った。

2025年４月、連盟が受託したスポーツ庁の「令和６年度障害者スポーツ振興事業「パラスポーツイベント開催支援事業」」（ろう学校等の児童・生徒に対する体験学習等）の対象として、未来へつながるプログラムの「教育ワークショップ型プログラム」を位置づけ、事業を拡充した。対象校に「ろう学校を含む特別支援学校」も加えるとともに、プログラムを実施する際の、講師謝金、手話言語通訳費用の一部を連盟が負担することとし、より多くの子どもたちがプログラムを体験できる環境を整備した。



学校でのデフスポーツ体験の様子
（教育ワークショップ型プログラム）



イベントでの手話言語体験の様子
（イベントワークショップ型プログラム）

活用実績

	2024年度	2025年度	合計
教育ワークショップ型プログラム	7件	50件	57件
イベントワークショップ型プログラム	2件	13件	15件
映画「みんなのデフリンピック」上映	36件	17件	53件

キャラバン活動

連盟は、「令和６年度障害者スポーツ振興事業「パラスポーツイベント開催支援事業」」により、大会の開催に向けて国内における周知・広報を行い、デフスポーツの気運醸成を図るとともに、大会の成功を目的とした事業を実施した。

具体的な事業内容は、以下の４つである。

①イベントキャラバン：商業施設を活用したイベントの開催
②学校キャラバン：小中学校、ろう学校を含む特別支援学校の児童生徒に対する体験学習等
③キャラバンカー巡回：各地域におけるイベントの支援
④映像コンテンツの作成：イベントキャラバン、学校キャラバン、キャラバンカー巡回等で上映する映像コンテンツを作成し、①②③で使用

①イベントキャラバン

全国の各都道府県において、商業施設等を活用したデフリンピック応援イベントを計87か所で実施した。内訳は以下のとおりである。

- 連盟主催によるイベント：43か所
- 他団体等が主催するイベントへのブース出展等による参加：38か所
- 自治体等が主催するイベントへの物品等の貸出協力：６か所

これらの取組により、各地域においてデフリンピックの認知度向上に大きく寄与した。特に、商業施設を活用したイベントは多くの来場者の目に触れる機会となり、広報効果が高かった。（開催一覧は、資料編「商業施設を活用したイベントキャラバン開催一覧」を参照）

②学校キャラバン

未来へつながるプログラム「教育ワークショップ型プログラム」を学校キャラバンとして実施した。小中学校、ろう学校を含む特別支援学校に対して、デフアスリートや手話言語指導講師、手話言語通訳者等を派遣し、より多くの子どもたちに体験の機会を提供した。また、きこえる子ども向け、きこえない・きこえにくい子ども向けの２種類のパンフレットを作成し、体験学習の事前・事後の学習用教材として体験授業を実施する学校に配布した。



（左）きこえる子ども向けパンフレット
（右）きこえない・きこえにくい子ども向けパンフレット

③キャラバンカー巡回

東京2025デフリンピックのPRのためのラッピングカー２台が、2025年６月15日に開催した全国ろうあ者大会inいわてを皮切りに、北回りと南回りで開催都市の東京都をめざし、全国を回って大会の周知を行った。

巡回の最終日はデフリンピックスクエアにて到着セレモニーを行った。


秋田県：イベント会場に展示



大分県：第８回デフビーチバレーボール国際親善大会にてPR

A車の日程			B車の日程		
1	6月14日（土） ～ 6月15日（日）	岩　手	1	6月19日（木） ～ 6月23日（月）	大　分
2	6月15日（日） ～ 6月23日（月）	秋　田	2	6月23日（月） ～ 6月28日（土）	宮　崎
3	6月23日（月） ～ 7月2日（水）	山　形	3	6月28日（土） ～ 7月4日（金）	鹿児島
4	7月2日（水） ～ 7月18日（金）	北海道	4	7月5日（土） ～ 7月11日（金）	沖　縄
5	7月18日（金） ～ 7月25日（金）	青　森	5	7月11日（金） ～ 7月17日（木）	熊　本
6	7月25日（金） ～ 7月27日（日）	岩　手	6	7月17日（木） ～ 7月22日（火）	長　崎
7	7月27日（日） ～ 7月29日（火）	宮　城	7	7月22日（火） ～ 7月27日（日）	佐　賀
8	7月29日（火） ～ 8月4日（月）	新　潟	8	7月27日（日） ～ 8月1日（金）	福　岡
9	8月4日（月） ～ 8月13日（水）	福　島	9	8月1日（金） ～ 8月7日（木）	山　口
10	8月13日（水） ～ 8月23日（土）	長　野	10	8月7日（木） ～ 8月13日（水）	島　根
11	8月23日（土） ～ 8月30日（土）	富　山	11	8月13日（水） ～ 8月19日（火）	広　島
12	8月30日（土） ～ 9月3日（水）	福　井	12	8月19日（火） ～ 8月25日（月）	鳥　取
13	9月3日（水） ～ 9月10日（水）	石　川	13	8月25日（月） ～ 8月31日（日）	岡　山
14	9月10日（水） ～ 9月16日（火）	滋　賀	14	8月31日（日） ～ 9月5日（金）	香　川
15	9月16月（火） ～ 9月21日（日）	愛　知	15	9月5日（金） ～ 9月9日（火）	愛　媛
16	9月21日（日） ～ 9月27日（土）	埼　玉	16	9月9日（火） ～ 9月13日（土）	高　知
17	9月27日（土） ～ 10月4日（土）	群　馬	17	9月13日（土） ～ 9月17日（水）	徳　島
18	10月4日（土） ～ 10月12日（日）	栃　木	18	9月17日（水） ～ 9月23日（火）	兵　庫
19	10月12日（日） ～ 10月19日（日）	茨　城	19	9月23日（火） ～ 9月26日（金）	大　阪
20	10月19日（日） ～ 10月26日（日）	千　葉	20	9月26日（金） ～ 10月1日（水）	和歌山
21	10月26日（日） ～ 11月2日（日）	神奈川	21	10月2日（木） ～ 10月5日（日）	奈　良
22	11月2日（日） ～ 11月8日（土）	山　梨	22	10月5日（日） ～ 10月10日（金）	京　都
23	11月8日（土） ～ 11月14日（金）	東　京	23	10月10日（金） ～ 10月15日（水）	三　重
			24	10月15日（水） ～ 10月21日（火）	静　岡
			25	10月21日（火） ～ 10月27日（月）	岐　阜
			26	10月27日（月） ～ 11月13日（木）	東　京

④映像コンテンツの作成

デフリンピックやデフスポーツ等を周知、啓発する映像コンテンツを作成し、デフリンピック関連イベントや小中学校、ろう学校を含む特別支援学校の児童生徒に対する体験学習等で活用した。

＜作成した映像コンテンツ＞
・デフリンピックでの情報保障について
・デフリンピックの競技（オリエンテーリング、ハンドボール）紹介
・デフスポーツ応援漫画紹介



デフリンピックでの情報保障について



デフスポーツ応援漫画紹介

MANGA cheer on Deaf Sports

連盟は、デフアスリートに勇気を与えること、デフスポーツのファンを増やすことを目的に、マンガ作品による企画について、国内の出版社からの協力を得て、デフスポーツとコラボしたオリジナルの展示パネル、ノベルティ、映像を制作した。制作した各種コンテンツは全国のイベント会場、またデフリンピックスクエアにおいて、来場者への啓発やデフアスリートへのエールとして活用した。


マンガパネル展示状況

＜企画のロゴ＞

東京2025デフリンピックのメインビジュアルカラーである「桜色」を基調に、日本らしさと漫画を掛け合わせたロゴとした。力強くポップな書体で構成し、背景には漫画特有の「集中線」をあしらうことで、視線を引き寄せる演出とともに、スポーツの瞬発的な動きやエネルギーを視覚化している。

5　大会エンブレムの選定

大会を象徴する大会エンブレムの制作をきっかけに、多くの方々にデフリンピックへの関心を高めてもらうとともに、めざすべき共生社会を体現する作成プロセスとするため、次代を担う若者や子どもたちの参画により制作・選定を行った。

大会エンブレムのデザイン案は、筑波技術大学のきこえない・きこえにくい学生（総合デザイン学科を中心とした産業技術学部の学生）が複数案制作した。学生からデザインの説明を直接聞いた上で、ろう学校を含む都内の中高生同士の意見交換を経て、投票で多田伊吹さんのデザインに決定した。

決定したデザインについて、参加者からは「一筆書きができるところが素晴らしい」、「一目で手であることがわかり、幼稚園生など小さい子でも描きやすそうなデザインであるのも良い」といったコメントがあった。


デザイン制作を担った筑波技術大学の学生と
参加した中高生との集合写真

6 メダルデザインの選定

次代を担う若者や子どもたちに大会やデフスポーツの魅力を知ってもらい、共生社会の実現につなげていくため、アスリートの勝利の証である入賞メダルデザインの選定は、子どもたちの投票にて実施することとした。

メダルデザイン投票は、2024年９月１日から10月14日まで、全国の小学生、中学生、高校生（年齢相当含む。）を対象に実施され、８万543人が参加。デザイン候補３案の中からオンライン投票で得票数の最も多いＣ案「みんなで羽ばたく」のデザインに決定した。

＜投票数内訳＞
１位　40,458票 Ｃ案　コンセプト　みんなで羽ばたく
２位　21,259票 Ａ案　コンセプト　ミライへの懸け橋
３位　18,826票 Ｂ案　コンセプト　未来へ花咲くサクラ

メダル表面には、「折り鶴」が描かれており、選手たちが大きく羽ばたき、活躍することへの願いが込められている。また、縁起が良いとされている日本の伝統的な模様を使用している。

メダル裏面には、いくつもの線がまじりあうデザインが描かれており、世界の人とのつながりを表している。

投票に参加した子どもたちからは、「折り鶴がデザインされたメダルは、海外の選手の心に残る日本ならではのメダルだと思う」「日本の伝統的な文化と縁起の良い柄が合わさって、このメダルをもらった選手が嬉しくなると思う」「裏面の、いくつもの線がまじりあうデザインが世界の人々とのつながりや多様性を表していて、デフリンピックにぴったりだと考えた」との声があった。



メダルデザイン投票の様子



投票案内ポスター

表



裏



メダルデザイン

7 選手・競技団体への支援

東京都デフリンピック チャレンジ事業トライアウト

都は、東京2025デフリンピックに向けて、NDFが存在しない等の理由により、これまで出場選手の発掘・育成が進んでいなかった４競技（ハンドボール、射撃、テコンドー、レスリング（フリースタイル、グレコローマン））において有望な選手を発掘することを目的として、2024年６月にトライアウトを実施した。

全国から集まった43人のうち、運動能力テストや実技を通した競技適性やパフォーマンスの評価を経て、21人（延べ22人）が競技団体による強化・育成の対象となった。そのうち10人が大会に出場、銅メダル２個を獲得する快挙となった。４競技での日本選手出場は史上初であり、その結果全競技での日本選手出場が実現した。



ハンドボール



射撃



テコンドー



レスリング

東京ゆかりパラアスリート・東京デフアスリートへの支援

都は、大会出場をめざす東京にゆかりのある選手を「東京ゆかりパラアスリート・東京デフアスリート」として2022～2025年度で99人を認定し、競技活動に係る経費に対して財政的な支援を行った。そのうち61人が大会に出場し、日本選手団が獲得した51個のメダルのうち金メダル7個含む18個のメダルを獲得した。

また、パラアスリートの競技力向上に必要不可欠なパラスポーツスタッフ（手話言語通訳含む）の活動環境の整備に向けた経費支援等の取組も併せて実施した。

デフスポーツ競技団体都内活動促進事業等

都は、東京2025デフリンピックに向け、デフスポーツの競技力を向上させるとともに、都民のデフスポーツへの関心を高めることを目的として、日本パラリンピック委員会に加盟するNDFや関連する団体が都内で実施する強化合宿や普及啓発活動等に対し、財政的支援を実施した。（2023～2025年度で21団体（延べ48団体））

＜2024年度実績＞

17団体63事業

（例）・日本代表チームと社会人チームとのエキシビションマッチを一般公開
・都内小学校での競技体験、講演会、選手と児童との交流を実施

＜2025年度実績＞

19団体68事業（2025年５月31日時点）

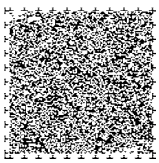
（例）・強化合宿の一般公開、参加者の競技体験
・きこえる方もきこえない方も参加できる大会の開催、選手と参加者の交流

東京ゆかりデフアスリート応援サイト

大会の開催に向けて、「東京ゆかりデフアスリート応援サイト」を開設した。サイトには84人の東京にゆかりのある選手の情報（ゆかりの地域や活動実績、本人コメント等）を掲載した。選手名・競技名のほか、ゆかりの地域による検索機能を搭載し、地元選手を調べて応援ができる気運の醸成を図った。その他、競技日程・選手名・競技名で検索ができる出場スケジュール、選手等へのインタビュー動画・記事、各競技団体ホームページや都内自治体のデフリンピック関連ページへのリンクを掲載した。

大会期間中にはサイトのほかXを活用し、掲載選手の競技結果やメダル獲得者情報を随時発信した。





第3章

大会運営



MOC（大会運営本部）

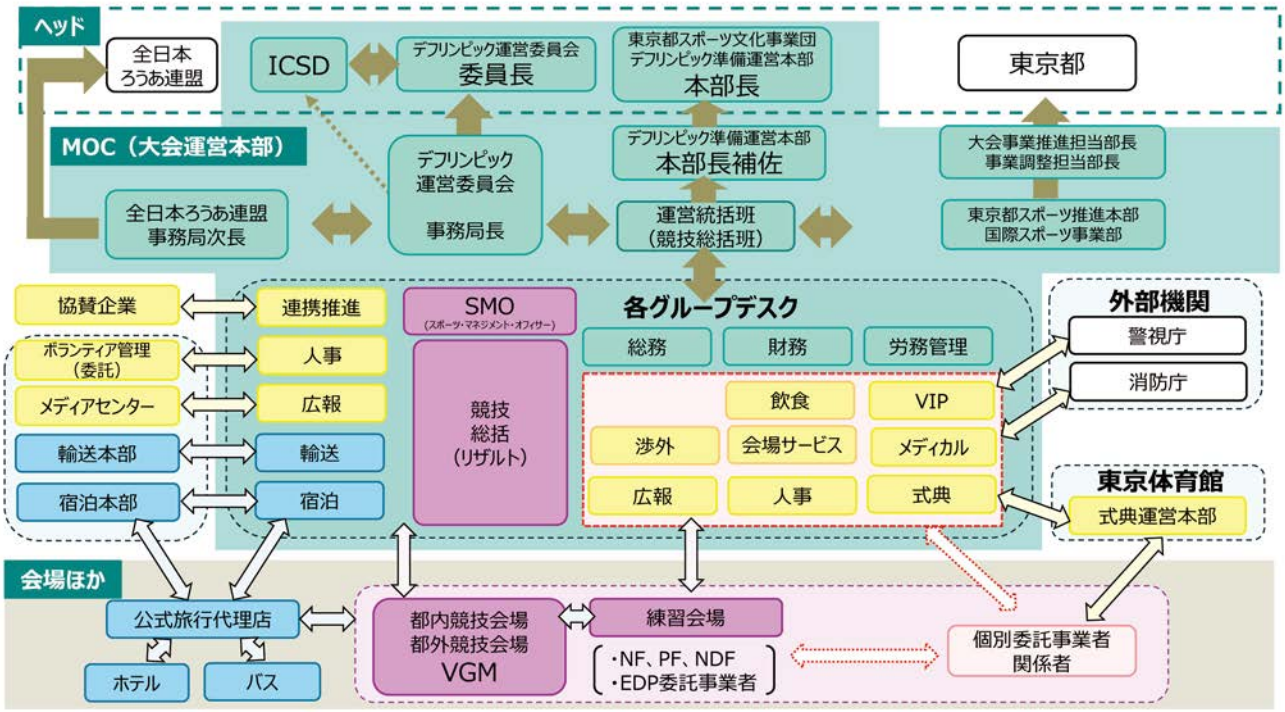
1 MOC（大会運営本部）の設置及び運営

MOCの役割

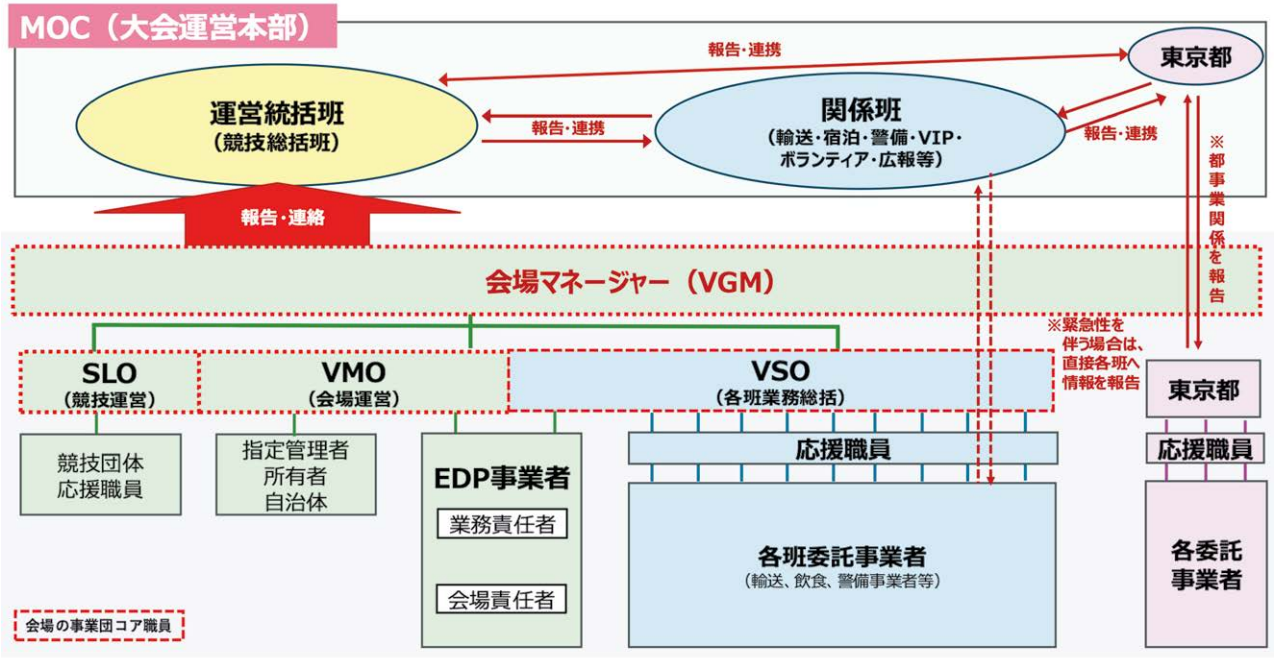
大会期間中、各会場運営や輸送・宿泊、その他選手団等への各種サービス提供に関する情報を広く集約し、関係者間の調整や発生事案の解決を円滑に進める役割を担う大会運営本部（Main Operations Centre.以下「MOC」という。）を、デフリンピックスクエア内に設置した。

MOCでは、速やかに事案解決を行うため、大会運営を担う連盟、都及び事業団により構成され、事業団については全部署が加わった。MOCでは、大会期間中、１日２回（朝・夜）のミーティングを実施し、特に夜のミーティングでは、全会場をオンラインでつなぎ、各会場での発生事案含め、全体で情報共有を行った。

各会場で発生した事案については、随時適切にMOCへ報告する体制を構築するとともに、大会運営全体に影響を及ぼすような重大な事案については、速やかにMOCに情報を集約し、迅速かつ適切に事案の解決が行えるよう体制を整備した。



MOC 全体体制図



会場運営体制図及び指揮系統

体制構築に向けた準備

MOCの体制構築に向け、大会時の運営体制について様々な検討を行った。大会時の全体の人員配置を考慮した、各会場とMOCとの連絡方法、連盟や都との情報共有方法等について、それぞれの関係者と密に調整・検討を行い、MOCが円滑な大会運営、事案解決の役割を担うことができるよう、必要な体制を整えた。

大会期間中の運営

MOCは、24時間体制で稼働し、深夜及び早朝時も含めた事案発生に備えた。大会期間中、各会場から事案発生の連絡を受けた際には、MOC内の関係職員が直ちに情報を共有し、関係者調整、事案解決に当たった。会場で解決できない事案のほか、会場で解決済みの事案についても、毎日定例的に報告を受け、MOC内で常に情報を共有した。

また、MOC内には、各関係班のセントラル機能を集約させるとともに、VIPについては、プロトコール・コーディネーション・センター（以下「PCC」という。）を設置し情報を集約した。また、選手団からの問合せは、選手団リエゾン及び窓口を通して集約するなど、大会運営に関する情報をMOCで一元管理した。

職員の体制

各会場で発生した事案については、まずは運営統括班が窓口となり連絡を受け、MOC内へ円滑に情報を共有できる体制を整えた。MOCには、運営統括班及び各関係班の管理職と担当職員が常駐し、各会場から連絡を受けた場合には、直ちに情報を共有し、関係班で事案解決に向けた協議、決定を行った。

また、深夜及び早朝時においても、宿泊中のトラブル等の発生や早朝に開場する会場から連絡を受けることも想定された。そのため、MOCが設置された国立オリンピック記念青少年総合センター内に管理職が宿泊、一般職員（運営統括班・競技総括班）が１人夜勤業務に当たり、深夜及び早朝時の事案発生に備える体制を整えた。



MOCの様子

各会場との連携

各会場で緊急事案が発生した場合の連絡や定例報告は、電話及び情報共有ツールのチャット機能を用いた。競技ごとに、競技・会場運営担当職員（VGM,SLO,VMO,VSO）及び運営統括班で構成されたチャットグループを組み、随時連絡を取ることができる体制を整え、事案報告や対応指示を行った。また、緊急時の連絡だけでなく、定例報告についてもチャット機能を活用することで、円滑かつ簡潔に報告を行う体制とした。定例報告は、会場オープン、競技開始、競技終了、会場クローズ、その他混雑状況について、報告を受けた。

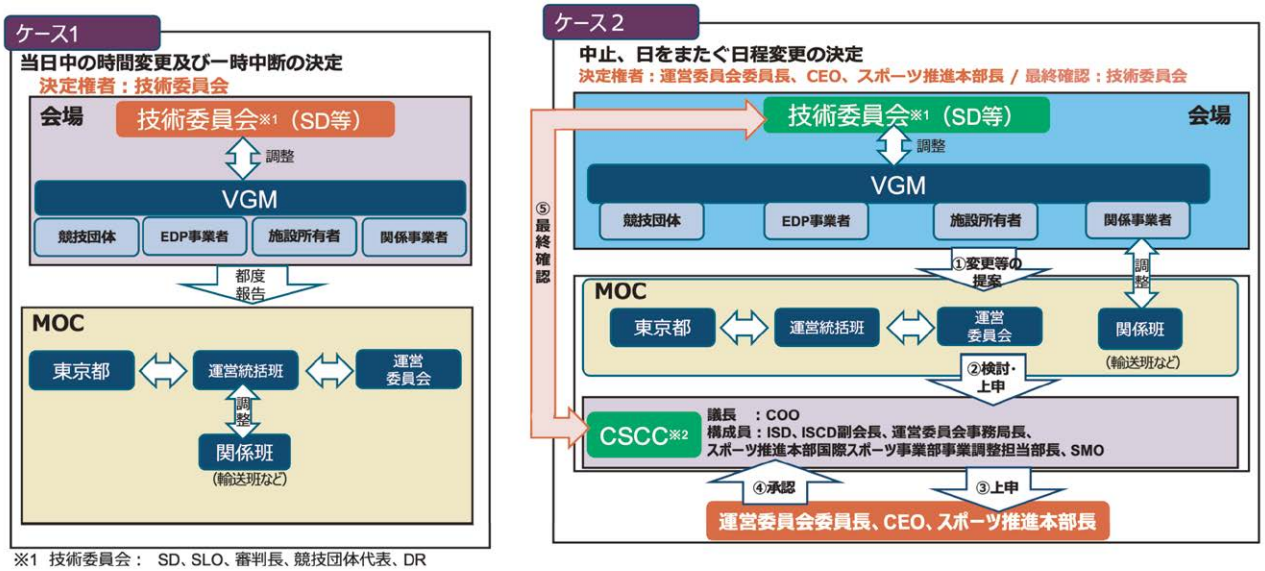
荒天等による競技日程の変更プロセス

荒天等による競技の中止、日を跨ぐ競技日程の変更を決定する場合や、広範囲に影響が及ぶ事案が発生した際に備え、その決定の妥当性を判断する緊急的な会議体である競技スケジュール変更委員会（Competition Schedule Change Committee.以下「CSCC」という。）を、いつでも開催できる体制とした。

なお、大会期間中にCSCCが開催されるような事案は発生しなかった。

定例ミーティングの実施

選手が入国を開始した大会４日前の11月11日から、閉会式終了翌日の27日まで、原則１日２回、デイリーモーニングミーティング及びデイリーイブニングミーティングを実施した。なお、開閉会式当日である11月15日及び26日は、デイリーモーニングミーティングのみ実施、大会終了後の27日は、最終となる定例ミーティングを実施した。デイリーモーニングミーティングでは、MOC内関係班での情報共有を行い、デイリーイブニングミーティングでは、MOC内関係班と全競技会場とをオンラインでつなぎ、その日の発生事案や対応状況等を情報共有した。また、MOCデイリーレポートを毎日作成し、当日中に全員で共有した。



※1　技術委員会：　SD、SLO、審判長、競技団体代表、DR

※2　CSCC：競技スケジュール変更委員会（Competition Schedule Change Committee）
競技日程の変更のうち、「中止、日を跨ぐ日程変更の決定」をするにあたって、その内容の妥当性を判断するために、MOCに、緊急的な会議体を設置する。

荒天等による競技日程の変更決定プロセス

2 リスク管理

基本方針の策定

大会では、競技会場や開閉会式会場等において、競技・会場運営に影響を及ぼすような通常とは異なる事案が発生した場合及びその予兆を認知した場合、以下の「リスク管理の基本方針」の下、対処方法を決定することを原則とした。

1．人命安全
事案発生時には、全ての関係者の身の安全の確保を最優先に行動する。
2．競技・会場運営の復旧・継続
人命安全第一を前提の下、大会運営を予定どおり遂行するべく、競技・会場運営の復旧・継続に努める。

リスクの分類

大会運営に影響を及ぼしうる各種事案を、大きく４つのカテゴリーに分類し、事案分類に応じた対応を行った。

INFORMATION、ISSUE事案については、各会場の競技会場運営責任者（Venue General Manager.以下「VGM」という。）の判断の下、各会場で事案解決に当たることを基本とした。INCIDENT、CRISIS事案については、事案発生の場合、各会場とMOCで密に連携を図りながら対応を行うことを基本とした。

事案の分類

大会運営に影響を及ぼしうる各種事案をカテゴリー化し、事案分類に応じた対応を行う。

対応レベル	基準	事案	対応方針
CRISIS クライシス	◆大会運営全体に著しい影響が及ぶ事案 ◆国及び都全体に影響を及ぼす事案 ◆政府主導でコントロールする事案	◆地震（震度6弱以上） ◆津波 ◆火山の噴火 ◆テロの発生	◆国・都の災害対策本部の対応方針・指示等に従い対応 ◆MOCで都、連盟、事業団、ICSD等と協議を行うとともに、現場とも連携の上、対応
INCIDENT インシデント	◆影響が複数会場に跨る事案 ◆MOCでの協議が必要な事案 ◆国・都などの各関係機関と連携が必要な事案 ◆大幅な競技スケジュールの変更等を伴う事案 ◆広報対応が必要となるもの	◆台風（洪水も含む） ◆落雷 ◆大会関係者の食中毒 ◆サイバー攻撃 ◆雑踏事故 ◆地震（震度6弱未満で被害がある場合） ◆警報（津波等）発令	◆MOCで現場からの事案報告を受けるとともに、各グループから情報を集約し、関係者と対応案を協議 ◆各グループと連携の上、対応方針を決定し、必要があれば、競技の中止・スケジュールの変更を指示
ISSUE イシュー	◆単一会場で留まる事案 ◆現場＋α（輸送本部等）で対応可能な事案 ◆競技の一時中断、競技スケジュールの一部変更を伴う事案	◆ぼや・火災の発生 ◆輸送時の交通事故 ◆近隣住民からの苦情	◆現場職員が関係者との連携により調整・解決 ◆現場のみで解決できない場合は、現場から状況報告を受け、対応方針を指示
INFORMATION インフォメーション	◆単一会場で留まる事案 ◆現場で対応可能な事案	◆迷子の発生 ◆傷病者発生(軽症) ◆会場備品の破損	◆現場職員が関係者との連携により調整・解決

事案の分類分け

デフリンピック特有のリスク管理

災害等が発生した際、きこえない・きこえにくい人へ災害発生の事実や情報を即時かつ正確に伝えるため、「リスク管理の基本方針」に基づき、以下のような対応をスタッフ等に周知徹底し、事案の発生に備えた。

視覚的な情報を中心とした情報伝達や意思疎通

- 音声によるお知らせと同時に、同じ情報を“文字”で表示
  ⇒ディスプレイへの字幕表示、指差しボードや筆談の活用
- プラカードやサイネージを使用した誘導案内
- 暗い所でも情報伝達ができるよう、誘導棒等の活用
- 設備が備わっている会場については、フラッシュライト等による情報伝達を活用

スタッフによる誘導

- 来場者がスタッフ、手話言語通訳者等を認識できるように識別表示
- 誘導棒による避難誘導

保険の活用

大会では、リスク管理の手段として、保険を活用した。限られた予算の中で、起こりうるリスクに最大限備える必要があったが、日本初開催であったためデフリンピックに係る保険契約の前例がなく、ゼロから保険設計を検討することとなった。類似あるいは同じような規模のスポーツ大会を参考にした上、デフリンピックという大会の特性や各競技・会場等の特性も考慮し、大会運営に伴うリスクと保険の必要性を精査した。保険の種類については、賠償責任保険・動産総合保険・傷害保険とし、考えられるリスクに対し網羅できるよう整理した。

一方、大会では、多数の公営施設の活用や、チケット収入に依存しない形での開催計画としていたことから、保険料が割高傾向にある興行中止保険には加入しないなど、費用低減にも努めた。

大会期間中のリスク管理

大会期間中、大会運営に影響を及ぼしうる様々な情報を職員自ら収集した。具体的には、気象情報や競技実施状況（競技動画配信）等について常時確認できるよう、MOC内でモニターに表示するなど、情報収集・共有を行った。

選手やボランティア等の傷病事案や、選手団輸送バスの接触事故事案等が発生し、いずれの事案も会場で解決したが、その内容を速やかにMOCで報告を受けることで、情報の集約化を図った。

大会期間中の各国選手団とのコミュニケーション

1 各国選手団付きリエゾン

大会準備期間中は、選手団への連絡事項がある場合には、各国選手団の代表アドレス宛てにメールを送付するとともに、選手団専用ページに各種情報をアップロードする方法により、情報共有を行った。

これらに加え、大会時に必要な情報が選手団へ確実に伝わるよう、東京2025デフリンピック独自の取組として、各国選手団への連絡や大会に関する問合せ等をサポートする連絡要員の役割を担う「リエゾン」を各国選手団に帯同させ、選手団との円滑・確実なコミュニケーションを実現させた。

基本の考え方

リエゾンは、各国選手団に１ポストを割り当て、各国の代表者（主に選手団団長）に帯同することを基本とした。リエゾンの対応言語は、英語、スペイン語、アラビア語、フランス語、中国語、ポルトガル語、ドイツ語の７言語とし、各国の使用言語等の希望に応じて割り当てた。

各国選手団への連絡事項がある場合、MOCから選手団団長及びリエゾン宛てにメールを送信し、各リエゾンが当該連絡内容の選手団への伝達をフォローする仕組みとした。全ての参加国にリエゾンを帯同させたことで、参加国へ網羅的に情報伝達をするとともに、特定の国に対しても、円滑に個別連絡をすることが可能となった。また、リエゾンを経由して、多くの問合せを受け、MOC内で一元的に回答対応を行うとともに、選手団に対して大会に関する様々な情報を手厚く提供することで、選手団の不安を軽減し、選手が競技に集中できる環境を整えた。一方で、選手団からの問合せをリエゾンが最前線で受けるため、各事業のトラブルが発生した際など、運営に対する批判がリエゾンに集中してしまうこともあった。

- 活動期間：2025年11月14日（開会式前日）～ 26日（閉会式）
- 活動時間：活動期間の各日８時から20時まで

具体的なリエゾン業務

- 各競技会場や開閉会式会場等までの移動サポート
- 選手団団長会議の出欠確認
- 遺失物の確認
- 出国フライトの情報収集
- ホテルや施設の利用案内及び諸注意の説明
- 選手団輸送バスダイヤに関するサポート
- デフリンピックスクエアや協賛者の様々な取組の案内
- 選手団付きメディアへの情報提供
- 大会運営及びサービスに関する問合せ対応

2 選手団団長会議

各国選手団団長を対象に、大会運営やサービスに関わる情報の提供、課題や問題の提起・解決を図る場として、選手団団長会議を大会期間中計２回開催した。会議では、参加者が円滑に情報を受け取れるようにするために、国際手話通訳・日本手話言語通訳をはじめ、日英音声通訳や文字情報の投影など情報保障を充実させた。

いずれも参加国は50か国を超え、第１回会議は２時間にも及ぶなど、会議は盛況であった。質疑応答の時間も十分に確保し、選手団と密なコミュニケーションを取ることで、円滑な情報共有及び課題の迅速な解決を図ることができ、有意義な会議となった。

・開催日程及び主な議題

第１回：2025年11月14日

主な議題：開会式、競技会場等への選手団輸送、その他各種サービス内容等

※団長会議終了後、リエゾンと各国選手団の顔合わせを実施

第２回：2025年11月25日

主な議題：閉会式



団長会議の様子



手話言語通訳者の活躍

3 選手団問合せ窓口

大会１年前に開催した団長セミナー時に、選手団からの問合せを受ける窓口を設置したところ、非常に需要が高く、好評であったこと、また、大会準備期間において、南米の国の選手団と英語で意思疎通することが困難であったことを踏まえ、大会時の選手団への情報提供をサポートする機能として、多言語対応の「選手団問合せ窓口」を設置した。

選手団問合せ窓口は、MOC内に設置し、英語、スペイン語、ポルトガル語の３言語に対応できる体制を整えた。これらの言語に加え、国際手話通訳、日本手話言語通訳が常駐したほか、透明ディスプレイを設置し、きこえない・きこえにくい人からの問合せにも円滑に対応できる体制を整備した。

また、窓口業務に加えて、各国選手団からメールでの問合せを受信する体制を併せて整え、対面のみでなくメールでの問合せにも対応できる窓口としての機能を持たせた。なお、選手団問合せ窓口にスポーツ・インフォメーション・センター（Sport Information Centre.以下「SIC」という。）を併設したことで、競技スケジュールやリザルト情報等の競技に関する情報も提供することができ、多くの問合せに対して、効率的に対応することができた。

さらに、一般の方からの問合せについては、コールセンターを設置し、対応した。

・設置期間：2025年11月11日～ 27日
・設置時間：活動期間の各日８時から21時まで



問合せ窓口の様子



透明ディスプレイ

競技・会場運営

1 運営体制

大会の競技・会場運営の体制を構築するに当たり、以下の課題をクリアする必要があった。

- 国内のデフ競技団体は、大会時の日本選手団の強化・派遣を担わざるを得ないことから、競技運営の体制強化のため国内のきこえる競技団体に協力を求める必要があった。
- 国内のきこえる競技団体の協力を求めるには、デフリンピックが各競技の国際連盟（International Sports Federations. 以下「IF」という。）による主催大会ではないことを踏まえ、理解を得る必要があった。
- こうしたことからきこえる競技団体の理解を得た上で、大会の準備期間を含め、きこえる競技団体と事業団で円滑な競技運営の協力体制を確立した。
- 会場運営においては、競技会場の借用に際し、世界各国・地域から多数の選手、観客等を迎え入れることから、施設管理者はもとより、消防署や保健所等、多くの許認可機関との調整を必要とした。
- 大会で使用する競技会場は総じて高稼働率であり、大会中はもとより、設営・撤去等も含め、２週間以上にわたる長期借用となるため、一般利用者への周知、理解に努めた。
- 競技備品・用具等をはじめ、会場運営に必要な備品・機器・消耗品等の調達、搬入・搬出、設置・撤去、及び大会時における会場での各種サービスを担う人的リソースを確保し、運営を担う体制を確立した。

これらの課題を解決し、競技・会場を機能的に運営するため、競技会場ごとに競技と会場を統括するVGM、競技運営並びにICSDのSD及び各競技団体との連絡調整・連携を担うSLO、会場運営並びに競技会場の施設管理者や許認可機関及び会場運営業務の受託事業者であるEDPとの連絡調整・連携を担う会場運営責任者（Venue Management Officer.以下「VMO」という。）を配置した。また、各種サービス及び関係部署との調整を担う会場サービス責任者（Venue Service Officer.以下「VSO」という。）を配置した。

2 競技運営

競技団体との連携

競技の運営を担う各競技団体と事業団との間で役割分担等について協定を締結し協力を依頼した。デフ競技団体ときこえる競技団体とが協働して競技大会を作り上げる契機となった。

競技要件は、大会主催者であるICSDのSDの見解や意向を尊重しつつ、IFの規定やルール、各競技団体からの助言等も踏まえて決定したが、SDと競技団体との認識の乖離を少なくするためには、双方ともIFの規定やルールに精通していることが望まれる。競技や会場毎に異なる特有情報は、各競技や各会場に関連する概要、サービス内容等をまとめたチームリーダーズガイドを作成の上、選手団専用ホームページに公開し、事前共有を図った。

審判員や競技役員は、大会期間中の競技進行を公平・円滑に行うため、きこえる競技団体を中心に協力を求め、国内外から招聘、手配した。きこえる競技団体の審判員や競技役員がデフ競技の運営に携わったことで、デフ競技の運営に必要な情報保障やデフ競技特有のコミュニケーション等の理解が促進され、今後、きこえる競技団体の主催大会においてもデフアスリートの受入れの可能性が広がった。なお、大会期間中にSDや選手団等関係者間の連絡調整を円滑にするため、事業団も含めた共通の連絡ツールを利用することが望ましかった。

謝礼金については、大会運営の透明性の確保を図るため、事業団から対象者本人へ直接支払うこととし、口座情報等の収集や振込データの作成業務を外部委託し、約2,500人に対し支払を行った。海外送金が困難な国・地域の審判員には現金での支払を行った。

技術会議

デフリンピック規約（DG23.権限と判定権（審判員））に基づき、各競技の監督責任を持つSD、SLO、審判長等から成る技術委員会のメンバーを中心に、デフリンピック規約（DG22.技術会議）で規定される技術会議を開催し、競技における役割と責任の明確化、組合せの発表等を行った。



デフリンピックスクエアでの技術会議の様子



競技会場での技術会議の様子

情報保障（デフリンピック特有の対応）

競技については、きこえる人と同じ国際ルールに準拠して行われた。デフリンピック特有の対応については、ランプなど視覚的に情報を伝える機器や用具を使用するほか、審判員等へ事前に手話単語などのレクチャーを行った。これらの取組により競技運営を円滑に実施するとともに、競技の情報保障機器がメディアに取り上げられることで、デフ競技の特色や魅力を分かりやすい形で伝えることができ、デフリンピックやデフスポーツへの理解のすそ野を広げた。

陸上競技

スタートの合図を光で知らせるスタートランプを使用した。短距離用は地面に置くタイプ、中長距離用はスタンドタイプのものを使い分けた。「On your mark（位置について）」で赤、「Set（用意）」で黄、「Go（スタート）」で緑、とランプの色が変わる。また、フライングを知らせるフライングランプも使用した。



スタートランプ



スタートランプ（スタンドタイプ）





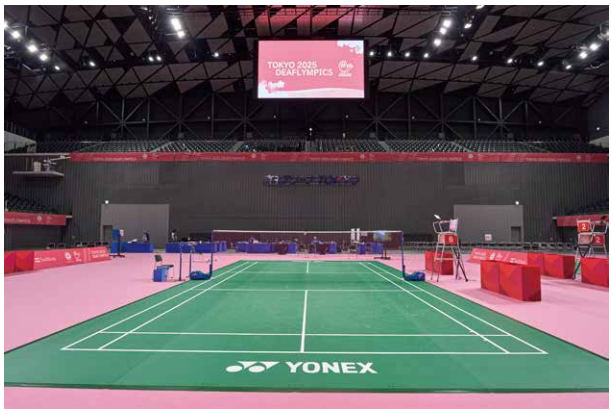


バドミントン

試合の進捗状況を速報サイト（トーナメント・ソフトウェアHP）で表示するとともに、選手入場口で担当アンパイアが選手を出迎えるなど、スムーズな選手の集合、入場に向けた対応を行った。また、海外のきこえない審判から国内審判に対して、ジェスチャーの方法、特に重要な手話単語数個を大会前日に審判団に伝達するなどの対応を行った。



選手と入場するアンパイア



会場内ビジョン



バスケットボール

審判の笛が鳴ったとき、バスケットボールゴールの支柱やテーブルオフィシャル席の前面に設置したLEDランプを点灯させることで、視覚的な情報により選手が認知できるようにした。また、視覚に頼り競技を行うため、隣接するコートのプレーが見えないように幕を張る対応を行った。



LED ランプを設置したゴール



コート間の間仕切り



ビーチバレーボール

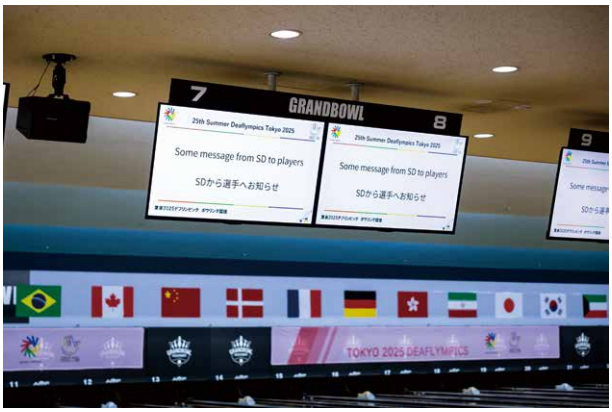
　選手がプレーの中断に気付かずに競技を続行してしまった場合、審判がネットを手で揺らして合図を送る等の対応を行った。また、手話言語通訳者をコートサイドに配置し、審判が選手へ伝達事項がある場合に通訳を行った。

ボウリング

　ボウリングレーンの上に設置されているオーバーヘッドモニターを活用し、文字情報による視覚的な情報保障を行った。また、「フラッガー」と呼ばれる審判員が、旗を振りながらアプローチを走り、試合の開始と終了を選手に視覚的に伝達した。加えて、選手が審判に、機材トラブル・スコア修正等のアピールをする際には、ボウリング競技における「よく起こる事例」をイラストで記載したコミュニケーションボードを使用して行った。



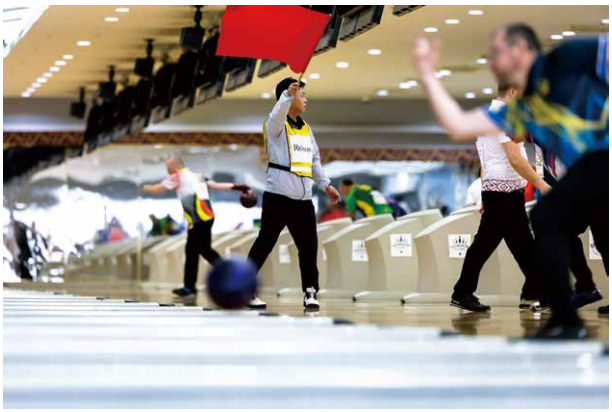
ネットを揺らし合図を送る審判



オーバーヘッドモニター



コートサイドの手話言語通訳者


フラッガー





自転車競技

スタートの合図は、号砲や笛だけでなく、フラッグやスタートランプによる視覚的手段を併用して行った。審判業務においてもフラッグを使用し、周回数もファイナルラップは鐘だけでなくフラッグを用いて伝えた。また、試走日も含めた全日程においてチームピットエリア中央に設置したLEDモニターや、会場内大型モニターに、情報を投影し、スタートリストや会場内のアナウンスを常に目で見て確認できるような環境を整備した。



フラッグによる合図



会場内モニター



サッカー

デフサッカーでは笛以外にフラッグを使用し、視覚的に情報を伝えた。また、両ゴール裏に一人ずつフラッグを持った競技スタッフを配置し、主審の判定に合わせてフラッグを使用し、ファウルなどのプレーの停止を多方向から伝えた。


笛とフラッグで合図を送る主審


ゴール裏で主審の判定を伝える様子



ゴルフ

落雷の危険性などによりプレーを中断する場合やその再開時は「警笛」等の音で合図することが一般的であるが、音による合図と併せて「旗」を用いて視覚的に伝えることとした。このため、中断や再開を知らせるための旗（中断は赤色、再開は緑色）を各組に配備した。また、各組が競技を開始するティーオフ時のスタートコールの場面で、手話言語通訳者を配置した。



スタートコール時の手話言語通訳





中断の赤旗・再開の緑旗



ハンドボール

きこえる競技の運営と同様に、レフリーのジェスチャーによって競技を進行した。また、選手がプレーの中断に気付かずに試合を続行してしまった場合、レフリーが選手の視界に入る位置に移動して視覚的に知らせる、選手の目を見てジェスチャーを行うなど、適切な対応を行った。





選手に合図をするレフリー



柔道

これまでも、デフ柔道の大会では審判が選手の視界に入る場所に移動し、視覚的に合図を知らせる対応（ジェスチャー、アイコンタクト、肩を叩いて知らせる等）を行っており、本大会でも同様の対応を行った。



肩をたたいて合図を知らせる審判



試合の状況をモニターで表示



空手

組手では、技が決まったタイミングや違反があった場合等に、審判は「やめ」と合図を出して試合を止めるが、きこえない選手は審判の声がきこえず、相手への攻撃を続けてしまうことがあるため、視覚的に審判の合図を知らせる対応を行った。審判員に対しては「勝負はじめ」や「礼」の手話単語を事前に共有した。本大会では、コートの四隅に計８本のLEDライトバーを設置し、赤で「やめ」を、青で「あとしばらく」の合図を知らせた。





LED ライトバーによる情報保障



オリエンテーリング

　選手のスタートは、視覚的に伝えられるように電光掲示板での時間表示とともにランプの光で合図した。また、選手自身がコントロールの通過を確認するため、音が鳴ると同時に光を出すシステムを採用した。さらに、会場内に大型モニターを設置し、配信動画等の情報を流し、観客が解説者の話を常に目で見て確認できるような環境を整備した。

射撃

　射場長の号令を視覚的に伝えるため、モニターを射座の前方に配置するとともに、関係法令に則ってモニターに跳弾防止カバーを設置して競技を行った。このほか、本大会では、選手への連絡事項等はモニターを配置し視覚的に伝えるとともに、選手と審判とのコミュニケーションにはユニバーサル・チャットボードを活用し、意思疎通を図った。



スタートのタイミングを知らせるランプ





コントロールポイント



号令を伝えるモニター





水泳

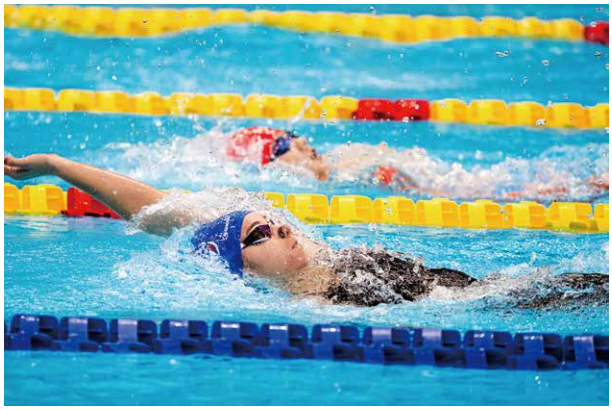
スタート合図を視覚的に伝えるため、スタート位置に「スタートランプ」を設置した。800m、1500mの長距離種目において、審判が選手に最終ターンを知らせる際、きこえる人の大会では、審判がベルを鳴らして周知を行うが、本大会では、選手が視覚的に確認できる器具を水中にかざし、選手に周知を行った。また、選手に対し、リアルタイムで招集状況を表示したモニターを各所に配置することで、円滑な選手招集につなげた。



スタートランプ



器具を水中にかざす様子



卓球

試合の進行状況を会場内モニター等に表示し、スムーズな選手の集合、入場に向けた対応を行った。また、審判員と選手のコミュニケーションを円滑にするため、想定されるやり取りを事前にカードにまとめておき、視覚的に伝え、指差し等で意思疎通を図った。


試合の進行状況を表示するモニター


会場内ビジョン



テコンドー

試合中、レフリーの音声による合図を選手に伝えられないため、レフリーの動きに合わせてコート四方に設置されたLEDライトバーを点灯させる取組を行った。試合開始の合図で「青」、審判制止・試合終了の合図で「赤」を点灯した。また、会場アナウンスを音声だけでなく、各エリアに設置されたモニターに文字情報としても表示することで、選手とスタッフが円滑にコミュニケーションを取れるよう工夫をした。

テニス

試合の進行状況を会場内モニター等に表示し、選手や観客にタイムリーな情報提供を行った。また、審判、選手間のコミュニケーションをサポートするため、プレマッチミーティングのチェック事項等をまとめた「指差しボード」を活用するとともに、チェアアンパイアが試合を止める合図を選手に分かりやすく伝えるため、「審判用フラッグ」を活用した。



コート四方に設置された LED ライトバー


試合の進行状況を表示したモニター



会場内モニター


フラッグを活用する審判





バレーボール

選手がプレーの中断に気付かずに競技を続行してしまった場合、審判がネットを手で揺らして合図を送る、審判がサーブ開始の笛を吹く際は、必ず選手と目を合わせてから吹くなどの対応を行った。また、視覚を中心に競技を行うため、隣接するコートのプレーが見えないように幕を張る対応を行った。



ネットを揺らして合図を送る審判



コート間の間仕切り



レスリング

試合を中断する際は、審判が両者の身体を叩く、アイコンタクトを取る等の対応を行った。試合の進行状況を、選手の待機場所（ウォーミングアップエリアを含む。）に設置したモニターに表示し、選手の円滑な集合・入場に向けた対応を行った。アップエリア、コールルーム（選手がFOP入場前に待機するエリア）における選手呼び込みの人員体制を手厚くするとともに、国旗、対象の体重階級を記載した紙を用いて、視覚的に選手を誘導することで、円滑に呼び込みを行った。

身体を叩いて合図を送る審判



試合の進行状況を表示したモニター



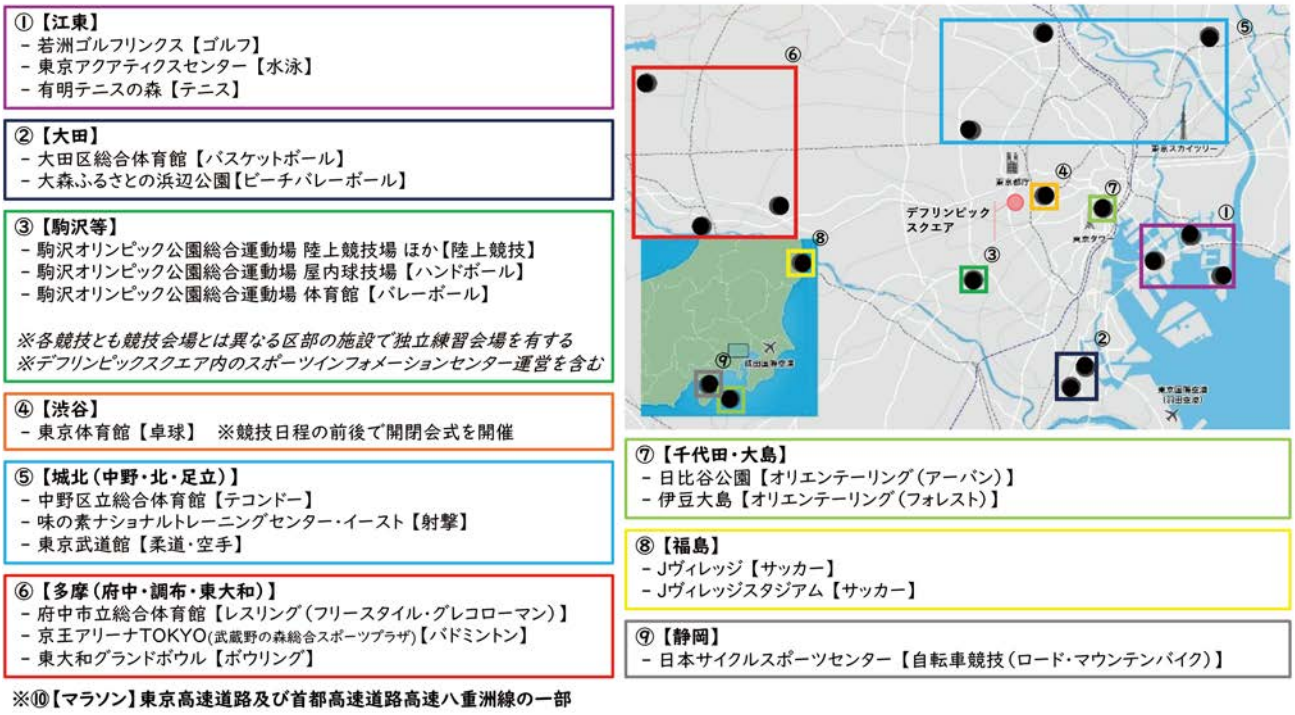
3 会場運営

会場運営においては、施設管理者はもとより、会場で各種サービスを提供する事業団の各部門間の連絡調整・連携を担う役割として、VMO、VSOを配置し、各会場の運営を担った。

EDPとの連携

競技単位や場所で効率的な運営を行うこと、多くの事業者が入札に参加できること。かつ、事業者によるスケールメリットを活かしコスト低減を図れることなどを、総合的に検討した結果、競技会場を９つのエリアで区分することとした。入札により、スポーツイベントの運営実績が豊富なEDPを選定し、事業団との契約締結の上、会場運営の実務を担わせた。

競技運営の進行を円滑に行うため、SLOと情報共有を密にし、相互に連携を図りながら、会場運営マニュアルの作成、役割別の研修、競技進行リハーサル、競技進行アナウンスなど様々な対応を行った。また、マラソン競技については、2025年２月に競技会場を公表したため、その後10個目のエリアとして契約を締結した。



競技会場及び委託業務の発注区分（グループ分け）

情報保障・アクセシブル対応

各競技会場においては、手話言語通訳者の配置に加え、UC技術を活用して、音声を文字化・可視化し、選手や大会関係者への必要な情報伝達のサポートを行った。UC技術の活用によって、障害のあるなしにかかわらず、共にスポーツを楽しむことのできる観戦環境を競技会場内において創出した。また、協賛者から提供を受けたSIMカードを選手団に配布することで、選手団のデジタル環境を確保し、必要な情報を入手できる環境を整えた。さらに、タブレット端末も提供を受け、宿泊施設や各競技会場等において、選手等とのコミュニケーションや来場者へのアナウンス等に活用した。

競技観戦ガイドにおいて、各競技会場のアクセシブル情報を掲載するとともに、各競技会場の入口付近には、「総合受付」と「アクセシブル窓口」を併設した。総合受付では、会場案内や遺失物対応等の総合的な案内を行い、アクセシブル窓口では、音声情報を多言語で表示する透明ディスプレイやタブレット端末による案内、車椅子貸し出し等のアクセシビリティに配慮した支援を提供した。

また、災害発生時に、きこえない・きこえにくい人や海外からの参加者を含む全ての人が、迅速かつ安全に避難できるよう、各会場の実情を踏まえ、視覚的情報伝達（モニターの活用や照明のオン・オフ等）と人的誘導を主体とした避難誘導計画を会場ごとに策定した。



観客向け総合受付



タブレットでの案内

SID及びSICの設置

各競技会場に、スポーツ・インフォメーション・デスク（Sport Information Desk.以下「SID」という。）を設置し、選手・関係者に向けて競技の組合せ、競技結果、練習時間、輸送サービスのタイムスケジュール等、選手や競技関係者に必要な情報の提供を行った。また、デフリンピックスクエアにSICを設置し、各競技会場から競技スケジュールや競技結果等の情報を集約し、選手団等に情報を提供した。



SID



SIC

観客向けの情報発信・会場内の混雑対策

大会全体の認知度が向上する中、各競技会場で多くの方に観戦してもらうため入場無料（事前申込なし）とするとともに、観戦に係る詳細な情報を大会に向け順次発信した。具体的には、７月に各競技会場の開場時間や観客席数規模、アクセス等を公表した。また、10月には競技観戦ガイドを公表し、観戦に係る詳細な情報を広く周知した。

大会期間中は、複数の競技会場で想定を上回る観客の来場があり、混雑時や入場規制を実施した際には、速やかに大会サイトで情報を発信するとともに、競技会場では、適切なアナウンスに加え、関係者席の縮小などの対応を行い、安全かつ円滑な会場運営に努めた。



混雑状況を表示した大会サイト

さらに、各競技会場では、大会エンブレムのモチーフとしている“桜の花弁”をデザインに取り入れた「東京2025デフリンピックオリジナル限定リストバンド」を来場者に配布した。配布数をもって来場者数の集計を行うとともに、競技観戦ガイドを読み取れる二次元コードを印字することで、来場者への案内も同時に行った。また、会場ごとに異なったカラーバリエーションを用意し、会場全体でのつながりと一体感を創出した。


混雑時の様子


入場の様子



競技名入りリストバンド

4 競技結果

競技結果については、大会として統一的な競技リザルトシステムを開発・導入すると莫大なコストが発生することから、各競技団体が運用する既存のリザルトシステムを活用することとし、各競技団体の指導・助言を基に、競技ごとに大会等で使用しているリザルトシステムの調達・運用を行った。

各会場のSIDでの情報提供に加え、SICでは外部クラウドを活用しSIDを通して各会場の組合せ結果や競技結果などの情報を集約して関係部署に提供した。

5 スポーツプレゼンテーション

観客が競技観戦を楽しみ、競技に関する理解を深め、競技会場での一体感を醸成しながら応援することで、選手が力を最大限に発揮できるようにするため、スポーツプレゼンテーションを実施した。実施に当たっては、競技会場の既存設備の活用を前提に、EDPの知見、ノウハウを活かしながら、各競技のメダルセッションにおいてアナウンス、音響、照明、映像、その他パフォーマンスなどを用いた演出・進行を行った。



卓球



空手



テコンドー

開会式及び閉会式

1 開閉会式の演出

演出家の選出

開閉会式の検討に当たっては、2024年11月、連盟、都及び事業団の３者共同で、きこえない・きこえにくい人が主体となり、誰もが楽しむことができる式典内容とするため、専門委員の意見を取り込みながら演出等の企画を行うことを目的とした「東京2025デフリンピック開閉会式検討部会」を設置した。この部会において、きこえない・きこえにくい人、きこえる人など、誰もが共感できるような式典とすることをめざし、きこえない人、きこえる人から２人の演出家を選出し、式典内容や情報保障などについて検討を進めた。

【演出家】

大橋 弘枝（おおはし ひろえ）さん・きこえない人



＜プロフィール＞
- 俳優座劇場プロデュース「小さき神の作りし子ら」で日本初となるろうの主役・サラを演じて第七回読売演劇大賞優秀女優賞を受賞。渡米して演劇やダンスを勉強。
- 帰国後、公演プロデュース兼劇団「サイン アート プロジェクト.アジアン」を創立。
- きこえない人ときこえる人と共に、ミュージカルから始まり、ストレートプレイ、朗読など幅広く手話言語を通して演劇活動を行った。
- 日本だけではなく、イギリスやバングラデシュにおいて舞台作りに関わる。
- 著書に「もう声なんかいらないと思った」がある。

近藤 良平（こんどう りょうへい）さん・きこえる人



＜プロフィール＞
- ダンスカンパニー「コンドルズ」主宰。構成・振付を担当。世界約30か国、日本全国でホール公演を行い、NYタイムズ紙で賞賛され、NHKホールを即日完売にしている。第67回芸術選奨文部科学大臣賞、2025年春の紫綬褒章を受章ほか受賞歴多数。現在、多摩美術大学教授、彩の国さいたま芸術劇場芸術監督を務めている。NHK教育『からだであそぼ』をはじめ、映画、TVCMなど多方面で活躍。
- 障がい者ダンスチーム「ハンドルズ」の振付演出など多様なアプローチでダンスを通じた社会貢献にも取り組んでいる。

演出コンセプト

開閉会式は、大会ビジョン及び開催基本計画に基づき、東京から世界中の様々な人々にデフリンピックの魅力や価値を広く発信することをめざし、「コミュニケーションを楽しもう」をベースコンセプトに掲げた。さらに、「ろう者の文化を共有する。」、「東京・日本らしさを発信する。」、「共生社会の実現につなげる。」の３つのテーマを掲げ、式典全体を創作した。

出演者オーディションの実施

開閉会式の中で行われる「アーティスティックプログラム」では、きこえない・きこえにくい人、きこえる人があらゆる垣根を超えてコミュニケーションを楽しみ、ろう者の文化を共有するとともに、世界に東京・日本の魅力を発信していくパフォーマンスを演出家と共に創り上げるために、出演者オーディションを実施した。

プロダンサーに加えて、ステージ上で中心となって会場全体を盛り上げる、「ステージパフォーマー」及び客席の中でステージの変化に合わせた動きを行い、客席の一体感を醸成する「客席パフォーマー」を公募した。

・公募期間
2025年５月８日から31日まで

・オーディション結果

ステージパフォーマー	応募者271人	合格者 50人
客席パフォーマー	応募者166人	合格者 79人
合計	437人	129人

・稽古期間
ステージパフォーマー：2025年８月11日から11月25日まで
客席パフォーマー：2025年10月４日から11月25日まで







稽古風景

2 開閉会式における情報保障

開閉会式では、きこえない・きこえにくい人をはじめとした全ての方に楽しんでもらえるよう、様々な情報保障の取組を実施した。

一般観覧募集における情報保障

一般観覧の募集に当たっては、きこえない・きこえにくい人など様々な利用者を想定し、大会サイトにおいて以下の取組を実施した。

- 一般観覧者募集案内の手話言語動画を掲載
- チケット申込説明会のオンライン配信及びアーカイブ動画を掲載
- チケット申込方法の詳細なマニュアルを掲載

式典当日における情報保障

観客をはじめとする来場者に対し、会場内における情報保障として、以下の取組を実施した。

- 会場内のあらゆる方向からの情報保障を担保するため、東西方向の既設大型ビジョンに加え、仮設で南北方向に大型ビジョンを増設するとともに、２階スタンド側とアリーナ面にリボンビジョンを設置した。
- 式典進行に当たっては、国際手話（川俣 郁美さん）及び日本手話言語（清水 愛香さん）の２人の司会者を起用した。
- 選手団入場において、音声と文字に加えて、ビジョンに国旗の表示及び国際手話による国名・地域名等の紹介を実施した。
- 挨拶、開会宣言及び閉会宣言などスピーチのプログラム時には、話者の言語に応じて国際手話、日本手話言語を会場の大型ビジョンに同時に投影した。例えば、都知事の日本語音声による挨拶時には、画面左に国際手話、右に日本手話言語を投影した。また、リボンビジョンに文字情報（日・英）を投影した。
- アクセシブル窓口（総合受付）に、音声を多言語のテキストで表示する透明ディスプレイを設置した。
- 手話言語や英会話ができるスタッフ及びボランティアに専用シールを配布し、容易に識別できるようにした。
- 会場案内スタッフに、筆談アプリや音声を多言語のテキストで表示するアプリを搭載したタブレットを配布し、様々な方とのコミュニケーションを円滑に行うための取組を実践した。



選手団入場時のビジョン


都知事挨拶時のビジョン

3 子どもたちなど多様な人たちの参加

開閉会式には、子どもたちなど、多様な人たちが参加した。アーティスティックプログラムにおけるステージパフォーマー及び客席パフォーマーに子どもたちや車いす利用者などが参加したほか、選手団入場選手の入場行進におけるプラカーダーにも、都立中央ろう学校及び渋谷区立原宿外苑中学校の生徒が中心となって参加した。

また、開会式のフラッグベアラーとして、明晴学園、渋谷消防少年団、原宿交通少年団が参加した。閉会式においては、アーティスティックプログラムなどにボランティアも加わり、式典の盛り上げ役を担った。

4 一般観覧の募集

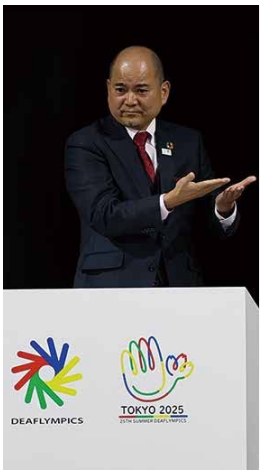
競技会場と同じく入場無料とした。また、インターネットによる事前申込制（抽選）として、一般席のほか子ども１人以上を含むファミリー優先席及び車いす席を設けた。その結果、国内外から、開会式1,500席程度に対し約13,000人、閉会式2,500席程度に対し約5,300人の応募があった。

5 開会式

開会式は、秋篠宮皇嗣同妃両殿下、佳子内親王殿下及び悠仁親王殿下の御臨席を仰ぎ、2025年11月15日16時30分から19時00分まで、東京体育館において開催され、約6,100人（うち選手約3,500人）の選手・関係者、一般観客及び招待者などが参加した。



（左から）
佳子内親王殿下、秋篠宮皇嗣同妃両殿下、悠仁親王殿下



全日本ろうあ連盟
石橋大吾 理事長



東京都
小池百合子 知事



高市早苗
内閣総理大臣



秋篠宮皇嗣殿下



ICSD
アダム・コーサ 会長

プログラム

開会式プログラムは、ICSDプロトコール規約に基づき、
以下の構成とした。

プログラム	内容など	時刻
オープニング	オープニング映像「100年の青空、未来への桜」 出演者　池田 希愛さん	16:30 ～
選手団入場	選手団 サポーター だいこん連（阿波踊り） プラカーダー 東京都立中央ろう学校 渋谷区立原宿外苑中学校 	16:35 ～
挨拶、開会宣言	挨拶 全日本ろうあ連盟 石橋大吾 理事長 東京都 小池百合子 知事 高市早苗 内閣総理大臣 秋篠宮皇嗣殿下 開会宣言 ICSD アダム・コーサ 会長	
デフリンピック旗掲揚	フラッグベアラー 明晴学園、渋谷消防少年団 旗掲揚 自衛隊	
光のリレー ～想いを光に託して～	スタートランナー 高畑 美優治さん、浅利 義弘さん、幾島 政幸さん、藤信 美紀さん、小島 克仁さん、清田 廣さん、戸羽 伸一さん、竹島 春美さん、島尻 寛俊さん 中間ランナー 鈴木 リヲ子さん、伏見 景子さん、谷 真海さん 最終ランナー 茨 隆太郎選手、亀澤 理穂選手	17:35 ～
選手・競技役員宣誓	選手宣誓 山田 真樹選手、星野 萌選手 競技役員宣誓 金子 真美さん	
国旗掲揚・国歌斉唱	フラッグベアラー 明晴学園、原宿交通少年団 国旗掲揚 自衛隊 国歌斉唱 日本手話言語　江副 悟史さん 歌手　　一青窈さん  	
アーティスティック プログラム	「100年の１日」	18:20 ～

※ なお、式典前プログラムとして、ヘブンアーティストによるパフォーマンスを実施した。

式典内容

光のリレー　～想いを光に託して～

炬火リレーを「光」を使って表現した。記念すべき100周年の東京大会の開催に対する全国各地の盛り上がりや皆の想いを「光」で表し、その「光」を使って大会の象徴である「桜」を咲かせた。元デフアスリートを中心としたランナー（スタート９人→中間３人→最終２人）が「光」を１つに束ね、現役デフアスリートである最終ランナーがトーチキスで「水」を注ぐと、光の大木が立ち上がり、会場全体に満開の桜が咲き誇る演出とした。

また、床面LEDパネルに桜の樹の「幹」と「根」のグラフィックを投影し、ランナーたちは根から幹へと向かって歩き、トーチキスで「光」を紡いだ。



炬火リレーの様子



光の大木

アーティスティックプログラム「100年の１日」

「ろう者の文化」、「東京らしさ」、「共生社会の推進」を３本の柱とするアーティスティックプログラムを実施した。

<テーマ>「100年の１日」／ One Day in 100 Years

デフリンピックは、100年の歴史でデフアスリートの夢を育み、国を超えて繋がりを築きました。この節目は過去を称え、未来へ希望を繋ぎます。

タイトル「100年の１日」はこの瞬間を凝縮し、象徴として伝えます。

＜プログラム構成＞

【シーン１】「ろう者100年の歴史～過去」

〝ろうの誇り〟、〝ろうのアイデンティティ〟を表現

【シーン２】「2025東京～現在」

〝分かりあう〟を表現

【シーン３】「共生社会～未来へ」

〝未来へつながる共生社会〟を表現









アーティスティックプログラム

協賛者の参画

光のリレーで使用したトーチの電源及びアーティスティックプログラムで使用したC+walkは、トヨタ自動車株式会社の協力による。

福島会場

サッカー競技参加選手団向けに、福島県Ｊヴィレッジ全天候型練習場において開会式中継を実施し、総勢約600人が参加した。また、東京2025デフリンピック開幕を記念し、サッカー競技会場であるＪヴィレッジ上空で航空自衛隊ブルーインパルスが展示飛行を行った。

内容
・太鼓演奏 ・来賓挨拶 北澤 豪さん（デフリンピックサッカー競技スペシャルサポーター） 吉田 正勝さん（福島県聴覚障害者協会会長） ・高校生によるフラダンスショー及び手話パフォーマンス ・フラダンスショー ・開会式（東京体育館）のライブ映像



ブルーインパルスの展示飛行



フラダンスショーの様子

6 閉会式

閉会式は、佳子内親王殿下の御臨席を仰ぎ、2025年11月26日16時30分から17時50分まで、東京体育館において開催され、約6,000人（うち選手約2,600人）の選手・関係者、一般観客及び招待者などが参加した。



佳子内親王殿下



ICSD
アダム・コーサ 会長



全日本ろうあ連盟
石橋大吾 理事長



東京都
小池百合子 知事

プログラム

閉会式プログラムは、ICSDプロトコール規約に基づき、以下の構成とした。

プログラム	内容など	時刻
オープニング	大会ダイジェスト映像 サポーター ・サインマイム「デフアスリートの誇り」 井崎 哲也さん、森田 明さん、大竹 杏南さん ・手話狂言 砂田 アトムさん、三宅 近成さん ・手話歌舞伎 芳瞳 宣太郎さん、芳瞳 玲州さん	16:30～
選手団入場	各チーム１～２人の旗手のみ参加 プラカーダー 東京都立中央ろう学校 渋谷区立原宿外苑中学校	
挨拶、閉会宣言	挨拶 全日本ろうあ連盟 石橋大吾 理事長 東京都 小池百合子 知事 閉会宣言 ICSD アダム・コーサ 会長	16:35～
デフリンピック旗返還	旗返還 自衛隊	
アーティスティック プログラム	「ボンミライ！」	17:30～



※ なお、式典前プログラムとして、ヘブンアーティストによるパフォーマンスを実施した。

式典内容

スピーチ、盾の贈呈

　ICSDアダム・コーサ会長から大会への尽力に対し、東京都小池百合子知事に感謝盾が贈呈された。



贈呈の様子



感謝盾

デフリンピック旗返還

　自衛隊によりデフリンピック旗の降納が行われ、運営委員会久松三二委員長から、ICSDアダム・コーサ会長にデフリンピック旗が返還された。



返還の様子

アーティスティックプログラム「ボンミライ！」

　演出家が考案したオリジナルの盆踊りの振付で、選手や観覧者が一緒に踊った。開会式と同様、出演者オーディションで選ばれたパフォーマーたちがダンサーを務めた。また、終盤に差し掛かったところで公式マスコット「ゆりーと」が登場し、ダンサーたちと一緒に踊った。

　そして最後は、司会者の２人が、熱戦を繰り広げたデフアスリートへの称賛、大会に参加したボランティアへの感謝、デフリンピックのこれからの100年の思いを込めたメッセージを贈り閉幕した。



盆踊りの様子



公式マスコット「ゆりーと」

表彰式

アスリートの栄誉をたたえ、そこに至るまでの努力に敬意を表するとともに、観客及び観衆にその偉業を知らしめ、感動を分かち合う表彰式は、最も象徴的で重要な場面の一つである。特に、その頂点にたどり着いた選手だけが手にすることができるのが入賞メダルであり、このメダルを皆の想いがつまったものとするため、未来を担う子どもたちによる投票によりメダルデザインを決定した。

また、メダル、メダルリボン、メダルケース等の表彰備品の製作に当たっては、東京の技術を活用し、東京・日本らしさを伝えるものとした。

1 表彰関連備品

メダル及びメダルリボン

メダル及びメダルリボンは、全国の小・中・高生によって選ばれたデザインを採用し、東京の職人の技術を活用し、精巧なデザインを実現した。



メダル

メダルは、高温で溶かした金属を金型に圧入する製法を用い、精緻な凹凸や美しい表面を実現した。

また、伝統工芸士を含む東京の熟練職人が、金型設計から磨きまで各工程を丁寧に仕上げた。



メダル成形（表）



メダル成形（裏）

メダルリボンについては、色は「藍鉄色」という緑色を含んだ濃い青色で、現在の東京・日本の礎を築いた江戸時代の人が好んでいた色を使用し、日本の伝統的な模様を組み合わせたデザインとした。また、糸を複雑に組み上げる伝統技法「東京くみひも」によって、精密に製作した。



メダルリボン

メダルケース

メダルケースは、豊かな自然にあふれた東京都多摩地域で育った「とうきょうの木」で製作した。選手の活躍を願った日本伝統の折り紙の鶴が描かれており、ケースを開けると、東京・日本らしさを選手に伝えるメッセージが添えられ、記憶に残る工夫を施した。



メダルケース（表面）



メダルケース
（メダル収納）



競技会場での表彰時

メダル等製作工程動画

日本の伝統技術を支える職人たちのこだわりや情熱を映像に刻み、一つ一つの工程に込められた想いをリアルに伝えるための製作工程動画『メダルにかける思い ～江戸・東京 匠の技～』を制作した。制作に当たり、メダル、メダルリボン、メダルケースの各製作者に密着取材を行い、インタビューやナレーションを通して、日本が誇る加工技術を紹介することで、熟練の技と繊細な手仕事が織りなす、唯一無二の製造プロセスを記録し、伝統の継承とその価値を広く発信した。

動画は、各メディアの特性や視聴者層に応じ、複数のバージョンで制作し、YouTube、X、Instagramにて公開した。目的に合わせた映像構成とし、必要な情報を分かりやすく伝え、効果的に発信した。



公式 YouTube（15 分、3分）



公式 X、Instagram（90 秒、30 秒）

副賞

表彰式における副賞として、東京2025デフリンピック公式マスコット「ゆりーと」のぬいぐるみを、メダルに続いて、メダリストに授与した。製作に当たっては、地球にやさしい素材「再生生地リサイクルPET」を使用することで、エシカル消費に配慮した。



副賞

表彰台・トレイ

表彰台は、象徴的な桜の木をモチーフに、桜並木の表現を加えることで、会場装飾との統一感を生み出し、空間全体の演出に寄与するデザインとした。また、トレイは、桜の花びらと、伝統文様「小桜」を組み合わせ、会場装飾デザインとも調和した日本らしい上品さを表現することで、受賞者の栄光をたたえる表彰式にふさわしい「華やかさ」を表現した。

なお、表彰台・トレイは100%リサイクル可能な段ボールで製作した。



表彰台



トレイ



賞状・参加賞

賞状は、各競技種目１位から８位までの入賞選手用に作成し、表彰式実施日の翌日以降に、各国選手団にまとめてデフリンピックスクエアで配布された。参加賞は、大会参加への歓迎と感謝を伝えるとともに、大会への挑戦と参加をたたえるものとして、選手団を対象として、選手団用の記念メダルとともに、デフリンピックスクエアで配布された。賞状・参加賞の用紙は桜の木の紙を用いて製作した。



賞状



参加賞

2 表彰運営

表彰式は、競技・種目ごとに各競技会場で実施され、金、銀及び銅メダリストへのメダル贈呈、国旗掲揚及び金メダリストの国・地域等の国歌・賛歌再生が行われた。表彰式においては、ICSD役員及び会場所在地の首長等によるプレゼンターのほか、ボランティア及び子どもたちによるトレイベアラーがその重要な役割を担った。

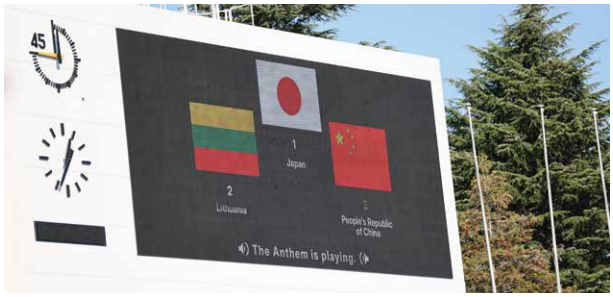




メダル授与



トレイベアラー



デジタル国旗掲揚

運営方法

本大会は、きこえない・きこえにくいアスリートを対象とした国際総合スポーツ大会であるため、手話言語を使用した情報保障が最も重要である。

表彰式ウェイティングエリアにおいては、メダリストやボランティアに表彰式の流れを説明するための動画を制作し、モニターへの投影を行った。動画には、国際手話、日本手話言語、英日字幕の情報保障を付加するとともに、動画を視聴するだけでも、表彰式の流れが理解できるよう、視認性の高い仕上がりとした。また、メダリスト等からの個別の質問に対応するため、複数台のタブレットを配備し、自動音声認識システム等のアプリを活用しながら、スムーズなコミュニケーションを図った。

表彰式においては、SDの国際手話による司会進行のもと、日本手話言語通訳、英日音声アナウンスを配置した。手話言語通訳の様子は、カメラで撮影し、会場内のモニターに英日字幕とともに表示することで、メダリストや観客等に対する情報保障を実施した。国旗掲揚においては、一部の競技会場を除き、デジタル国旗をモニターで投影する手法を採用するとともに、選手たちに国歌再生中であることをより分かりやすく伝えるため、字幕を点滅させる演出を付加した。

実施回数

表彰式は全種目合計209回、11月15日から25日まで毎日実施した。

子どもの活躍

一部の競技（陸上競技、柔道、空手、水泳）において、都内のろう学校に通う中高生を中心に、子どもたちが副賞をトレイに載せて運搬する役割であるトレイベアラーを担った。



ウェイティングエリアでの説明の様子

聴力検査

1 取組内容

ICSDの「オージオグラムに関する規則」に基づき、良耳の平均聴力レベル（PTA）が 55dB 以上である（500、1000、2000 ヘルツの三つの純音平均聴力レベル、気導）ことを確認するため、大会開催前からICSDと調整し、大会時には、ICSDが決定した検査対象者に対して聴力検査を実施した。この聴力検査の実施に当たり、（一社）日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会及び（一社）日本臨床耳鼻咽喉科医会合同の2025デフリンピック支援ワーキンググループにより、実施体制や大会期における各種助言等について協力いただいた。

聴力検査の検査場所は、デフリンピックスクエア（東京都）、J ヴィレッジ（福島県）、サンバレー伊豆長岡（静岡県）で、IDカード発行センターから徒歩圏内に配置した。また、ICSDオージオロジストからの指示に基づいて検査機器を確保するとともに、（一社）日本言語聴覚士協会、（一社）東京都言語聴覚士会、（一社）福島県言語聴覚士会及び（一社）静岡県言語聴覚士会からの協力を得て検査員を募り、聴力検査を実施した。



聴力検査室の入口

2 検査実施時の情報保障

聴力検査の実施時には、選手のために、筆談ボード、指差しボード、コミュニケーションボード及び多言語対応翻訳機の準備に加え、ICSDオージオロジストには日英音声言語通訳者が検査中、帯同した。また、本大会で初めての取組として、聴力検査の実施に当たって、検査に慣れていない選手も円滑に検査を受検できるようにするために、検査の内容をイラストで教示するように工夫した。



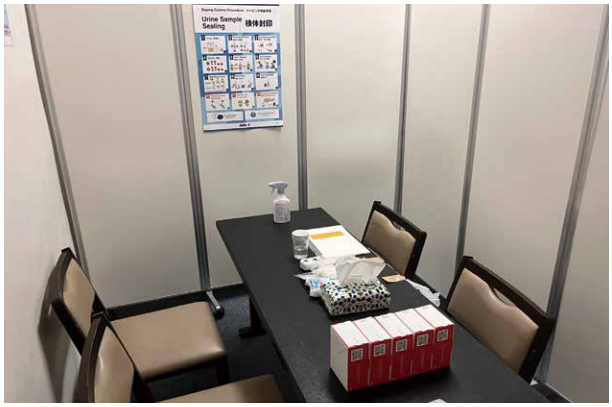
聴力検査で使用したイラストの例

アンチ・ドーピング

1 取組内容

「ICSDアンチ・ドーピング規則」に基づき大会の開催前からICSDと調整するとともに、スポーツ庁、（一社）日本スポーツフェアネス推進機構（J-Fairness）及び（公財）日本アンチ・ドーピング機構（JAPAN Anti-Doping Agency.以下「JADA」という。）等と連携し、アンチ・ドーピング活動を展開した。

ICSDの確認を得た上で、各競技会場等にドーピング検査エリアやドーピング検査車両（JADAカー）を設置し、ドーピング・コントロールを実施した。



ドーピング検査室

2 ドーピング検査時の情報保障

ドーピング検査での選手と検査員（DCO）のコミュニケーションを行う準備として、翻訳機に加え、必要な時には手話言語通訳者を用意した。また、検査時には、JADAが多言語対応可能なタブレットを利用し、円滑に検査を実施した。

なお、JADAでは、各会場に配置される検査員に対し、大会前にオンラインや事前資料展開での研修を行い、デフアスリートとの「ドーピング検査時のコミュニケーションのポイント」の共有を図った。検査補助員（シャペロン）は、ボランティアが担った。

3 アンチ・ドーピング普及活動

ICSDの方針に従って普及活動を行い、大会サービスガイドや選手団専用ページに「大会期間中に適用されるアンチ・ドーピング規則及び手順」やICSDが作成した「ドーピング検査の実施手順」等を掲載した。また、アンチ・ドーピングのルールを理解し、クリーンスポーツ行動を取るために、各検査室の待合スペースには閲覧用としてガイドブックを設置した。さらに、デフリンピックスクエアでは、アスリートやサポートスタッフのクリーンスポーツへの興味・関心を高めるためのポスター掲示、リーフレット配布を行った。



クリーンスポーツのためのポスター掲示

IDカード

1 概要

IDカードは、大会に参加する各個人を識別し、その役割によって、競技会場内における必要なアクセスを認めるものである。大会に参加する全ての関係者に対してIDカードの発行を行い、IDカード発行数は合計で約３万枚となった。（発行対象者ごとの枚数は後述の表のとおり。）

IDカードは、各競技会場の競技エリア及び関係者エリアへの入場や事業団が提供する輸送手段を利用する際に必要であり、関係者のアクセスをコントロールする上で重要な役割を果たした。

2 発行対象及び発行条件

IDカードは、選手団、大会主催者、審判、競技スタッフ等に発行し、臨時に発行が必要な対象者については、各競技会場等でデイパスを発行した。選手団の ID カードについては、ICSDの情報収集システムによりデータを収集し、当該データを基に発行した。選手団へのIDカード発行に当たっては、パスポートでの本人確認を行った上で、登録料・参加料の支払が済んでいること、選手に関しては、聴力検査を終えていることを条件に発行した。

発行対象者ごとの発行枚数は以下のとおりである。

【ステークホルダーごとの発行枚数】

発行対象者名	枚数
選手団	約　5,200 枚
大会主催者	約　1,500 枚
審判・競技スタッフ	約　3,300 枚
運営スタッフ	約 11,000 枚
通訳	約　250 枚
サポートスタッフ	約　700 枚
ボランティア	約　3,000 枚
メディア	約　1,950 枚
その他	約　3,100 枚
合計	**約 30,000 枚**

3 発行場所

IDカード発行センターは、デフリンピックスクエア（東京都）、Ｊヴィレッジ（福島県）、サンバレー伊豆長岡（静岡県）の３か所に設置した。2025年11月11日から25日まで新規発行及び再発行を行った。特に入国ピーク時は羽田空港が24時間運営していることもあり、選手団の空港到着に合わせ深夜まで対応を行い、選手団の負担軽減に努めた。







IDカード発行時の様子

4 IDカードの種類・デザイン等

IDカードは、「写真あり・氏名等の印字」、「写真なし・氏名等の印字」、「手書き」の３種類を作成した。IDカード及びネックストラップのデザインは事業団の職員が行った。また、カードホルダーには、IDカードのほか、救急医療情報カード及びユニバーサル・チャットボードを封入することから、使いやすさとIDカードの汚損防止を考慮し、２ポケットのカードホルダーをオーダーメイドで作成した。



「写真あり・氏名等の印字」のデザイン


ネックストラップのデザイン

5 ゾーンアクセス

各人の担当する業務等によって、WHITE（一般エリアのみ）、RED（一般エリア＋運営者エリア）、BLUE（一般エリア＋運営者エリア＋競技エリア）の３色で視認できるようにした。その上で、特定の人しか入れない選手エリア（2）、審判エリア（3）、メディアエリア（4）とVIPエリア（5）を数字で示した。

ゾーン	アクセス	アクセス可能なエリア
BLUE	競技エリア	FOP
RED	運営者エリア	大会運営本部、運営各諸室、表彰式諸室、ボランティア控室、計量室
WHITE	一般エリア	一般客と同じゾーンアクセスだが、IDカードにより大会関係者であることを識別
2	選手エリア	練習場（エリア）、選手ウォームアップエリア、選手更衣室、救護所、ドーピングコントロール室、ミックスゾーン（選手側）、選手席
3	審判エリア	審判員控室（席）、競技運営本部、競技用具保管庫（室）
4	メディアエリア	メディアミックスゾーン（メディア側）、メディアワークルーム、FOP内にあるフォトポジション、メディア席
5	VIPエリア	VIPルーム（控室）、VIP室

6 大会時のオペレーション

IDカード発行センターの場所は、選手団の配宿場所及び輸送計画等に基づいて、バス乗降場から近接させ、選手団の負担とならないよう配慮した。また、選手団は長期にわたる宿泊に備え、大型のスーツケースを複数持参するため、IDカード発行センターまでの動線、荷物の置き場所、及びその案内について、工夫を凝らした。

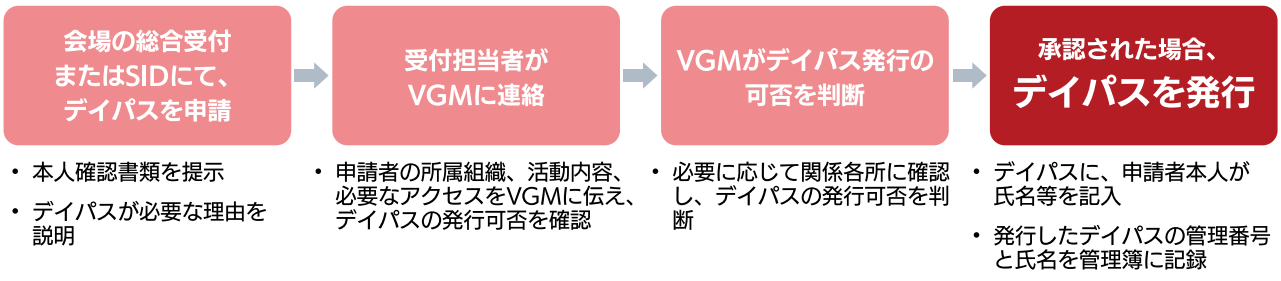
IDカード発行の条件として、登録料・参加料の支払の完了と一部の選手においては聴力検査の完了の２つの確認が必須であった。当初は選手団がまとまって入国することを想定していたが、実際には入国タイミングが異なることが多く、前述の確認に手間がかかることがあった。特に、聴力検査場所とIDカード発行センターが離れていたため、聴力検査場所への誘導・案内をボランティアにお願いした。

加えて、IDカード発行センターは、補食を提供する国際会議室に隣接させ、IDカード発行を待つ間、選手団が手持ち無沙汰にならないようにした。また、選手団からIDカードに関することだけでなく、輸送や大会全般の運営等に関する問合せも多く寄せられたため、MOCと連携し、手話言語通訳、英語通訳を急遽配置するなど対応を行った。

なお、IDカード配布時に、水筒、ウェルカムSuica、SIMカード等も併せて配布するため、それらをまとめて持ち帰れるように、大会エンブレム入りのトートバッグを作成した。

7 各会場でのデイパスの活用

各会場に運営目的で一時的にアクセスすることを認める場合、発行当日のみ有効なデイパスの発行を行った。発行の可否は、申請者の活動内容に応じて、各会場のVGMが判断した。



デイパスの申請から発行までのオペレーション

デフリンピックスクエア

1 デフリンピックスクエアとは

MOCや輸送本部、メディアセンター等の機能を有する大会運営拠点であるとともに、多くの人々がろう者の文化への理解を深め、東京の魅力を体験できる取組などを展開する文化発信拠点として、国立オリンピック記念青少年総合センターにデフリンピックスクエアを設置した。選手同士はもちろん、選手と一般来場者との交流も生まれ、きこえない・きこえにくいにかかわらず、また国籍等関係なく、誰もが楽しみ交流できる場所として、多くの方で賑わい、大会の理念である共生社会を感じさせる場となった。

- 期間　：2025年11月15日～ 26日
  ※IDカード発行など一部の機能は11月11日より開始
- 時間　：9：00 ～ 20：00
  ※MOCや輸送本部は、24時間稼働
- 場所　：国立オリンピック記念青少年総合センター
  （東京都渋谷区代々木神園町3-1）
- 来場者数：57,168人
- 入場　：無料
- 設置機能
  ①大会本部機能：MOC、輸送本部、メディアセンター、練習会場等の機能を持つ大会運営拠点として、デフアスリートが最高のパフォーマンスを発揮できるよう大会を運営
  ②文化発信機能：デフスポーツやろう者の文化への理解を深めるコンテンツをはじめUC技術や東京の芸術文化に触れる機会など、多様な人々が一緒に楽しめる多彩なプログラムを実施



デフリンピックスクエアマップ



デフリンピックスクエア入口



デフリンピックスクエアゲート


選手が休憩する様子

2 会場となる施設との事前調整

デフリンピックスクエアの設置に当たり、会場となる国立オリンピック記念青少年総合センターと様々な調整を行った。

施設利用について

デフリンピックスクエアでは、MOCや記者会見場をはじめ、選手団等のためのミーティングルーム、様々なコンテンツを実施するためのホール、食事ができる大規模な会場など、多くの部屋を確保する必要がある。こうした部屋に加え、デフリンピックスクエアが機能するためには、ブース等を出展するための中央広場、バスの乗降等に必要な園内道路などのスペースを、一定程度専有的に使用できることが不可欠である。こうしたスペースは、同センターでは通常貸し出していないことから、当該スペースを借りられるように、調整する必要があった。

そこで、当該スペースを独占的に使用するのではなく、一般の方や同センター関係の車両等が入退場できることを前提に、使用方法などを具体的に提示することで使用の許可を得ることができた。

協力協定の締結

デフリンピックスクエアの設置を円滑に進めるとともに、安全かつ効率的・効果的に運営するため、事業団は、同センターを運営する独立行政法人国立青少年教育振興機構と協力協定を締結し、連携を強化した。

「第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025 デフリンピックスクエアの設置及び運営に向けた協力協定書」として、2025年４月24日に双方の理事長が署名し、発効され、その後は更に円滑な調整を行うことができた。

なお、当該協定の主な内容は以下のとおりである。

・施設利用及び手続
・デフリンピックスクエアの設置・運営及びPR
・火災や地震、落雷、事故等、緊急時への対応
※秘密保持、個人情報の取扱いも含む



（左から）事業団塩見清仁 理事長
（独）国立青少年教育振興機構 古川和 理事長



オープニングイベントでのテープカットの様子

3 オープニングイベント

デフリンピックスクエアのオープンを記念し、メディア及び関係者を対象としたオープニングイベントを文化・技術発信エリア（カルチャー棟）小ホールで実施した。大会応援アンバサダーの川俣郁美さんが司会を行い、ICSDアダム・コーサ会長や運営委員会久松三二委員長による挨拶のほか、協賛者を代表し、株式会社アシックス、トヨタ自動車株式会社、ソフトバンク株式会社も参加し、テープカットを行った。

・日時　：2025年11月14日　13：00～13：30
・会場　：デフリンピックスクエア文化・技術発信エリア（カルチャー棟）小ホール
・司会　：東京2025デフリンピック大会応援アンバサダー 川俣 郁美さん
・登壇者：ICSD アダム・コーサ 会長
全日本ろうあ連盟 石橋 大吾 理事長
東京都スポーツ文化事業団 塩見 清仁 理事長
東京都スポーツ推進本部
梅村 実可 国際スポーツ事業部長
株式会社アシックス
廣田 康人 代表取締役会長CEO
トヨタ自動車株式会社
橋本 正夫 トヨタスポーツ推進部長
ソフトバンク株式会社
柏木 陸照 法人統括公共事業推進本部長
・参加メディア数：50者109人



司会を務める川俣郁美さん

4 各エリア紹介

大会運営エリア（センター棟）

大会運営エリア（センター棟）では、MOCやSIC、メディアセンターを設置するとともに、ICSDや連盟、都、事業団の各運営主体が大会運営の拠点として活動を行った。また、各国選手団に対して、問合せ窓口を設けるとともに、競技に向けて作戦会議や情報共有を図ることができるようミーティングルームを用意するなど、選手が万全な状態で競技に臨めるような環境を整えた。



MOC



メディアセンターでの記者会見の様子

DEAF SPORTS HOUSE

子どもたちも含めた一般来場者、デフアスリートが、デフスポーツやデフリンピック、ろう者の文化への理解を深めるとともに、交流を通じて選手を応援できる場として「DEAF SPORTS HOUSE（デフスポーツハウス）」を設置した。来場者にはパンフレットやデフスポーツ応援漫画シール等を配布し、大会期間中の来場者数は8,936人に上った。

デフスポーツ・デフリンピック関連の展示では、デフリンピック100年の歴史や応援漫画、全国キャラバン活動をパネルや動画で紹介したほか、本大会および過去大会（2017年サムスン、2009年台北）のメダルを展示した。

また、ろう者の文化体験としてろう者２人のアーティストによる作品（計６点）を展示したほか、応援メッセージボードや交流スペースを設置した。交流スペースでは競技中継の上映も行い、来場者や各国選手が交流しながら選手を応援できる機会を創出した。



DEAF SPORTS HOUSE（入口）



交流スペース

にぎわいエリア（中央広場）

大会エンブレムをモデルとした「フォトスポット」や、デフリンピックスクエアに設置されたスタンプを探して集める「スタンプラリー」、協賛者の取組や被災地（岩手県、宮城県、福島県、石川県）の魅力を発信する「ブース出展」、「キッチンカー」などを展開した。また、一般来場者が多い土日祝日にはヘブンアーティストによるパフォーマンスや東京2025デフリンピック応援隊のマスコットグリーティングを実施し、大会の盛り上がりを感じられる空間を創出した。



ブースでの手話体験の様子



フォトスポット



被災地 PR ブース



多くの人でにぎわう中央広場




応援隊マスコットグリーティングの様子

フォトスポット

デフリンピックスクエアに来場した方々の思い出作りの空間となるよう、大会エンブレムをモデルとしたフォトスポットを設置した。また、写真を撮り、SNSに投稿した方にオリジナル缶バッチをプレゼントする企画を実施したことで、大会の盛り上がりやデフリンピックスクエアの魅力の発信につながり、より多くの方がデフリンピックを知るきっかけとなった。

スタンプラリー

デフリンピックスクエアに以下５つのポイントを設置し、スタンプラリーを実施した。スタンプを全て集めた方に、オリジナル缶バッチをプレゼントする企画を行い、6,945人がスタンプラリーを達成した。

①国際手話・日本手話言語で「伝え」よう（手話言語講座）
②デフスポーツに「挑戦」しよう（デフ陸上のバトンパス）
③デフリンピックについて「学」ぼう（DEAF SPORTS HOUSE）
④UC技術を「体験」しよう（みるTech）
⑤アスリートを「応援」しよう（サインエール）



スタンプラリー台紙


オリジナル缶バッチ



スタンプラリー参加者の様子

文化・技術発信エリア（カルチャー棟）

文化・技術発信エリアでは、ろう者の文化や日本の伝統芸能の発信などを実施する「ホールコンテンツ」や、誰もが気軽に楽しめ、交流できる、デジタル技術を活用した展示・体験プログラム「みるTech」などを開催した。

また、交流の場としての「カフェスペース」や「東京観光案内ブース」（東京観光情報センター）、「アニメ展示」（アニメ東京ステーション）なども設置するなど、選手関係者・一般来場者問わず多くの方が訪れるエリアとなった。

ステージコンテンツ（小ホール）



※上記のほか、海外の選手関係者向けに、東京観光財団提供の書道パフォーマンス、和太鼓パフォーマンス、阿波踊りパフォーマンスの上演を行うとともに、競技のパブリックビューイング等を実施した。



みんなでアート


手話狂言


舞響詩「田園」

ステージコンテンツにおける情報保障

国際手話通訳及び日本手話言語通訳を配置するとともに、プロジェクターを利用し、日英の字幕の表示を行うなど、情報保障の対応を行った。


情報保障の様子（説明者：ICSD アダム・コーサ会長）

みるTech

スタートアップ企業等25者と連携し、UC技術等、様々なデジタル技術を体感できる「みるTech」を開催した。手話言語や音声を文字へ変換・表示する技術や、誰でも簡単にアバターになり仮想空間を楽しめるVR体験、現実空間に遠隔地の手話言語通訳映像を重ね合わせるAR技術など、多様な先端技術を来場者が実際に体験できる形で紹介した。開催期間中、一般来場者のみならず、各国の選手や関係者も多く訪れるなど、会場は終始活気溢れる場となった。（来場者数：36,136人）

カフェスペース

選手関係者・一般来場者問わず、コーヒーを飲みながら交流できる「カフェスペース」を設置した。協賛者であるスターバックスコーヒージャパン株式会社に無料でコーヒーを提供いただいた。同スペースには、「みるTech」や協賛者のブースも出展した。

多様なコンテンツを体験できるとともに、コーヒーを飲みながら滞在できることから、きこえない人・きこえる人、国籍、年齢等に関係なく、多くの方が同じ空間でコミュニケーションを楽しむ場面が見られ、共生社会の実現を感じられる取組となった。



みるTech案内所の様子


カフェスペースの様子


UC技術体験



選手への応援メッセージ

提灯リコグニション

海外から来た選手関係者が日本らしい雰囲気を感じられるとともに、協賛者の皆様への感謝の気持ちを込めて、「Edo Tokyo」のロゴや協賛者名を記した提灯リコグニションを設置した。デフリンピックの理念に共感し、支援いただいた企業の皆様の想いを、選手関係者や一般来場者が実感できる場となった。





提灯リコグニション

文化体験エリア（桜花亭）

芸術文化体験

江戸東京の芸術文化を体験・体感する取組として、選手関係者向けに茶道・着付け・生け花体験を11月16日から25日まで実施した。着付け体験は前半の11月16日から20日まで、生け花体験は後半の11月21日から25日まで実施し、期間中を通して、茶道体験は222人、着付け体験は110人、生け花体験は73人の方が参加した。実施に当たっては、国際手話通訳者の配置や多言語音声文字化のディスプレイやタブレットを活用し、情報保障の対応も行った。



茶道体験



着付け体験



生け花体験

選手交流エリア（国際交流棟）

IDカード発行や輸送サービスなど、選手関係者向けサービスを提供することに加えて、選手同士が交流できるよう、パブリックビューイングや日本の伝統的な遊びを体験できる「選手交流ラウンジ」、選手が日本文化を体験できるよう「おもてなしエリア（縁日）」を設置した。また、選手交流ラウンジ内では、江戸から続く東京の文化の一つである「銭湯PRブース」や「都内観光ツアー」の受付、「折り紙体験」、「応援メッセージ」など様々なコンテンツを展開した。



おもてなしエリア（縁日）



ラウンジの様子



銭湯 PR ブース



ラウンジで楽しむ選手



応援メッセージ



都内観光ツアーの受付

ウォームアップエリア（スポーツ棟）

練習会場・ウォームアップエリア　※非公開

　バレーボール及びバスケットボールの練習会場をはじめ、全選手がいつでも自由に利用できるウォームアップエリアを設置し、選手が万全のコンディションで試合に臨むことができる環境を提供した。運営に当たっては、常時看護師を配備し、緊急時にも対応できるような体制を取り、選手が安心して練習及びウォームアップを行うことができる環境を整えた。



練習会場（バスケットボール）



ウォームアップエリア

デフスポーツ・コミュニケーション体験

　来場者がデフスポーツに触れ、ろう者の文化を知り、共生社会について考える機会を創出するため、一般来場者等向けにデフスポーツ・コミュニケーション体験を実施した。体験を通じてデフスポーツやろう者の文化への理解を深め、より大会を楽しんでもらう機会となった。

・日程：11月15日～ 16日、22日～ 24日
・内容：デフサッカー体験、デフ卓球体験、手話言語ワークショップ
・参加者数：788人



デフサッカー体験



デフ卓球体験

広報

1 広報活動

大会サイト

大会の開催に向けて、事業団の大会準備状況や組織のガバナンス関連情報等を発信する「東京2025デフリンピック 大会情報サイト」を2023年度に開設した。カテゴリーを「大会を観よう！」、「大会を知る」、「ブランド」、「寄附・協賛」、「組織情報」、「お知らせ」の６つに分けて、利用者の目線に立った「見やすさ」「分かりやすさ」「探しやすさ」を最優先としたウェブサイトの運用を行った。

また、連盟で作成している大会ポータルサイトと事業団の大会情報サイトの２つがあったが、既存コンテンツを活かして、2025年５月に総合ページとなる「東京2025デフリンピック大会サイト」を開設し、ユーザーにとって分かりやすい発信を行った。

大会時の大会サイトは、特設ページとしてベルトバナーを作成し、競技観戦ガイド、競技日程、会場の混雑状況、対戦の組合せ・競技結果、競技動画配信など、観戦情報を中心に、目的別に必要な情報がすぐに分かるような構成にした。

SNS等の活用

大会に関する情報、デフスポーツに関する情報、ろう者の文化の理解促進につながり、共生社会の実現に寄与する情報などの発信を目的とし、X、Instagram、YouTubeの運用を行った。会場、競技、ろう者の文化、アスリート、イベント、大会の準備状況などの情報を体系的かつ戦略的に発信した。また、各部署の職員からなるプロジェクトチームを立ち上げ、コンテンツの充実を図った。投稿は、日本語、日本手話言語に加えて、英語や国際手話での発信も行った。

大会期間中は毎日、以下３パターンの投稿を、X及びInstagramにて発信した。

・前日夜：翌日の競技スケジュール（日付、時間、競技名）
・当日昼：YouTube配信のリマインド
・翌日朝：前日19時時点の国別メダル獲得数ランキング

競技のスケジュール変更など緊急の情報が発生した場合は、X・Instagram・YouTubeに投稿するなど、最新情報を迅速に発信した。

制作物

競技観戦ガイド

大会を競技会場等で観戦する意欲を高めるとともに、来場者が競技観戦をより楽しめるように、大会に関する基礎情報などをまとめた競技観戦ガイドを制作した。具体的には、大会の意義や魅力、各競技の日程、会場、基本ルールやデフリンピックならではの見どころなどを掲載した。また、会場案内図等にアクセシビリティに関する情報も掲載し、様々な方が来場しやすいよう工夫した。なお、冊子を会場で配布するのではなく、入場者に配布するリストバンドに印字された二次元コードからデジタル版にアクセスできるようにすることで利便性を高めた。

公式ポスター

大会の公式ポスターは、大会エンブレムを象徴的に配置し、デフリンピック100周年の節目を表現したデザインとした。また、色調は大会メインカラーの桜色を基調としている。本ポスターは大会期間中、デフリンピックスクエアや各競技会場にて掲出した。

広報発信に係る事業協力検討協定

デフリンピックの国内での認知度は、オリンピックなどの国際大会と比較すると低いため、より効果的なテレビ等での放映・報道が必要であった。そのため、認知度の向上を目的として、2025年１月に競技等の放映・報道・番組・配信・気運醸成などの広報発信に係る公募を行った。これにより、競技等の放映や報道等の広報発信に係る事業協力検討協定を５者と締結することができた。事業者とは、メディアオペレーション、放映等について意見交換を行うことで、大会時の円滑なメディアオペレーション、取材につなげた。





競技観戦ガイド



公式ポスター

2 メディア

メディアブリーフィング（プレスセミナー）

幅広いメディア・記者に、デフリンピックの概要・特徴・東京開催の狙い・取組を正しく理解してもらうとともに、デフリンピックへの関心・優先度・期待感を高め、本大会までの継続した企画・取材・報道につなげることができるよう、大会１年前の2024年11月と2025年６月、11月にプレスセミナーを実施した。

2024年11月のプレスセミナーでは、デフリンピックを基礎から学び、今後の取材や企画検討のきっかけとなるよう、東京開催の意義、開催基本計画に記載している「大会を通してめざすもの」の全体像、準備状況などの説明を行った。

2025年６月のプレスセミナーでは、全国キャラバン活動、競技会場やデフリンピックスクエアでのUC技術の活用、セッションスケジュール、デフリンピックスクエア、ボランティア等の準備状況などの説明を行った。併せて、大会時の取材対応、取材に関する申請（IDカード申請、放映に関する申請、映像素材提供に関する申請）について説明を行い、６月18日から申請受付を開始した。

７月29日には、団体競技組合せ抽選、協賛者・団体交流会に合わせて、プレス向け説明会を開催し、競技観戦、開閉会式観覧の準備状況や、協賛等の最新状況などについて説明を行った。

大会直前の11月のプレスセミナーでは、選手団のエントリー状況や選手向けサービスの内容、デフリンピックスクエアの詳細等の大会運営にかかる具体的な説明と共に、大会サイトや競技観戦ガイドなどの情報発信媒体や大会時の記者会見等のメディアに向けた情報提供方法などの説明を行った。

メディアガイド

デフリンピックスクエア及び各競技会場など取材拠点となる会場において、メディアが円滑に取材活動ができるよう、メディアガイドを作成した。各競技や各会場の撮影ポジション、インタビューエリア、作業スペース等の情報、デフアスリートに取材する際の心構えなどの内容を掲載した。加えて、会場所在自治体の取組やコミュニケーションを円滑にするUC技術、本大会で開発した新しい応援方法等取材のきっかけとなる内容も紹介し、報道につなげることで、大会の盛り上げに寄与した。

メディア専用ページ

大会時に取材を希望するメディアに向けた取材案内・メディアガイド等を掲載するため、2025年６月に、大会サイトにメディア専用ページを開設した。メディアへのお知らせ事項、各種申請資料、メディアガイド、インタビューブース予約システムなどを掲載した。

大会期間中には、メディアから問合せの多い事項に加え、マラソン会場での空撮、IDカードの携行、ビブス着用の徹底など、運営上の留意点について、適宜情報提供を行った。



メディア専用ページ

取材に関する申請等

大会に向け、メディアIDカード申請、放映に関する申請、映像素材提供に関する申請を、2025年６月18日から受け付けた。なお、これらの申請については、デフリンピック規約（DG16. 報道規制及び諸項目、3）で大会３か月前にICSDへの提出が必要なことから、７月22日を期限とした。

過去大会においては、メディアIDカードの申請をICSDが受け付けており、その申請料は有償とされていた。本大会においては、より多くのメディアに報道してもらうことで、デフリンピックの認知度向上や大会の盛り上げにつなげるため、ICSDと調整し、国内メディアからのIDカード申請料は無償とし、事業団でIDカードの申請受付を行った。なお、海外メディアについては、従来どおり、IDカード申請料は有償とし、直接ICSDへの申請とした。

＜申請件数＞

・メディアIDカードの配布
　国内メディア：167者　1,878人
　海外メディア：16者　54人
・放映（競技動画）に関する申請　14者
・競技動画配信映像素材提供に関する申請　54者

メディアセンター

メディア向けの大会情報発信やサービス提供を行う拠点として、デフリンピックスクエア内にメディアセンターを設置し、記者会見及びプレス説明会、インタビューブースの設置、メディアIDカードの発行を行った。

記者会見及びプレス説明会は、2025年11月14日、17日、20日、26日の計４回開催し、競技スケジュール、競技結果等の大会運営状況を説明するとともに、大会に参画した方によるプレゼンテーションを行った。

インタビューブースについては、予約制としており、メディアや選手のスケジュールに合わせ、インタビューできるよう工夫した。メディアIDカードの発行については、受取カウンターを設置し、2025年11月11日～26日まで、配布を行った。

【記者会見及びプレス説明会の内容】

第１回記者会見

・日時　2025年11月14日　13：30～14：30
・場所　デフリンピックスクエア文化・技術発信エリア
　　（カルチャー棟）小ホール
・参加メディア　50媒体　104人
・内容
　主催者等挨拶
　　登壇者：ICSD アダム・コーサ 会長
　　全日本ろうあ連盟
　　デフリンピック運営委員会
　　久松 三二 委員長
　　東京都スポーツ文化事業団
　　デフリンピック準備運営本部
　　北島 隆
　　チーフ・オペレーティング・オフィサー
　　板倉 広泰 総務部シニアマネージャー
　協賛者によるプレゼンテーション
　　ゲストスピーカー：株式会社アシックス
　　トヨタ自動車株式会社
　　ソフトバンク株式会社

プレス説明会

・日時　2025年11月17日　10：30～12：00
・場所　デフリンピック大会運営エリア（センター棟）
　　記者会見場
・参加メディア　11媒体　17人
・内容
　大会運営について
　　登壇者：東京都スポーツ文化事業団
　　デフリンピック準備運営本部
　　北島 隆
　　チーフ・オペレーティング・オフィサー
　　板倉 広泰 総務部シニアマネージャー
　ろう者の文化について
　　登壇者：全日本ろうあ連盟
　　デフリンピック運営委員会
　　倉野 直紀 事務局長
　筑波技術大学によるプレゼンテーション
　　ゲストスピーカー：国立大学法人筑波技術大学
　　石原 保志 学長
　　中島 幸則 教授

第２回記者会見

・日時　2025年11月20日　10：30～12：00
・場所　デフリンピック大会運営エリア（センター棟）
　　記者会見場
・参加メディア　11媒体　15人
・内容
　大会運営について（中間総括）
　　登壇者：ICSD 大杉 豊 副会長
　　ユルゲン・エンドレス
　　国際スポーツディレクター
　　全日本ろうあ連盟
　　デフリンピック運営委員会
　　久松 三二 委員長
　　東京都スポーツ文化事業団
　　デフリンピック準備運営本部
　　北島 隆
　　チーフ・オペレーティング・オフィサー
　　板倉 広泰 総務部シニアマネージャー
　応援アンバサダーの活動等について
　　ゲストスピーカー：東京2025デフリンピック応援
　　アンバサダー 川俣 郁美さん

第３回記者会見

・日時　2025年11月26日　11：00～12：30
・場所　デフリンピック大会運営エリア（センター棟）
　　記者会見場
・参加メディア　23媒体　50人
・内容
　大会の総括、閉会式等
　　登壇者：ICSD アダム・コーサ 会長
　　全日本ろうあ連盟
　　デフリンピック運営委員会
　　久松 三二 委員長
　　東京都スポーツ文化事業団
　　デフリンピック準備運営本部
　　北島 隆
　　チーフ・オペレーティング・オフィサー
　　板倉 広泰 総務部シニアマネージャー



記者会見

各会場

メディアが各会場で円滑に取材ができるよう、会場内で作業ができるメディアワーキングスペースを設置した。また、観客席の一部にメディア用の席を設けることで、試合を観戦しながら記事を書くことができる環境を用意した。加えて、円滑に取材活動できるよう、撮影許可エリアを定めるとともに、インタビュースペースを設けることで、競技後の選手に円滑にインタビュー等を行えるよう支援を行った。デフアスリートが自身の言語で取材に対応できるように、インタビュースペースに手話言語通訳者の配置やタブレット等を準備し、円滑な取材につなげた。さらに、各会場においては、メディアが即時に競技結果を確認できるようリザルトを提供し、迅速な報道に寄与した。



インタビュースペース

3 放映、競技動画配信

放映

放映機会を多くするため、放映権料は無償とした。また、ホストブロードキャストとしての機能を事業団が担い、競技映像配信素材をメディアに提供するとともに、その素材を活用してメディアが放映・報道を行うことができるように制度設計を行った。

メディアからの放映希望申請に基づき、国内メディア13者、海外メディア１者に放映の承諾を行った。



記者会見動画配信

競技動画配信

デフリンピックの魅力を国内外に向けて広く発信し、多くの人に観戦してもらうため、競技映像を撮影し、「第25回夏季デフリンピック競技大会東京2025公式YouTubeチャンネル（以下「大会公式YouTube」という。）」でのライブ配信を行った。2025年11月27日15時時点の動画再生回数は、3,245,533回に上り、視聴者の国別内訳は、国内約42%、海外約58%と、国内はもちろん、広く世界で視聴された。

各競技の決勝戦は、手話言語によるきこえない解説者（以下「手話言語解説者」という。）やきこえる解説者が競技解説を行うとともに、国際手話及び英語字幕並びに、日本手話言語及び日本語字幕の情報保障を行った。また、限られた予算の中で効果的な配信を行うため、予選は定点カメラを中心とした撮影・配信としたが、決勝戦が行われる競技日にはカメラ台数を増やすなど、濃淡をつけた撮影・配信を行った。

さらに、決勝戦以外の競技日程のうち、東京ゆかりのデフアスリートの出場や日本選手の活躍が特に見込まれる５競技（バドミントン、ハンドボール、卓球、レスリング、空手）の予選については、都の取組としてTOKYOパラスポーツチャンネルで、各競技１日程ずつケーブルテレビ（CATV）とYouTubeで実況・解説・手話言語通訳付きの中継を行った。このうち、バドミントンにおいて、手話言語解説者による競技解説を行い配信した。

選手が広範囲を動く一部の競技については、その競技特性に応じた撮影方法を用いることで、躍動感のある映像を撮影した。特に、オリエンテーリングでは、伊豆大島会場における撮影エリアが限られていたことから、国土交通省と調整の上、ドローンを活用した空撮を行い、会場全体の競技の様子を効果的に伝えた。

あわせて、決勝戦を中心としたデイリーハイライトや大会全期間の映像をまとめた大会ハイライトを制作し、大会公式YouTubeで配信した。撮影映像や制作したハイライト映像は、オンラインストレージサービス等へ格納・保管し、メディアが申請手続を行うことで、映像を活用できるようにした。

競技中継における手話言語解説

手話言語解説者は、日本手話言語で18競技の決勝戦で解説を行った。連盟が、東京2025デフリンピックに向けて養成してきた日本手話言語による手話言語解説者22人、日本語音声にする日本手話言語通訳者40人が従事した。解説に当たっては、1人の手話言語解説者につき、日本手話言語通訳者が原則2人配置された。

国内ではこのような、大規模な日本手話言語でのスポーツ競技解説は初めての試みであり、撮影環境も模索しながら進めて創り上げた、まさにきこえない人ときこえる人の協働作業であった。

4 パブリックビューイング

大会公式YouTube及びTOKYOパラスポーツチャンネルのYouTubeでのライブ配信の活用により、様々な自治体がパブリックビューイングを実施し、全ての人が大会の臨場感や会場との一体感を味わい、大会に関わることができる機会を創出した。あわせて、都は11月23日に東京都立北特別支援学校にて、陸上競技200m女子・男子決勝のライブ中継を実施した。延べ約90人が観戦し、大会の盛り上げに寄与した。



パブリックビューイング（陸上200m男子決勝）の様子



サインエール等で応援する参加者

5 大会記録映像

デフリンピックを契機として、東京のプレゼンスを向上させるため、大会成功の様子を、ウェブサイトやSNS等様々な発信手段で活用できる「映像」として、記録に残すことにより、あらゆる機会を捉えて、国内・国外へ発信していくことが重要であった。

また、障害のあるなしにかかわらず、選手・観客・スタッフなど誰もが一体となって大会を創り上げている様子、大会の活気や感動、大会を通じて得た国際スポーツ大会開催のノウハウなどの中で、文字媒体では伝えにくい情報を「映像」により残し、大会のレガシーを継承していくため、「大会記録映像」を制作した。

長編映像（約60分）

大会の準備段階の取組、気運醸成の取組、開閉会式の様子、デフスポーツの特徴を捉えつつ様々な感情が垣間見える競技シーン、サインエールにより観客が一体となり応援する様子、手話言語通訳者・ボランティア等大会運営を支えるスタッフの様子、デフリンピックスクエアの様子など、様々な取組を取り上げることにより、大会の盛り上がりが伝わるような内容とした。加えて、大会に参画した方のインタビュー映像などを取り入れ、大会に向けての想いや工夫など、大会の温度感が伝わる構成とした。

短編映像（約3分）

大会に関わった人だけでなく、関わっていない人も、東京2025デフリンピックがどのようなものであったかを、知るきっかけとなる映像となるよう、大会の象徴的・印象的な場面を多く取り入れた。

閉会式用オープニング映像（4分）

閉会式のオープニングを飾る大会ハイライト映像として、選手・観客・スタッフ等大会に関わった人々が、互いの活躍をたたえ、感謝し、労い、大会の始まりから終わりまでを振り返ることができる内容とした。

輸送

1 基本方針

本大会は選手村を設置せず、既存の宿泊施設を活用することとした。それを踏まえた上で、選手団が競技に集中できる輸送体制を整えるため、以下基本方針を取りまとめた。

公式旅行代理店の選定

選手団にとって、競技に集中するためには、適切で快適な宿泊施設の提供とともに、円滑かつ安全な輸送の構築を行うことが必須である。その実現のためには、宿泊と輸送を結び付けて計画を立てる必要があり、業務の効率化及び予算低減化を図るために公式旅行代理店には、宿泊と輸送の両業務を委託することとした。

輸送対象施設

事業団が行う輸送対象施設は空港（羽田・成田）、競技会場、独立練習会場、輸送ハブ、指定乗降地とした。

輸送に要する時間

選手団の輸送による負担を軽減するため、指定乗降地から競技会場までおおむね１時間以内で輸送することとした。

輸送提供期間

輸送提供期間は18日間（各競技練習開始日＋大会期間12日間＋閉会式後2日間）と定め、11月11日から28日までとした。

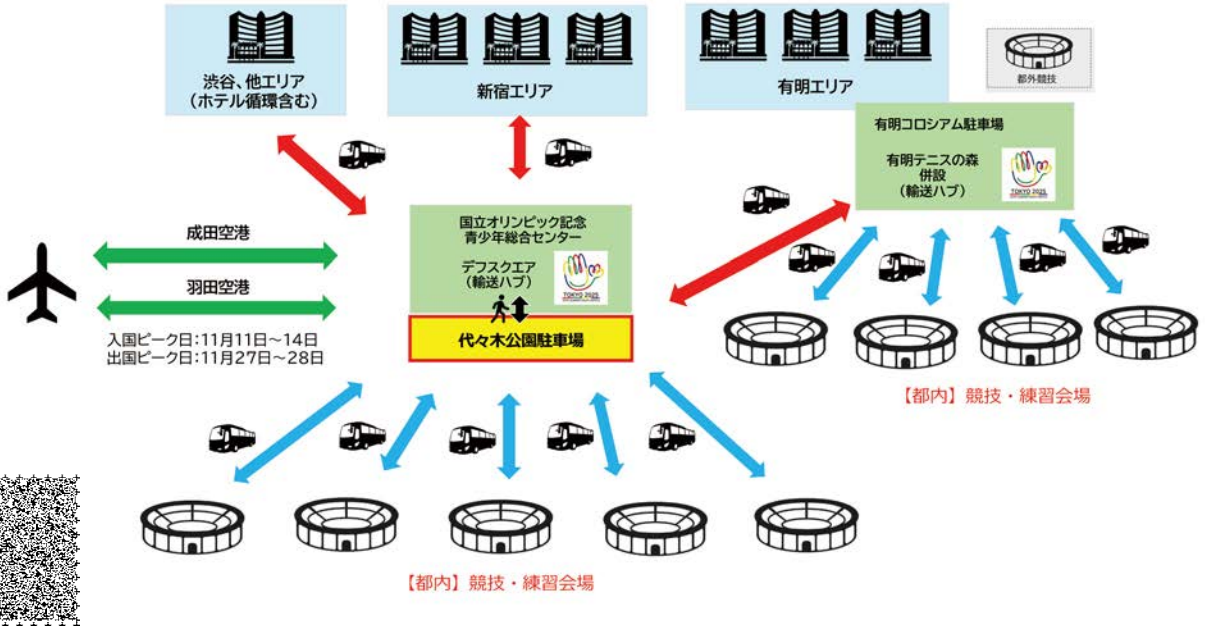
輸送車両

・選手団については主に大型バスで運用を行い、その中でもサッカー、バレーボール等の団体競技については各チーム専用バスを割り当てた。
・ICSD役員、SD、海外審判員については、ハイヤーやタクシーなど、一般車両にて運用するものとし、デフリンピック規約（DG27.交通機関）に基づき、車両の割り当てを行った。
・原則として、各車両に添乗員等は配置せず、ドライバーのみでの対応とした。

輸送ハブの運用方法

国立オリンピック記念青少年総合センターが、宿泊施設、大型車駐車場、研修室等を兼ね備えていることから、輸送ハブとして活用することとし、各指定乗降地から輸送ハブに選手団を輸送し集約した上で、各競技会場へ輸送する、ハブ＆スポーク方式にて運用することとした。

輸送ハブを活用した輸送体系図は以下の図のとおりである。



2 輸送ハブ及び指定乗降地等の確保

輸送ハブの設置

国立オリンピック記念青少年総合センター及び代々木公園駐車場

当初の計画では、国立オリンピック記念青少年総合センターの大型車駐車場のみでの運用を想定していたが、輸送ハブとしてはスペースが不足していた。そのため、国立オリンピック記念青少年総合センターの園路及び代々木公園駐車場を活用することとした。代々木公園駐車場については、駐車場半分のみを借用する予定だったが、最終的には全面を利用することで、輸送効率が高まり、バス台数を削減することができた。

有明コロシアム

選手団の配宿にあたり、新宿・渋谷エリアだけではなく、有明エリアにも多くの選手が宿泊することになったため、有明エリアにも輸送ハブの設置が必要となり、有明コロシアムを活用した。

指定乗降地等の確保

指定乗降地の確保

新宿エリアでは、大型車駐車場がない宿泊施設が多く、バス乗降地を設定できなかったため、西新宿の各ホテルから徒歩でアクセスできる都庁大型車駐車場を活用することとした。有明エリアでは、有明コロシアムまで各宿泊施設から徒歩で集合することとした。

回送地の確保

バス運転手の休憩場所の確保のため、競技会場に近接する大型車駐車場が必要であった。ただし、都内での大型車駐車場や駐車可能なスペースは限られていたため、候補地の選定、自治体や民間企業等と交渉及び調整を長期にわたり行った。

3 選手団輸送オペレーション

各競技会場への輸送

ハブ＆スポークによる運用

各施設を巡回しながら輸送するのではなく、国立オリンピック記念青少年総合センター（代々木公園駐車場を含む。）、有明コロシアムの２か所に輸送ハブを設置することで、各輸送ハブから競技会場まで直接輸送を行うことができ、輸送時間の短縮及びバス台数を削減することができた。

セッションスケジュールに合わせた運用

過去大会では、セッションスケジュールが考慮されていない大会もあったが、本大会ではセッションスケジュールに合わせて緻密なバスダイヤを作成し、輸送における選手団の負担を軽減した。

バス定員の設定

バス定員の70％程度の乗車を見込んだ計画にすることで、各選手団がバスで混み合うことなくゆったりと競技会場入りできるよう配慮した。

空港輸送

公式空港

公式空港として以下の空港を設定した。

・東京国際空港（羽田空港）第２ターミナル（国際線）、第３ターミナル
・成田国際空港（成田空港）第１ターミナル、第２ターミナル

入国時のオペレーション

①入国後、公式空港からIDカード発行センター（デフリンピックスクエア、福島、伊豆）まで直接バスで輸送した。
② IDカード発行センターでIDカードの発行を受けた後、指定乗降地までバスで輸送し、各宿泊施設へチェックインを行った。

出国時のオペレーション

出国時は各指定乗降地から公式空港までバスで輸送した。

フライトスケジュールに合わせたバス運用

大会開催前に、各国にフライトスケジュールの提出を求めていたが、全ての選手団から収集することができず、空港内でバス待ちが発生した。その際は、予備バス及びVIK（Value In Kind.以下「VIK」という。）車両の投入を行い、待ち時間の短縮に努めた。

出国時においては、リエゾンを通じてフライトスケジュールを収集できたため、全ての選手団が混乱なく出国することができた。

※VIKとは、物品や役務による提供など、各企業等のリソースの活用のことをいう。

開閉会式輸送

選手団乗降場の調整

会場の東京体育館の周辺には絵画館駐車場があるが、会場から距離があり、夜は暗いため、選手団の安全確保の観点から、絵画館駐車場での乗降ではなく、選手団動線が短い外苑西通りに一時的に停車させ、選手団を乗降させるオペレーションとし、警視庁等との調整を長期にわたり行った。

開会式輸送

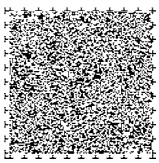
会場の受入れキャパシティの関係上、入場のタイミングをコントロールする必要があるため、配宿エリアごとに時間差をつけ、指定乗降地及び輸送ハブと会場間を輸送することとした。その際、宿泊エリアごとに色分けした名刺大のカードをIDカード発行時に式典参加者全員に配布（IDカードと一緒に携行）し、バス乗降の際に誤ったバスに乗車しないために、選手団自身と乗降場スタッフが確認できるようにした。入場時は多少の混雑はあったものの、参加者全員が定刻までに入場することができた。なお、退場時においては、想定以上に公共交通機関で帰る選手団が多かった。

閉会式輸送

閉会式においては、宿泊エリアごとの輸送（宿泊エリアごとの色分けカードの活用）は継続し、入場時は開会式同様にスムーズに実施された。退場時においては、開会式でのオペレーションを見直し、公共交通機関で帰る選手団及び関係者を先に退場させ、輸送バスを利用する選手団と明確に分けて案内することとした。また、選手団を配宿エリアごとに振り分けるスペースに、リエゾンやスタッフを多く配置し、会場内と乗降場のタイムリーな連携を図った。これらにより、予定どおりの配車スケジュールで、参加者全員が配宿先まで戻ることができた。

船舶輸送（伊豆大島航路）

船舶輸送については、短時間で渡航可能なジェット船での輸送を考えていたが、荒天の場合は欠航することもあり、セッションスケジュールの変更は困難であることから、夜行の大型客船でのバックアップも考慮しつつ計画を立てた。選手渡航日は、天候不順のため条件付きの運行となったが、ジェット船が運行し、選手団及び関係者が無事に伊豆大島に到着することができた。



競技用備品輸送

自転車競技の競技用自転車

バスでの配送が困難な競技用自転車に関しては、空港と競技会場の間は、トラックにて輸送し、競技会場と宿泊施設の間は、宿泊施設での保管を希望する選手のみ、選手団等自らが費用負担の上、トラックで輸送するものとした。

射撃の銃・弾薬（火薬）のバス輸送

銃、銃弾（火薬）は法律に基づき、選手と一緒に輸送しなければならない等多くの制限があり、競技担当と協働し対応を行った。特に危害予防を第一に考え、空港から競技会場へ輸送して銃等を保管するオペレーションとしたことや、入・出国時の検査を迅速に行うため別途業務委託を行う等、税関をはじめ関係省庁との連携を図ったことで、安全かつ円滑な輸送が実現できた。

ボウリングのボール

ボウリングのボールの競技会場への持込みに関しては、選手一人当たり平均３個程度のボールを持参しており、一度に多くのボールケースを積み下ろす必要があるが、会場側のバス乗降地が東大和駅前バスロータリー内であり、難しいため、トラックにて輸送することとした。

陸上競技のポール

入出国時はバスの通路に入れ込み、選手と共に輸送したが、宿泊施設での預かりが難しいため、輸送ハブにて一時的に保管し、競技日に選手と共に競技会場へバスで輸送した。

公式宿泊施設を利用しない選手団輸送

公式旅行代理店を通じて宿泊予約をせず、自己手配した宿泊施設を利用する場合も、指定乗降地又は輸送ハブを発着する輸送サービスの利用は可能とした。その場合は、指定乗降地等に来ることを条件とし、指定乗降地までの車両等交通手段については、選手団の費用負担で用意するものとした。

大会時の対応について

東京都交通局との連携

競技会場への輸送及び開閉会式輸送において、都交通局の保有するバス車両（環境に配慮した燃料電池バスを含む。）の借用や、都営バスのラッピングバスの活用で、都交通局と連携を図った。

バス時刻表の変更

バス時刻表については、大会の数年前から競技担当に数多くのヒアリング等を重ねて、各競技特性に合わせたダイヤの作成を綿密に行った。団体競技については、翌日の組合せが決まるまでダイヤを決めることができず、選手団への時刻表の提示が前日の深夜になることが多かった。

輸送における情報保障

バスの乗降場や時刻表の確認等、輸送に関する問合せについては、大会時に配置された手話言語通訳者、日英音声通訳者及びリエゾンにより、コミュニケーションを確保した上で対応したが、これらの人員がいない場合は、翻訳ツールを活用し、選手団とのコミュニケーションを確保した。

団体競技の輸送

団体競技には１チーム１台のバスを配車したことで、チームでの分散乗車を避けることができ、競技運営に支障が出ないよう輸送することができた。また、団体競技に割り当てるチームバスは、競技及び練習に間に合うようにチームが滞在するホテルに配車することとしたが、乗降場にバスを長時間駐停車できないため、時間どおりにチーム全員が揃っていることが必要であった。そのため、配車先のホテルの状況を確認し、輸送本部と連携が取れるよう、チームが滞在するホテルに輸送スタッフを１人配置し、バスの乗車案内をするとともに、時間どおりにチーム全員が乗降場に揃っているか確認するなど、ホテルや輸送本部と連絡・調整を行った。その結果、乗降場でのトラブル防止や、競技会場へのチームの確実な輸送につなげることができた。

長距離の輸送

福島県や静岡県への長距離移動が発生するバスは、休憩時の号令や運行状況の伝達など、円滑な輸送を実施するため、車内に運行管理要員を配置した。運行管理要員は英語を話せる者とし、翻訳ツールも携行することで選手団とコミュニケーションが取れるよう留意した。大会時は、運行管理要員が交通状況など輸送に必要な情報を巻き取り、選手団からの問合せ対応も行うことで、正確な車両状況の把握と選手団の不満解消に寄与し、安全かつ適切な輸送を行うことができた。

都内応援バスの運行

サッカー及び自転車競技の選手団に対して、競技及び練習の無い日に都内で実施される競技の応援に行けるよう、福島県とデフリンピックスクエア、静岡県とデフリンピックスクエアを結ぶ、都内応援バスを11月19日から25日まで１日１往復運行した。

4 VIK車両運用

VIK車両の導入までの経緯

ICSD役員、SD及び海外審判員の輸送においては、当初、ハイヤー又はタクシーでの輸送を計画していた。その後、トヨタ自動車株式会社の協賛が決まり、VIK車両の貸し出しが決定した。それらの車両の活用について検討を進め、ICSD役員等の専用車・共用車のみならず、ビーチバレーボール競技での選手輸送、少数で入出国する選手団への空港輸送、バスに乗り遅れた選手への緊急時対応や、地方会場での移動手段等、数多くの使用用途に最大限活用できる計画案を作成した。

VIK車両の運用

トヨタ自動車株式会社から提供されたVIK車両の運用に当たっては、車両運行会社やリムジン会社に対し、運行管理員及びドライバーを発注し、デフリンピックスクエア内にVIK車両及びドライバーの管理を行うセンターを発足させた。

当初の計画では、あらかじめ運行計画を作成し、その計画を基に運行する仕組みとしていたが、大会本番時には、ICSD役員等のスケジュール変更があり、事前の運行計画では運行できない状況が重なり、前日の変更指示や当日の変更指示等が多発し、運行管理を担うセンターはその対応に追われた。車両とドライバーの管理などを実施するには、事前の綿密な計画はもとより、大会本番時の想定外の事象にも対応できる体制づくりをしておく必要があった。

VIK車両の運用は、人数の少ない輸送に効果的であり、結果として緊急時における当日の柔軟な対応が可能であった。さらに、バスと比較して一般車両は小回りが利くため移動時間が短縮するとともに、バス車両の削減につながるなど、大会時における一般車両の需要や効果は非常に高かった。

5 車両の識別方法

バス車両識別

輸送計画上で手配・配車する全てのバスには、固有の番号・運行種別などを特定する記号・名称や番号を付与した識別（掲示物）をバス車体に掲示して運行した。記載内容は日々変わるため、事前にバス会社に送付し、貼り付け・貼り替えはバス乗務員が作業を行った。運行管理スタッフは、各配置箇所で往来するバス識別を確認・リスト照合して運行指示を行った。



車両許可証

車両許可証及び通行許可証

選手団輸送バス以外の関係者の車両については、安全確保と適切な駐車場管理のため、各競技会場及びデフリンピックスクエアにおいて、全会場共通で視認性の高いデザインの「車両許可証」及び「車両通行許可証」を発行した。発行に当たっては、安全性の観点から発行フローをルール化し、会場ごとに必要な車両許可証等の整理を行った。また、全会場で駐車・通行可能な許可証については、運営統括班が限定的に発行し、MOCで一元管理することで、より高い安全性と利便性を確保した。



日付指定の車両許可証



車両通行許可証

宿泊

1 配宿計画

公式旅行代理店の選定経緯

世界中から集まる選手団等に対して、競技に集中できる宿泊環境を提供するため、デフリンピック規約（DG4. 組織委員会）に則り、公式旅行代理店を選定した。選手団にとって、競技に集中するためには、適切で快適な宿泊施設の提供とともに、円滑かつ安全な輸送の構築を行うことが必須である。その実現のためには、宿泊と輸送を結び付けて計画を立てる必要があり、公式旅行代理店には、宿泊と輸送の両業務を委託することとした。

なお、宿泊施設を低廉な価格で選手団に提供できるようにするため、大会２年前には、公式旅行代理店の選定を行い、宿泊施設の確保を行った。その後、年度ごとに配宿計画の深度化を行った。

宿泊予約の対象者

公式旅行代理店が宿泊予約を行った主な対象者は、選手団及び事業団が宿泊費を負担する以下の者である。

・ICSD関係者
・SD
・審判員
・競技スタッフ

宿泊提供期間

選手団への宿泊提供期間は、2025年11月11日から28日のチェックアウトまでとした。選手団は、参加する競技のスケジュール等に合わせて、宿泊予約を行った。選手団以外の対象者の宿泊予約は、それぞれの役割に応じて必要な期間で予約を行った。

2 宿泊予約

宿泊予約スケジュール

選手団から、以下のスケジュールで宿泊予約を受け付けた。

・第一次申込受付期間：2024年４月25日
　～９月30日
・第二次申込受付期間：2024年12月５日
　～ 2025年１月31日
・以降は、宿泊希望があった際に都度対応した。

当初は、第一次申込受付期間のみでの受付を検討していたが、宿泊申込みが少なかった。第一次申込みが少なかった理由としては、競技スケジュールの公表前であったこと、各国の事情で宿泊費の予算を確保できる見通しがたっていないことなどが挙げられた。そのため、新たに第二次申込受付期間を設けて、より多くの国から宿泊予約を受け付けられるようにした。

また、各国の事情を考慮して、宿泊申込受付期間外の申込みに対しても、可能な限り宿泊予約を受け付けられるように、公式旅行代理店と調整を行った。

特に、南米、アフリカ各国は国からの予算確保が大会直前になることも多く、2025年11月に入っても宿泊予約を希望する国があった。公式旅行代理店で予約の対応ができない国については、自ら宿泊施設を予約し、競技会場までの輸送も自ら手配を行った。

宿泊予約の方法

選手団からの宿泊予約は、公式旅行代理店の宿泊予約システムを活用した。当該システムを活用することで、選手団の宿泊予約の申込みから、その後の問合せ対応、宿泊契約書の送付及び入金確認などを円滑に行うことができた。

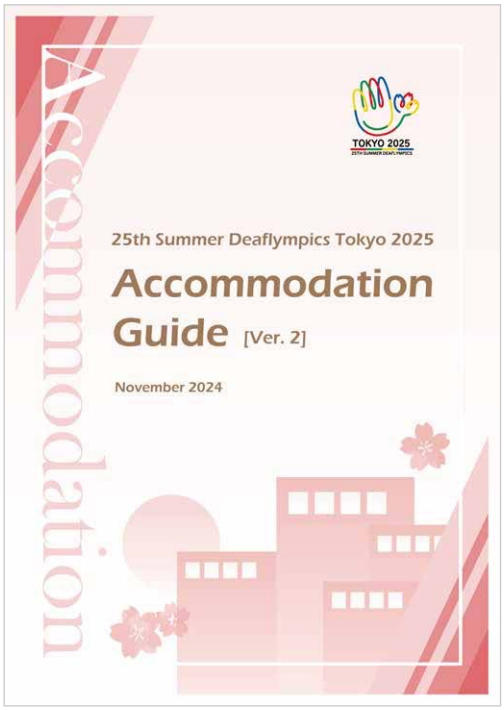
宿泊ガイド

選手団が宿泊予約を行うに当たっての条件等を示すため、宿泊ガイドを発行した。宿泊ガイドは、前述の宿泊予約スケジュールに合わせて、２回発行した。

宿泊施設については、１泊１人当たりの宿泊料金に応じて、４つの料金カテゴリーを設定するとともに、各施設の場所、サービス内容など様々な情報を提供した。各国選手団は、それらの情報を基に、予算・選手団規模・会議室の使用有無・宿泊施設の利便性等を勘案し、宿泊予約を行った。

また、宿泊ガイドでは、日本国内の旅行需要及び訪日旅行人気の高まりから、都内を中心とした宿泊施設の客室の確保が大変困難となっていること、期限までに申込みがなかった場合、宿泊料金が高額になる場合があること、客室の提供ができなくなることなどを記載し、各国選手団へ早期予約を促した。

実際､大会直前に大型（100人以上）の宿泊申込みがあったが、公式旅行代理店で客室確保を行うことができず、各国が自ら宿泊施設の予約を依頼することもあった。



宿泊ガイド（第2版）

選手団への配宿

選手団への配宿に当たって、以下の検討を行った。

- 当初は競技別配宿を基本方針としていたが、各国選手団から宿泊予約を開始すると、国別配宿の希望が多いことが判明した。そのため、国別配宿を基本方針とし、一部競技のみ、競技別配宿とする方針に転換した。
- 新宿エリアを中心に配宿をしていたが、選手団からの希望の多い料金カテゴリーの宿泊施設が新宿エリアになく、同カテゴリーの宿泊施設が多く存在する有明エリアを、新宿に次ぐ配宿拠点として設定した。
- 有明エリアは、テニス、ゴルフ、水泳及びビーチバレーボールの競技会場に比較的近いため、国別配宿を希望する団体でこれらの競技に多く出場する場合は、輸送上のメリットを説明し、配宿の誘導を実施した。
- 多摩地区で開催されるボウリング、レスリング及びバドミントンに関しては、都内中心部からの移動に時間がかかるため、競技別配宿を推奨した。特に有明エリアへの国別配宿を希望する選手団に対して、競技会場近くの宿泊施設への誘導を行った。
- 自転車競技においては、競技参加の規模や輸送の効率を勘案し、１つの宿泊施設に集約した。

選手団対応

選手団からの宿泊申込みに際し、調整を必要とする場合には、宿泊予約システムの問合せ機能により、各国選手団への対応を行った。

選手団からの主な問合せの内容と対応例

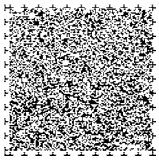
問合せ内容	対応例
宿泊申込みや支払期限の確認	宿泊ガイドに記載の内容を回答
設定された宿泊予約の申込期限に間に合わない	個々の理由を確認はするが、期限内での対応依頼が原則。 ただし、可能な範囲で期限後も対応を実施
食事提供の希望	朝食は宿泊代金に含む。夕食については静岡県、福島県、伊豆大島の施設に関しては宿泊代金に含まれるが、その他は希望制で別手配となることを案内。 昼食に関しては、競技スケジュールによるため別途案内を実施
ランドリーサービスの提供希望	一定程度無償でサービスを提供予定であることを案内。 詳細決定後、選手団専用ページで周知
競技スケジュールが不明であり、宿泊予約ができない	競技スケジュールは調整中としていたが、2024年11月の発表以降、選手団専用ページを確認するように案内

各国の宿泊対応において、選手団からの求めに応じて、国際手話を介した対応も行った。国際手話での対応実績は以下のとおり。団長セミナー時には、大会本番時のテストとして、遠隔国際手話通訳を活用した通訳を実践した。

時期	対応内容
2024年11月 団長セミナー時	団長セミナーに参加した国のうち、22か国と相談を実施
2025年１月 インターネット会議	事前の相談予約があった国のうち、11か国と相談を実施。各国との時差を考慮し、早朝及び夜間にミーティング時間を設定するなど、各国が参加しやすいように配慮
2025年３月 インターネット会議	事前の相談予約があった国のうち、12か国と相談を実施。各国との時差を考慮し、早朝及び夜間にミーティング時間を設定するなど、各国が参加しやすいように配慮

宿泊施設研修会の実施

公式旅行代理店が選手団向けに手配した宿泊施設に対しては、きこえない・きこえにくい人への接遇や簡単な国際手話等に関する研修会を2回にわたって実施した。



3 宿泊施設でのサービス

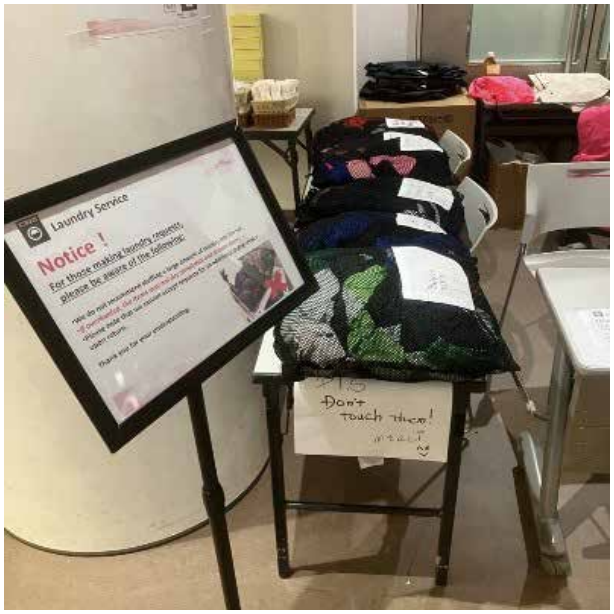
ランドリーサービス

公式旅行代理店経由で宿泊予約を行った選手団に対して、無料でランドリーサービスの提供を行った。宿泊施設を自己手配した選手団に対しては、有料でランドリーサービスの提供を行った。

選手団サービスデスク

公式旅行代理店が選手団向けに手配した宿泊施設については、大会期間中に、選手団の問合せ等をサポートするサービスデスクを設置した。サービスデスクでは、選手団のチェックイン・チェックアウト時のサポート、食事についての案内、ランドリーサービスの提供等を行った。

また、各国の選手団とのコミュニケーションがスムーズに行えるように、音声情報を多言語で表示するコミュニケーションツールや、指さしで要件を伝えられるように工夫したコミュニケーションボードを準備した。加えて、デジタルサイネージを設置し、公式輸送バスのダイヤや、宿泊施設の館内情報等を提供した。



ランドリーサービス

4 大会時の対応

宿泊施設との連絡体制及び調整内容

公式旅行代理店が手配した宿泊施設と事業団との連絡は、必ず公式旅行代理店を通して行った。原則、宿泊施設と公式旅行代理店との間で調整が必要になった事項は、調整結果について、事業団は事後報告を受けていた。ただし、重要事項については、事前報告を受け、対応方法を協議の上、公式旅行代理店から宿泊施設へ連絡を行った。

大会時、宿泊施設と調整を行った内容は以下のとおり。

・宿泊者情報の変更（宿泊者の変更、不泊の連絡など）
・各種事故対応（宿泊施設の備品の汚損や破損、禁煙エリアでの喫煙、宿泊料金の不払いなど）

選手団対応

大会時の選手団対応は、大会時に配置された手話言語通訳者、日英音声通訳者及びリエゾンによりコミュニケーションを確保した上で実施したが、これらの人員がいない場合は、翻訳ツールを活用し、選手団とコミュニケーションを行った。

選手団からの主な問合せ内容は以下のとおり。

・追加の宿泊予約希望
・食事の提供時間等の確認及び変更希望
・ランドリーの利用希望
・タクシーの配車希望


選手団サービスデスク

出入国対応計画

1 出入国対応計画

入国及び出国

大会期間中は空港内にも出入国対応を行うため輸送本部を設置し、MOCをはじめ関係部署との連絡調整を行った。また、選手団及びICSD役員等と確実にコミュニケーションを取れる体制を構築し、加えて、選手団等からの問合せや要望に対し柔軟な対応を行うとともに、関係部署と連携して適切な対応を行った。なお、空港での対応に当たっては、出入国のピークを考慮し、規模に応じた体制を整えた。

公式空港の設定、入国・出国に合わせた輸送

入国における選手団等の受入れについては、入国ゲートから円滑に事故なく確実に乗降場まで案内し、対応はパブリックスペースの使用のみであった。原則として、出国については、乗降場までの送迎対応とし、出入国のピーク期間（６日間を想定<開会式前４日間＋閉会式後２日間>）は 24 時間、ピーク期間以外は８時間の対応とした。ただし、フライトスケジュールに応じて、対応体制も含めて適宜、柔軟に変更した。

関係機関（空港、関係省庁）との調整

成田空港、羽田空港における国際大会時の対応実績や経験を鑑み、選手動線やスペース等について、空港会社との調整を行い、ピーク期間の到着時の空港内誘導動線を確保した。

また、大会選手関係者の入国等に関しては、渡航前の準備段階から関係省庁と連携し、円滑な出入国を行なった。



入国時の様子（羽田空港第2ターミナル）


入国時の様子（羽田空港第3ターミナル）


入国後バス乗車時の様子（羽田空港第3ターミナル）

飲食・物品協賛

1 飲食計画

基本方針

大会に関する飲食については、原則、選手団等が自ら手配することとしているが、世界中から集まる選手団及び競技スタッフ等が競技に集中できる環境を整えるため、アレルギー対応のほか、多様な食文化、特に、ポークフリー、アルコールフリーといったムスリムフレンドリー、ベジタリアン等にも対応することとし、地方会場も含めた21の各競技会場の特性に合わせて、きめ細かい飲食計画を立てることとした。

選手団への飲食提供

世界各国から多様な食文化等を持っている選手団等が集まることから、提供する飲食については成分表示（英語表記及びピクトグラム）を義務付けることで、アレルギー、ムスリムフレンドリー、ベジタリアン対応を行うとともに、朝食、昼食、夕食については以下のとおり対応した。

朝食

原則として、宿泊費に組み入れ、宿泊施設での提供を行った。一部の競技については、競技開始時間が早く宿泊施設では対応できないため、デフリンピックスクエア、有明コロシアムにて飲食が可能なスペースを確保し、11月13日から25日までケータリングにて提供を行った。また、レスリングについては計量後に朝食を取ることが競技の通例であることから、競技会場にてケータリングを提供することで対応した。



レスリング会場での朝食ケータリングの様子

朝食ケータリングのメニュー（ローテーション一覧）

種別	day 1	day 2	day 3	day 4	day 5
	品目	品目	品目	品目	品目
パスタ	トマトソース	バジル	和風（醤油ベース）	ペンネアラビアータ	ホワイトソース
卵料理	スクランブルエッグ	ゆで卵	玉子焼き	ほうれん草と卵の炒め物	オムレツ
野菜料理	温野菜	マッシュポテト	ラタトゥイユ	野菜炒め	チリコンカン
肉料理	グリルチキン（ソース別添え）	鶏むね肉（ソース別添え）	グリルチキン（ソース別添え）	鶏むね肉（ソース別添え）	グリルチキン（ソース別添え）
パン	食パン、ロールパン	バゲット、パンケーキ	食パン、パンケーキ	ロールパン、バゲット	食パン、バゲット
米	白米	白米	白米	白米	白米
スープ	コンソメスープ	コーンスープ	みそ汁	たまごスープ	中華スープ
その他	シリアル、ヨーグルト、バナナなど				

昼食

原則として、各国選手団の手配であるが、福島県、伊豆大島については、相当数の人数を同時に受け入れられる飲食施設が限られるため、あらかじめ対象の選手団に対して昼食予約を呼び掛け、競技会場近辺で適切に食事を提供できる体制を整えた。他の施設でも、近隣に飲食施設がない場合は、キッチンカーを手配し飲食できる環境を整えた。手配したキッチンカーについては、メニュー表の日英併記を義務付けるほか、アレルギー品目のピクトグラム表示もメニュー上に明記するとともに、毎日必ず、ムスリムフレンドリーやベジタリアンに対応したメニューを一品以上提供するように指示した。このように、アレルギー対策及びムスリムフレンドリーやベジタリアンに対して事前に対応していたことから、大会期間中にムスリムフレンドリーやベジタリアンの食に関する要望等は特段挙がらなかった。

その他、各国選手団が携帯電話等により、すばやく飲食施設やコンビニエンスストアの情報や地図を確認できるよう、二次元コードを大会サイト等に掲載した。

キッチンカーの様子



駒沢オリンピック公園総合運動場



京王アリーナＴＯＫＹＯ
（武蔵野の森総合スポーツプラザ）



日本サイクルスポーツセンター



Ｊヴィレッジ



東京アクアティクスセンター

キッチンカーの食数

出店場所	出店日	出店延べ台数	喫食総数
駒沢オリンピック公園総合運動場	11/17～19,21	12台	約2,400食
京王アリーナＴＯＫＹＯ （武蔵野の森総合スポーツプラザ）	11/16～21,23～25	26台	約2,000食
日本サイクルスポーツセンター	11/16～21,23,25	21台	約1,100食
Ｊヴィレッジ	11/12～25	41台	約3,800食
東京アクアティクスセンター	11/20～25	18台	約1,600食

夕食

原則として、各国選手団の手配であるが、必要に応じて公式旅行代理店にて宿泊施設や近隣飲食店での夕食の事前申込みを受け付けるとともに、競技終了が深夜に及ぶ場合にも対応できるよう、輸送ハブであるデフリンピックスクエア、有明コロシアムにて当日支払での夕食ケータリングの提供を有償で行った。夕食ケータリングは11月13日から25日まで提供し、利用数は、総数約1,950食、一日平均約130食であった。



デフリンピックスクエアでの夕食ケータリングの様子

夕食ケータリングのメニュー（ローテーション一覧）

種別	day 1	day 2	day 3	day 4
	品目	品目	品目	品目
肉料理	グリルチキン （ソース別添え）	鶏むね肉 （ソース別添え）	グリルチキン （ソース別添え）	鶏むね肉 （ソース別添え）
魚料理	サーモン	さば	白身魚	サーモン
麺or丼の具	カレー	パスタ（ソース別添え）	キーマカレー	パスタ（ソース別添え）
野菜料理	アスパラコーンソテー	カポナータ	ポテトサラダ	春雨ときゅうりの和えもの
サラダバー	グリーン＆トッピング	グリーン＆トッピング	グリーン＆トッピング	グリーン＆トッピング
パン	食パン、パンケーキなど	ロールパン、バゲットなど	バゲット、パンケーキなど	食パン、ロールパンなど
米	白米	白米	白米	白米
スープ	みそ汁	トマトスープ	わかめスープ	中華スープ
その他	シリアル、ヨーグルト、バナナなど			

選手団への飲料・補食の提供

アスリートをはじめ選手団等が競技に集中できる環境を整えるため、飲料・補食を提供した。後述する競技スタッフ等への弁当の提供と併せて業務委託を行うこととし、事業者を選定した。

競技会場においては、練習日から以下の飲料・補食を提供した。当初の想定以上の需要があったが、各競技会場担当等から細やかに状況を聞き取り、委託事業者と密に連携を取りながら、競技最終日まで適切に飲料・補食を提供することができた。提供数量等は以下のとおり。

種類（競技会場提供）	提供総数
惣菜パン（１日５種類）	約36,000個
エナジーバー（５種類）	約63,000本
果物（バナナ）	約42,000本
ペットボトル飲料	約170,000本

※提供総数は協賛者からの提供数を含む。

デフリンピックスクエアにおいても、選手団等に向けてIDカード発行開始日から飲料・補食等を提供した。カップ麺、カップスープ共に複数種類を用意し、ムスリムフレンドリーにも対応して提供できるよう配慮した。世界中から到着した選手団に対して、最初の「おもてなし」と位置付けられたほか、提供会場である国際交流棟内の国際会議室では、補食等を片手に、国を超えた選手団同士の交流や選手団とスタッフやボランティア等との積極的な交流が見られ、共生社会の実現が感じられる空間となった。

提供していた補食のいずれの種類についても、豚肉の使用について聞かれることが多くあったが、ムスリムフレンドリーとしてポークフリーの品物も用意しておいたことから、ピクトグラムでの掲示や直接説明することで、混乱なくスムーズに対応できた。特に、日本そばのカップ麺や、海産物を使用したカップスープやカップうどんが人気だったほか、カレー味のカップ麺は多くの選手団が手を伸ばし、連日要求する者が多かった。

カップ麺等については、残り汁などの残渣の処理が課題であったが、同施設内の飲食施設と契約し、既存設備を使用することで、環境に配慮した形で対応することができた。

大会中盤からは、輸送班と連携して各競技会場から余剰の補食をデフリンピックスクエアへ集約することで、消費期限内での適切な提供を可能とし、食品ロスをできる限り削減することができたとともに、デフリンピックスクエアでの補食の選択肢を増やすことができ、選手団からも盛況であった。提供数量等は以下のとおり。

種類（デフリンピックスクエア等提供）	提供総数
カップ麺（５種類）	約7,200個
カップスープ（４種類）	約3,600個
ミックスナッツ	約9,600袋
インスタントコーヒー	約6,900杯

※提供総数は協賛者からの提供数を含む。

また、協賛者から多くの飲料・補食の提供等をいただいた。いずれも並べた瞬間に多くの選手団が手を伸ばすほど、非常に好評であった。

企業名	提供・貸与物品等
アマゾンジャパン合同会社	ペットボトル飲料水 ペットボトル緑茶
大塚製薬株式会社	スポーツドリンク
株式会社スーパーアルプス	ペットボトル緑茶
株式会社ウォーターネット	ウォーターサーバー
一般社団法人 東京地区ライオンズ	エナジーバー
ダイタンホールディングス 株式会社	カップ麺
山崎製パン株式会社	惣菜パン
えびすや土産店	伊豆大島産和菓子
株式会社鼓月	スポーツ羊羹 和菓子
株式会社グランバー東京ラスク	焼き菓子

競技会場等における弁当の提供

国内・海外審判員、競技・メディカルスタッフ等に対して弁当の提供を行うこととし、飲料、補食と併せて業務委託を行った。

数量の決定については、各競技担当から個別にヒアリングを行った上で、複数回の食数調査を実施することにより、会場ごとの必要数に応じた発注を行えるように留意し、食品ロス削減について最大限の配慮を行った。また、海外審判員向けにムスリムフレンドリー、ベジタリアン対応を行うとともに、パン食の選択肢を増やし、ムスリムフレンドリー、ベジタリアン対応弁当を含めて原則４種類５食のローテーションとし、毎食多彩な内容から選べるようにした。弁当ガラは業務委託の中で回収を行った。

別途、職員、委託事業者等向けに有償にてあっせん弁当の手配を行った。弁当の数量は以下のとおり。

種類		総数	一日平均数量
審判員等向け弁当	昼食	約14,000食	約760食
	夕食	約2,400食	約130食
有償あっせん弁当	昼食	約8,500食	約450食
	夕食	約3,800食	約200食



審判員等向け 弁当提供の様子



競技会場での提供の様子



競技会場での提供の様子



デフリンピックスクエアでの提供の様子



各競技会場に設置したウォーターサーバー

2 各会場での飲食提供

各競技会場運営

事前準備（ストレージ確認、ブロックプラン検討）

競技会場ごとに、EDP及び会場担当職員と綿密に打ち合わせ、現地ロケハンの際に搬入口からストレージまでの動線、弁当・補食の配布場所等について認識を合わせた。その内容をブロックプランに落とし込み、内容に相違ないか確認し、競技会場運営を具体化していく中で、修正や変更があった場合には速やかに修正するとともに、委託事業者へ情報共有を行い、双方のマニュアルに相違がないよう調整した。

あわせて、複数回の食数調査を行うことで、各会場での必要数量の精緻化を行い、委託事業者へ随時情報共有することで、正確な数量を随時把握できるように努めた。

大会期間中の会場対応

大会期間中も問題なく対応できるように、運営体制及び連絡体制を整え、会場担当職員と飲食担当職員、飲食担当職員と委託事業者が、それぞれ密に連絡を取ることで、想定を大幅に上回る補食の需要や、競技スタッフ等の急な増減に伴う弁当数量の変更といった不測の事態にも速やかに対処できた。ただし、競技特性に応じた細やかな対応は一律の条件下ではなかなか難しかった。各競技会場のEDPが飲食の対応も併せて行うことで、いっそうスムーズに競技運営をすることができたと考える。

デフリンピックスクエア

事前準備（ストレージ等確認、ブロックプラン検討）

会場運営の委託事業者と打ち合わせ、現地ロケハンの際に搬入口から駐車場やストレージ及び各会場等までの動線、練習会場での弁当及び国際会議室での補食の配布場所、ケータリング会場等について認識を合わせた。また、施設管理者、ケータリング事業者とも密に打ち合わせることで、不足のないように対応を行った。

大会期間中の対応（国際会議室での飲料・補食の提供及びレセプションホールでのケータリングの提供）

大会期間中も問題なく対応できるように、運営体制及び連絡体制を整え、飲食担当職員と委託事業者が密に連絡を取ることで、想定を大幅に上回る補食の需要といった不測の事態にも速やかに対処できた。また、国際交流棟で従事するボランティアに従事場所やシフトも含めて柔軟に対応してもらうことで、想定を大幅に上回る国際会議室での補食の需要にもスムーズに対応できたほか、選手団等とも積極的に交流していた。

ただし、国際会議室の電力供給量と湯沸かし頻度の都合上、関係施設に迷惑をかけることもあり、想定使用量や準備する補食種類の具体的な想定等が必要であった。選手団には温かい飲食物が非常に好まれたことから、温かい飲食物を別の形で提供することも併せて検討するべきであったと考える。

レセプションホールでのケータリングの提供については、動線の明示や掲示を行うことで、特に夕食に関して事前支払の有無に係る混乱も生じずに受付することができ、スムーズに運営することができた。

輸送拠点

事前準備（ストレージ確認、ブロックプラン検討）

会場運営の委託事業者と打ち合わせ、現地ロケハンの際に搬入口からの動線、補食の配布場所等について確認を行った。また、施設管理者、ケータリング事業者とも密に打ち合わせることで、不足のないように対応を行った。

大会期間中の対応

大会期間中も問題なく進むように、運営体制及び連絡体制を整え、担当職員と委託事業者が密に連絡を取ることで不測の事態にも速やかに対処できた。



有明コロシアムでの食事の様子

3 協賛物品の貨物輸送業務

協賛者から、前述の飲料・補食の提供等に加え、サービスに係る物品も以下のとおり提供いただいた。

これらの協賛物品のほか、都から選手団やボランティアへ配布する物品、各班が競技会場等で配布・使用する物品等を、事業団オフィスから各競技会場等へ輸送するため、貨物輸送の業務委託を行った（以下「行きロジ」という。）。

協賛者からの主な提供物品一覧
（選手団への飲料・補食以外）

企業名	提供・貸与物品等
株式会社アシックス	スタッフユニフォーム等
トヨタ自動車株式会社	車両
ソフトバンク株式会社	選手団用SIMカードほか通信機器等
株式会社ＴＢグループ	LED大型ビジョン
アデッソ株式会社	振動クロック
株式会社ＴＯＷＡ	LED電光掲示板

行きロジ貨物輸送個数

貨物輸送種類	数量
デフリンピック準備運営本部送付物品	約1,200箱
ペットボトル飲料	約4,500ケース

協賛物品（大会期間中の使用の様子）



ユニフォームを着用するボランティア



LED大型ビジョンでの鑑賞の様子



選手団輸送に使用した車両



LED電光掲示板での案内の様子



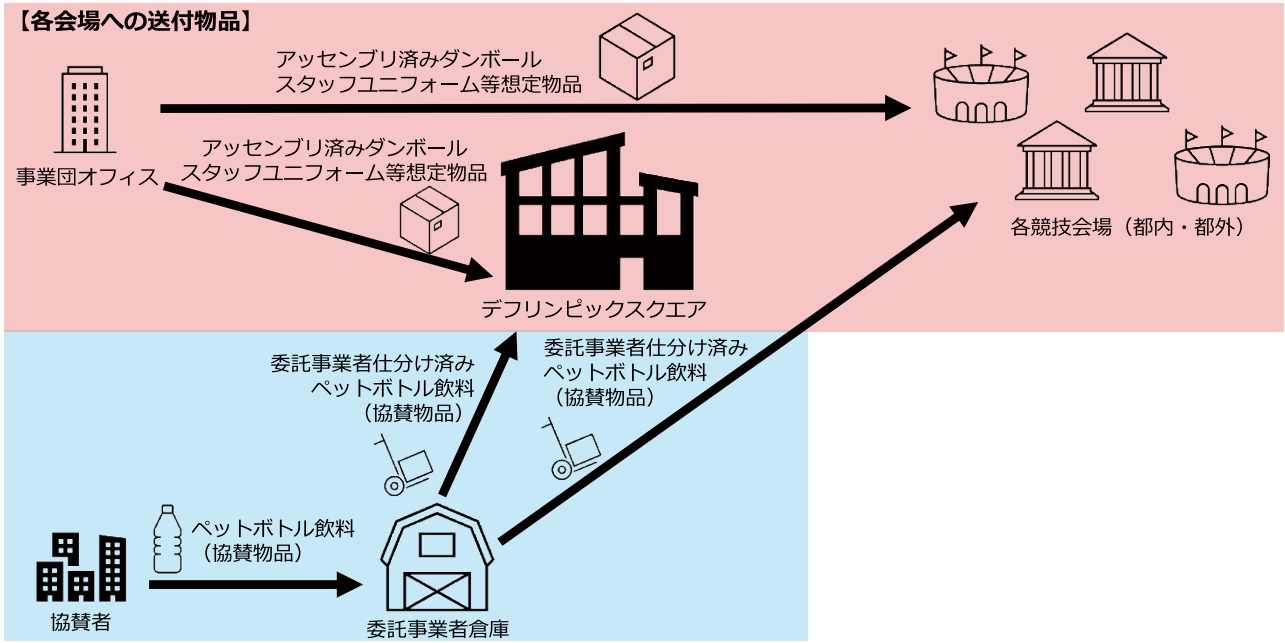
選手団へ配布したSIMカード



音ではなく振動で知らせる目覚まし時計

貨物輸送に関する考え方

行きロジ委託範囲

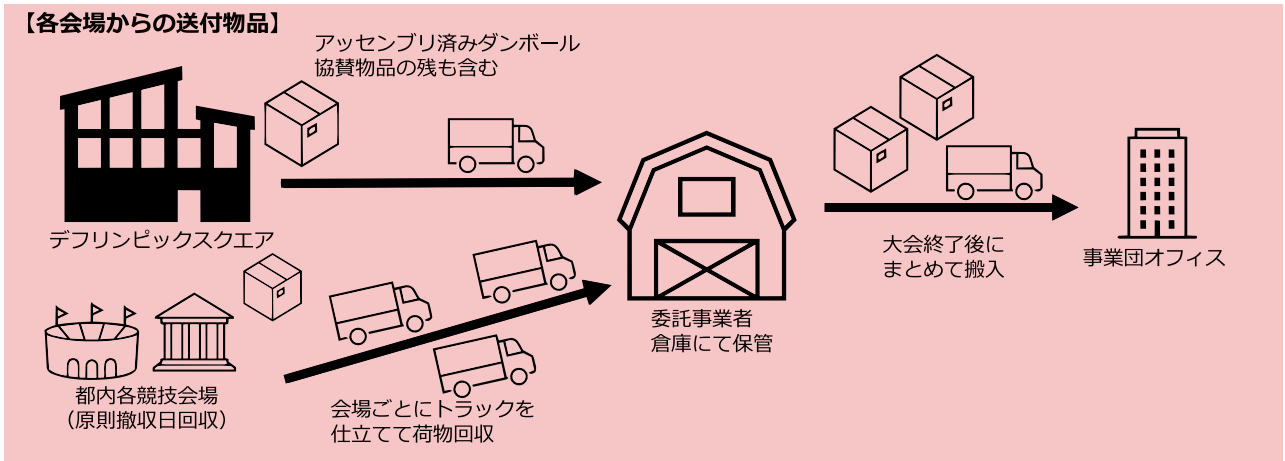


また、行きロジで各競技会場等に輸送したこれら協賛物品等のうち、大会終了後に各会場で処分できなかった残余物については、事業団オフィスへ返送する必要があるため、大会終了後の貨物輸送業務委託も行った（以下「戻りロジ」という。）。

戻りロジの業務委託に当たっては、物量等把握するため、各会場担当に事前に調査を行うなど、綿密に計画を立てた。大会終了後は、競技終了日や会場撤収日に各会場から物品を回収し、１か所に集約した後、まとめて事業団オフィスへ輸送するとともに、識別しやすいよう保管エリアに競技ごとに仕分けして搬入を行った。なお、戻りロジの物量は合計約1,300箱であった。

貨物輸送計画

戻りロジ委託範囲



都外会場は原則会場で完結
必要な場合別途会場で対応

救護サービス

1 医療救護の基本方針

大会における医療救護基本方針として、大会に参加する選手、大会関係者及び観客等の怪我や病気の発生に速やかに対処するため、関係機関からの協力を得て、応急処置及び医療機関への搬送の実施等に必要な救護体制を整えることを掲げた。

そして、「大規模イベントにおける医療・救護計画策定ガイドライン（2019年３月　都福祉保健局）」等を基に、救護体制整備の考え方を、以下のとおり整理した。

①消防機関・医療機関等と事前に十分な連絡調整を行い、密接な連携のもとに救護体制を整える。
②アスリート・ファーストの視点を持ちつつ、大会の全ての関係者の人命救助を最優先する。傷病者の生命・安全の確保を第一とし、救護所で応急処置を行い、必要により医療機関へ搬送する。
③会場にいる全てのきこえない人・きこえにくい人との救護面のコミュニケーション（情報保障）についても、十分な配慮を行う。
④競技特性や参加人数等を踏まえ、費用対効果の視点から経費を精査する。
⑤地域医療に大きな負荷を与えないように、大会規模に即した救護体制を整備する。

2 会場医療救護計画の策定

医療救護基本方針を踏まえ、各会場における救護所配置、救護スタッフ数、医療機関・消防機関との連携方法等を整理した会場別医療救護計画を、計24計画（対象22会場）策定した。大規模かつ多会場同時進行の大会であったことから、全会場を横断的に管理できる運営体制を整え、会場ごとの条件や運営差を吸収しつつ、全体として統一した救護水準を維持できる仕組みを構築した。

3 大会開催に備えた体制整備

メディカルアドバイザーの選任

東京2025デフリンピックではメディカルアドバイザーとして、全日本ろうあ連盟スポーツ委員会医科学委員会の立石智彦医師を選任した。同医師は、過去のデフリンピック帯同経験を有し、全会場の医療救護計画策定、競技特性に応じた医療リスク評価、デフアスリートの特性を踏まえた救護対応の専門的助言を行った。

救護スタッフの確保

開閉会式会場には（公社）東京都医師会より、各競技会場には（公財）東京都スポーツ協会、各競技団体等より協力を得るとともに、救護所運営業務受託事業者からの派遣により医師188ポスト（82人）、看護師344ポスト（89人）、救急救命士193ポスト（54人）、アスレティックトレーナー及び柔道整復師等103ポスト（36人）の計828ポスト（261人）を配置した。これらの救護スタッフは、救護所での観察、応急処置、救急要請判断等を担った。

また、競技会場等の救護所には、競技特性に応じた必要な救護物品を配備した。

医療救護運用体制の整備

本大会は多会場同時進行であったことから、全会場の状況を把握しつつ、必要な調整を円滑に行う仕組みが必要であった。このため、各会場のメディカルリエゾン、MOCに配置された救護所運営統括管理者等及び同本部内のメディカル班が連携する体制を整備した。

各会場にはメディカルリエゾンを１～２人配置し、会場医療救護計画を把握した調整役として、救護スタッフからの相談、会場運営本部スタッフとの連絡調整、救護事案発生時の初動連絡等を担った。メディカルリエゾンは医学的判断を行わないものの、救護計画に基づく運用手順を即時に説明できたことから、現場の円滑な運営に寄与した。

また、メディカルリエゾンで対応が難しい案件は、救護所運営統括管理者等が受け止め、必要に応じてメディカル班職員と協議し、対応方針を決定した。

メディカル班からの指示は、救護所運営統括管理者等からメディカルリエゾンを経由して現場の救護スタッフに徹底される運用とした。この体制により、各会場とMOCとの情報伝達が途切れることなく行われ、事案発生時にも統一的な方針の下で対応が進む仕組みを確保することができた。

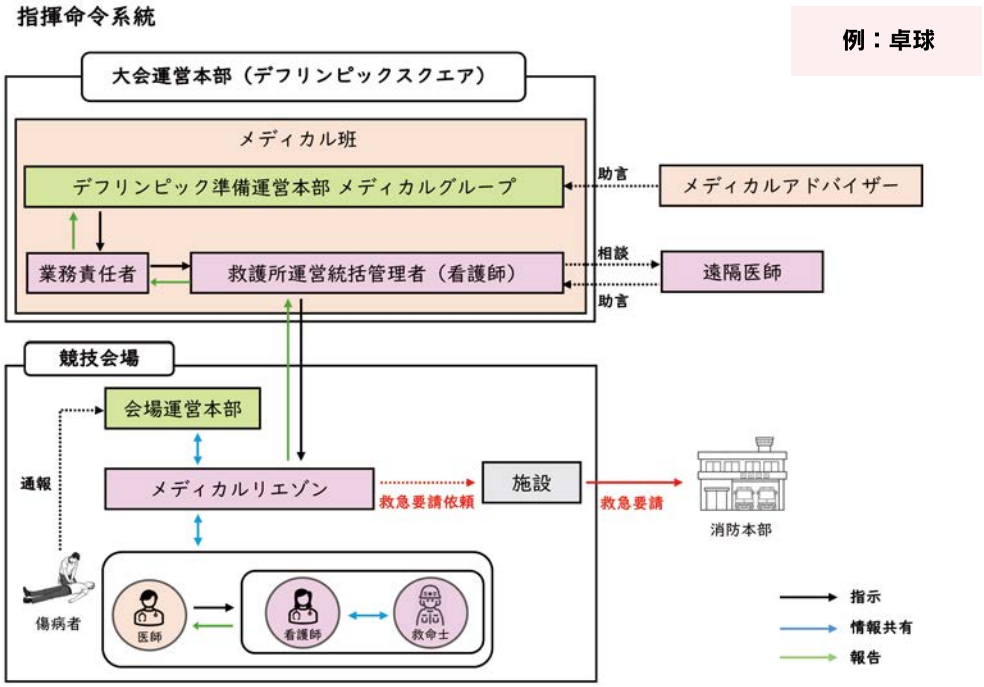
大会協力医療機関との連携

各会場には１～２か所の大会協力医療機関を指定し、受入体制を事前に調整した。都内会場は（地独）東京都立病院機構及び東京慈恵会医科大学附属病院と調整の上、都立病院及び同附属病院を指定し、伊豆大島会場では大島医療センター、福島会場ではJFAメディカルセンター整形外科クリニック及びふたば医療センター附属病院、静岡会場では順天堂大学医学部附属静岡病院を指定した。あわせて、周辺の救急告示医療機関とも情報共有を行い、搬送受入に支障が生じないよう体制を整備した。

消防機関等との調整

救急搬送対応等については、東京消防庁、大島町消防本部、双葉地方広域市町村圏組合消防本部及び駿東伊豆消防本部と事前に調整を行い、大会規模や競技特性に応じた必要な警戒体制と救急車両等の配置を検討・整備した。これらの調整により、全会場で円滑な救急搬送体制を確保することができた。

一方、地域医療・消防体制への負荷を最小化する観点から、福島県及び静岡県の会場には民間救急車を大会期間を通じて配置し、現地の消防機関と連携して搬送体制を補完した。



指揮命令系統図の例

情報保障

過去のデフリンピックにおいて出場経験のあるデフアスリートや、日本選手団への帯同経験のある医師等が参画する、全日本ろうあ連盟スポーツ委員会医科学委員会への事前ヒアリングを通じ、きこえない・きこえにくい人が医療場面で抱える心理的負担や必要となる配慮事項を把握し、その知見を基礎として大会の医療救護に適した情報保障ツールを整備した。本ヒアリング結果等を受け、本大会では、情報保障について単一のツールに依存するのではなく、複数のツールを状況に応じて使い分けることを基本的な考え方とした。

各会場の救護所には、筆談ボード、指差しボード、デフリンピック専用コミュニケーションボードを配備した。各会場に配置したデフリンピック専用コミュニケーションボードについては、後述するメディカルミーティング等を通じて各競技団体の救護スタッフ等から要望を収集し、事業団において内容を精査の上作成し、各救護所に配置した。

また、約90言語に対応した翻訳機を救護スタッフに１台ずつ携行させ、幅広い言語に対応できる環境を整えた。きこえない人・きこえにくい人への対応においては、必要に応じて付添人を介しつつ翻訳機を活用し、円滑なコミュニケーションを図った。これらの情報保障ツールは、救護場面における不安の軽減や処置の迅速化に寄与したとの評価が救護スタッフ等を通じて多く寄せられた。医師等が必要と判断した場合には、各会場に配置された手話言語通訳者を招集できるよう運用を調整した。メディカル専従の手話言語通訳者を配置することは困難であったものの、事前に整備した情報保障ツールと会場に配置されている手話言語通訳者との連携により、きこえない・きこえにくい人に対しても、適切なコミュニケーション支援を提供できる体制を確保した。

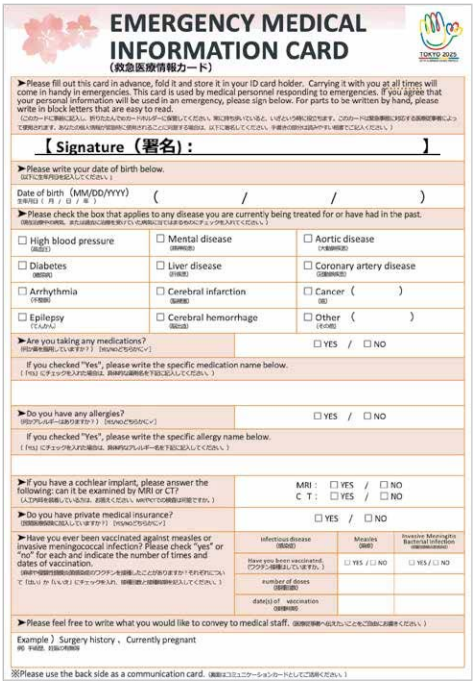
さらに、情報保障の新たな試みとして、救急医療情報カードを用意し、緊急時に救護スタッフが活用できるように工夫した。本カードはIDカード発行時に合わせて配付し、記載は任意とした。表面には、本人の氏名、生年月日、持病、処方薬、アレルギー、医療保険加入状況、ワクチン接種状況等を記載してもらい、対象者は選手団等とした。裏面には、医療機関受診時や症状を周囲に伝える場面等を想定したイラスト入りの指差しボードを掲載した。付添人がいない状況や意識障害時に、救急隊や救護スタッフ等が必要最小限の医療情報を把握し、医療機関へ円滑に引き継ぐことを想定して運用した結果、緊急時における情報伝達の補完手段として有効な仕組みを構築することができた。



翻訳機の活用例



コミュニケーションボードの活用例


EMERGENCY MEDICAL INFORMATION CARD
（救急医療情報カード）

【 Signature（署名）: 】

Date of birth（MM/DD/YYYY）

☐ High blood pressure ☐ Mental disease ☐ Aortic disease
☐ Diabetes ☐ Liver disease ☐ Coronary artery disease
☐ Arrhythmia ☐ Cerebral infarction ☐ Cancer（ ）
☐ Epilepsy ☐ Cerebral hemorrhage ☐ Other（ ）

Are you taking any medications? ☐ YES / ☐ NO
If you checked "Yes", please write the specific medication name below.

Do you have any allergies? ☐ YES / ☐ NO
If you checked "Yes", please write the specific allergy name below.

If you have a cochlear implant, please answer the following: can it be examined by MRI or CT?
MRI： ☐ YES / ☐ NO
CT： ☐ YES / ☐ NO

Do you have private medical insurance? ☐ YES / ☐ NO

Have you ever been vaccinated against measles or invasive meningococcal infection? Please check "yes" or "no" for each and indicate the number of times and dates of vaccination.

	Infectious disease	Measles	Invasive Meningitis Bacterial Infection
Have you been vaccinated?		☐ YES / ☐ NO	☐ YES / ☐ NO
number of doses			
date(s) of vaccination			

Please feel free to write what you would like to convey to medical staff.
Example）Surgery history 、Currently pregnant

※Please use the back side as a communication card.

救急医療情報カード（表面）


COMMUNICATION CARD
コミュニケーション カード
※Please use the diagram below to express what you want to convey.

① Means of communication
Sign language
Written communication
Translation machine
Voice conversation

② Degree of pain and unwell
I feel pangs
I feel pain
1 2 3 4 5

③ Type of pain
Chest pain
Headache
Stomachache
Lower back pain

④ First aid goods
Wheelchair
First aid kit
Ice

⑤ Place
First aid station
Pharmacy
Toilet
Hospital

⑥ Transportation
Taxi
Ambulance
Public transport

⑦ Payment method identification papers
Credit card
Money(JPY)
Identification papers

Declaration of intention
YES
NO

Emergency and Medical Consultation Service
If you are not feeling well, nurses are available for medical consultations by phone or email. Multilingual support available.
For more details, please scan the QR code below.

TOKYO 2025 DEAFLYMPICS

救急医療情報カード（裏面）

メディカルミーティング

大会前に、競技ごとにオンライン形式でメディカルミーティングを実施した。このミーティングでは、大会全体の救護体制と基本方針を確認し、各競技の会場特性を踏まえた救護対応要領や搬送経路、救急隊への引継手順、救護スタッフの役割分担について周知徹底した。

また、全日本ろうあ連盟スポーツ委員会医科学委員会へのヒアリング内容を反映した資料を用意し、デフアスリートの特徴や考え方を踏まえた対応、救護で使用する初歩的な日本手話言語や国際手話、情報保障について、重点的に取り上げ、デフアスリートとのコミュニケーション方法を救護スタッフに周知した。さらに、質疑応答や意見交換を行い、スタッフが不安を解消し、大会時に迅速かつ確実な対応ができる体制を整えた。

救急・医療機関受診相談窓口の運用

大会期間中、選手団等を対象に24時間対応・多言語（23言語）対応の医療相談窓口を設置し、周知した。きこえない・きこえにくい人にも対応できるよう、電話に加えメール・FAXでの相談を受け付け、医療機関案内や受診目安の助言を行った。相談件数は計22件（電話16件、メール6件）であった。

内訳は医療機関案内が15件、医療廃棄物及びドーピング等に関するその他の問合せが4件、状況聴取中に電話切断等、詳細不明の連絡が3件であった。また、選手等から会場救護所に医療機関の照会があった場合、同窓口へ誘導する運用とした結果、当該ルートを介した相談が8件発生した。これにより、現場救護スタッフの負担軽減と、救護所から相談窓口へのスムーズな引継ぎが図られた。

救命救急に関する講習

デフリンピック準備運営本部の職員が、応急手当の基礎的知識と技能を身につけられるよう、2025年５月に（公財）東京防災救急協会の協力を得て、心肺蘇生やAED使用方法等を内容とする救命講習を実施した。受講した職員は、大会期間中の傷病者発生時の初動対応に必要な基礎的知識を習得した。これにより、救護スタッフのみならずMOCとしても、緊急時に備えた対応力を確保した。

感染症対策

大会期間中における選手団等の感染拡大防止のため、東京都保健医療局感染症対策部防疫課、福島県保健福祉部感染症対策課、静岡県健康福祉部医療局感染症対策課と感染症対策に係る事前調整を行った。

都の各保健所に対しては、東京都保健所長会、特別区保健衛生主管部長会、特別区保健予防課長会及び保健対策関係課長会を通じて、大会に関する必要な情報提供を実施した。また、島しょ保健所大島出張所、福島県相双保健所、いわき市保健所、静岡県東部保健所についても、同様に大会に関する情報共有を行った。

これらの調整により、各自治体・保健所においては通常業務体制を維持しつつ、MOCとの連絡体制を確保するとともに、全数把握すべき対象疾患の各種調査などに迅速に対応できる体制を構築した。

さらに、選手団等には大会サービスガイドや選手団専用ページにて日本の感染症の流行状況をアナウンスし、基本的な感染防止対策、感染症罹患時の報告方法、接種推奨ワクチンなどについて情報提供を行った。

4 救護対応実績

大会期間中、救護スタッフが関与した救護事案は646件であった。このうち、医療機関への搬送を要した事案は23件であり、内訳は 救急自動車による搬送16件、民間救急車による搬送７件であった。会場別の救護件数及び搬送件数等の詳細は、右表のとおりである。

注1 本表の「選手以外」には、役職・身分を問わず大会関係者（スタッフ、役員、審判、ボランティア等）及び観客を含む。

注2 外傷とは、外力により生じた損傷をいう。筋痙攣、慢性疼痛、疲労回復目的のアイシング、外傷エピソードのないテーピング等、外力を伴わない症状・対応は疾病として分類した。

注3 現場処置等とは、救護スタッフが対応した救護事案のうち、救急搬送又は民間救急搬送に至らなかった事案をいう。医療機関案内、氷・包帯・冷却材・テーピング用品等の救護物品の提供のみ、相談のみといった医学的処置を伴わない事案も、救護スタッフが判断した対応として現場処置等に含む。

注4 病態区分が「不明」となる現場処置等は、本人が来所しておらず救護物品のみが受け渡された事案、又は外傷・疾病の判断に必要な情報が得られなかった事案をいう。

注5 本表の数値は救護記録に基づく延べ件数であり、同一傷病者が複数回来所した場合でも、その都度１件として計上した。

注6 救急搬送とは、119番通報に基づき消防救急隊が搬送した事案をいう。民間救急搬送とは、救護スタッフが医療機関受診を必要と判断し民間救急車で搬送した事案をいう。

会場	選手						選手以外					総計
	外傷			疾病		不明	外傷		疾病		不明	
	現場処置等	救急搬送	民間救急搬送	現場処置等	救急搬送	現場処置等	現場処置等	救急搬送	現場処置等	救急搬送	現場処置等	
陸上競技（トラック＆フィールド）	23	1		20		1	20		1	2	1	69
陸上競技（ハンマー投・練習）						2	2	1			1	6
陸上競技（マラソン）	3			6								9
バドミントン	17			4		1			3		1	26
バスケットボール	14	3		8		2	1	2	10			40
ビーチバレーボール	16			3		2	6				1	28
ボウリング	1						1		5			7
自転車競技	8	2		3			1		1			15
サッカー	6		7	12		2			3		1	31
ゴルフ	1						6		2			9
ハンドボール	3			1		1	5		5			15
柔道	33						2		1			36
空手	50			4			4		1			59
オリエンテーリング（ミドルディスタンス等）	26			1		1	2					30
オリエンテーリング（スプリントディスタンス等）	2								1			3
射撃				1					2	1		4
水泳	3			12			2		5			22
卓球	9			12		5	2		7			35
テコンドー	13			4			6		5			28
テニス	7			7			1		2			17
バレーボール	9			6			2					17
レスリング	60	1		29	1	10	3		6		1	111
開閉会式	3			2				1	3		1	10
デフリンピックスクエア（練習）	2			1		1	5	1	7		2	19
総計	**309**	**7**	**7**	**136**	**1**	**28**	**71**	**5**	**70**	**3**	**9**	**646**

警備

1 警備計画の策定

競技会場内等の事件・事故等の未然防止及び発生時における事態の収拾を図り、選手や観客の安全を守るため、警視庁、静岡・福島各県警との協議を重ね、自主警備計画を策定した。

2 警備体制・取組

開閉会式

IDカードの目視確認によるアクセスコントロール、巡回警備による不審者・不審物の早期発見、各種トラブルの未然防止に努めるとともに、待機員・遊軍員を活用した有事即応体制を確立した。また、来場者に対する手荷物検査・金属探知機によるボディチェック、諸室や動線上における各種規制を行い、皇族及び警護対象者の御身辺の安全を確保した。

競技会場

通常警備

競技実施日において、IDカードの目視確認によるアクセスコントロール、巡回警備による不審者・不審物の早期発見、各種トラブルの未然防止に努めるとともに、待機員・遊軍員を活用した有事即応体制を確立した。

特別警備

皇室、警護対象者の御来場時には、前述の通常警備に加え、来場者に対する手荷物検査・金属探知機によるボディチェック、諸室や動線上における各種規制を行い、御身辺の安全を確保した。

※特別警備実施日・会場は資料編「競技御覧等一覧・競技視察一覧」参照

デフリンピックスクエア

通常警備

選手の入出国に合わせて、11月11日から28日まで、巡回警備を実施し、不審者・不審物の早期発見、各種トラブルの未然防止に努めるとともに、待機員・遊軍員を活用した有事即応体制を確立した。

特別警備

秋篠宮皇嗣妃殿下の御来場時には、前述の通常警備に加え、来場者に対する手荷物検査・金属探知機によるボディチェック、諸室や動線上における各種規制を行い、御身辺の安全を確保した。

3 治安機関との連携

治安機関からの職員派遣により、大会前から連携し、大会期間中の警備に万全を期した。また、テコンドー会場である中野区立総合体育館では、大会前に会場管轄警察署である野方警察署との合同訓練を実施し、大会期間中における緊急時対応等の連携強化に努めた。







アクセスコントロール



野方警察署との訓練状況



金属探知機によるボディチェック

会場装飾

1 コンセプト

会場装飾における基本的な考え方は、以下のとおりとした。

・大会メインカラーの桜色を基調とした統一感のあるデザインを使用し、大会の盛り上げに寄与する。
・FOP周りに大会ロゴバナーを配置し、選手が高いパフォーマンスを発揮するとともに、高揚感を得られる空間を創出する。また、デザインは、視覚情報が重要なデフリンピックの特性を踏まえ、競技の妨げにならないシンプルなものとする。
・会場の入口付近は桜の会場装飾デザインを用いたのぼりを配置し、会場に訪れる観客や選手を桜並木で出迎える演出とする。
・アスリートや観客等、会場に訪れた方々の撮影ポイントとしても活用し、また、メディアへの映り込みを考慮することで、大会をより一層印象づける。

さらに、観客や選手が大会の会場に来たと実感できるよう、各会場の特性に応じたフォトスポットを設置した。これにより、来場者がSNS等で大会の様子を発信し、世界中の人々の目に触れ、デフリンピックの魅力を広く周知できる環境を整備した。

2 装飾一覧





のぼり



フォトスポット



京王アリーナＴＯＫＹＯ（武蔵野の森総合スポーツプラザ）
（バドミントン）



A型ボード



東京武道館（柔道・空手）



京王アリーナＴＯＫＹＯ（武蔵野の森総合スポーツプラザ）
（バドミントン）



フォトスポット



駒沢オリンピック公園総合運動場体育館
（バレーボール）

持続可能性

大会を計画、運営するに当たり、様々な場面で持続可能性に配慮した取組を行った。

1 3R（リユース・リデュース・リサイクル）の推進

物品等の調達に当たっては、可能な限りリースやレンタルを活用することとし、事業団のオフィスやデフリンピックスクエア、各競技会場等の什器の大部分はリースにより調達した。また、タラフレックス等の特殊な競技備品についても、購入することを避けるため、競技団体等からレンタルするなど、工夫して調達を行った。

さらに、表彰式で使用する表彰台やトレイは、リサイクル可能な材料で製作するとともに、購入等により調達した競技物品については、競技団体や会場に寄附するなど、リサイクルにも取り組んだ。



会場等に設置したウォーターサーバー

2 プラスチック削減

2024年11月に開催した団長セミナーの全体会において、各国選手団に配布する水をペットボトルではなく再生可能な紙パックで配布し、取組をPRした。大会期間中においては、デフリンピックスクエアの諸室や各会場にウォーターサーバーを設置するとともに、選手やボランティアに対し、マイボトルを配布した。また、ボランティアには、使い捨て容器の弁当を配布する代わりに、飲食費相当をデジタルギフトで支給するなど、プラスチック削減に加えて食品ロス防止にも努めた。



紙パックの水

3 省エネルギー・再生可能エネルギー

一部の競技会場において、太陽光発電設備、太陽熱利用設備及び地中熱利用設備を導入済みであることに加え、各競技会場においては、空調及び照明の適切な管理を徹底し、省エネルギーに努めた。

また、都環境局の実装検証事業として、卓球及び開閉会式の会場となった東京体育館において、次世代型太陽電池（以下、「Ａｉｒソーラー」という。）を搭載した庭園灯を設置したほか、デフリンピックスクエアにおいて、Ａｉｒソーラーで発電した電力を用いて、デフリンピックスクエア内選手交流エリアにて提灯の明かりとして活用するなど、再生可能エネルギーとしてＡｉｒソーラーのPRを実施した。さらに、一部の選手輸送に当たっては、都交通局と連携し環境に配慮した燃料電池バスも使用した。



Ａｉｒソーラーの展示（デフリンピックスクエア）



Ａｉｒソーラーで発電した電力で点灯した提灯


東京体育館に設置された庭園灯

大会を通じた各種PR

本大会は、競技会場等がある都内及び静岡県・福島県をはじめとする各自治体、大会を支える協賛者をはじめとする多くの団体と連携することで、デフリンピック・ムーブメントを広げ、きこえない・きこえにくい人ときこえる人との交流の輪をつなげていくことができた。

1 ブース出展

大会期間中、開閉会式会場や各競技会場、デフリンピックスクエアにおいて、協賛者や連盟、都、地元自治体等が取組を紹介するPRブースを出展した。



駒沢オリンピック公園総合運動場


デフリンピックスクエア

出展実績

No.	会場	競技名等	出展数	出展団体
1	東京体育館	開会式	12	協賛者、全日本ろうあ連盟、東京都、渋谷区
2	東京体育館	閉会式	11	協賛者、全日本ろうあ連盟、東京都、渋谷区
3	東京体育館	卓球	17	協賛者、全日本ろうあ連盟、東京都、渋谷区
4	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	陸上競技	12	協賛者、全日本ろうあ連盟、東京都
5	駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場	ハンドボール	3	協賛者、東京都
6	駒沢オリンピック公園総合運動場体育館	バレーボール	9	協賛者、東京都
7	大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場	陸上競技（ハンマー投）	3	協賛者、東京都、品川区
8	東京高速道路及び首都高速道路高速八重洲線の一部	陸上競技（マラソン）	3	協賛者、東京都、中央区
9	大田区総合体育館	バスケットボール	6	協賛者、東京都
10	大森ふるさとの浜辺公園	ビーチバレーボール	2	東京都、競技団体
11	日比谷公園・日比谷エリア	オリエンテーリング	1	東京都
12	有明テニスの森	テニス	3	協賛者、東京都
13	東京アクアティクスセンター	水泳	8	協賛者、東京都、江東区、愛知県
14	若洲ゴルフリンクス	ゴルフ	1	東京都
15	東京武道館	柔道	3	協賛者、東京都、足立区
16	東京武道館	空手	4	協賛者、東京都、足立区
17	中野区立総合体育館	テコンドー	3	協賛者、東京都、中野区
18	京王アリーナＴＯＫＹＯ （武蔵野の森総合スポーツプラザ）	バドミントン	6	協賛者、東京都、府中市、調布市、東京法務局
19	府中市立総合体育館	レスリング	4	協賛者、東京都、府中市、東京法務局
20	東大和グランドボウル	ボウリング	2	東京都、東大和市
21	伊豆大島（裏砂漠）	オリエンテーリング	1	東京都
22	日本サイクルスポーツセンター	自転車競技	6	協賛者、全日本ろうあ連盟、東京都、静岡県、競技団体
23	Ｊヴィレッジ	サッカー	5	協賛者、東京都、福島県
24	国立オリンピック記念青少年総合センター	デフリンピックスクエア	45	協賛者（みるTech含む）、全日本ろうあ連盟、東京都、東京都スポーツ文化事業団、筑波技術大学、東京消防庁

※「味の素ナショナルトレーニングセンター・イースト」については、利用対象が限定され、セキュリティの管理も厳しいことから、ブースの出展を行っていない。

2 都の各種取組

東京観光PR

世界中から大きな注目が集まる東京2025デフリンピックの開催の機会を捉え、大会と観光PRを組み合わせたデザイン（ルック）を制作し、競技会場付近の鉄道駅や空港等を装飾することで、東京の魅力を一層強力に発信した。また、東京2025デフリンピックの開催を積極的に活用し、全世界に向けた東京ブランドの認知と訪都旅行の促進につなげるため、Tokyo Tokyoのアイコンが入ったステンレスボトルをデフリンピック出場選手等約6,000人に贈呈した。

デフリンピックスクエアにおいては、小ホール前のホワイエにて、東京観光案内ブースの設置及びアニメカルチャーの発信として、アニメ東京ステーションの紹介及び人気作品『機動戦士Gundam GQuuuuuuX -Beginning-』の展示を実施した。そのほか、海外の選手など大会関係者向けに実施した書道パフォーマンス（小ホール）、和太鼓演奏（小ホール）及び阿波踊り（小ホール及びリフレッシュメントルーム）を通して日本文化を体感してもらったほか、デフリンピックスクエア発着の都内の名所を巡る観光バスツアーを11月20日から25日の間で実施し、6日間で計261人が参加した。ツアー中のガイドの説明に当たっては、多言語音声文字化アプリを活用するなど情報保障対応も実施した。



選手や大会関係者に配布したボトル



大会と観光PRを組み合わせたデザイン（ルック）



観光案内ブース・アニメ展示の様子©創通・サンライズ


観光バスツアーの様子


書道パフォーマンスの様子（小ホール）


和太鼓演奏の様子（小ホール）


阿波踊りの様子（リフレッシュメントルーム）

芸術文化発信

デフリンピックスクエアの小ホール（２日間４公演）及びにぎわいエリア（中央広場）（土日祝）において、ヘブンアーティストがパフォーマンスを披露するとともに、11月23日には、障害の有無にかかわらず活動する多ジャンルのアーティストに加え、事前ワークショップに参加した子どもたちが参画し、作り上げた「舞響詩『田園』～踊る、鳴らす、詩（うた）う～」の公演を実施した。

このほか、大会運営エリア（センター棟）及び文化・技術発信エリア（カルチャー棟）において、東京都華道茶道連盟による華道展示を実施した。

また、デフリンピックの文化プログラムとして２つのアートプロジェクトを実施した。

11月26日から30日にかけて東京芸術劇場プレイハウスにて、東京2020パラリンピック開会式のパフォーマンスの中心を担った森山開次さんや和合由依さんらが再集結し、障害の有無を超えて、誰もがあらゆる感性で楽しめることを目的に創作された舞台「TRAIN TRAIN TRAIN」を上演し、計2,879人が来場した。

11月29日には東京文化会館大ホールにて、「ろう者とろう文化に対する社会的認知」と「ろう者と聴者が互いに共通理解を図ること」を目的として創作された、きこえない人ときこえる人が遭遇する舞台作品「黙るな 動け 呼吸しろ」の公演を実施し、計1,603人が来場した。また、その創作過程も記録し、発信した。

芸術文化を通じて大会を盛り上げるとともに、共生社会の実現に向けた歩みを進めた。



ヘブンアーティスト公演（小ホール）



ヘブンアーティスト公演（にぎわいエリア）



黙るな 動け 呼吸しろ
（撮影：加藤甫 川島彩水）



舞響詩「田園」



TRAIN TRAIN TRAIN
（撮影：宮川舞子）



華道展示

エシカル消費PR

国際的スポーツ大会であるデフリンピックにエシカルな要素を取り入れ、持続可能な都市・東京をPRするため、環境に配慮した素材で制作したエシカルグッズ（ボランティア向けマイボトル、ボトルホルダー及び子供観戦事業参加者向けネックストラップ、IDホルダー）を配布した。

また、大会期間中である2025年11月22日～24日に、駒沢オリンピック公園中央広場にてスポーツFUN PARK、スポーツフェスタと共にTOKYOエシカルマルシェを開催し、持続可能な都市・東京を発信するとともに、大会の盛り上げに寄与した。



ボトルホルダー


マイボトル



ネックストラップ

銭湯PR

東京2025デフリンピックの開催を積極的に活用し、全選手・関係者及びボランティアに対して銭湯の歴史や入浴マナーの紹介と無料入浴ご招待券を印刷した熨斗紙付きの手ぬぐいを配布するなど、東京の多様な銭湯の魅力を発信した。また、江戸東京の文化発信として、デフリンピックスクエアでは銭湯を紹介するブースを設置し、銭湯のPR動画などでPRを実施するとともに、各競技会場等にて割引入浴券付きのリーフレットも配布した。



銭湯の紹介（銭湯PRブース）



無料入浴ご招待券付き手ぬぐい

ツナグルマの展示

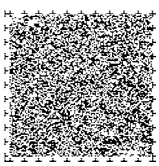
2025年11月26日閉会式当日、東京体育館西広場にて、『ツナグルマ』を展示した。ツナグルマは、日本の伝統技術、伝統文化を継承し、最先端テクノロジーを掛け合わせて未来へとつないでいくというコンセプトで制作された「未来の山車」である。亀をモチーフにした車体には、檜原産の杉等を活用した伝統的な櫓を載せるとともに、環境負荷に配慮したEVアシストを導入している。また、都の全ての区市町村名を記した提灯とLEDパネルを搭載しており、閉会式当日はLEDパネルで大会のダイジェスト動画を放映した。

多くの選手や観客がツナグルマの前に足を止め、記念撮影を行うなど、閉会式の盛り上げにも寄与した。来場者からは、「よい企画だと思います。感動しました」「今後の活動に期待します」などの好意的な声が寄せられた。





閉会式でのツナグルマの展示



第4章

大会スタッフ及びボランティア

大会スタッフ

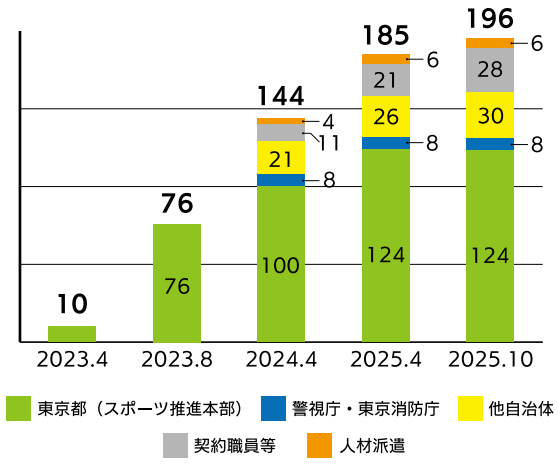
1 大会スタッフの確保

連盟と都が締結した協定で規定された分担に基づき、大会運営の中心となる競技・会場運営、宿泊、輸送などの運営実務は、都の政策連携団体である東京都スポーツ文化事業団が担うこととなった。事業団については、2023年４月に、東京都スポーツ文化事業団内にデフリンピック準備運営本部が設置された際は10人の職員でスタートしたが、その後大会本番に向けて体制の拡大を図り、2025年10月には、職員数は196人となった。

196人の職員のうち約120人は東京2020大会の経験者等も含む都スポーツ推進本部からの派遣職員であり、都内外の自治体（都内19区市、都外４自治体）からも30人の職員を受け入れた。この他にも、国際スポーツ大会の運営業務に関する知見や日本手話言語・国際手話のスキルなどを有する契約職員約30人を事業団で直接雇用するなど、民間企業等からの出向職員は受け入れずに、バックグラウンドの異なる多様な職員を確保し、適材適所による配置を行った。

さらに、大会直前期から本番時には、約600人の都等の応援職員を加え、大会運営及び大会を契機として実施する都事業に対応するための体制を構築した。

デフリンピック準備運営本部人員推移
（2023.4 ～ 2025.10）



※事業団への応援職員は、大会約１か月前に着任する職員、大会約1週間前に着任する職員、大会時のみ５日程度の業務応援を行う職員と、段階的に受入れを行った。

2 研修等の取組

適切なガバナンス体制を確保し、スポーツのフェアネスを体現した組織の構築を目的とした継続的なコンプライアンス教育や、大会運営に必要な知識・能力などを身に付けられるよう、事業団及び都において、手話言語をはじめとした実践的な研修を、職員を対象に実施した。

コンプライアンス研修

事業団において、ガバナンスの確保・コンプライアンスの遵守等の基本的なコンプライアンス意識の強化を図った。また、服務に関する注意喚起や、利益相反管理、契約・調達における情報管理・留意事項、個人情報管理等に関する研修を実施し、事業団におけるコンプライアンス推進の理解を深め、意識の向上を図った。

手話言語研修

事業団において、職員の手話言語能力向上を図ることで、関係団体等とのコミュニケーション能力を高め、大会準備を円滑に進めることを目的とした日本手話言語研修を、外部講師を招き2024年度は計18回、2025年度は計14回実施した。また、手話通訳士の資格をもった職員による手話言語勉強会を部署内で実施し多くの職員が参加するなど、自発的に手話言語を学ぼうとする職員が多くみられた。

障害者理解促進研修

事業団において、障害のある方の気持ちを理解し、当事者の視点に立ったサポート方法や現場での心構えを学ぶことを目的とし、関連法令の理解から、きこえない・きこえにくい人に対する実際の対応等まで、外部講師を招き2024年度と2025年度に１回ずつ実技を交え実施した。また、連盟の職員から、ろう者の文化についての講話を聴く機会を設けることや、都主催のろう者の文化や手話言語の理解促進研修の受講を通じ、きこえない・きこえにくい人の生活や文化の理解を深めた。

ろう者の文化や手話言語の理解促進研修

都職員がろう者の文化や手話言語に対する理解を深めることで、大会準備を円滑に進めるだけでなく、多様性を尊重した都民対応力や業務企画力の向上など、共生社会の進展に寄与することから、2023年度より、研修を実施した。

2023年度は、連盟の久松三二事務局長を講師に招き、講演してもらうとともに、手話言語実技研修を実施した。

2024年度は、デフアスリートの亀澤理穂さんを招き、講演をしてもらうとともに、手話言語実技研修を実施した。手話言語実技研修の中では、日本手話言語だけでなく、国際手話についても学ぶことで内容を充実させた。

2025年度は、更に内容を充実させ、デフアスリートの長谷山優美さんと監督の川北美雪さんと国際手話通訳者であり東京2025デフリンピック応援アンバサダーである川俣郁美さんを招き、トークセッションを実施するとともに、手話言語実技研修も例年の内容に加え、ステップアップした日本手話言語や国際手話を学ぶ機会を設けた。

また、2023年度は、都生活文化スポーツ局職員のみを対象として実施したが、2024年度は、他局職員も対象に実施し、さらに、2025年度は、他局職員にも実地で手話言語実技研修を受講する機会を設けた。

2023年度は、講演80人、手話言語実技研修110人、2024年度は、講演341人、手話言語実技研修179人、2025年度は、トークセッション333人、手話言語実技研修163人が参加した。

この研修を通して、様々な立場の方の思いや経験を聴くことで、ろう者をとりまく環境や社会について理解を深めた。さらに、手話言語の実技研修を行うことで、コミュニケーションの際に気を付けることなども学び、様々な気付きにもつなげることができた。そして、都職員一人ひとりの意識が変わり、よりよい東京へとつながるよう取り組んだ。





2025年度トークセッションの様子。（左から）川俣郁美さん、長谷山優美さん、川北美雪さん



2025年度トークセッションの様子



手話言語実技研修の様子



手話言語実技研修の様子



障害者理解促進研修の様子

ボランティア

障害のあるなしや年齢、国籍などにかかわらず、多様な人々が大会のボランティアとして参画し、共生社会実現に向けた「大会の顔」として活躍した。ボランティアは、大会期間中、競技会場等での案内・誘導をはじめ、ドーピング検査の補助、表彰式の運営の補助、広報・メディアサポートなど様々な活動を行った。ボランティアの募集から決定までの業務は都、ボランティアの配置、研修及び運用の業務は事業団、ボランティアの研修への協力は連盟がそれぞれ担った。

1　ボランティア募集

都は、2024年11月15日から2025年１月31日まで、ボランティアを募集した。募集に当たっては、多様な募集媒体やネットワークを持つ都が連盟・事業団と連携して実施し、大会ビジョンに掲げる、あらゆる人が協働した大会運営となるよう、国籍や障害のあるなしなどにかかわらず、多様な方々に参画いただくことをめざした。

広報活動に当たってはSNS、駅のデジタルサイネージ、FC東京のスタジアム大型モニター等を活用したPRに加え、都の公式ボランティアポータルサイト「東京ボランティアレガシーネットワーク」（以下「VLN」という。）や、障害者スポーツボランティア情報のポータルサイト「TOKYO 障スポ＆サポート」（以下「S&S」という。）等を活用した広報活動を行った。また、連盟や東京都聴覚障害者連盟等の当事者団体、都内62区市町村、福島県、静岡県、各競技団体、都立スポーツ施設等におけるチラシの配布なども行った。さらに、都が実施した国際手話普及促進事業の助成者や、都や関係団体が運営する各種メールマガジンの登録者に対しても応募を呼び掛けた。

こうした取組を通じ、募集人数の3,000人を大幅に上回る18,903人の応募があったため、希望する活動場所等を踏まえ抽選を実施し、当選者3,500人を決定した。そのうち、手話言語でコミュニケーションが可能な方は1,641人であり、当選者の約半数を占めた。

募集要項

- 活動期間：2025年11月10日から28日までのうち、原則３日間以上の活動を予定
- 活動時間：１日あたり５時間～最大８時間程度
- 応募要件：2025年４月１日時点で満18歳以上の方
  活動期間中において、日本国籍又は日本に滞在する資格を有する方
  各種研修への参加が可能であること
- 応募単位：個人
- 応募方法：Web 応募（インターネット）
- 活動場所：競技会場（都内区部・市部・伊豆大島、福島県及び静岡県）、デフリンピックスクエア（国立オリンピック記念青少年総合センター）、開閉会式会場、空港（羽田空港、成田空港）等

スキルを有する方の内訳

- 手話言語でコミュニケーションが可能　1,641人
  （うち国際手話でコミュニケーションが可能　447人）
- 英語で円滑なコミュニケーションが可能　641人

活動場所	活動日程
競技（練習）会場 都外会場を含む全21会場	2025年11月11日（火）～25日（火）
デフリンピックスクエア 国立オリンピック記念青少年総合センター	2025年11月11日（火）～27日（木）
開閉会式 東京体育館	2025年11月15日（土）、26日（水）
空港 羽田空港、成田空港	2025年11月11日（火）～14日（金）
輸送バス指定乗降場 有明コロシアム	2025年11月11日（火）～28日（金）

2 ボランティアへの研修

事業団は、東京2025デフリンピックでの活動に必要となる知識及び簡単な手話言語表現等を習得するとともに、ろう者の文化等への理解を深めるため、ボランティア全員に「共通研修」「手話言語研修・ろう者の文化等理解研修」「配置・役割別研修」「UC研修」の４つの研修をオンデマンド形式で実施した。

なお、研修動画には、日本手話言語のワイプ及び字幕を付けるとともに、音声のテキストデータを配布するなど、情報保障にも配慮した。

共通研修

共通研修は、大会のコンセプトや大会ビジョンなどの基本的な情報に加え、ボランティア活動の概要や活動上のルール、UC機器の使用方法なども含めたコミュニケーションの方法や留意点、コンプライアンスなどについて学ぶ内容であり、2025年６月から研修動画を配信した。

手話言語研修・ろう者の文化等理解研修

手話言語研修は、手話言語への理解を深めるとともに、挨拶や活動中によく使う表現などを日本手話言語と国際手話の両方で学ぶ内容であり、連盟が作成した動画を2025年７月から配信した。

ろう者の文化等理解研修では、連盟が、デフリンピックの歴史や意義、ろう者の世界や文化等に関する内容の動画を作成するとともに、事業団と連携協定を締結した筑波技術大学の学生が、当事者として普段の生活の中で感じていることやろう者とのコミュニケーションで気を付けるべきことをテーマとした動画を作成し、2025年８月から配信した。

配置・役割別研修

配置・役割別研修では、具体的な活動内容や活動当日の流れ、会場・諸室等の詳細な情報などをまとめた資料や動画を作成し、大会時の活動場所や役割が決定した後、2025年10月から配信した。

UC研修

UC研修では、きこえない・きこえにくい人、きこえる人、国籍の異なる人などが会場において円滑にコミュニケーションが取れるよう、タブレット等のUC技術の活用方法をまとめた資料や動画を作成し、2025年10月から研修動画を配信した。

3 配置・シフト調整

日本手話言語や国際手話、英語のスキルを有する方や、過去にスポーツイベント等でボランティアリーダーの経験のある方などをバランスよく配置することとし、ボランティアー人ひとりの役割やシフトについては、2025年９月に決定し通知した。

4 大会時の活動状況

大会では、当初3,500人のボランティアが活動予定であったが、シフト等の調整過程において約500人の方が辞退等となり、結果として18歳から88歳までの計2,959人（延べ8,390人）のボランティアが活動した。

各活動場所における活動状況

競技（練習）会場

選手・観客・関係者の案内・誘導をはじめ、入場者管理やドーピング検査補助（シャペロン）、表彰式の運営補助、広報・メディアサポートなど様々な場面で会場運営をサポートした。



手話やUC機器を使用して案内するボランティアの様子



表彰式でトレイベアラーを務めるボランティアの様子

デフリンピックスクエア

大会の運営拠点として様々な機能を持つデフリンピックスクエアにおいては、選手・観客・関係者の案内・誘導に加え、IDカード発行や表彰状・メダルケースの配布、選手団向けサービス、選手交流ラウンジ内での案内など多岐にわたる役割を担った。

開閉会式

開閉会式では、一堂に会した選手・関係者の誘導・整理をはじめ、入場者管理や手荷物検査、メディア対応などのサポート業務等を担った。なお、閉会式では、ボランティアが各国入場行進におけるプラカーダーやフラッグベアラーを務めるとともに、デフリンピック旗返還やアーティスティックプログラムなど一部閉会式のプログラムにも参加した。





開会式で活動するボランティアの様子



デフリンピックスクエアで
来場者等の案内をするボランティアの様子



閉会式でデフリンピック旗を返還するボランティア代表

空港

入国のピーク時に羽田空港及び成田空港において、輸送バスへの案内等を行った。さらに、手作りのボードを用いて選手・関係者に歓迎や感謝の意を示すとともに、記念撮影等にも積極的に対応した。

輸送バス指定乗降場

選手や関係者を競技会場等へ輸送するバスの乗降場において、選手等が確実に目的地に到着できるよう、ダイヤ変更などの情報も適時提供しつつ案内・誘導を行った。



選手を出迎えるボランティアの様子



バス乗降場で案内するボランティアの様子



選手と交流するボランティアの様子



選手を誘導するボランティアの様子

ボランティアへの支給物品等

ユニフォーム

　ボランティアには、東京2025デフリンピックの協賛者である株式会社アシックスが製作したピンク色のユニフォーム（ジャケット・Ｔシャツ）及びポーチを支給した。日本手話言語や国際手話、英語などのスキルを有するボランティアは、ユニフォームにシールを貼り、自身のスキルを示した。





自身のスキルを示したシールを貼った
ユニフォームで活動

ボランティアハンドブック

　ボランティアの活動に必要となる基本的な情報や、活動に役立つ情報をコンパクトにまとめたボランティアハンドブックを制作し配布した。ハンドブックには、指さしボードを載せるとともに筆談スペースを設けるなど、コミュニケーション補助に有用なツールとしても活用された。



ボランティアハンドブック



ボランティアハンドブックを
活用するボランティアの様子

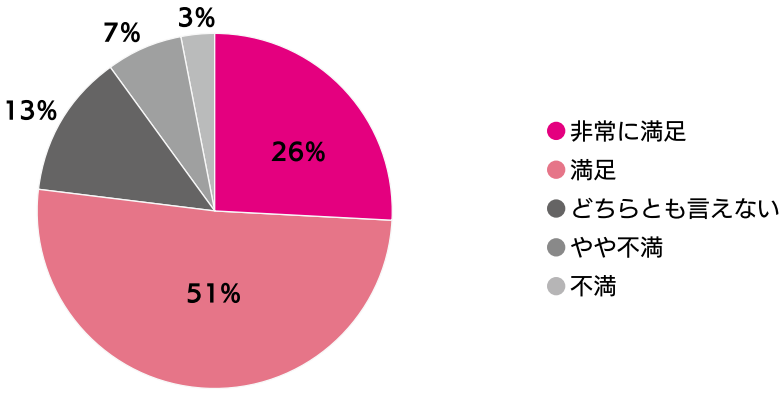
その他の支給物品等

　ユニフォームやボランティアハンドブックの配布、ボランティア活動保険への加入に加え、１回の活動につき、交通費相当として1,000円、飲食費相当として1,000円（４時間以上の活動の場合）を支給した。交通費・飲食費相当の支給に当たっては、オンライン上で入金・受取・決済が可能なQUOカードPayというサービスを用いた。

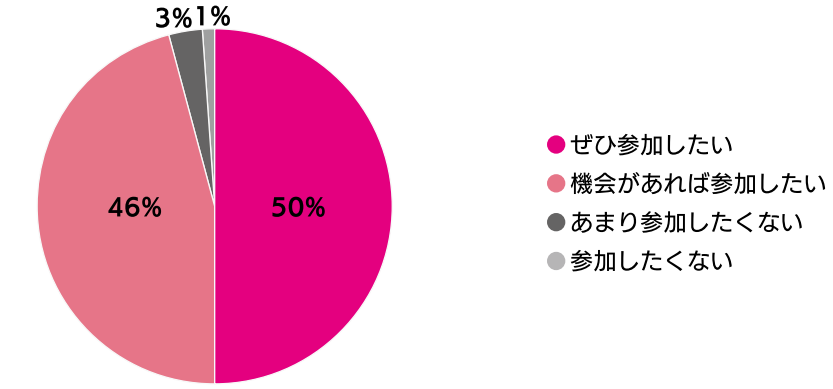
5 活動を終えたボランティアの声

活動終了後、ボランティアに対して、活動の満足度や活動する前後での気持ちの変化などを聞き取る任意のアンケートを実施し、約2,400人から回答を得た。アンケートでは約８割が活動に満足だったと回答し、９割以上のボランティアが大会後もスポーツボランティアの活動に参加していきたいと回答した。また、「多くのボランティア等と交流したことで多くの学びがあり、多様性や共生社会の広がりを肌で感じることが出来た。」や「きこえる人・きこえない人が共に協力して活動できた。チームワークが素晴らしく、充実した日々だった。」など、多様な人と関わりながら活動したことにより、多くの気付きを得た、貴重な経験だったといった声も聞かれた。東京2025デフリンピックのボランティア活動が大会後の共生社会実現につながっていくことを期待したい。

ボランティア活動の満足度



大会後もスポーツボランティアの活動に参加していきたいか



なお、大会終了後もボランティアとしての継続的な活動を支援するため、VLNやS＆Sのほか、スポーツに特化したボランティアの情報を提供するメールマガジンの利用を案内した。

国際手話通訳者及び日本手話言語通訳者等

国際手話はきこえない人の国際的なコミュニケーション手段として、世界ろう者会議やデフリンピック、アジア大会等で使用されてきた。大会で必要となる国際手話通訳者は、これまでの会議・イベント等の人数規模を大きく上回ることから、人材をどのように確保、育成していくか、連盟、都、事業団で協議を重ね、研修会を実施することで通訳者の確保・育成を図ってきた。

大会で活動する手話言語通訳者等は、連盟及び事業団が、以下の役割分担に基づき育成・運用等を行った。

【連　盟】大会時等における国際手話通訳者及び日本手話言語通訳者の育成・人材情報の提供に関すること
【事業団】大会時等における国際手話通訳者及び日本手話言語通訳者の運用に関すること

1 国際手話通訳者及び日本手話言語通訳者の養成

連盟は、大会に向け、国際手話通訳者（ろう者）と日本手話言語通訳者（きこえる人）の人員を確保するため、2023年度から登録国際手話通訳者試験を開始した。また、2024年度に２回（2024年６月から11月まで及び2025年１月から３月まで開催）の国際手話通訳者及び日本手話言語通訳者養成研修会を開催し、国際手話通訳者（ろう者）と日本手話言語通訳者（きこえる人）をペアで養成した。2025年度（2025年５月から８月まで開催）は2024年度の修了生等を対象にデフリンピック本番に向け、実践をふまえたスキルアップを図る研修会を実施した。

大会に向けた登録国際手話通訳者試験（2023年度実施）

大会に向け、ICSDやその他国際機関などとの協議の場において必要となる国際手話通訳者を確保するため、国際大会又は国際会議での国際手話通訳経験者等を対象に登録試験を実施した（2025年度までの登録者は21人）。

大会に向けた国際手話通訳者及び日本手話言語通訳者養成研修会（2024年度実施）

大会に必要な国際手話通訳人材の更なる確保のため、デフリンピックに関する基礎知識、協働通訳・リレー通訳の理念の習得などを目的として実施した（実技演習を含む。）。

- 履修時間　国際手話通訳者50時間、日本手話言語通訳者34時間
- 修了者　国際手話通訳者101人、日本手話言語通訳者173人
- 研修方式　原則としてオンライン又はオンデマンド方式。実技演習のみ対面で実施
- 会場　国立オリンピック記念青少年総合センター、戸山サンライズ
- 通訳実践の場　2024年10月下旬のSD視察及び11月の団長セミナー

国際手話通訳者及び日本手話言語通訳者養成スキルアップ研修会（2025年度実施）

世界手話言語通訳者協会（WASLI）の協力の下、協働通訳技術についての更なるスキルアップと、大会・競技専門用語の習得などを目的として実施した（2024年度養成研修会修了者等を対象）。

- 履修時間　国際手話通訳者24時間、日本手話言語通訳者24時間
- 修了者　国際手話通訳者102人、日本手話言語通訳者143人
- 研修方式　原則としてオンライン又はオンデマンド方式。実技演習のみ対面で実施
- 会場　東京ビッグサイト

講師陣

連盟、日本手話通訳士協会、全国手話通訳問題研究会、ICSD、世界ろう連盟・世界手話言語通訳者協会（WFD-WASLI）による認定国際手話通訳者が担当した。



2024年度研修会の様子（2024年11月）



2024年度研修会の様子（2025年3月）



2025年度研修会の様子
（2025年６月 WASLIの講師陣による講義）



2025年度研修の様子（2025年６月　模擬通訳演習）

2 日本手話言語解説のための研修会

連盟は、大会に向けた、日本手話言語による競技解説者及び日本手話言語通訳者を養成し、大会での各競技決勝戦のYouTube配信の日本手話言語解説を実現できるよう人材養成及び配置調整を行った。

手話言語アナウンサー・手話言語解説者・手話言語通訳者養成研修会（2024年度実施）

・対象者　全日本ろうあ連盟、全国手話通訳問題研究会、日本手話通訳士協会の会員
競技経験と専門知識がある監督、技術委員、コーチ、元選手等で各デフ競技団体の推薦する者
・修了者　49人

大会に向けた日本手話言語解説のための集中研修会（2025年度実施）

2024年度修了生に加えて、デフ競技団体等の推薦者で、大会に向けて解説に熱意のあるものが受講した。

・履修時間　解説者及び日本手話言語通訳者12時間
・修了者　解説者23人、日本手話言語通訳者40人
・研修方式　オンライン及びオンデマンド方式。解説の基本、テレビ向け手話言語の基本（解説者）、発声の基本（手話言語通訳者）、模擬解説等は対面で実施
・会場　戸山サンライズ
・講師陣　認定NPO法人障害者放送通信機構「目で聴くテレビ」ディレクター、元NHKキャスター等が担当した



日本手話言語解説のための集中研修の様子



バスケットボール競技解説現場の様子
舞台左　日本手話言語解説者、舞台右　国際手話通訳者

3 大会準備期間における活動

事業団は、連盟が養成した国際手話通訳者及び日本手話言語通訳者に対して、2024年10月から11月にかけて実施されたSD視察及び団長セミナーにおける手話言語通訳等業務を委嘱した。委嘱した通訳者は、SD視察で59人（国際手話通訳者26人、日本手話言語通訳者33人）であり、団長セミナーで76人（国際手話通訳者24人、日本手話言語通訳者52人）となった。原則として、国際手話通訳者と日本手話言語通訳者はペアで配置し、会議や視察等の様々な場面で通訳業務を担った。

手話言語通訳者等の中には、連盟が実施していた国際手話通訳者及び日本手話言語通訳者養成研修の受講者も多く含まれていた。事業団職員も含め、手話言語通訳者等を介したSDや各国選手団団長等との連絡・調整業務を経験することができ、大会本番に向け多くの収穫や課題を得る貴重な機会となった。

4 大会時の配置・シフト調整

SD視察等と同様に、大会時も国際手話通訳者と日本手話言語通訳者は原則ペアとして配置することとし、連盟から提供された情報を基に、事業団で雇用した手話言語コーディネーターが中心となり、配置・シフトの調整や決定、委嘱手続などを行った。

配置場所	活動日程
競技（練習）会場 都外会場を含む全21会場	2025年11月10日（月）～26日（水）
デフリンピックスクエア 国立オリンピック記念青少年総合センター	2025年11月11日（火）～28日（金）
開閉会式 東京体育館	2025年11月14日（金）～15日（土） 2025年11月25日（火）～26日（水）

5 大会時の活動状況

大会では、総勢241人（国際手話通訳者100人、日本手話言語通訳者141人）の手話言語通訳者等が活動した。

各活動場所における活動状況

競技（練習）会場

SDや審判、運営スタッフ、選手団などが競技や練習時などにコミュニケーションを図る際の通訳をはじめ、各競技の技術会議での通訳、競技映像配信や表彰式における通訳など多岐にわたる場面で活動した。

デフリンピックスクエア

デフリンピックスクエアでは、ICSDや選手団等とのコミュニケーションを図る際の通訳や、記者会見での通訳を中心に様々な場面で活動した。



競技会場での活動の様子



記者会見での通訳の様子



表彰式の様子



選手団問合せ窓口での通訳の様子

開閉会式

　開閉会式では、会場内及び配信に使用する映像の情報保障に加え、来場するVIPやメディア等の対応、選手・関係者・一般来場者への案内・誘導における通訳等を担った。



会場内ビジョンにおける情報保障


招待者への案内を行う国際手話通訳者の様子

国際手話通訳者及び日本手話言語通訳者への支給物品等

ユニフォーム

　国際手話通訳者及び日本手話言語通訳者には、協賛者である株式会社アシックスが製作した紺色のユニフォーム（ジャケット・Tシャツ）及びポーチを支給した。ユニフォームには、「国際手話（IS）」もしくは「日本手話言語（JSL）」のシールを貼り、選手・大会スタッフ等が国際手話通訳者と日本手話言語通訳者を識別できるようにした。



ユニフォームを着て活動する手話言語通訳者の様子

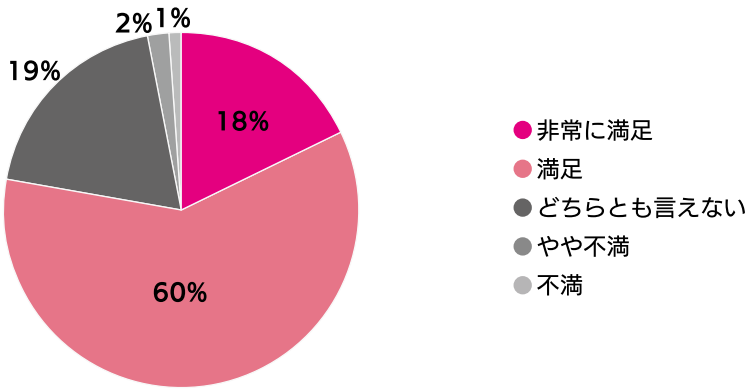
報酬等

　国際手話通訳者及び日本手話言語通訳者の報酬や交通費、宿泊費は、事業団で報酬基準を定め、活動時間に応じて支給した。なお、開閉会式や競技映像配信における解説の通訳など映像等の二次利用が想定される通訳業務については、報酬単価を割り増すことで、業務に見合った報酬体系とした。

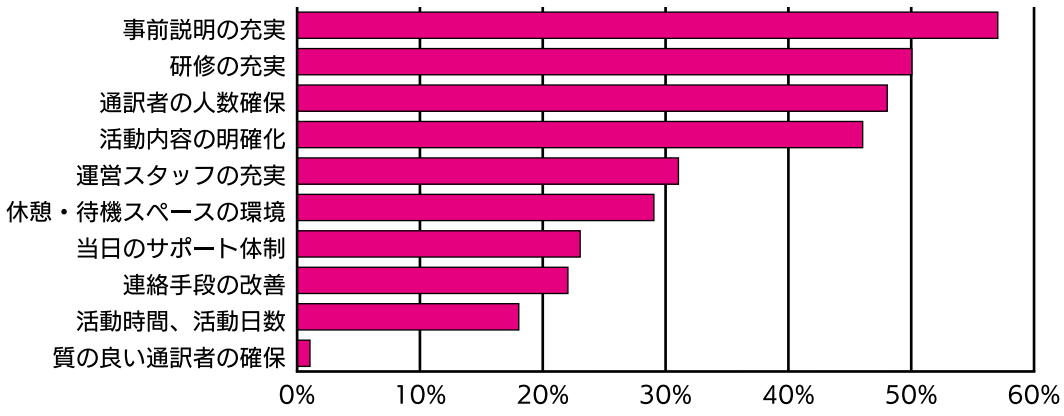
6 活動を終えた国際手話通訳者及び日本手話言語通訳者の声

活動終了後、手話言語通訳者に対して、活動の満足度や今後の活動に期待することなどを聞き取る任意のアンケートを実施し、約200人から回答を得た。アンケートでは約８割が活動に満足だったと回答したものの、「事前説明の充実」「研修の充実」「通訳者の人数確保」などの項目については約５割が改善すべきと回答した。また、「手話通訳者イコールきこえる人という概念を持っていた方が大多数であったと思うが、今回の協働通訳の取組で価値観が変化したと思われる。失敗も成功も、喜びもつらさも、チーム全体で分かち合うことができた感動を今後の活動の心の糧にして、また懸命に手話通訳活動を続けていきたい。」や「国際手話通訳は単なる言語の置き換えではなく、多文化・多言語環境を調整する役割を担っており、その責任の大きさと課題、そして可能性を強く実感した大会でした。」など、今回の手話言語通訳としての活動を通して多くの気付きを得た、貴重な経験だったといった声が多く聞かれた。大会後も、デフスポーツに係るイベントをはじめ様々な機会で、大会に参画した手話言語通訳者が東京2025デフリンピックでの経験を活かし活躍していくことを期待したい。

国際手話通訳者・日本手話言語通訳者としての活動の満足度



今後、改善すべき点



筑波技術大学との連携

1 本番に向けた連携体制構築

2024年９月に、事業団と国内で唯一の聴覚障害者・視覚障害者のための大学である筑波技術大学は、協働して東京2025デフリンピックの準備・運営に取り組むため連携協定を締結した。

この協定は、筑波技術大学の学生が、大会の準備・運営にサポートスタッフとして参画することにより、ろう者に寄り添った質の高いサービスを提供するなど多様な視点を大切にした大会運営を実現するとともに、デフアスリート等と交流をしながら大会運営の一端を担うといった貴重かつ有意義な経験を学生に提供することを目的としている。この協定に基づき、大会時は98人の学生が大会サポートスタッフとして活動した。



連携協定締結式の様子


学生向けガイダンスでの集合写真

2 大会準備期間における取組

連携協定締結後、大会準備期間においては、ボランティア向け研修動画の作成や、大会の気運醸成につながる広報PR活動に取り組んだ。

ボランティア向け研修動画の作成

ボランティアが受講する「ろう者の文化等理解研修」のひとつとして、学生が普段の生活の中で感じていることやろう者とのコミュニケーションで気を付けるべきことをテーマとした動画を作成した。

学生ならではの若い感性や、聴覚障害当事者としての視点などを活かして作成された動画には、実体験に基づく様々なエピソードが盛り込まれ、特にきこえるボランティアには多くの気付きや知見を得ることができる内容となった。





学生たちが作成したボランティア向けの動画

大会の気運醸成につながる広報PR活動

大会の認知度向上に向け、筑波技術大学の学生がInstagramの投稿案を企画するとともに、学生自らが出演したショート動画を作成した。３つの動画を大会公式Instagramで投稿し、総ビュー数は約７万回（2025年12月8日時点）を記録した。



投稿内容を検討する学生の様子







Instagramのショート動画

3 大会時の活動状況

大会では、筑波技術大学の学生98人が大会サポートスタッフとして参画した。大会本番時、大学は授業を休講とし、学生は１人当たり３日程度活動した。学生たちは、事前に学習してきた国際手話も使用しながら、聴覚障害の当事者としての視点を活かし、きめ細やかな対応を行った。

各活動場所における活動状況

デフリンピックスクエア

デフリンピックスクエアでは、受付等での案内や問合せ対応、各種ブースにおける説明・運営補助を担い、選手や関係者、一般来場者など様々な方に対し、幅広いサポートやおもてなしを行った。





ボランティア等とも協働し
来場者への案内等を行う学生の様子

支給物品等

ユニフォーム

大会運営業務を担う事業団のスタッフ同様、大会サポートスタッフの学生には、協賛者である株式会社アシックスが製作した青色のユニフォーム（ジャケット・Ｔシャツ）及びポーチを支給した。ユニフォームには、「国際手話(IS)」、「日本手話言語（JSL)」のシールを貼り、海外からの来場者等と積極的にコミュニケーションを取る場面も多く見られた。





大会サポートスタッフのユニフォームで活動する
学生たちの様子

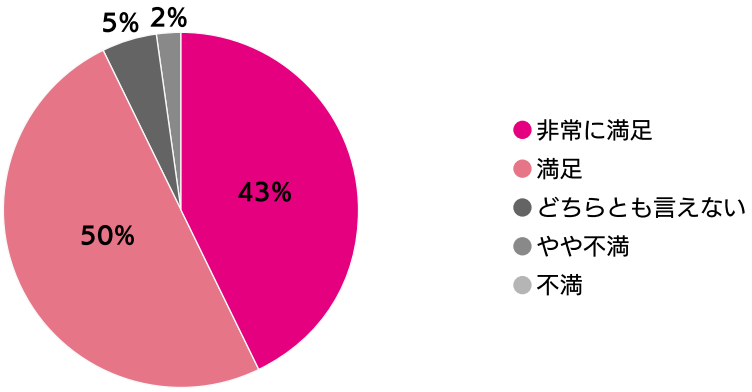
宿泊

活動期間中、学生たちは、多くの選手団が滞在するデフリンピックスクエアに宿泊した。日本選手団をはじめ様々な国の選手・関係者と同じ施設に宿泊し、様々な場面で行われた交流は、学生にとって貴重な経験となった。

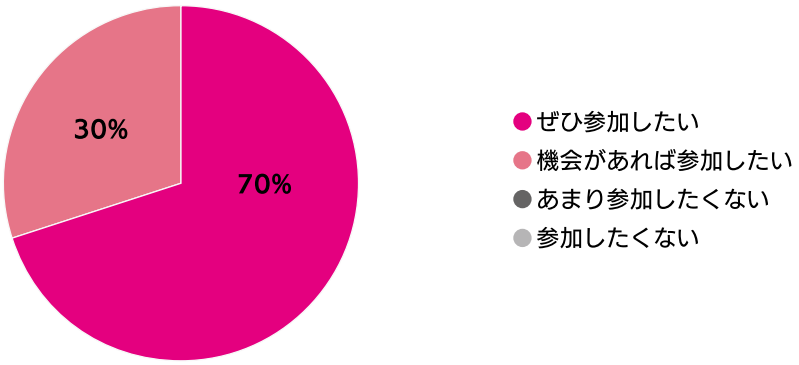
4 活動を終えた学生の声

活動終了後、筑波技術大学の学生に対して、活動の満足度や活動する前後での気持ちの変化などを聞き取る任意のアンケートを実施し、約40人から回答を得た。アンケートでは約９割が活動に満足だったと回答し、全員が大会後もスポーツボランティアの活動に参加していきたいと回答した。また、「たくさんのスタッフやサポートをしてくださる人が団結してデフリンピックを開催することができたのだと思う。言語が異なっていても情報共有やその都度の状況を把握する際の『伝える力』が非常に大切なのだと気付きました。」など、多様な人と関わりながら活動したことにより、多くの気付きを得た、貴重な経験だったといった声が多く聞かれた。大会での活動が学生の将来にとって大きな財産となり、学生の活躍が共生社会の実現につながっていくことを期待したい。

サポートスタッフ活動の満足度



大会後もスポーツボランティアの活動に参加していきたいか



協賛者の社員等の参画

東京2025デフリンピックの協賛者のうち、協賛金額50万円以上の企業への協賛特典として、当該協賛者の社員等が大会サポートスタッフとして大会の運営に参画する機会を提供した。

1 大会時の活動状況

大会では、協賛者の社員等608人が大会サポートスタッフとして参画し、ボランティア等と連携・協力しながら、１人当たり１日から２日程度の活動を行った。

各活動場所における活動状況

競技（練習）会場

選手・観客・関係者の案内・誘導をはじめ、入場者管理や清掃、広報・メディアサポートなど様々な場面で会場運営をサポートした。





競技会場における活動の様子

開閉会式

開閉会式では、一堂に会した選手・関係者の誘導・整理をはじめ、入場者管理や手荷物検査、メディア対応などのサポート業務等を担った。





開閉会式会場での活動の様子

支給物品等

ユニフォーム

大会運営業務を担う事業団のスタッフ同様、大会サポートスタッフの協賛者社員等には、協賛者である株式会社アシックスが製作した青色のユニフォーム（ジャケット・Ｔシャツ）及びポーチを支給した。

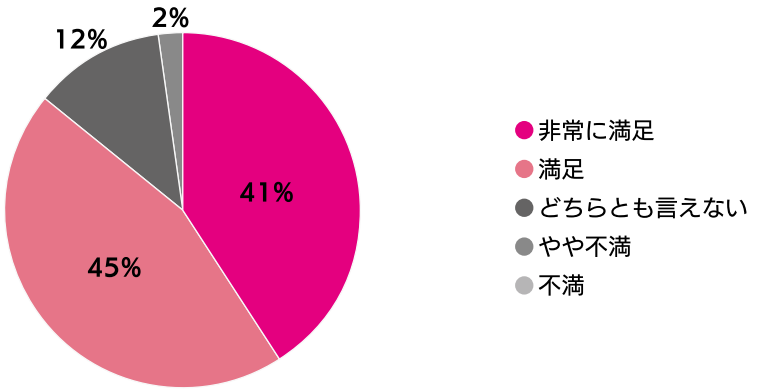


大会サポートスタッフのユニフォームで活動する
協賛者の社員等の様子

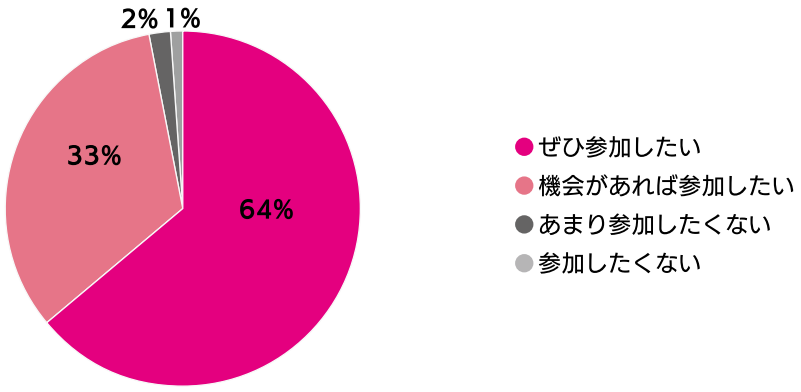
2 活動を終えた協賛者の社員等の声

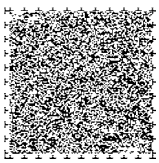
活動終了後、大会サポートスタッフとして大会に参画した協賛者の社員等に対して、活動の満足度や大会に参画して感じたことのほか、活動する前後での気持ちの変化などを聞き取る任意のアンケートを実施し、約210人から回答を得た。アンケートでは約９割が活動に満足だったと回答し、ほぼ全員が大会後もスポーツボランティアの活動に参加していきたいと回答した。また、「今回の経験を通じて手話に対する興味や理解が深まった。」や「多様なバックグラウンドを持つ方々と接する機会をいただくことができた。多様な視点や価値観に触れたことで、自分のあたりまえは社会のあたりまえではないことを改めて実感した。様々な違いを知り相互理解を深めることで、更なる共生社会の実現に向けて活動していきたい。」など、多様な人と関わりながら活動したことにより、多くの気付きを得た、貴重な経験だったといった声が多く聞かれた。大会におけるサポートスタッフとしての活動が大会後の共生社会実現につながっていくことを期待したい。

サポートスタッフ活動の満足度



大会後もスポーツボランティアの活動に参加していきたいか





第5章

財務

収入確保の取組

収入確保に向けた取組として、寄附（クラウドファンディング及び募金含む）や民間企業等が行う助成金事業を活用するなど、以下の取組を行った。

1 寄附

より多くの人々に大会開催の趣旨に賛同してもらい、みんなで力をあわせて大会を創っていくという考えの下、2024年３月22日より寄附の受付を開始した。受付終了となる2025年11月30日までの実績は、1,563件、約2,730万円（クラウドファンディング及び募金含む。）であり、集まった寄附金は、大会の開催準備や運営に係る経費に充当した。

寄附を募集するに当たっては、「第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025寄附金募集要綱」及び「第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025における寄附又は協賛募集に係る個人並びに企業及び団体等との対応方針」を定め、コンプライアンスの遵守に努めた。

寄附をPRするリーフレットを作成し、各種イベントでの配布や都のデジタルサイネージを活用した発信など、実施期間を通じて周知に努めた。寄附の方法は指定口座（みずほ銀行及びゆうちょ銀行）への振込とし、入金確認後、希望者に寄附金受領証を発行するとともに、高額の寄附者については感謝状の贈呈式を実施した。また、定期的に大会サイトにおいて寄附件数・総額及び寄附者・寄附金額一覧を公表した（寄附をいただいた方々の一覧は、資料編を参照）。

2 クラウドファンディング

多くの方に大会を知ってもらい、参画してもらう手段として、2024年５月24日から７月25日までオンラインにて、クラウドファンディングを実施した。支援額（5,000円、10,000円、15,000円）に応じた異なる３つの返礼品を用意するとともに、都と連携してSNS等での広報に努め、結果として251人から総額2,956,000円の支援を受けることができた。



3 キャッシュレス募金

指定口座への振込以外の方法として、より手軽に寄附ができる方法を検討し、スマートフォン等から操作が可能なVポイント及び「d払い®」による募金を2025年２月21日から、Amazon Payによる募金を同年３月17日から、つながる募金を同年６月12日からそれぞれ開始した。

それぞれの募金において、各種ポイントやクレジットカード、二次元コード決済といった多様なチャネルに対応したことや、指定口座への振込と比較し、手軽に操作できることから、多くの方からの協力をいただくことができ、受付終了となる2025年11月30日までに、1,197件、約62万円の募金を集めることができた。

4 国からの支援

国に対して、東京2025デフリンピックに政府として協力する旨の閣議了解を得るとともに、スポーツ振興くじ助成金活用による財政支援の要望を行い、2024年度、2025年度の２か年で20億円の収入を確保した。また、助成金の交付に当たっては、大会期間中に、toto広報バナー・フラッグの掲出、インタビューボードや協賛ボードへのロゴ掲出など、競技会場等におけるスポーツくじのPR協力における取組を行った。

5 宝くじ支援

2024年12月、全国自治宝くじ事務協議会において、「第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025」の所要経費の一部を宝くじ収益金によって支援することが決定した。大会期間中には各会場内のインタビューボードや協賛ボードへロゴを掲出するなどして、宝くじ及び宝くじ収益金の使途PRに協力した。

6 助成金事業

公益財団法人ＪＫＡ、一般財団法人トヨタ・モビリティ基金、公益財団法人G-7奨学財団、公益財団法人ミズノスポーツ振興財団より、計7,700万円の助成を受けた。

JKA Social Action
競輪とオートレースの補助事業

TOYOTA mobility FOUNDATION

7 大会参加料

大会参加料の徴収及び金額の決定

過去大会においては、選手団から大会参加料を徴収して大会の準備・運営経費の財源の一つとしてきた。東京2025デフリンピックにおいても、持続的な大会開催の観点から、選手団から大会参加料を徴収することとした。

大会参加料の徴収目的や金額設定については、過去大会の大会参加料の徴収状況、他のデフスポーツの国際大会の参加料の徴収状況を踏まえ、IDカードの発行及び各会場等におけるIDカードのチェックに係る人件費等の費用に充当するとともに、選手にとっての参加しやすさという観点から、事業団として、ICSDとも協議した結果、選手団から一人当たり１万円を徴収することとした。

選手団からの大会参加料の徴収は、各国等の選手団代表者を納入の責任者とし、2025年10月末日までの銀行振込を原則とした。一方で、OFAC規制対象国や、国際送金が困難な国の選手団等については、デフリンピックスクエアでのIDカードの発行に合わせ、現金又はクレジットカードにより徴収を行った。

結果、大会参加料として5,264人分、5,264万円を徴収した（うち現地徴収は972人分、972万円）。

なお、徴収の過程の中で、ICSDが別途徴収する登録料（一人当たり60USドル）と混同する選手団も多く見受けられた。次回大会以降は、徴収窓口を一本化する等の対応が望ましいと思われる。

協賛

より多くの人々に大会開催の趣旨に賛同してもらい、みんなで力をあわせて大会を創っていくという考えの下、2024年３月22日から企業、団体等からの協賛金や協賛物品の募集を開始した。企業等のニーズに合わせて参画しやすいものとするため、協賛のカテゴリーは大会全体を支援するトータルサポートメンバーと特定の競技を支援するゲームズサポートメンバーの２つとした。協賛者となった場合の特典として、大会エンブレムの使用、大会サイトや各競技会場等での企業ロゴの掲出、ブース出展やフライヤー配布等を用意した。

デフリンピックの認知度が低く、スポーツマーケティングに対する企業の関心も低下している中、より多くの企業等に一緒に大会を盛り上げてもらえるよう、以下の取組を行った。

・物品や役務による提供など、各企業等のリソースの活用（VIK）や少額での協賛を幅広く受け入れるなど、企業等が参画しやすい制度を構築した。
・福祉機器メーカーやデフアスリートを社員として雇用する企業等、ターゲットを絞った営業活動を行うなど、その後の波及効果を期待して取組を進めた。また、職員が自ら営業し企業等の声を直に聞くことで、企業等の要望を踏まえた協賛特典を追加することができ、更なる協賛獲得にもつなげた。

これらの取組により、大会の理念等を企業等と共有できたことで、ビジネスではなく大会を応援してもらえる企業等が多く集結した。また、協賛者同士の交流会やアスリート雇用企業の連絡会を開催し、つながりを創出することにより、大会後のレガシーとしてネットワークの構築に寄与した。

2024年12月には企業等の要望を踏まえ、トータルサポートメンバー１億円以上、ゲームズサポートメンバー300万円以上の協賛区分の追加や、大会サポートスタッフとしての参画、競技会場での更なる露出といった協賛特典の追加を行い、より多くの企業等に参画してもらえる内容とした。また、デフリンピックスクエアにおいて、「みるTech」を開催することを受け、「みるTech」への出展を目的とした新たな協賛カテゴリーとして、「みるTechサポートメンバー」を新設し、2025年７月から募集を開始し、21者が参画した。

なお、本大会では協賛者の募集業務を広告代理店に委託することなく、事業団職員が自ら制度説明・契約締結等の手続を行うことで、公平かつ公正な対応に努めた。結果として、受付終了となる2025年９月30日までに、合計160者もの企業・団体が参画し、協賛収入は約6.5億円となった。

大会期間中には、協賛者から支援されたVIK物品が広く活用された。株式会社アシックスからは大会スタッフ用のユニフォームが提供され、大会に携わるボランティア・大会運営スタッフ・競技運営スタッフなどが着用した。トヨタ自動車株式会社からは大会運営車両が提供され、選手輸送などに活用するとともに、マルチタスク車両を運営諸室の代替として活用したほか、開会式において燃料電池車両による水素エネルギーでの給電を実施した。ソフトバンク株式会社からはタブレット等のデバイスが提供され、選手団宿泊ホテルの選手団サービスデスク等でのコミュニケーションや、競技会場でのリザルト入力等に活用した。また、協賛契約に定める各種特典について、各競技会場におけるスポンサーボード・会見バックボードの設置をはじめ、のぼり等への協賛者ロゴの掲出、開会式・閉会式・各競技会場でのブース出展（17会場40者）、フライヤーの配架（21会場32者）、競技観戦ガイド（デジタル版）への広告掲載（80者）や競技会場内の大型ビジョンの広告動画の放映（64者）を行った。また、37者608人の方が大会サポートスタッフとして参画した。デフアスリート雇用企業をはじめ、企業等の団体応援についても希望が多くあり、最終的に14会場で30者がデフアスリートに声援を送った。デフアスリート雇用企業を中心に、メディアエリアへの立ち入り可能なIDの付与等（53者308人）も実施した。

協賛者同士の交流会

開催日	内容	参加協賛者数・人数
第１回 2024年９月20日（金）	アスリートトークショー、デフリンピックについての企業向け説明会、ネットワーキング	11団体・54人
第２回 2025年２月28日（金）	大会の準備状況の共有、協賛者の取組紹介、ネットワーキング	35団体・65人
第３回 2025年７月29日（火）	ICSDアダム・コーサ会長挨拶、小池都知事挨拶、大会準備状況の報告、サインエール等紹介、ネットワーキング	75団体・162人
感謝の集い 2026年２月２日（月）	大会報告、感謝状贈呈、デフアスリートトークセッション、協賛者からのコメント、大会後のデフスポーツへの支援のお願い、ネットワーキング（デフ競技団体等ブース出展）	72団体・162人



スポンサーボード



会見バックボード





競技ゼッケン



競技会場装飾（のぼり等）



IDカード・ネックストラップ

協賛特典

カテゴリ		トータルサポートメンバー（全体支援）				ゲームズサポートメンバー（競技支援）				みるTechサポートメンバー
区分（協賛額・相当順）		1億円以上	5,000万円以上	1,000万円以上	100万円以上	300万円以上	100万円以上	50万円以上	50万円未満	1万円以上
呼称・エンブレム使用	大会呼称等使用	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	東京大会エンブレム	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	デフリンピックマーク	○	○	○	○	○	○	○	○	○
企業名・ロゴ等掲載	大会HPロゴ掲載・リンク設定（東京2025デフリンピック）	特大	特大	大	中	中	中	小	企業名のみ	―
	各事業PRフライヤー	特大	特大	大	中	中	中	小	企業名のみ	―
	その他印刷配布物	特大	特大	大	中	―	―	―	―	―
	開閉会式会場スポンサーボード	特大	特大	大	中	―	―	―	―	―
	競技会場スポンサーボード等（指定競技会場）	特大	特大	大	中	大	大	中	企業名のみ	―
	競技会場スポンサーボード等（指定競技会場以外）	特大	特大	大	中	―	―	―	―	―
	デフリンピックスクエアスポンサーボード等	特大	特大	大	中	―	―	―	―	―
	競技会場装飾（のぼり等）	○	○	―	―	○	―	―	―	―
	競技ゼッケン	○	―	―	―	―	―	―	―	―
	IDカード・ネックストラップ	○	―	―	―	―	―	―	―	―
	会見バックボード	特大	特大	大	中	―	―	―	―	―
	指定物品等	○	○	○	○	○	○	○	○	―
企業広告掲載	競技観戦ガイド（概要版）	見開き2ページ	見開き2ページ	見開き2ページ	1ページ	―	―	―	―	―
	競技観戦ガイド（デジタル版）	見開き2ページ	見開き2ページ	1ページ	1ページ	1ページ	1ページ	1/2ページ	企業名のみ	―
	競技会場内大型ビジョン	○	○	○	○	―	―	―	―	―
フライヤー・試供品配布（事業団実施）	開閉会式会場	○	○	○	○	―	―	―	―	―
	指定競技会場	○	○	○	○	○	○	○	○	―
	その他競技会場	○	○	○	○	―	―	―	―	―
	デフリンピックスクエア	○	○	○	○	―	―	―	―	―

協賛特典

カテゴリ		トータルサポートメンバー（全体支援）				ゲームズサポートメンバー（競技支援）				みるTechサポートメンバー
区分（協賛額・相当順）		1億円以上	5,000万円以上	1,000万円以上	100万円以上	300万円以上	100万円以上	50万円以上	50万円未満	1万円以上
ブース出典	開閉会式会場	○	○	○	○	—	—	—	—	—
	指定競技会場	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	その他競技会場等	○	○	○	○	—	—	—	—	—
	デフリンピックスクエア	○	○	○	○	—	—	—	—	○
大会サポートスタッフ	指定競技会場	○	○	○	○	○	○	○	—	—
観客席優先確保	開閉会式会場	○	○	○	○	○	○	—	—	—
	競技会場	○	○	○	○	○	○	—	—	—
メディアエリア	メディアエリアへの立ち入り許可、IDカード付与	○	○	○	○	○	○	○	○	—

トータルサポートメンバー（94者）



ゲームズサポートメンバー（52者）

住友電設株式会社
(サッカー・卓球・バレーボール)

株式会社ニシ・スポーツ
(陸上)

ヨネックス株式会社
(バドミントン・テニス)

株式会社モリタ製作所
(バレーボール)

太平電業株式会社
(陸上・卓球)

東京パワーテクノロジー株式会社
(陸上・サッカー)

清水建設株式会社
(バレーボール)

一般社団法人日本スポーツ歯科医学会
(空手)

ライフネット生命保険株式会社
(陸上)

山崎製パン株式会社
(陸上)

サノフィ株式会社
(陸上)

ＡＫコーポレーション株式会社
(陸上)

みずほ信託銀行株式会社
(柔道)

伊豆箱根鉄道株式会社
(自転車)

メリダジャパン株式会社
(自転車)

株式会社ポピンズエデュケア
(ビーチバレーボール)

大東紡エステート株式会社
(自転車)

株式会社キャスト・ワークス
(サッカー)

株式会社ティーケーラボ
(サッカー)

えびすや土産店
(オリエンテーリング)

株式会社カインズ
(バスケットボール)

CCCMKホールディングス株式会社
(サッカー)

株式会社リコー
(陸上・バスケットボール・バレーボール)

株式会社鼓月
(陸上)

株式会社岩手リオン補聴器センター
(サッカー)

日機通商株式会社
(サッカー)

株式会社マルズ
(サッカー)

戸田ビルパートナーズ株式会社
(陸上)

SBI損害保険株式会社
(サッカー)

東京都農業協同組合中央会
(陸上)

株式会社キザシオ
(陸上・水泳・卓球)

株式会社エムゴールド
(陸上・水泳)

東京ボウリング場協会
(ボウリング)

株式会社小糸製作所
(陸上・水泳)

Hapbeat合同会社
(柔道)

株式会社方角
(バドミントン・卓球)

平林金属株式会社
(陸上)

株式会社CCHサウンド
(ゴルフ)

株式会社アイエスゲート
(陸上)

ベーカー＆マッケンジー法律事務所
(外国法共同事業)(陸上・バスケットボール・サッカー・ゴルフ・テニス)

株式会社コヤマドライビングスクール
(ビーチバレーボール)

合同会社StudioKAI
(卓球)

祥恵株式会社
(バドミントン)

When I was young株式会社
(バドミントン・サッカー・卓球)

株式会社グランバー東京ラスク
(自転車)

サントリーホールディングス株式会社
(バレーボール)

株式会社ArtSpaceDragonFly
(陸上)

株式会社日立製作所
(陸上・バスケットボール)

東急リバブル株式会社
(卓球)

株式会社ハイレゾ
(バドミントン)

株式会社NTTコノキュー
(陸上・水泳・バレーボール)

コンパスグループ・ジャパン株式会社
(陸上)

みるTechサポートメンバー（21者）

株式会社オリィ研究所

サイナーズ株式会社

一般社団法人ハートウェアラボ

Insta Chord 株式会社

ハロームービー株式会社

株式会社POCKET RD

株式会社オンテロープ

株式会社スマートスタート

株式会社ロジリシティ

Hapbeat合同会社

一般社団法人日本eスポーツ協会

株式会社EG

LiNKX株式会社

株式会社日伸

タクタス

クラスター株式会社

ソニーグループ株式会社

株式会社meleap

SoundUDコンソーシアム
(事務局：ヤマハ株式会社)

株式会社シー・エヌ・エス

株式会社ラディックス

予算編成、大会規模（計画額）、決算

基本的な考え方

デフリンピックを初めて日本で開催するに当たっては、競技会場に、都立施設やＪヴィレッジ、日本サイクルスポーツセンターなどの既存施設を活用するほか、同一の会場で複数の競技を実施するなど、大会経費の抑制を図るとともに、真に東京2025デフリンピックに必要な経費を見極めつつ、スポーツ振興くじ助成金、宝くじ支援や民間の各種助成金の獲得、寄附・協賛を幅広く受け付けるなど最大限の増収努力を図り、可能な限りのコスト最適化を追求した。「大会経費」の範囲については、本大会の運営に要する経費を「大会経費」とし、大会に向けて都が全庁を挙げて連携し、重点的に取り組む事業に要する経費を「大会連携事業費」と定義し、大会規模（計画額）の整理を行った。

大会の準備・運営を行うに当たり、大会経費抑制の取組を進めるとともに、収入の確保に取り組みながら、大会経費の全体像を策定し、公表してきた。

なお、予算の執行に当たっては、必要最小限の経費で大会を実現するために、公平性、公正性、透明性を担保しながら、それぞれの時点で最善の努力を払い、効率的及び効果的な執行に努めた。

1 大会規模

2023年11月に公表した「開催基本計画」の考え方を基に、大会の成功や大会後のレガシーの創出に向け、大会開催に必要な計画額を取りまとめた。（2023年12月26日公表）その後、収入内訳については精査を行い算定した。（2024年12月23日公表）

支出

東京2025デフリンピックを「シンプルで心に残る大会」とするとともに、共生社会の実現につなげていくよう必要な経費を精査のうえ、算定した。

収入

大会が共生社会づくりを進める重要な契機となることから社会全体で支える大会を実現するため、幅広く企業協賛や寄附、各種助成金等を募っていくこととした。

都費については、大会において東京の発展や都民の参画のための取組を行うことを前提に、都の予算編成過程の中で調整を行い、国に対してはスポーツ振興くじ助成金（toto助成金）について、東京2020大会と同レベルの支援を要望するとともに、大会への全面的な支援を求めることとした。

支出

項目	金額
仮設等	5億円
輸送等	15億円
オペレーション	70億円
管理・広報	30億円
予備費	10億円
計	**130億円**

収入

項目	金額
東京都	100億円
国	20億円
寄附・協賛、各種助成金等	10億円
計	**130億円**

（東京2025デフリンピック「大会規模（計画額）」の収入について）（2024年12月23日）

項目	金額	概要（主な具体例）
仮設等	5億円	・仮設費（競技会場内における更衣室やドーピング検査に必要な場所等の仮設整備など）
輸送等	15億円	・バス輸送（選手団の競技会場までの輸送にかかる交通手段の用意など） ・警備費（会場における選手等の動線管理、観客の安全のため警備・誘導の実施など）
オペレーション	70億円	・運営（競技審判員の手配、スタートランプなどの情報保障機器の活用、表彰式の実施など） ・選手団及び関係者等の宿泊（各国選手団の宿泊施設の用意・提供など） ・ボランティア（ボランティアの募集、活動マニュアル作成など） ・救護（けが人や急病人が出た際の救護サービスの提供など） ・式典（共生社会の実現につながる開会式の実施など）
管理・広報	30億円	・事務局運営費（事務局職員等の人件費、事務室借り上げ経費など） ・広報費（大会概要等を効果的に発信する特設Webサイトの構築、手話付き解説動画の掲載など）
予備費	10億円	
計	**130億円**	

（東京2025デフリンピック大会規模（計画額）（2023年12月26日））

2 大会収支の見通し

東京2025デフリンピックは、日本における初めての開催であったが、東京2020大会の経験を活かして、選手や大会関係者、競技会場運営などにおけるサービスレベルを確保・向上させつつ、持続可能かつ効率的な大会運営を行った。競技会場は全て既存施設を活用したほか、一部の会場で複数の競技を実施するなどの工夫を行った。その上で、選手団のバス輸送を競技日程に合わせて運行を行ったほか、協賛者からの飲食提供含め選手団等の飲食の充実を図るなど、東京大会ならではのサービスを提供した。

執行の不断の見直しや精査により大会経費の抑制を図るとともに、最大限の収入確保に取り組んだ結果、大会収支の見通しは以下のとおりとなった。

支出

項目	金額
仮設等	2億円
輸送等	20億円
オペレーション	55億円
管理・広報	23億円
予備費	ー
計	**100億円**

収入

項目	金額
東京都	70億円
国	20億円
寄附・協賛、各種助成金等	10億円
計	**100億円**

（東京2025デフリンピック　大会収支の見通し）
（2026年１月30日）

財産処分

1 基本方針及び対応

2023年11月に公表した開催基本計画では、大会の準備運営に当たり、既存施設や物品をできるだけ活用し、調達が必要な場合でもリースやレンタルを基本とするなど、脱炭素化と3Rの推進に努め、環境に配慮することを基本方針としている。この方針を大原則として大会の準備・運営に当たっていたが、備品・消耗品の一部は購入して調達することが必要となり、大会終了に伴いその役割を終えた備品・消耗品については、新たな利活用の検討・実施を行うなど、財産処分の指針を明確にし、対応することが必要となった。

一方で、事業団は公益法人であること、また、東京2025デフリンピックの準備・運営に関する財源に都からの補助金・負担金が相当額充当されていることから、都補助金等交付規則に基づき、財産処分に一定の制約があった。これらの制約を踏まえ、事業団における財産処分のルールとして、「財産処分細則」を策定し、備品・消耗品の性質に照らして、適切に処分を行った。

なお、財産処分に当たっては、ガバナンス確保の観点から、一定の金額以上のものは、事前に都費充当の有無にかかわらず、契約・調達管理会議において財産の処分先・方法等に問題がないかの確認を行っている。

2 アーカイブ

東京2025デフリンピックの記憶・記録を後世に伝えるため、連盟、都及び事業団において、大会を通じて作成した製作物を長期的に保存・活用する枠組みを定めたアーカイブ協定を締結した。

アーカイブ協定では、大会の準備・運営等に伴って作成・利用された資産のうち、歴史的な価値を有するアーカイブ資産を一覧化し、それらの権利関係を整理した上で、資産ごとの管理者を定めている。

今後、アーカイブ協定に基づき管理者においてアーカイブ資産を適切に保管しつつ、自治体等への貸出やイベント等での展示を行うとともに、ウェブサイトでの閲覧の用に供することで、大会の記憶・記録を後世に伝えていく。

第6章

大会に向けた共生社会実現に資する取組

UC等の促進

1 UCの促進

大会を契機としたUCの促進、社会実装に向けた取組

国内外から多くのデフアスリートや観客が訪れる大会を契機に、「いつでも・どこでも・誰とでもつながる」UCを促進するため、大会に向け、都は以下の取組を行った。

展示会等におけるPR

国内最大級のデジタルイノベーションの総合展「CEATEC」やアジア最大級のグローバルイノベーションカンファレンス「SusHi Tech Tokyo」等に出展し、技術のPRを図った。



CEATEC への出展（2023 年）



SusHi Tech Tokyo への出展（2025 年）

スタートアップ企業と連携した技術開発

事業者と協働し、障害当事者の声を聞きながら技術開発を促進するため、2023年度に「音が見える、音を感じる競技会場の実現」をテーマに、スタートアップ企業によるピッチコンテストを実施した。大会での活用に向けて、ピッチコンテスト優勝企業等と連携し、準備を進めた。

ピッチコンテスト優勝企業である株式会社方角が開発した、競技音を擬音で体感できる「ミルオト」は、ピッチコンテストで提案があった卓球での実証を進めるとともに、バドミントンでも活用ができるよう、開発を進めた。卓球やバドミントンの様々な大会で開発のベースとなる競技音を収音するとともに、デフアスリートとの意見交換も行い、精度を高めていった。

さらに、同ピッチコンテストにおいて、審査委員特別賞を受賞したHapbeat合同会社が開発した、競技音を振動として体感できるデバイス「Hapbeat（ハップビート）」は、柔道での活用を検討した。

「ミルオト」や「Hapbeat」は競技エリアの周囲にカメラやマイク等を設置する必要があるため、実証等を通じて、機器や設置場所の試行錯誤を繰り返すとともに、大会主催者や競技団体との入念な調整を経て、大会本番時に、「ミルオト」は卓球とバドミントンで、「Hapbeat」は柔道で活用した。



スタートアップ企業によるピッチコンテスト



ミルオト

手話変換技術の開発促進

手話言語や音声をテキスト化する「Sure Talk」について、更なる社会への普及を図るため、開発企業であるソフトバンク株式会社と連携し、従来の日本手話言語及び日本語対応手話の日本語テキスト変換に加えて、国際手話、アメリカ手話言語を10か国語のテキストで表示できるよう機能を拡充した。大会時には、デフリンピックスクエアにおける「みるTech」での展示のほか、選手宿泊ホテルのフロント等に設置し、国内外のデフアスリート等が利用した。

技術の社会実装に向けた取組

より多くの都民にデジタル技術を利用してもらい、社会への普及につなげていくため、都関係各局と連携し、都庁舎をはじめとする都有施設において、音声情報を多言語で表示する透明ディスプレイを設置した。2024年度に38の施設に導入、2025年度には110の施設に拡大した。

また、都の福祉局・都市整備局と連携し、2024年度において、6の区市町村、6の鉄道事業者に対して、透明ディスプレイや駅のアナウンスをスマートフォンにテキストで表示する「みえるアナウンス」などのUC技術を導入する際の経費を補助し、技術の社会実装につなげた。



都庁舎に設置した透明ディスプレイ



東京メトロが全駅に設置した
「みえるアナウンス」

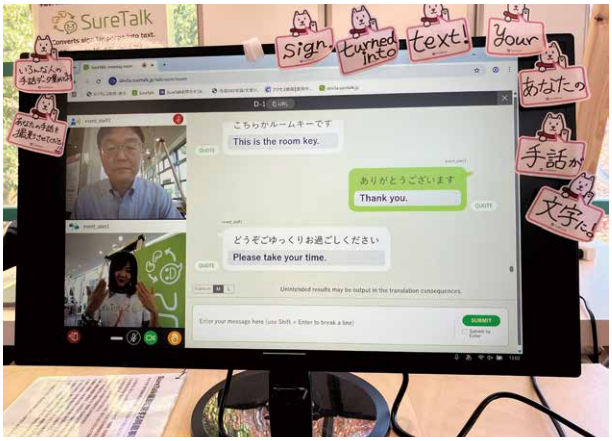
みるTech

都は大会時、選手の交流拠点となるデフリンピックスクエアにおいて、スタートアップ企業等25者と連携し、UC技術等、様々なデジタル技術を体感できる「みるTech」を開催した。

「みるTech」には、大会開催を契機として2023年度及び2024年度に実施した、誰もがつながることができるコンセプトカフェ「みるカフェ」やCEATEC・SusHi Tech Tokyo等、各種イベントで展示・活用してきた、透明ディスプレイや「Sure Talk」等のUC技術に加え、自身が登場人物になるAIアバターなど、きこえる・きこえないにかかわらず、誰もが楽しむことができるコンテンツも出展した。

加えて、カフェでの注文など日常生活におけるきこえない世界を体験できるVRゴーグルや、相手の顔を見ながら遠隔地の手話言語通訳映像を確認できるスマートグラス、盲ろう者との会話に使われる「指点字」とテキストを変換するデバイス、外出が困難な方が、病室や自宅から遠隔で操作して来場者と交流する分身ロボットなど、障害のあるなしにかかわらず誰もが楽しみ、交流できる多様な先端技術を紹介した。

開催期間中、一般来場者のみならず、各国の選手や関係者も多く訪れた。来場者からは「きこえてもきこえなくても楽しいところが素晴らしい」「すべてとても良く、興味深い新しい技術で、初めて体験した。」といった声があるなど、会場は終始活気溢れる場となった。（来場者数：36,136人）



手話言語をテキストに変換する「Sure Talk」


きこえない・きこえにくいを体感「Deaf VR」

競技会場におけるUC技術の活用

大会に向け、都は2024年度から、各種競技大会や競技会場等における技術活用の実証を行った。受付や会場案内などでの活用を想定し、話した内容をテキストで表示したり、多言語で表示する透明ディスプレイやタブレットの活用場面を検証した。また、会場内で流れるアナウンスをディスプレイやスマートフォンに文字化して表示する際の文字の大きさや投影方法などを実際の競技会場で確認した。

大会時には、全競技会場において、選手・観客への情報保障及び円滑なコミュニケーションのサポートを行うため、透明ディスプレイやタブレットを活用した多言語テキストによる案内を実施した。また、会場アナウンスや競技案内等を文字化し、会場内のビジョン等に表示した。字幕は、二次元コードを読み込むことで、来場者個人のスマートフォンにも表示可能とした。

開閉会式では、東京体育館に大型の吊り型ビジョンや横長のリボンビジョンを仮設で設置し、日本手話言語通訳者、国際手話通訳者の映像を大型ビジョンに投影するとともに、日英字幕をリボンビジョンに投影するなど、情報保障の充実を図った。

陸上競技が行われた駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場では、広い競技フィールド内で同時並行で競技種目が進行することから、競技状況・結果等が高い頻度で発信される。これに対応するため、競技フィールドに会場内のアナウンスを表示するリボンビジョンを設置するとともに、日本手話言語通訳者・国際手話通訳者を表示するビジョンを設置し、よりタイムリーな情報保障を行った。

水泳が行われた東京アクアティクスセンターでは、場内ディスプレイに日本手話言語解説者と日本語音声解説者の国際手話通訳の映像を表示した。また、スマートグラスにより、競技を見ながらテキスト化した競技解説に加え、選手のラップタイムや観戦ガイド等を見られる取組も実施した。

卓球が行われた東京体育館及びバドミントンが行われた京王アリーナＴＯＫＹＯでは、競技の音を擬音で体感できる「ミルオト」を実施した。ビジョンや客席に設置したディスプレイに、卓球やバドミントンで発生する「カッ」という球を打つ音や「パァン」というシャトルを打つ音を映し出し、競技音を視覚で楽しめるようにした。

東京武道館において行われた柔道では、競技フィールドで発生する音をネックレス型デバイスの振動で体感できる「Hapbeat」を活用した。柔道の投げ技やすり足などの「音」を誰もが体感できる取組を実施した。

各会場内にUC技術を紹介するPRブースを設置し、来場者がスタッフからUC技術に関する説明を受けながら透明ディスプレイなどを実際に体験できるようにした。



タブレットでの案内の様子



字幕テキスト表示



通訳者を表示したビジョン


ミルオト


Hapbeat


スマートグラス

2 オールウェルカムTOKYO ～デフ・スペシャル～

都は鑑賞サポート等を通じて、芸術文化を中心に、都内の様々なフィールドでアクセシビリティを高める取組である「オールウェルカムTOKYO」の一環として、大会期間を中心に、手話言語やUC技術等、多様な手段できこえない・きこえにくい人へのおもてなしを展開した。具体的には、都立公園・動物園での手話言語通訳による園内・動物のガイドツアーや手話言語動画による案内、鉄道・選手宿泊ホテルでのUC技術活用、空港でのコミュニケーションボードなどによる案内など、都立施設のほか、選手・観客が利用する都内民間施設とも連携し、取組を推進した。



手話言語通訳付きの施設紹介動画


日本手話言語通訳付きの動物解説ガイド（上野動物園）


選手宿泊ホテルでの「Sure Talk」の活用

3 国際手話の普及促進

都内の国際手話人口の裾野拡大を図るため、2023年度及び2024年度に、東京都国際手話普及促進事業を実施した。２年間で、延べ548人の国際手話講座の受講費用を助成した。

さらに、2025年度は、2023年度及び2024年度の助成者及び国際手話でコミュニケーションが可能なボランティアに向けて、デフリンピック及びその後の活躍を見据え、外国人と国際手話によるコミュニケーションを体験し、スキルアップを図る国際手話体験会を実施し、217人が参加した。これらの取組により、大会及び大会後の国際手話を使用したボランティア等での活躍を後押しした。


国際手話によるコミュニケーションを体験する様子


会話に必要なツールを用意

4 施設のアクセシビリティ

都は大会開催を契機として、競技会場となる都立スポーツ施設において情報保障設備の統一的な整備を実施した。

・光警報装置：
（設置）駒沢オリンピック公園総合運動場（陸上競技場・補助競技場・屋内球技場・体育館）・東京武道館
（増設）東京体育館・京王アリーナＴＯＫＹＯ・有明テニスの森・東京アクアティクスセンター

・避難口誘導灯（点滅＋音声）：
（設置）駒沢オリンピック公園総合運動場（陸上競技場・補助競技場・体育館）・東京武道館・東京体育館

・集団補聴設備：
（設置）駒沢オリンピック公園総合運動場（陸上競技場・体育館）・東京武道館



光警報装置



避難口誘導灯



集団補聴設備（左：送信機、右：受信機）

子どもの参画

1 都における子供の競技観戦・体験活動事業

次代を担う子どもたちが、大会を通じて、スポーツの素晴らしさや、障害のあるなしにかかわらず互いに尊重し合うことの大切さ、多様性などを学ぶ機会として、都教育委員会が実施する「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」と連携し、大会における子供の競技観戦・体験活動事業を実施した。

都内全公立・私立の小中高生（特別支援学校含む。）を対象に募集した結果、438校・45,725人（引率者含む。）が参加し、各会場における競技観戦やデフリンピックスクエアでの体験活動を行った。また、当日の参加だけでなく、事前に資料を配布し、各学校において事前の学習から参加後の振り返りまで一体的に実施することで、子どもたちにより深い学びを提供した。

実施スケジュール

日付	業務内容
2025年 6月3日（火）	申込専用サイトにて申込受付開始（～7月3日（木））
7月15日（火）	追加募集開始（～7月31日（木））
8月27日（水）～	一次募集分 決定通知（観戦競技・日程）
9月8日（月）～	追加募集分 決定通知（観戦競技・日程）
10月17日（金）～	事前学習用資料発送
10月20日（月）～	詳細案内通知（当日の行程、競技・会場詳細 等）
11月14日（金）～	振り返り用資料発送
11月17日（月）～	競技観戦・体験活動実施


観戦の様子


応援ボードを掲げる子どもたちの様子

各会場での競技観戦

各競技、会場の特性を踏まえ、以下の取組を行った。

・スタッフによるレクチャー（事前学習の復習、試合の見どころや注目選手の紹介等）
・応援ボードを使った応援
・サインエールによる応援等

競技観戦実施競技・会場

競技名	会場名
陸上競技	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場
陸上競技（マラソン）	東京高速道路及び首都高速道路高速八重洲線の一部
陸上競技（ハンマー投）	大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場
バドミントン	京王アリーナＴＯＫＹＯ（武蔵野の森総合スポーツプラザ）
バスケットボール	大田区総合体育館
ビーチバレーボール	大森ふるさとの浜辺公園
ハンドボール	駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場
柔道	東京武道館
空手	東京武道館
水泳	東京アクアティクスセンター
卓球	東京体育館
テニス	有明テニスの森
バレーボール	駒沢オリンピック公園総合運動場体育館
レスリング	府中市立総合体育館

デフリンピックスクエアでの体験活動

各グループに分かれ、以下の取組を行った。

・デフスポーツ体験（陸上・サッカー）
耳栓をつけた状態で、スタートランプを使った陸上競技のスタートやサッカーのパス回しを体験
・スタンプラリー
UC技術を体験できる「みるTech」、サインエールや国際手話・日本手話言語を学べるブース、DEAF SPORTS HOUSE等のコンテンツを回るスタンプラリーに参加



デフスポーツ体験（陸上競技）の様子


デフスポーツ体験（サッカー）の様子


「みるTech」でのスタンプラリー体験の様子

事前学習・事後振り返り

参加する学校に補助資料を配布し、各学校において事前学習授業やグループワークを実施した。子どもたちは、当日の競技観戦や体験活動に向けて、デフリンピックやデフスポーツについて理解を深めた。また、競技観戦や体験活動参加後の振り返りとして、配布した補助資料を活用しながら、各学校においてグループワークや個人ワークによりレポート記事の作成等を行い、互いに尊重し合うことの大切さや多様性などについて更に理解を深めた。



事前学習補助資料


事前学習の様子


振り返り実施後の様子



振り返り資料

参加した児童・生徒の声（振り返り資料より抜粋）

- 耳がきこえなくても、ランプでの合図などの工夫をすれば、きこえる人と同じように試合や勝負をすることができるんだなと思いました。今よりも、耳がきこえない人と話せるように、もっと手話やサインエールについて調べたいなと思いました。
- 声に出して応援するのが当たり前だと思っていたので、きこえにくい選手に応援ボードやサインエール等の、目でみえる応援をするのが初めてでおもしろかったです。
- 今回のデフリンピックに関する学習を通して、耳の聞こえない人でも平等な機会を得て、豊かな人生を送れるような配慮や工夫がなされていることを知りました。今後もきこえない人に限らず、すべての人が平等な機会を得ることができる世界を作るには、どうすれば良いのかを考えながら過ごしていきたいです。

2 福島県及び静岡県における子どもの競技観戦

福島県及び静岡県においても共生社会の実現に向けた学びの機会として、小中高生（特別支援学校を含む。）を対象にした競技観戦募集を行い、福島県32校・2,080人、静岡県11校・1,287人（いずれも引率者含む。）の子どもたちが会場で競技を観戦した。



【福島県】観戦招待の子どもたちとサインエールで応援の様子



【静岡県】スプリントに挑む選手と学校観戦の様子

3 全国ろう学校子ども観戦

連盟において、全国ろう学校の子どもたちに夢を与えるきっかけとなるよう、競技観戦の機会を提供し、当日は全国から18校・765人が参加し、会場での競技観戦を行った。

参加した児童・生徒の声

- 人生初のデフリンピックが見られてよかったです。いろんな人が手話で話しているところを見て感動しました。
- スポーツにおいての情報保障や国際手話を現地で見ることで、更にスポーツへの興味がもてた。また、その中で活躍された選手を見て自分も頑張りたいと思いました。
- 海外の選手たちと手話でやりとりする日本の選手やスタッフなどを見て、国によって手話表現は違っているけれど、心で通じ合っていることを見ることができてよかった。

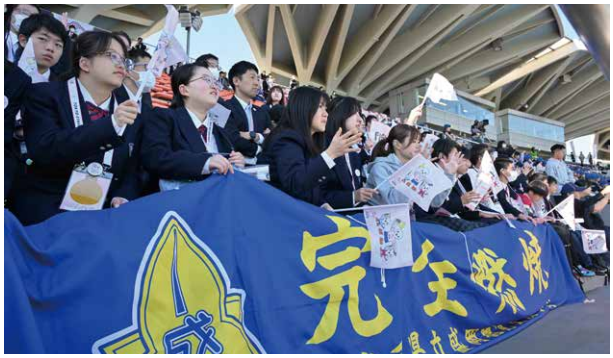




観戦の様子

4 被災地子ども観戦

躍動するデフアスリートの姿を間近に見ることで、障害の有無にかかわらず、子どもたちが自らの可能性を信じ、困難に挑戦する勇気を育む機会を提供するため、都は被災地（岩手県、宮城県、福島県、石川県）の特別支援学校に在籍する児童・生徒延べ136人（引率者含む。）を、陸上競技や卓球等の競技観戦に招待した。



観戦の様子（陸上競技）


観戦の様子（卓球）

5 未就学児のデフリンピック観戦事業

子どもの多様な体験の機会確保を目的として、都は、３歳から５歳児を対象に、大会の観戦に係る事業を企画・実施する４区市を支援し、537人が観戦した。


観戦の様子（調布市）

6 ろう学校の子どもたちの大会運営への参画

ろう学校の子どもたちが、大会ならではのまたとない経験を通じて自信や勇気を培うきっかけとなるよう、競技観戦だけでなく、選手と手をつないで入場する「エスコートキッズ」や、選手をハイタッチで出迎える「ハイタッチキッズ」、表彰式で副賞を選手の前まで運ぶ「副賞トレイベアラー」として、大会運営に参画する機会を創出した。

都内の全てのろう学校や被災地である石川県のろう学校などから、エスコートキッズ・ハイタッチキッズには245人、副賞トレイベアラーには44人、計289人の子どもたちが参加した。

＜参加した学校＞

- 東京都立大塚ろう学校
- 東京都立立川学園
- 東京都立葛飾ろう学校
- 東京都立中央ろう学校
- 明晴学園
- 学校法人日本聾話学校 ライシャワー学園
- 千葉県立千葉聾学校
- 石川県立ろう学校

参加した児童・生徒の声

- とても緊張したが選手とハイタッチできてうれしかったし、すごくいい経験だった。僕もバレーボールが好きになった。
- コートに立ってハイタッチしてみて、選手は身長がすごく高くて驚いた。初めてスポーツ観戦をしたのでいい思い出になった。来年中学生になるので、バレーボール部に入りたい。
- 簡単には経験できないことなので自分でやりたいと手を挙げて参加した。実際にやってみると少し緊張したが、選手を近くで見られてうれしかった。日本の礼儀のすばらしさを見せられるよう頑張った。

エスコートキッズ・ハイタッチキッズ（実施競技・会場）

競技名	会場名	実施日
バドミントン	京王アリーナＴＯＫＹＯ(武蔵野の森総合スポーツプラザ)	11月25日（火）
ハンドボール	駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場	11月25日（火）
卓球	東京体育館	11月19日（水）、20日（木）、21日（金）、24日（月）
バレーボール	駒沢オリンピック公園総合運動場体育館	11月17日（月）、18日（火）、20日（木）、25日（火）



エスコートキッズの様子（ハンドボール）



ハイタッチキッズの様子（バレーボール）

副賞トレイベアラー（実施競技・会場）

競技名	会場名	実施日
陸上競技	駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	11月17日（月）、18日（火）、19日（水）
柔道	東京武道館	11月17日（月）
空手	東京武道館	11月25日（火）
水泳	東京アクアティクスセンター	11月21日（金）



副賞トレイベアラーの様子（空手）



副賞トレイベアラーの様子（陸上競技）

7 こども記者

都子供政策連携室と連携し、都内の中高生が、11月16日に駒沢オリンピック公園総合運動場体育館にて、バレーボールの競技観戦を行った。また、12月６日に「Tokyo中高生Webサイト」制作に係る取材活動の一環として、女子デフバレーボール日本代表の長谷山優美さんへ取材を行い、中高生目線で見たデフリンピックに関する記事を作成した。



観戦の様子（バレーボール）



取材の様子

多様な人々の参画

1 スポーツFUN PARK

都は、11月22日から24日までの３日間、デフリンピック競技会場に隣接した駒沢オリンピック公園中央広場で、競技観戦や応援などの盛り上げにつなげるとともに、デフスポーツを含むパラスポーツへの関心向上を図り、共生社会の実現につなげていくため、スポーツFUN PARKを開催した。会場では、デフスポーツを含む幅広いスポーツ体験やアスリートとの交流の場を提供するほか、各国の旗を作成するワークショップなどのデフリンピック応援ブース、共生社会実現に資する企業等のブースなどを出展し、延べ約14万人が来場した。また、同時開催のTOKYOエシカルマルシェでは、SDGsの観点でデフリンピックと親和性の高いエシカル企業のブースも出展し、相乗効果で多くの集客につながった。



デフスポーツ体験の様子（ハンドボール）



デフリンピック応援ブースの様子

2 ボランティア応募者等の大会への参画

残念ながらボランティアに当選できなかった方々も含めたデフリンピックボランティアの応募者とともに、大会を盛り上げることを目的として、都は大会関連情報等を案内するメールを定期的に配信した。加えて、大会期間中の2025年11月14日、16日、21日、22日、23日、24日、25日には、計８会場にて、来場したボランティア落選者・開閉会式一般観覧落選者等に対し、来場記念グッズとして東京2025デフリンピック公式マスコットゆりーとピンバッジ（競技別デザイン20種）の配付を行った。(配付実績延べ10,049人)



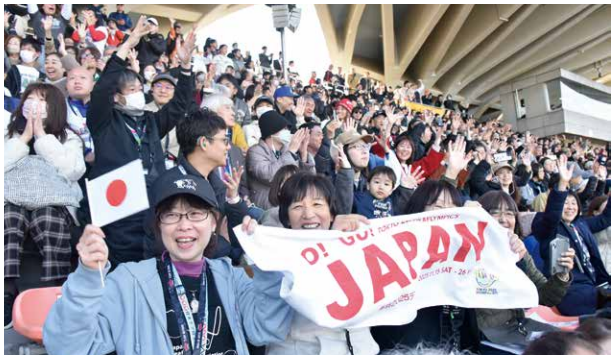
ピンバッジ 20 種


配付の様子（スポーツFUN PARK内）

3 TEAM BEYOND観戦会

東京都パラスポーツ応援プロジェクト「TEAM BEYOND」では、TEAM BEYONDメンバーを中心にTEAM BEYOND観戦会を11月16日及び24日に駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場及び体育館にて１回ずつ実施した。観戦時はリアルタイム音声配信サービスを利用した実況中継や、観戦ナビゲーターとアスリートやゲストとのトークの配信、手話言語通訳者の配置、実況の文字表示を行った。スマートグラスの貸出など情報保障を充実させ、障害のある人もない人も一緒に楽しめる環境を創出し、計186人が参加した。


スマートグラスで観戦（バレーボール）



観戦会の様子（陸上競技）



手話言語や文字表示で実況解説（陸上競技）

4 分身ロボットの活用による障害のある方等の大会参画

都は分身ロボット「OriHime（オリヒメ）」を活用し、現地観戦が困難な重度障害のある方等がタブレット端末を操作して、福祉施設や医療施設にいながら、競技観戦や競技体験、現地にいる来場者との交流などに遠隔で参加する機会を提供した。

競技会場での競技観戦・交流

大会期間中のうち、11月17日、18日、19日、20日、25日に実施し、計８施設136人が参加した。



OriHimeを通じた競技観戦の様子



会場に設置されたOriHime


OriHimeを活用した交流の様子


OriHimeを通じて交流する子どもたちの様子

スポーツFUN PARKでの来場者との交流

開催期間中のうち、11月22日、23日、24日に実施し、計６施設82人が参加した。


OriHimeを活用した交流の様子


OriHimeを通じた競技体験の様子

5 パラスポーツの振興とバリアフリー推進に向けた懇談会による発信

都が設置する「パラスポーツの振興とバリアフリー推進に向けた懇談会」のメンバーが、大会に向けて応援メッセージを寄せるとともに、大会期間中の11月22日、駒沢オリンピック公園総合運動場にて、スポーツFUN PARKの視察とバレーボール競技観戦を行い、デフスポーツや大会の魅力等について体感し、SNS等で発信した。



視察の様子（スポーツFUN PARK）


観戦の様子（バレーボール）

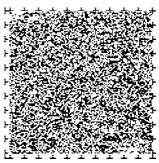
6 サインエール

大会期間中、都は、駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場をはじめ、東京体育館や東京アクアティクスセンターなど複数の競技会場に、サインエール開発メンバーや応援対象競技の経験者、ガールスカウト等で構成する応援団を派遣し、その応援団がサインエールによる応援を先導した。会場全体を巻き込んだサインエールによる応援は来場者の共感を広げ、きこえる人ときこえない人が一体となって、選手の活躍を後押しした。



サインエールの様子（陸上競技）


サインエールの様子（バレーボール）



第7章

レガシー



大会を通じて創出されたレガシー

東京2025デフリンピックにおいては、３つの大会ビジョン（「デフスポーツの魅力や価値を伝え、人々や社会とつなぐ」、「世界に、そして未来につながる大会へ」、「”誰もが個性を活かし力を発揮できる” 共生社会の実現」）の下、本報告書に記載されているとおり、大会の準備運営及び各種取組を進めた。

この準備運営や取組の数々は、デフリンピックという日本で初めて開催した前例のない大会の成功に向けた軌跡であり、新たな試みや挑戦など、それ自体が後世に残すべきレガシーである。また、第１章で「大会がもたらしたもの」として述べた、１ きこえない人・きこえる人の協働、２ スポーツ大会の新たな運営モデルの構築、３ 共生社会実現への貢献は、こうした準備運営や取組を積み上げた結果として成し得たものであり、そこに至る過程の中にも、レガシーとなる気付きや知見が含まれている。

本章では、大会を通じて創出されたレガシーとして、こうした新たな試みや挑戦、気付きや知見について、「大会がもたらしたもの」の３つの視点で整理した。

1 きこえない人・きこえる人の協働

東京2025デフリンピックでは、大会の準備運営において、体制を立ち上げる当初から一貫して連盟、都及び事業団が協働し、また、きこえない人が主役となるよう丁寧に大会を創り上げた。

大会準備連携会議、ICSD連絡会など、大会の根幹をなす場面はもとより、その他の会議や打合せにおいても、きこえない人ときこえる人が共に議論を重ね、互いの違いを認め、尊重しあいながら、準備を進めた。

大会の気運醸成においては、きこえない人がアンバサダーとして、大会の意義や魅力を発信する役割を担い、様々なイベント等に出演したほか、大会に至るまでの様々な場面で、デフアスリートをはじめとする多くの当事者の方々にご協力をいただいた。これらの取組は、きこえない人の活躍の場を広げるとともに、きこえない人ときこえる人が共に生きる社会に向けて何が大切かについて、自らの経験や思いを多くの人に直接届ける貴重な機会となった。

大会では、デフアスリートが活躍し、満員の観客からの応援、多くのメディアからの注目を浴びたほか、競技動画配信において、競技解説を務めるなど、国際的なイベントという大きな舞台で、きこえない人が主役となった。そして、ボランティアや大会サポートスタッフ、開閉会式の出演者などでも、きこえない人ときこえる人が協働して大会運営に携わったことは、多様な人々が共に大会を創り上げた象徴的な取組であり、後世に伝えるべき大きな意義を持っている。





レガシーにつながる取組等の例

	取組等	主な記載ページ
互いの違いを認め、尊重しあい協力	きこえない人・きこえる人で構成された、準備運営体制に関する検討会を２回、大会準備連携会議を14回、ICSD連絡会を10回開催するなど、密に連携	43-44
	連盟では、都など自治体から派遣職員を受け入れ、きこえない人ときこえる人が一緒に取組を進め、派遣元との連携を推進するなど、協働する体制を構築	43
	事業団では、きこえない人や手話言語通訳ができる人を職員として配置したほか、都及び事業団にてろう者の文化理解や手話言語に関する研修も実施	189-190
	開閉会式の演出家や出演者に、きこえない人・きこえる人が参画	113-114
	連盟のデフリンピック・フェスティバルやキャラバン活動など、地域ろう当事者団体が行政等と協働し、多くの人の参加を促進	79-83
きこえない人が主役に	開催基本計画の策定において、アスリート会議を開催し、デフアスリートに参加してもらい、当事者の視点を取り入れ検討	44
	大会エンブレムを、筑波技術大学の学生がデザインするとともに、同大学の学生たちが、大会サポートスタッフとして、大会で活躍	37,83 203-206
	応援アンバサダーに川俣郁美さんを起用したほか、各種イベントなど様々な場面で、デフアスリート等が登壇し、大会をPR	61-70
	開閉会式のプラカーダーや副賞トレイベアラー、ボランティアなど、大会の重要な役割に参画	115,191-196 233-234
	競技動画配信において、手話言語解説を担当し、当事者の目線で分かりやすく解説、競技の魅力を発信	147-148 198-199

東京2025デフリンピックが、あらゆる場面で、きこえない人ときこえる人が共に手を取り合い、取り組んだ大会の形は、これまでに類を見ず、共生社会に向けた礎として、今後のスポーツ施策をはじめとした様々な取組においても、当事者と共に歩む、その視点を引き継いでいくことが重要である。

2 スポーツ大会の新たな運営モデルの構築

日本初のデフリンピック開催は、未知への挑戦であり、過去大会の予算規模や選手団向けサービス等を一つ一つ紐解き、ICSDともサービスレベルを確認しながら準備を進めた。国民スポーツ大会も参考に大会規模（計画額）を定め、東京2020大会のレガシーである運営の知見やノウハウを活かし、各サービスの具体の内容を精査した。経費が過大とならないよう効率的に行う部分、一方で、選手が最高のパフォーマンスを発揮できるよう、今後の大会開催への影響も考慮しつつ充実させる部分など、メリハリを意識した。

会場は、既存の都立施設や地域のスポーツ施設など、東京の持つ資源を最大限に活用した。その上で、情報保障の充実や会場装飾による祝祭感の創出など、選手団や来場者の満足度を高められるよう工夫した。

また、選手が参加して良かった、また来たいと感じてもらえるよう、ニーズを汲み取り、飲食、輸送、ランドリーサービスなど、おもてなしの心でサービスを提供した。

これらの取組は、大会運営主体だけではなく、協賛者等の協力を得て実施したものも多くある。加えて、エンブレムやメダルデザインは子どもたちの投票によって決定したほか、大会運営ではボランティアや協賛者の社員等及び筑波技術大学の学生からなる大会サポートスタッフが活動するなど、多くの人々の協力・参画を得て大会を創り上げた。

大会では、数多くの新記録が生まれるなど、デフアスリートが最高のパフォーマンスを発揮できる環境を実現し、心のこもったサービスが選手の利便性と満足度を高め、シンプルでありながらも、人々の心に残るものとなった。また、様々な資源・リソースを最大限に活用した創意工夫による効率的な運営は、サステナブルな大会のモデルとなるものである。





レガシーにつながる取組等の例

	取組等	主な記載ページ
運営	会場選定にあたっては、新たな建設や大規模な改修を行わず、大会の規模を踏まえ、都立施設や地域のスポーツ施設など、既存施設を活用	39-40
	選手のモチベーションの高揚や、国際大会としての祝祭感の創出ができるよう、会場装飾は統一的かつポイントを絞って掲出するなど、効率的・効果的に実施	177-178
	本大会で初めてUC技術を活用し、選手や観客への情報保障を充実	226
	十分な飲料・補食等の提供、セッションスケジュールに合わせたきめ細かなバスダイヤの設定、無料のランドリーサービスなど、選手団向けサービスを充実	149-154,158 160-166
	全ての参加国にリエゾンを帯同させ、選手団からのコミュニケーションに関する不満や不安を解消するとともに、日本の文化や生活情報等を直接提供	94
	公式旅行代理店が選手団向けに手配した宿泊施設では、選手団をサポートするサービスデスクを設置し、対応を一元化	158
参画	物品や役務による提供など、各企業等のリソースの活用（VIK）や価格帯を広く設定し協賛を幅広く受け入れるなど、企業等が参画しやすい制度を構築	213-218
	大会エンブレムやメダルのデザインを、子どもたちの投票によって決定。投票を通して、多くの子どもたちが直接、大会に関わる機会を創出	83-84
	約3,000人のボランティアが活躍するとともに、大会サポートスタッフとして協賛者の社員等及び筑波技術大学の学生等に参画してもらい、大会運営の体制を構築	191-196 203-208
ガバナンス	都のガイドラインや国の指針を踏まえ、法令及び社会規範の遵守、意思決定の公正性・透明性の確保等、適切なガバナンス体制を構築し、必要な取組・対応を実施	45-49

東京2025デフリンピックが実現した、サステナブルで「シンプルで心に残る大会」は、スポーツ大会における新たな運営モデルの一つであり、その知見やノウハウを逸失することがないよう組織的に継承するとともに、今後のスポーツ大会等に活かしていくことが重要である。

3 共生社会実現への貢献

日本開催が決定した時点のデフリンピックの都内認知度は10.9%で、まずは大会を知ってもらうことから始まった。多くの人に大会を知ってもらい、ファンを増やし、そして、実際に観戦に来てもらうことで、大会の意義やデフスポーツの魅力、ろう者の文化への理解を広げて、共生社会の実現につなげていくことが、大会開催の大きな使命の一つであった。

特設サイトでデフアスリートや当事者の情報を発信する、子どもたちにデフリンピックや手話言語について学べる冊子を配布する、各種イベントにおいて当事者や手話言語、UCに触れてもらうなど、様々な取組を地道に進めたことにより、大会当日は約33万人もの方が会場に足を運んだ。大会の都内認知度は73.1%まで上昇し、着実に理解のすそ野は広がった。

また、共生社会の実現とともに、その未来に向けて、スポーツの力を通じ、広く東京や社会の課題の解決につなげるため、大会の開催を契機に様々な取組を行った。企業等と連携した「みるTech」、日本文化・都内観光情報の発信、子どもたちの観戦招待、デフリンピックスクエアの設置、ボランティア文化の継承など、その取組は多岐にわたる。

これら一つ一つの取組、また、その実施における多様な人々の参画は、「全ての人が輝くインクルーシブな街・東京」の実現に資するものであり、レガシーとして継承し、更に発展させることで、共生社会の実現につながるものである。







レガシーにつながる取組等の例

	取組等	主な記載ページ
みんなが つながる	スタートランプをはじめ、フラッグや光など視覚的に情報を伝える機器や用具を活用し、競技における情報保障を実施	99-108
	ビジョンなどを活用した字幕の表示、指差しボードや筆談の活用	59-60 226
	透明ディスプレイやタブレットを活用した案内、大会に向け国際手話人材の育成を推進し、円滑なコミュニケーションをサポート	197-202 226-227
	「音が見える、音を感じる競技会場の実現」をテーマに、スタートアップによるピッチコンテストを実施。優勝企業等と連携し、技術の開発を促進。開発した技術を含む様々な技術を各種競技大会で実証	50-52 223-224
	デフリンピック期間中、最新技術を活用し、誰もが“音が見える”“音を感じる”新しい競技観戦を提供	226
	気運醸成イベントにおいて、様々なデジタル技術の体験コンテンツを展開	64-66
	デフリンピックスクエアにおいて、スタートアップ等と連携し、UC技術等を体感できる「みるTech」を開催	139,225
	国内外からデフアスリートや観客が東京に集う機会を捉え、様々な団体と連携し、都立施設や民間施設において、UC技術や手話言語などを活用し、きこえない・きこえにくい方をおもてなしする「オールウェルカムTOKYO～デフスペシャル～」を展開	227
世界の人々が 出会う	東京高速道路（ＫＫ線）や伊豆大島（裏砂漠）など、東京ならではの魅力的な場所を競技会場として活用するとともに、ボランティア向けに手話言語やろう者の文化等理解の研修を実施するなど、おもてなしの心で選手や関係者をお迎え	39-40 192
	競技の様子を、世界中に届けられるよう、英語字幕付きの動画配信や、国際手話での競技解説を実施	147
	障害のあるなしや国籍等にかかわらず、芸術文化や食、観光資源等に触れ、誰もが楽しみ交流できる場所としてデフリンピックスクエアを設置	131-142 182-184,186
	選手団団長セミナーにおける東京産食材等の活用や、大会時の都内各所を巡る観光バスツアーの実施など、東京の魅力をPRするとともに、メダル製作に当たっても、東京の技術を活用し、東京・日本らしさを発信	55-56 122-123,141 182-183

レガシーにつながる取組等の例

	取組等	主な記載ページ
こどもたちが夢をみる	都内や被災地、全国のろう学校など、子どもたちを競技観戦に招待し、スポーツの素晴らしさや夢と希望を届け、学びや成長をサポート	229-235
	きこえない子どもときこえる子どもがデフアスリートと一緒にスポーツを楽しみ、交流する体験教室を実施	69-70
	選手入場時等のエスコートキッズやハイタッチキッズ、表彰式におけるトレイベアラーなど、ろう学校の子どもたちが運営に参画	233-234
	大会関連イベント等で集めた子どもたち等からのメッセージを選手に届けるとともに、競技会場の装飾などに活用	68-69
未来へ つなぐ	デフリンピックや手話言語について学べる冊子「学ぼう！デフリンピック」を制作し、都内全小学４年から６年生に配布したほか、全国の小中学校、ろう学校を含む特別支援学校、計50校にデフアスリート等を派遣し、児童・生徒に手話言語やデフスポーツを普及	71 80-81
	デフリンピックスクエアでのＡｉｒソーラー活用、エシカルな素材を活用した副賞や100％リサイクル可能な段ボールで製作した表彰台など、環境に配慮した取組を実施	124 179-180,185
	きこえない・きこえるにかかわらず、誰もが視覚的に応援を届けることができる「サインエール」を、ろう者やデフアスリートとともに開発。大会時には、多くの観客がサインエールで選手を応援	71-72 238
みんなで 創る	アスリート会議を設置し、オリンピアン、パラリンピアン、デフアスリート等の声を開催基本計画に反映	44
	自治体等とも連携しデフリンピックの気運醸成に取り組むとともに、競技団体等と円滑かつ確実な競技運営を実施	72-83 97-98
	障害のあるなしや年齢、国籍等にかかわらず、きこえない人・きこえる人、手話言語によるコミュニケーションができる人、英語などの外国語によるコミュニケーションができる人など、多様な人がボランティアとして大会に参画	191-196
	特設サイト「TOKYO FORWARD 2025」で大会を支える人やデフアスリート、社会で活躍するきこえない人等を紹介	62
	筑波技術大学の学生が大会エンブレムのデザイン案の作成や大会サポートスタッフを務めるほか、川俣郁美さんをアンバサダーに起用するなど、当事者の協力も得ながら気運醸成を実施	37,62,83 203-206

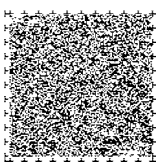
東京2025デフリンピックの開催と、それを契機とした様々な取組により生まれた、共生社会実現に向けたムーブメントを更に加速させるため、あらゆる施策や場面において、スポーツが持つ幅広い効果と社会を変える力を活かしていくことが重要である。

おわりに　～未来に向けて～

日本で初めて、かつ100周年の記念大会となる東京2025デフリンピックは、私たちに多くのレガシーを残した。大会の準備運営に中心となって関わった連盟、都及び事業団の三者は、このレガシーを継承・発展させ、より一層の協働、スポーツの更なる推進、そして共生の未来につなげていくことが求められる。

また、大会を通じて、アスリートやボランティア、通訳者、スタッフ、子どもたち、職員など、きこえない、きこえるにかかわらず、多くの方々がかけがえのない経験を得ることができた。こうした「人財」も大会の大きなレガシーであり、今後、様々な分野でこの経験を活かし、更なる未来の発展のため、活躍いただくことを期待したい。





資料編

用語集

正式名称(日)	正式名称(英)	略称
第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025	25th Summer Deaflympics Tokyo 2025	東京2025デフリンピック
国際ろう者スポーツ委員会	International Committee of Sports for the Deaf	ICSD
スポーツディレクター	Sports Director(s)	SD
一般財団法人全日本ろうあ連盟	Japanese Federation of the Deaf	連盟
公益財団法人東京都スポーツ文化事業団 デフリンピック準備運営本部	Tokyo Sport Benefits Corporation Deaflympics Preparation and Operation Office	デフリンピック準備運営本部
デフリンピック運営委員会	Organising Committee of 2025 Summer Deaflympics	運営委員会
公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構 東京都聴覚障害者連盟	Tokyo Deaf Comprehensive Support Organization Tokyo Federation of the Deaf	東京都聴覚障害者連盟
国際競技団体	International sports federations	IF
国内競技団体	National Sports Federations	NF
国内デフ競技団体	National Deaf sports Federations	NDF
都県競技団体	Prefectural Sports Federations	PF
競技会場運営責任者	Venue General Manager	VGM
競技運営担当者	Sport Liaison Officer	SLO
会場運営責任者	Venue Management Officer	VMO
会場サービス責任者	Venue Service Officer	VSO
MOC(大会運営本部)	Main Operations Centre	MOC
イベント・デリバリー・パートナー	Event delivery partner	EDP
スポーツ・インフォメーション・センター	Sport Information Centre	SIC
スポーツ・インフォメーション・デスク	Sport Information Desk	SID
VIK(現物支給)	Value In Kind	VIK

競技結果報告書

NDA：ろう者中立選手

陸上競技

種目	メダル	名前	国・地域等
Men 100m (男子 100m)	金	VISNAP Tanel	エストニア
	銀	SHARAPO Simon	スウェーデン
	銅	SASAKI Takuma	日本
Men 200m (男子 200m)	金	VISNAP Tanel	エストニア
	銀	YAMADA Maki	日本
	銅	SHARAPO Simon	スウェーデン
Men 400m (男子 400m)	金	YAMADA Maki	日本
	銀	GOLEBIOWSKI Oskar Mariusz	ポーランド
	銅	ALVAREZ Diego Fernando	コロンビア
Men 800m (男子 800m)	金	RONO Elikana Kiprop	ケニア
	銀	HIGUCHI Kousei	日本
	銅	TULAK Dalibor	チェコ共和国
Men 1500m (男子 1500m)	金	MWANZA James Musembi	ケニア
	銀	RONO Elikana Kiprop	ケニア
	銅	CHARNIAK Aliaksandr	NDA
Men 5000m (男子 5000m)	金	WAMBUI Ian Kahinga	ケニア
	銀	MWANZA James Musembi	ケニア
	銅	ROTICH Nelson Kipkorir	ケニア
Men 10000m (男子 10000m)	金	WAMBUI Ian Kahinga	ケニア
	銀	KIPKOGEI KIPTUM David	ケニア
	銅	XU Kuantian	中華人民共和国
Men 3000m Steeplechase (男子 3000m障害物)	金	WANJIRU Lucas Wandia	ケニア
	銀	KIPKEMOI Jacob Kibet	ケニア
	銅	XU Kuantian	中華人民共和国
Men 110m Hurdles (男子 110mハードル)	金	SUZEN Yasin	トルコ
	銀	ANDERSON Jarvis Jermaine	アメリカ合衆国
	銅	WANG Yingchang	中華人民共和国
Men 400m Hurdles (男子 400mハードル)	金	CHALA Emerson Alejandro	エクアドル
	銀	GOLEBIOWSKI Oskar Mariusz	ポーランド
	銅	ANDERSON Jarvis Jermaine	アメリカ合衆国
Men Long jump (男子 走幅跳)	金	VISNAP Tanel	エストニア
	銀	VODOPIANOV Yaroslav	ウクライナ
	銅	JEONG Seung yun	大韓民国

陸上競技			
種目	**メダル**	**名前**	**国・地域等**
Men High jump (男子 走高跳)	金	FEDORENKOV Denis	NDA
	銀	HRALKO Raman	NDA
	銅	BRZEZICKI Bartosz Jan	ポーランド
Men Pole vault (男子 棒高跳)	金	MUMINDZHANOV A. P.	NDA
	銀	NURPEISSOV Adam	イスラエル
	銅	KITADANI Hiroto	日本
Men Shot put (男子 砲丸投)	金	JURKSA Mindaugas Lukas	リトアニア
	銀	IVASKEVICIUS Vytenis	リトアニア
	銅	KOKOSZEWSKI Oskar Wiktor	ポーランド
Men Triple jump (男子 三段跳)	金	ANDERSON Jarvis Jermaine	アメリカ合衆国
	銀	MAISTRENKA Aliaksandr	NDA
	銅	HRALKO Raman	NDA
Men Javelin throw (男子 やり投)	金	MASETTI Matteo	イタリア
	銀	THOR Theodor Lennart Didrik	スウェーデン
	銅	LI Shulin	中華人民共和国
Men Hammer throw (男子 ハンマー投)	金	TOYAMA Riki	日本
	銀	MORIMOTO Masatoshi	日本
	銅	ISHIDA Takamasa	日本
Men Discus throw (男子 円盤投)	金	YUGAMI Masateru	日本
	銀	PAURYS Mazvydas	リトアニア
	銅	LI Yulin	中華人民共和国
Men Marathon (男子 マラソン)	金	KINGSTEDT Otto	スウェーデン
	銀	KIPKOGEI KIPTUM David	ケニア
	銅	CHASOY Jose Libardo	コロンビア
Men Decathlon (男子 十種競技)	金	MUMINDZHANOV A. P.	NDA
	銀	WEI Yu-Tze	チャイニーズ・タイペイ
	銅	KULDEYEV Nursultan	カザフスタン

種目	**メダル**	**国・地域等**
Men 4×100m Relay (男子 4×100mリレー)	金	日本
	銀	アメリカ合衆国
	銅	コロンビア
Men 4×400m Relay (男子 4×400mリレー)	金	日本
	銀	コロンビア
	銅	トルコ

陸上競技			
種目	**メダル**	**名前**	**国・地域等**
Women 100m (女子 100m)	金	LOSANGE Pamera	フランス
	銀	DEN EXTER Elaine Janice	オランダ
	銅	LANGE Tessa	ドイツ
Women 200m (女子 200m)	金	LOSANGE Pamera	フランス
	銀	LANGE Tessa	ドイツ
	銅	KINIAIKINA Kristina	ウクライナ
Women 400m (女子 400m)	金	AKSENOVA Viktoriia Victorovna	NDA
	銀	KINIAIKINA Kristina	ウクライナ
	銅	KUPRYCH Solomiia	ウクライナ
Women 800m (女子 800m)	金	ESTEVES MIRA DA SILVA M.	ポルトガル
	銀	ABUBIAKIROVA Iuliia Emilyevna	NDA
	銅	GAO Na	中華人民共和国
Women 1500m (女子 1500m)	金	ABUBIAKIROVA Iuliia Emilyevna	NDA
	銀	ESTEVES MIRA DA SILVA M.	ポルトガル
	銅	BITOK Sharon Jeptarus	ケニア
Women 5000m (女子 5000m)	金	ESTEVES MIRA DA SILVA M.	ポルトガル
	銀	ABUBIAKIROVA Iuliia Emilyevna	NDA
	銅	JELIMO Viola	ケニア
Women 10000m (女子 10000m)	金	PONCE JUAREZ Lourdes	メキシコ
	銀	RUOKONEN Sara-Elise	フィンランド
	銅	KIMANI Serah Kimani	ケニア
Women 100m Hurdles (女子 100mハードル)	金	GAL Nikolett	ハンガリー
	銀	HSU Le	チャイニーズ・タイペイ
	銅	GLOJNARIC Leja	スロベニア
Women 400m Hurdles (女子 400mハードル)	金	AKSENOVA Viktoriia Victorovna	NDA
	銀	NIEVES MEDINA Freya Danae	メキシコ
	銅	COOPWOOD Olivia Nicole	アメリカ合衆国
Women Long jump (女子 走幅跳)	金	GIRAT RIVERO Suslaidy	キューバ
	銀	BARSUKOVA Dziyana	NDA
	銅	MATVIIEVSKA Yuliia	ウクライナ
Women High jump (女子 走高跳)	金	MEIRMANOVA Faina	カザフスタン
	銀	SURAVETS Hanna	NDA
	銅	GLOJNARIC Leja	スロベニア
Women Shot put (女子 砲丸投)	金	COLMENARES Penaloza Daniela	コロンビア
	銀	URSULENKO Nataliia	ウクライナ
	銅	KYSYLOVA Yuliia	ウクライナ
Women Triple jump (女子 三段跳)	金	MATVIIEVSKA Yuliia	ウクライナ
	銀	GIRAT RIVERO Suslaidy	キューバ
	銅	BARSUKOVA Dziyana	NDA

陸上競技			
種目	**メダル**	**名前**	**国・地域等**
Women Javelin throw (女子 やり投)	金	STEFANAC Laura	クロアチア
	銀	LI Lei	中華人民共和国
	銅	CONTRERAS Ariel Ananda	エクアドル
Women Hammer throw (女子 ハンマー投)	金	FILIMOSHKINA Rymma	ウクライナ
	銀	KYSYLOVA Yuliia	ウクライナ
	銅	ZHAN Yafei	中華人民共和国
Women Discus throw (女子 円盤投)	金	NEKIC Mia	クロアチア
	銀	FU Fang	中華人民共和国
	銅	LIU Li	中華人民共和国
Women Marathon (女子 マラソン)	金	PONCE JUAREZ Lourdes	メキシコ
	銀	YANG Chunhua	中華人民共和国
	銅	KOSZTOWNY Agata Lidia	ポーランド
Women Heptathlon (女子 七種競技)	金	PRUDNIKAVA Dziyana	NDA
	銀	POTAPENKO Kateryna	ウクライナ
	銅	GLOJNARIC Leja	スロベニア
種目	**メダル**	**国・地域等**	
Women 4×100m Relay (女子 4×100mリレー)	金	ドイツ	
	銀	ウクライナ	
	銅	ポーランド	
Women 4×400m Relay (女子 4×400mリレー)	金	ウクライナ	
	銀	ドイツ	
	銅	コロンビア	
Mix 4×400m Relay (混合 4×400mリレー)	金	ウクライナ	
	銀	ケニア	
	銅	コロンビア	

バドミントン

種目	メダル	名前	国・地域等
Men's Singles (男子 シングルス)	金	Shokhzod GULOMZODA	NDA
	銀	Mikhail EFREMOV	NDA
	銅	Chun Hei LAU	ホンコン・チャイナ
Men's Doubles (男子 ダブルス)	金	Mikhail EFREMOV / Shokhzod GULOMZODA	NDA
	銀	Yuki MORIMOTO / Yasuhiro NAGAISHI	日本
	銅	Siriwat MATTAYA NUMAT / Ittikorn PUNYANGAM	タイ
Women's Singles (女子 シングルス)	金	Min Kyeong PARK	大韓民国
	銀	Yan-Ru SHEN	チャイニーズ・タイペイ
	銅	Katrin NEUDOLT	オーストリア
Women's Doubles (女子 ダブルス)	金	Ayaka YAKABE / Mai YAKABE	日本
	銀	Jialei JIANG / Hengyan ZHANG	中華人民共和国
	銅	Soyeong LEE / Min Kyeong PARK	大韓民国
Mixed Doubles (混合 ダブルス)	金	Shokhzod GULOMZODA / Elena TIURINA	NDA
	銀	Kyungduk SHIN / Min Kyeong PARK	大韓民国
	銅	Edmund TEO / Wei Ying BOON	マレーシア

種目	メダル	国・地域等
Mixed Team (混合団体)	金	日本
	銀	中華人民共和国
	銅	チャイニーズ・タイペイ

バスケットボール

種目	メダル	国・地域等
Men (男子)	金	アメリカ合衆国
	銀	ウクライナ
	銅	ギリシャ
Women (女子)	金	日本
	銀	アメリカ合衆国
	銅	ウクライナ

ビーチバレーボール

種目	メダル	名前	国・地域等
Men (男子)	金	TEMPLIN Henrik / FRANZ Tobias	ドイツ
	銀	KURZMANN Jakob-Lars / TKACHENKO Nikita	オーストリア
	銅	TARASOV Serhii / KOSHKAROV Anton	ウクライナ
Women (女子)	金	CHERNENKO Yuliia / RYLOVA Raisa	ウクライナ
	銀	ALEKNAVICIUTE Birute / KERAITE Doroteja	リトアニア
	銅	TOMAT Alice / BENNARDO Silvia	イタリア

ボウリング			
種目	**メダル**	**名前**	**国・地域等**
Singles - Men (男子 シングルス)	金	FORSYTH Matthew	ドイツ
	銀	BAK Jaeung	大韓民国
	銅	DUDA Daniel	ドイツ
	銅	PARK Jihong	大韓民国
Men's Doubles (男子 ダブルス)	金	SYABIL Syamsul Azam Azam / HO Choon Seong	マレーシア
	銀	DANYLIUK Vadym / IALOVEGA Vladyslav	ウクライナ
	銅	BAK Jaeung / KIM Jisu	大韓民国
	銅	BARTHOLOME, Christophe / BARTHOLOME, Thomas	ベルギー
種目	**メダル**	**国・地域等**	
Men's Team (男子 団体戦)	金	ドイツ	
	銀	大韓民国	
	銅	チャイニーズ・タイペイ	
	銅	ポーランド	
種目	**メダル**	**名前**	**国・地域等**
Singles - Women (女子 シングルス)	金	AN Hyoungsook	大韓民国
	銀	ZHUKOVA Anzhelika	ウクライナ
	銅	LIN Ya-Chin	チャイニーズ・タイペイ
	銅	CHEN I-Miao	チャイニーズ・タイペイ
Women's Doubles (女子 ダブルス)	金	LEE Chanmi / HEO Seonsil	大韓民国-1
	銀	MACKERY Nor Misha Nathera / ABDULLAH Huwainaa Danduan	マレーシア
	銅	LINZ Tina / HOENIG Thalia	ドイツ-2
	銅	PARK Sunok / AN Hyoungsook	大韓民国-2
種目	**メダル**	**国・地域等**	
Women's Team (女子 団体戦)	金	チャイニーズ・タイペイ	
	銀	大韓民国	
	銅	ウクライナ	
	銅	ドイツ	
種目	**メダル**	**国・地域等**	
Mixed Team (混合 団体戦)	金	大韓民国-2	
	銀	チャイニーズ・タイペイ-1	
	銅	大韓民国-1	
	銅	ウクライナ-2	

自転車競技(ロード)			
種目	**メダル**	**名前**	**国・地域等**
Men Sprint (男子 スプリント)	金	WALLACE Jayson Andrew	アメリカ合衆国
	銀	SONG Jiaojiao	中華人民共和国
	銅	GAO Xiang	中華人民共和国
Men Individual time trial (男子 個人タイムトライアル)	金	ROZANOV Dmitry Andreevich	NDA
	銀	SOARES Andre	ポルトガル
	銅	KO Byungwook	大韓民国
Men Individual road race (男子 個人ロードレース)	金	ROZANOV Dmitry Andreevich	NDA
	銀	GAVRILOV Egor	NDA
	銅	FUJIMOTO Musashi	日本
Men Points race (男子 ポイントレース)	金	ROZANOV Dmitry Andreevich	NDA
	銀	KO Byungwook	大韓民国
	銅	SOARES Andre	ポルトガル
Women Sprint (女子 スプリント)	金	BONDAREVA Alisa Viktorovna	NDA
	銀	WANG Qiqi	中華人民共和国
	銅	TOPCHANIUK Yelisaveta	ウクライナ
Women Individual time trial (女子 個人タイムトライアル)	金	HOI Long	マカオ・チャイナ
	銀	METZ Bianca	ドイツ
	銅	WANG Qiqi	中華人民共和国
Women Individual road race (女子 個人ロードレース)	金	MENG Yan	中華人民共和国
	銀	WANG Qiqi	中華人民共和国
	銅	BAVYKINA Elizaveta	NDA
Women Points race (女子 ポイントレース)	金	MENG Yan	中華人民共和国
	銀	WANG Qiqi	中華人民共和国
	銅	METZ Bianca	ドイツ

サッカー		
種目	**メダル**	**国・地域等**
Men (男子)	金	トルコ
	銀	日本
	銅	フランス
Women (女子)	金	アメリカ合衆国
	銀	日本
	銅	英国

ゴルフ

種目	メダル	名前	国・地域等
Individual (Men) (個人 (男子))	金	Allen JOHN	ドイツ
	銀	Kevin HALL	アメリカ合衆国
	銅	Nico GULDAN	ドイツ
Individual (Women) (個人 (女子))	金	Diksha DAGAR	インド
	銀	Margaux BREJO	フランス
	銅	Erica Dawn RIVARD	カナダ
Mixed Team (男女混合チーム)	金	Russell BOWIE / Erica Dawn RIVARD	カナダ
	銀	Allen JOHN / Vanessa GIRKE	ドイツ
	銅	Nico GULDAN / Stefanie MAYER	ドイツ

ハンドボール

種目	メダル	国・地域等
Men (男子)	金	クロアチア
	銀	ドイツ
	銅	フランス

柔道

種目	メダル	名前	国・地域等
Men -60kg (男子 -60kg級)	金	DANTAS Pedro Felipe Luis dos Santos	ブラジル
	銀	ALIYEV Joshgun	アゼルバイジャン
	銅	KAKITAYEV Altynbek	カザフスタン
	銅	OROZALI UULU Baisalbek	キルギス
Men -66kg (男子 -66kg級)	金	KHAMZE Gulama	カザフスタン
	銀	BOUHIDEL Abderrahmane	アルジェリア
	銅	LEE Juho	大韓民国
	銅	SALAHSHOUR GOL KHANI Ali	イラン・イスラム共和国
Men -73kg (男子 -73kg級)	金	KUANDYK Shadiyar	カザフスタン
	銀	HWANG Hyeon	大韓民国
	銅	VSHESTENKO Hryhorii	ウクライナ
	銅	GAMOU Kazuma	日本
Men -81kg (男子 -81kg級)	金	KANAFIN Yerkebulan	カザフスタン
	銀	OTVOS Patrik	ハンガリー
	銅	FUKASAWA Masato	日本
	銅	OUREDNIK Raphael	フランス
Men -90kg (男子 -90kg級)	金	KIM Minseok	大韓民国
	銀	NETIAHA Luka	ウクライナ
	銅	MONDORI Mizuki	日本
	銅	ALLAHKARIMI Hossein	イラン・イスラム共和国

柔道			
種目	**メダル**	**名前**	**国・地域等**
Men -100kg (男子 -100kg級)	金	REPIQUET Arthur	フランス
	銀	AIDARBEK Toktarbek	カザフスタン
	銅	YANG Jungmu	大韓民国
	銅	TAKAHASHI Tomoki	日本
Men +100kg (男子 +100kg級)	金	MEITE Amadou	フランス
	銀	BULUT Samet	トルコ
	銅	RASTEGAR Masoud	イラン・イスラム共和国
	銅	KHAPIZOV Sabirzhan	カザフスタン

種目	**メダル**	**国・地域等**
Men's Team (男子 団体戦)	金	カザフスタン
	銀	フランス
	銅	日本
	銅	イラン・イスラム共和国

種目	**メダル**	**名前**	**国・地域等**
Women -48kg (女子 -48kg級)	金	POZDEEVA Alina	NDA
	銀	HUITRON Maria Isabel	メキシコ
	銅	DIDORENKO Yelyzaveta	ウクライナ
	銅	ZHETPISBAYEVA Aiym	カザフスタン
Women -52kg (女子 -52kg級)	金	JEONG Sukhwa	大韓民国
	銀	SHOSTAK Anna	ウクライナ
	銅	KISHINO Ayane	日本
	銅	BOLEK Dominika	ポーランド
Women -57kg (女子 -57kg級)	金	SANTOS Joana FilipaPaulo	ポルトガル
	銀	TIRAS Buse	トルコ
	銅	SEO Eunji	大韓民国
	銅	BARRETO RODRIGUEZ Mayerlyn Nereida	ベネズエラ
Women -63kg (女子 -63kg級)	金	SHEPELIUK Kateryna	ウクライナ
	銀	LEE Hyeonah	大韓民国
	銅	GOKULU Esma	トルコ
	銅	RAMOS RAMIREZ Yadira	キューバ
Women -70kg (女子 -70kg級)	金	FAIZULINA Amina	カザフスタン
	銀	POHORELOVA Maryna	ウクライナ
	銅	KINUGAWA Akatsuki	日本
	銅	BONFANTI Valentina Antonella	アルゼンチン
Women -78kg (女子 -78kg級)	金	HONG Eunmi	大韓民国
	銀	SADI Bouchra Belinda	アルジェリア
	銅	TALAYHAN Yadigar	トルコ
	銅	KRAMOROVA Anna	カザフスタン

柔道			
種目	**メダル**	**名前**	**国・地域等**
Women +78kg (女子 +78kg級)	金	CUTRO-KELLY Nina Therese	アメリカ合衆国
	銀	KRAVCHENKO Oksana	ウクライナ
	銅	GULSEN Elif	トルコ
種目	**メダル**	**国・地域等**	
Women's Team (女子 団体戦)	金	ウクライナ	
	銀	カザフスタン	
	銅	大韓民国	
	銅	トルコ	

空手			
種目	**メダル**	**名前**	**国・地域等**
Men -60kg (男子 -60kg級)	金	NOVIKOV Viacheslav	ウクライナ
	銀	ALIBRANDI Giuseppe	イタリア
	銅	SADEGHZADEHMOGHADAM Milad	イラン・イスラム共和国
	銅	MORI Kenji	日本
Men -67kg (男子 -67kg級)	金	URSATII Ivan	ウクライナ
	銀	LARBI Mohammed	アルジェリア
	銅	RODRIGUEZ Gonzalez David Ismael	ベネズエラ
	銅	VOSKANYAN Gagik	アルメニア
Men -75kg (男子 -75kg級)	金	CHERNIAIEV Oleksandr	ウクライナ
	銀	EROGLU Emirhan	トルコ
	銅	HRISTOV Bozhidarov Nikolay	ブルガリア
	銅	REZAEINEJAD KATAKLAHIJANI Kamran	イラン・イスラム共和国
Men -84kg (男子 -84kg級)	金	MAKHNO Oleksandr	ウクライナ
	銀	VISPALINGGAM Yilamaran	マレーシア
	銅	CHOI Euiseok	大韓民国
	銅	KARDESLER Volkan	トルコ
Men +84kg (男子 +84kg級)	金	TETYUSHKIN Mikhaylovich Sergey	NDA
	銀	HASSANI Youcef	アルジェリア
	銅	PANTIUSHYN Mykola	ウクライナ
	銅	TABARTEHFARAHANI Hossein	イラン・イスラム共和国
Men Kata (男子 形)	金	MORI Kenji	日本
	銀	GOLCHEHRE Dalkani Pezhman	イラン・イスラム共和国
	銅	KIROGLU Sabri	トルコ
	銅	TRYTIAK Oleksandr	ウクライナ
種目	**メダル**	**国・地域等**	
Men's Kumite Team (男子 組手 団体戦)	金	ウクライナ	
	銀	トルコ	
	銅	ベネズエラ	
	銅	イラン・イスラム共和国	

空手

種目	メダル	名前	国・地域等
Women -50kg (女子 -50kg級)	金	ZAKIZADEHBABAKAN Nahal	イラン・イスラム共和国
	銀	HUBANOVA Maryna	ウクライナ
	銅	GADRA Amani	アルジェリア
	銅	SWAIN Lowa	インド
Women -55kg (女子 -55kg級)	金	HASSANPOOR Zeinab	イラン・イスラム共和国
	銀	MARCANO Cabeza Yeraldine Liz	ベネズエラ
	銅	DRAGONE Elisa	イタリア
	銅	BARDYSH Kateryna	ウクライナ
Women -61kg (女子 -61kg級)	金	OGURA Ryo	日本
	銀	BONDAR Yelyzaveta	ウクライナ
	銅	OZKAN Sinem	トルコ
	銅	ADRIA Sara	イラン・イスラム共和国
Women +68kg (女子 +68kg級)	金	YANCHUK Karyna	ウクライナ
	銀	JAVAHERI Bita	イラン・イスラム共和国
	銅	KIM Jinhee	大韓民国
	銅	OCAK Zuhrenaz	トルコ
Women Kata (女子 形)	金	VACHOUTOVA Barbora	チェコ共和国
	銀	MARDANI Mojdeh	イラン・イスラム共和国
	銅	PRYCHYNA Inesa	ウクライナ
	銅	OGURA Ryo	日本

種目	メダル	国・地域等
Women's Kata Team (女子 形 団体戦)	金	日本
	銀	イラン・イスラム共和国
	銅	ウクライナ
	銅	トルコ
Women's Kumite Team (女子 組手 団体戦)	金	イラン・イスラム共和国
	銀	ウクライナ
	銅	ベネズエラ

自転車競技(マウンテンバイク)

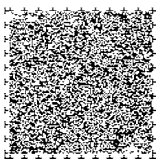
種目	メダル	名前	国・地域等
Cross-country olympic (Men) (男子 クロスカントリーオリンピック)	金	KUDRIN Aleksei Konstantinovich	NDA
	銀	BOZHKO Aleksei Vladimirovich	NDA
	銅	KLISH John Michael	アメリカ合衆国
Cross-country short track (Men) (男子 クロスカントリーショートトラック)	金	KUDRIN Aleksei Konstantinovich	NDA
	銀	BOZHKO Alekser Vladimirovich	NDA
	銅	ARCISZEWSKI Pawel	ポーランド

自転車競技(マウンテンバイク)			
種目	**メダル**	**名前**	**国・地域等**
Cross-country olympic (Women) (女子 クロスカントリーオリンピック)	金	BAVYKINA Elizaveta	NDA
	銀	TOPCHANIUK Yelisaveta	ウクライナ
	銅	PORETSKOVA Anna	NDA
Cross-country short track (Women) (女子 クロスカントリーショートトラック)	金	PORETSKOVA Anna	NDA
	銀	TOPCHANIUK Yelisaveta	ウクライナ
	銅	KUCZYNSKA Patrycja	ポーランド

オリエンテーリング			
種目	**メダル**	**名前**	**国・地域等**
Sprint distance Men (スプリントディスタンス 男子)	金	LEVYTSKYI Nazar	ウクライナ
	銀	LEVIN Dmytro	ウクライナ
	銅	FEDOSEIENKO Volodymyr	ウクライナ
Middle distance Men (ミドルディスタンス 男子)	金	FEDOSEIENKO Volodymyr	ウクライナ
	銀	MIHALYI Ferenc	ハンガリー
	銅	MAKUTENAS Mikalojus	リトアニア
Long distance Men (ロングディスタンス 男子)	金	LEVYTSKYI Nazar	ウクライナ
	銀	FORSBERG RUNDSTROM Nils	スウェーデン
	銅	KOVECKIS Rokas	リトアニア
Sprint distance Women (スプリントディスタンス 女子)	金	VANASAUN Anna	ウクライナ
	銀	FEDOSIEIEVA Hanna	ウクライナ
	銅	ANDROSOVYCH Hanna	ウクライナ
Middle distance Women (ミドルディスタンス 女子)	金	MELNYK Iana	ウクライナ
	銀	ANDROSOVYCH Hanna	ウクライナ
	銅	PANGRACOVA Marie	チェコ共和国
Long distance Women (ロングディスタンス 女子)	金	DIRZIUTE Gedvile	リトアニア
	銀	MELNYK Iana	ウクライナ
	銅	FEDOSIEIEVA Hanna	ウクライナ
種目	**メダル**	**国・地域等**	
Super Sprint Relay MIX (スーパースプリントリレー 混合)	金	フィンランド	
	銀	ウクライナ	
	銅	リトアニア	
Sprint Relay MIX (スプリントリレー 混合)	金	ウクライナ	
	銀	リトアニア	
	銅	ハンガリー	
Relay Men (リレー 男子)	金	ウクライナ	
	銀	スウェーデン	
	銅	ハンガリー	

射撃			
種目	メダル	名前	国・地域等
10m air pistol Men (10m エアピストル 男子)	金	KIM Tae Young	大韓民国
	銀	DESHWAL Abhinav	インド
	銅	GRAMNJAK Boris	クロアチア
10m air rifel Men (10m エアライフル 男子)	金	SRIKANTH Dhanush	インド
	銀	VANIA Mohammed Murtaza	インド
	銅	BAEK Seunghak	大韓民国
25m rapid fire pistol Men (25m ラピッドファイアピストル 男子)	金	LEE Seung Hwa	大韓民国
	銀	OHORODNYK Serhii	ウクライナ
	銅	KIM Tae Young	大韓民国
25m pistol Men (25m ピストル 男子)	金	DESHWAL Abhinav	インド
	銀	LEE Seung Hwa	大韓民国
	銅	FOMIN Serhii	ウクライナ
50m rifel 3 Positions Men (50m ライフル3姿勢 男子)	金	HESS Erik Matthias	ドイツ
	銀	SAINI Shourya	インド
	銅	PETRENKO Dmytro	ウクライナ
50m rifel Prone Men (50m ライフル伏射 男子)	金	PETRENKO Dmytro	ウクライナ
	銀	MUELLER Colin Daniel	ドイツ
	銅	RAJAWAT Kushagra Singh	インド
10m air pistol Women (10m エアピストル 女子)	金	PRASAD Anuya	インド
	銀	DHUMAL Pranjali Prashant	インド
	銅	SAMIEE Mahla	イラン・イスラム共和国
10m air rifel Women (10m エアライフル 女子)	金	LYKOVA Violeta	ウクライナ
	銀	SANDHU Mahit	インド
	銅	WAGHMARE Komal Milind	インド
25m pistol Women (25m ピストル 女子)	金	DHUMAL Pranjali Prashant	インド
	銀	MOSINA Halyna	ウクライナ
	銅	JEON Jiwon	大韓民国
50m rifel 3 Positions Women (50m ライフル3姿勢 女子)	金	SANDHU Mahit	インド
	銀	JEONG Dain	大韓民国
	銅	BIATOVSZKI Mira Zsuzsanna	ハンガリー
50m rifel Prone Women (50m ライフル伏射 女子)	金	SVOBODOVA Eliska	チェコ共和国
	銀	SANDHU Mahit	インド
	銅	BIATOVSZKI Mira Zsuzsanna	ハンガリー
10m air pistol Mixed team (10m エアピストル 混合)	金	DHUMAL Pranjali Prashant / DESHWAL Abhinav	インド - 1
	銀	KAO Ya-Ju / HSU Ming-Jui	チャイニーズ・タイペイ
	銅	SAMIEE Mahla / GHAFFARI Bijan	イラン・イスラム共和国
10m air rifle Mixed team (10m エアライフル 混合)	金	SANDHU Mahit / SRIKANTH Dhanush	インド - 1
	銀	JEONG Dain / KIM Woorim	大韓民国 - 1
	銅	VANIA Mohammed Murtaza / WAGHMARE Komal Milind	インド -2

水泳			
種目	**メダル**	**名前**	**国・地域等**
Men 50m Freestyle (男子50m 自由形)	金	SULTANOV Illia	ウクライナ
	銀	KLOTZ Matthew James	アメリカ合衆国
	銅	STUPANS Rudolfs	スウェーデン
Men 100m Freestyle (男子100m 自由形)	金	NAKONECHNYI Denys	ウクライナ
	銀	SULTANOV Illia	ウクライナ
	銅	GAVRIIL Antreas Savvas	キプロス
Men 200m Freestyle (男子200m 自由形)	金	IBARA Ryutaro	日本
	銀	SULTANOV Illia	ウクライナ
	銅	WOJCIK Rafal	ポーランド
Men 400m Freestyle (男子400m 自由形)	金	BOLDYREV Myroslav	ウクライナ
	銀	IBARA Ryutaro	日本
	銅	POWROZNIK Konrad Andrzej	ポーランド
Men 800m Freestyle (男子800m 自由形)	金	TAMBORRINO Federico	イタリア
	銀	BOLDYREV Myroslav	ウクライナ
	銅	ZHANG Yilin	中華人民共和国
Men 1500m Freestyle (男子1500m 自由形)	金	TAMBORRINO Federico	イタリア
	銀	BOLDYREV Myroslav	ウクライナ
	銅	ZHANG Yilin	中華人民共和国
Men 50m Backstroke (男子50m 背泳ぎ)	金	KLOTZ Matthew James	アメリカ合衆国
	銀	KREMLIAKOV Vladyslav	ウクライナ
	銅	KANAJI Yoshikazu	日本
Men 100m Backstroke (男子100m 背泳ぎ)	金	KLOTZ Matthew James	アメリカ合衆国
	銀	KREMLIAKOV Vladyslav	ウクライナ
	銅	KOCHMANN Lars	ドイツ
Men 200m Backstroke (男子200m 背泳ぎ)	金	KREMLIAKOV Vladyslav	ウクライナ
	銀	TROSHIN Mark Viktorovich	NDA
	銅	KLOTZ Matthew James	アメリカ合衆国
Men 50m Breaststroke (男子50m 平泳ぎ)	金	TITUS Marcus J.	アメリカ合衆国
	銀	NAKONECHNYI Denys	ウクライナ
	銅	KOLOMIIETS Oleksii	ウクライナ
Men 100m Breaststroke (男子100m 平泳ぎ)	金	TITUS Marcus J.	アメリカ合衆国
	銀	NAKONECHNYI Denys	ウクライナ
	銅	ZDRILIC Nikola	クロアチア
Men 200m Breaststroke (男子200m 平泳ぎ)	金	KOLOMIIETS Oleksii	ウクライナ
	銀	NAKONECHNYI Denys	ウクライナ
	銅	ZDRILIC Nikola	クロアチア
Men 50m Butterfly (男子50m バタフライ)	金	SULTANOV Illia	ウクライナ
	銀	NAKONECHNYI Denys	ウクライナ
	銅	KLOTZ Matthew James	アメリカ合衆国



水泳			
種目	**メダル**	**名前**	**国・地域等**
Men 100m Butterfly (男子100m バタフライ)	金	SKOSYRSKII Stepan Anatolyevich	NDA
	銀	IBARA Ryutaro	日本
	銅	DAVIS Collin Addison	アメリカ合衆国
Men 200m Butterfly (男子200m バタフライ)	金	SKOSYRSKII Stepan Anatolyevich	NDA
	銀	IBARA Ryutaro	日本
	銅	RYTOV Illia	ウクライナ
Men 200m individual medley (男子200m 個人メドレー)	金	IBARA Ryutaro	日本
	銀	SKOSYRSKII Stepan Anatolyevich	NDA
	銅	ZDRILIC Nikola	クロアチア
Men 400m individual medley (男子400m 個人メドレー)	金	IBARA Ryutaro	日本
	銀	POWROZNIK Konrad Andrzej	ポーランド
	銅	SKOSYRSKII Stepan Anatolyevich	NDA

種目	**メダル**	**国・地域等**
Men 4×100m Free Relay (男子4×100m フリーリレー)	金	ウクライナ
	銀	アメリカ合衆国
	銅	ポーランド
Men 4×200m Free Relay (男子4×200m フリーリレー)	金	ウクライナ
	銀	ポーランド
	銅	アメリカ合衆国
Men 4×100m Medley Relay (男子4×100m メドレーリレー)	金	アメリカ合衆国
	銀	ウクライナ
	銅	日本

種目	**メダル**	**名前**	**国・地域等**
Women 50m Freestyle (女子50m 自由形)	金	SCOTTO DI CARLO Viola	イタリア
	銀	EMBREKTE Zane	ラトビア
	銅	THOMPSON Brooke Elizabeth	アメリカ合衆国
Women 100m Freestyle (女子100m 自由形)	金	SCOTTO DI CARLO Viola	イタリア
	銀	GOWER Charlotte Louise Henderson	英国
	銅	EMBREKTE Zane	ラトビア
Women 200m Freestyle (女子200m 自由形)	金	CRONK Carli Elizabeth	アメリカ合衆国
	銀	SCOTTO DI CARLO Viola	イタリア
	銅	GOWER Charlotte Louise Henderson	英国
Women 400m Freestyle (女子400m 自由形)	金	CRONK Carli Elizabeth	アメリカ合衆国
	銀	SCOTTO DI CARLO Viola	イタリア
	銅	WUN Katy	英国
Women 800m Freestyle (女子800m 自由形)	金	WUN Katy	英国
	銀	CANINO Noemi	イタリア
	銅	SHEN Ying	中華人民共和国

水泳			
種目	**メダル**	**名前**	**国・地域等**
Women 1500m Freestyle (女子1500m 自由形)	金	WUN Katy	英国
	銀	CANINO Noemi	イタリア
	銅	BOROS Tamara Boglarka	ハンガリー
Women 50m Backstroke (女子50m 背泳ぎ)	金	SCOTTO DI CARLO Viola	イタリア
	銀	GOWER Charlotte Louise Henderson	英国
	銅	JARZEWICZ Klaudia	ポーランド
Women 100m Backstroke (女子100m 背泳ぎ)	金	GOWER Charlotte Louise Henderson	英国
	銀	BOROS Tamara Boglarka	ハンガリー
	銅	RUDZKO Maryia	NDA
Women 200m Backstroke (女子200m 背泳ぎ)	金	GOWER Charlotte Louise Henderson	英国
	銀	BOROS Tamara Boglarka	ハンガリー
	銅	PENG Huidi	中華人民共和国
Women 50m Breaststroke (女子50m 平泳ぎ)	金	NOLAN Imogen Mya	オーストラリア
	銀	KUBO Minami	日本
	銅	MARAGNO Gaia	イタリア
Women 100m Breaststroke (女子100m 平泳ぎ)	金	PETRUSHENKA Aksana	NDA
	銀	NOLAN Imogen Mya	オーストラリア
	銅	KUSHIDA Saho	日本
Women 200m Breaststroke (女子200m 平泳ぎ)	金	PETRUSHENKA Aksana	NDA
	銀	NOLAN Imogen Mya	オーストラリア
	銅	KUSHIDA Saho	日本
Women 50m Butterfly (女子50m バタフライ)	金	SCOTTO DI CARLO Viola	イタリア
	銀	CRONK Carli Elizabeth	アメリカ合衆国
	銅	THOMPSON Brooke Elizabeth	アメリカ合衆国
Women 100m Butterfly (女子100m バタフライ)	金	CRONK Carli Elizabeth	アメリカ合衆国
	銀	SCOTTO DI CARLO Viola	イタリア
	銅	THOMPSON Brooke Elizabeth	アメリカ合衆国
Women 200m Butterfly (女子200m バタフライ)	金	CRONK Carli Elizabeth	アメリカ合衆国
	銀	SCOTTO DI CARLO Viola	イタリア
	銅	PENG Huidi	中華人民共和国
Women 200m individual medley (女子200m 個人メドレー)	金	GOWER Charlotte Louise Henderson	英国
	銀	BOROS Tamara Boglarka	ハンガリー
	銅	DRAGAN Julia	ポーランド
Women 400m individual medley (女子400m 個人メドレー)	金	CRONK Carli Elizabeth	アメリカ合衆国
	銀	BOROS Tamara Boglarka	ハンガリー
	銅	WUN Katy	英国

水泳		
種目	**メダル**	**国・地域等**
Women 4×100m Free Relay (女子4×100m フリーリレー)	金	中華人民共和国
	銀	ポーランド
	銅	イタリア
Women 4×200m Free Relay (女子4×200m フリーリレー)	金	イタリア
	銀	中華人民共和国
	銅	アメリカ合衆国
Women 4×100m Medley Relay (女子4×100m メドレーリレー)	金	中華人民共和国
	銀	英国
	銅	日本
Mixed 4×100m Free Relay (混合4×100m フリーリレー)	金	アメリカ合衆国
	銀	ウクライナ
	銅	イタリア
Mixed 4×100m Medley Relay (混合4×100m メドレーリレー)	金	アメリカ合衆国
	銀	ウクライナ
	銅	中華人民共和国

卓球			
種目	**メダル**	**名前**	**国・地域等**
Men's Singles (男子 シングルス)	金	KEINATH Thomas	スロバキア
	銀	WANG Cong	中華人民共和国
	銅	CHAVEZ Cayl Brent Caleon	フィリピン
	銅	TIAN Jiping	中華人民共和国
Men's Doubles (男子 ダブルス)	金	WANG Cong / TIAN Jiping	中華人民共和国
	銀	LIN Quan / NIU Zeming	中華人民共和国
	銅	YANG Jung-Tsung / WANG Yi-Hsiang	チャイニーズ・タイペイ
	銅	KUO Yueh-Tung / LU Shih-Chieh	チャイニーズ・タイペイ
種目	**メダル**	**国・地域等**	
Men's Teams (男子 団体戦)	金	中華人民共和国	
	銀	チャイニーズ・タイペイ	
	銅	カザフスタン	
	銅	日本	
種目	**メダル**	**名前**	**国・地域等**
Women's Singles (女子 シングルス)	金	SUN Boyao	中華人民共和国
	銀	SHI Ce	中華人民共和国
	銅	ZAVINOVSKA Karyna	ウクライナ
	銅	WANG Zhe	中華人民共和国
Women's Doubles (女子 ダブルス)	金	SHI Ce / SUN Boyao	中華人民共和国
	銀	WANG Zhe / WANG Yutong	中華人民共和国
	銅	YAMADA Moemi / YAMADA Mizue	日本
	銅	BUDNYK Roksolana / ZAVINOVSKA Karyna	ウクライナ
種目	**メダル**	**国・地域等**	
Women's Teams (女子 団体戦)	金	中華人民共和国	
	銀	日本	
	銅	ポーランド	
種目	**メダル**	**名前**	**国・地域等**
Mixed Doubles (混合 ダブルス)	金	WANG Cong / WANG Zhe	中華人民共和国
	銀	TIAN Jiping / WANG Yutong	中華人民共和国
	銅	NIU Zeming / SUN Boyao	中華人民共和国
	銅	LIN Quan / SHI Ce	中華人民共和国

テコンドー			
種目	**メダル**	**名前**	**国・地域等**
Men Kyorigui -58kg (男子キョルギ -58kg)	金	POURESMAEILKALLEHBASTI Mahdi	イラン・イスラム共和国
	銀	KHOKIMOV Khojiakbar Khokim ugli	ウズベキスタン
	銅	LEE Ro woon	大韓民国
	銅	ABDRASH Ayan	カザフスタン
Men Kyorigui -68kg (男子キョルギ -68kg)	金	LIOTSOS Pavlos	ギリシャ
	銀	JIN Kun	中華人民共和国
	銅	ZEINALI Vahid	イラン・イスラム共和国
	銅	ABDURAKHMONOV Shohruz	ウズベキスタン
Men Kyorigui -80kg (男子キョルギ -80kg)	金	ISAKOV Shamil Isakovich	NDA
	銀	CHOE Sanggyu	大韓民国
	銅	MAVLONOV Azamat	キルギス
	銅	LI Shiqi	中華人民共和国
Men Kyorigui +80kg (男子キョルギ +80kg)	金	LEE Hak seong	大韓民国
	銀	SIMSEK Batuhan	トルコ
	銅	AMIRI Behzad	イラン・イスラム共和国
	銅	HU Taijun	中華人民共和国
Poomsae Individual Male (プムセ個人 男子)	金	LI Kui	中華人民共和国
	銀	REZASEFAT Chokami Morteza	イラン・イスラム共和国
	銅	LEE Soobin	大韓民国
	銅	TURDALIEV UTKIRBEK Karim ugli	ウズベキスタン
Women Kyorigui -49kg (女子キョルギ -49kg)	金	SATUSHIEVA Madina	NDA
	銀	TOJIBOEVA Dilbar	ウズベキスタン
	銅	SANCHEZ RAMIREZ Brenda	メキシコ
	銅	GOLES Petra	クロアチア
Women Kyorigui -57kg (女子キョルギ -57kg)	金	ZOLEIKANI Fatemehzahra	イラン・イスラム共和国
	銀	NURIDDINOVA Shahrizoda Gulomjon kizi	ウズベキスタン
	銅	ABDIKATOVA Aizhamol	カザフスタン
	銅	GIALLOUROU Alexandra	ギリシャ
Women Kyorigui -67kg (女子キョルギ -67kg)	金	ESHMIRZAEVA Guzal	ウズベキスタン
	銀	LEE Jin Young	大韓民国
	銅	MAKATOVA Aida	カザフスタン
	銅	PARHOMENKO Margarita	ラトビア
Women Kyorigui +67kg (女子キョルギ +67kg)	金	KOLOVRAT Matea	クロアチア
	銀	ABDIYUSUPOVA Maftuna	ウズベキスタン
	銅	LEE Dasom	大韓民国
	銅	SHAHBAZI Nasibeh	イラン・イスラム共和国

テコンドー

種目	メダル	名前	国・地域等
Poomsae Individual Female (プムセ個人 女子)	金	CHUNG Hyegeun	大韓民国
	銀	KHODABANDEH Maryam	イラン・イスラム共和国
	銅	HOSHINO Moe	日本
	銅	MIRASKAROVA Robiya Mirdavron Kizi	ウズベキスタン
Poomsae Mixed pair (プムセペア 混合)	金	Li Kui / Yang Luyu	中華人民共和国
	銀	Lee Soobin / Chung Hyegeun	大韓民国
	銅	REZASEFAT CHOKAMI Morteza / KHODABANDEH Maryam	イラン・イスラム共和国
	銅	TURDIBOEV Asadbek Karim ugli / MIRASKAROVA Robiya Mirdavron kizi	ウズベキスタン

テニス

種目	メダル	名前	国・地域等
Men's Singles (男子 シングルス)	金	Dmitry DOLZHENKOV	NDA
	銀	Gabor MATHE	ハンガリー
	銅	Mario KARGL	オーストリア
Men's Doubles (男子 ダブルス)	金	Vladislav Sergeevich Abramov / Dmitry DOLZHENKOV	NDA
	銀	Niklas KOEHLER / Luca STEEN	ドイツ
	銅	Urs Ferdinand BREITENBERGER / Cedric KAUFMANN	ドイツ
Women's Singles (女子 シングルス)	金	Polina Alexeevna SMIRNOVA	NDA
	銀	Heike ALBRECHT-SCHROEDER	ドイツ
	銅	Rina KOMOKATA	日本
Women's Doubles (女子 ダブルス)	金	Rina KOMOKATA / Riko SUZUKI	日本
	銀	Yuria MIYAGAWA / Chiaki SUGIMOTO	日本
	銅	Chelsie BROWN / Emily HANGSTEFER	アメリカ合衆国
Mixed Doubles (混合 ダブルス)	金	Polina Alexeevna SMIRNOVA / Dmitry DOLZHENKOV	NDA
	銀	Katerina BLASCIKOVA / Jaroslav SMEDEK	チェコ共和国
	銅	Heike ALBRECHT-SCHROEDER / Urs Ferdinand BREITENBERGER	ドイツ

バレーボール

種目	メダル	国・地域等
Men (男子)	金	ウクライナ
	銀	イタリア
	銅	トルコ
Women (女子)	金	日本
	銀	トルコ
	銅	ウクライナ

レスリング(フリースタイル)			
種目	**メダル**	**名前**	**国・地域等**
Men 57kg (男子 57kg)	金	SIAHVOSHI Mohammad	イラン・イスラム共和国
	銀	YESZHANOV Gabit	カザフスタン
	銅	SUSHCHEVSKYI Serhii	ウクライナ
	銅	SEROBYAN Senik	アルメニア
Men 65kg (男子 65kg)	金	PERNESH Shadiyar	カザフスタン
	銀	ROSTAMABADI Keyvan	イラン・イスラム共和国
	銅	NAMDAGDORJ Erkhembayar	モンゴル
	銅	SADAK Sinan	トルコ
Men 74kg (男子 74kg)	金	ZHAPARKULOV Adilet	キルギス
	銀	ZOHREVAND Abolfazl	イラン・イスラム共和国
	銅	TURGYNBAY Gassyr	カザフスタン
	銅	DORJDAGVA Chinzorig	モンゴル
Men 86kg (男子 86kg)	金	CHERVONENKO Anatolii	ウクライナ
	銀	KRISHAN Amit	インド
	銅	DONDER Oguz	トルコ
	銅	RSALY Sabyrzhan	カザフスタン
Men 97kg (男子 97kg)	金	DAHIYA Sumit	インド
	銀	SANER Omer	トルコ
	銅	ANTYPENKO Viktor	ウクライナ
	銅	SATTARI Erfan	イラン・イスラム共和国
Men 125kg (男子 125kg)	金	SHEMAROV Alexey	NDA
	銀	GHAMAR POUR Mohammad Rasoul	イラン・イスラム共和国
	銅	NERGIZ Seymen Berke	トルコ
	銅	SHONKU Khairatkhaan	カザフスタン

レスリング(グレコローマン)			
種目	**メダル**	**名前**	**国・地域等**
Men 60kg (男子 60kg)	金	ZHUMAKADYROV Smadiiar	キルギス
	銀	AYDIN Senol	トルコ
	銅	SARGSYAN Sargis	アルメニア
	銅	ABOLVAFAEI Seyedsadegh	イラン・イスラム共和国
Men 67kg (男子 67kg)	金	SAMARIN Andrey	カザフスタン
	銀	BAKHSHI Mehdi	イラン・イスラム共和国
	銅	BIGELDIEV Dinmukhamed	キルギス
	銅	KUS Kadir	トルコ
Men 77kg (男子 77kg)	金	SINKEVICIUS Mantas Kazimieras	リトアニア
	銀	IOSIFIDIS Nikolaos	ギリシャ
	銅	ZERAATPISHEH Mohammadjavad	イラン・イスラム共和国
	銅	ADAMIAN Hiavorh	NDA
Men 87kg (男子 87kg)	金	DEZFOULI Meysam	イラン・イスラム共和国
	銀	NIKOGHOSYAN Narek Hamlet	アルメニア
	銅	KACUR Ahmet Talha	トルコ
	銅	CHERVONENKO Anatolii	ウクライナ
Men 97kg (男子 97kg)	金	RABIEZADEHHAFSHAJANI Abouzar	イラン・イスラム共和国
	銀	KOSOV Andrii	ウクライナ
	銅	ABDRASSIL Ramazan	カザフスタン
	銅	ABDURAKHMANOV Nartu	キルギス
Men 130kg (男子 130kg)	金	SHEMAROV Alexey	NDA
	銀	SHONKU Khairatkhaan	カザフスタン
	銅	SOGABE Ken	日本
	銅	SHABANI Mohammadreza	イラン・イスラム共和国

詳細セッションスケジュール

※赤字はメダルセッション、青字は決勝戦
※セッション時間は、競技進行上前後する場合がある
※競技特性上、終了時間が見込めない場合は空欄

競技名：開閉会式

会場名	種目名	14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月	25 火	26 水
東京体育館	開会式		16:30 -19:00											
	閉会式													16:30 -18:00

競技名：陸上競技

会場名	種目名		14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月	25 火	26 水
駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	100m	男子				10:50 -11:47	10:40 -10:57 14:10 -14:11								
		女子				12:00 -12:25	10:30 -10:39 14:00 -14:01								
	200m	男子								11:20 -12:17	10:30 -10:47	12:30 -12:31			
		女子								10:50 -11:15	11:00 -11:09	12:15 -12:16			
	400m	男子				12:30 -13:11	11:30 -11:48	15:15 -15:16							
		女子					11:10 -11:28	15:00 -15:01							
	800m	男子								14:25 -15:00	12:00 -12:18	14:20 -14:23			
		女子									12:30 -12:49	14:00 -14:03			
	1500m	男子					12:35 -12:53	15:45 -15:50							
		女子						15:30 -15:36							
	5000m	男子								15:15 -15:52			15:10 -15:30		
		女子											14:40 -15:00		
	10000m	男子				14:00 -14:38									
		女子					13:00 -13:40								
	100m ハードル	女子						10:55 -11:04 14:45 -14:46							
	110m ハードル	男子						10:30 -10:47 14:30 -14:31							
	400m ハードル	男子								13:55 -14:10	11:20 -11:21				
		女子									11:35 -11:36				
	3000m 障害物	男子										13:00 -13:12			
	走高跳	男子					10:20 -12:00								
		女子				10:40 -12:00									

競技名：陸上競技

会場名	種目名		14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月	25 火	26 水
駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	棒高跳	男子										10:40 -13:20			
	走幅跳	男子								13:50 -15:15			13:50 -15:05		
		女子								10:40 -11:30			10:40 -12:10		
	三段跳	男子						11:10 -12:10							
		女子						13:30 -14:10							
	砲丸投	男子				11:00 -11:40 14:30 -15:10		14:00 -15:20							
		女子					10:10 -10:40 12:30 -13:00	11:00 -12:10							
	円盤投	男子									10:50 -11:20 12:00 -12:30		10:30 -11:40		
		女子											13:00 -14:05		
大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場	ハンマー投	男子							10:00 -11:30						
		女子							13:20 -14:30						
駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	やり投	男子								10:30 -11:10 11:50 -12:20		10:30 -11:30			
		女子								13:00 -14:15 14:20 -14:50		12:50 -14:30			
	7種競技	女子								10:30 -10:32 11:30 -12:00 14:15 -14:45 16:00 -16:01	10:40 -11:30 13:50 -14:20 15:20 -15:26				
	10種競技	男子				10:30 -10:39 11:30 -12:10 13:00 -13:30 14:40 -15:20 15:45 -15:54	10:00 -10:06 10:55 -11:25 12:45 -14:15 14:30 -15:00 15:55 -16:01								
東京高速道路及び首都高速道路高速八重洲線の一部	マラソン	男子												10:00 -13:00	
		女子												10:00 -14:00	

競技名：陸上競技

会場名	種目名		14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月	25 火	26 水
駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場	4x100m リレー	男子										15:00 -15:09	14:25 -14:26		
		女子										15:20 -15:29	14:10 -14:11		
	4x400m リレー	男子									14:30 -14:42		15:50 -15:54		
		女子											15:40 -15:45		
		混合				15:00 -15:05									

競技名：バドミントン

会場名	種目名		14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月	25 火	26 水
京王アリーナTOKYO(武蔵野の森総合スポーツプラザ)	シングルス	男子			9:30 -18:10	9:30 -13:30		9:30 -18:50	14:10 -14:50	9:30 -10:10 14:10 -14:50					
		女子			10:10 -18:50	10:50 -12:50		9:30 -18:10	14:50 -15:30	10:10 -10:50 14:50 -15:30					
	ダブルス	男子					10:10 -18:10	13:30 -16:10	15:30 -16:10	10:50 -11:30 15:30 -16:10					
		女子					10:50 -16:50	14:10 -16:10	16:10 -16:50	11:30 -12:10 16:10 -16:50					
	混合ダブルス	混合				13:30 -18:50	9:30 -10:10		9:30 -17:30	12:10 -12:50 16:50 -17:30					
	団体戦	混合										10:30 -13:50 14:30 -17:50	10:30 -13:50 14:30 -17:50	10:30 -13:50 14:30 -17:50	

競技名：バスケットボール

会場名	種目名		14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月	25 火	26 水
大田区総合体育館		男子			11:00- 13:30- 16:00- 18:30-	11:00- 13:30- 16:00- 18:30-	11:00- 13:30- 16:00- 18:30-	11:00- 13:30- 16:00- 18:30-	11:00- 13:30-	11:00- 13:30- 16:00- 18:30-	11:00- 13:30-	13:00- 18:00-	13:00- 18:00-	12:30- 19:00-	
		女子			10:30- 13:00- 15:30- 18:00-	10:30- 13:00- 15:30-	10:30- 13:00- 15:30-	10:30- 13:00-	10:30- 13:00- 15:30-	10:30- 13:00- 15:30- 18:00-	10:30- 13:00-	10:30- 15:30-	10:30- 15:30-	10:00- 15:00-	

競技名：ビーチバレーボール

会場名	種目名		14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月	25 火	26 水
大森ふるさとの浜辺公園		男子			9:00 -15:40	9:00 -15:40	9:00 -15:40	9:00 -15:40	9:00 -14:00	9:00 -15:40	9:00 -15:50	11:00- 14:00-			
		女子			9:00 -14:00	9:00 -14:00	10:40 -12:20	9:00 -15:40	10:40 -12:20	9:00 -15:40	12:20 -14:00	10:00- 13:00-			

競技名：ボウリング

会場名	種目名		14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月	25 火	26 水
東大和グランドボウル	シングルス	男子				10:00 -12:55 14:30 -17:25		11:00 -12:40 13:40 -15:00 15:00 -16:20							
		女子					10:00 -12:55 14:30 -17:25		11:00 -12:40 13:40 -15:00 15:00 -16:20						
	ダブルス	男子								10:00 -12:55 14:30 -16:10 16:20 -17:40 17:40 -19:00					
		女子									10:00 -12:55 14:30 -16:10 16:20 -17:40 17:40 -19:00				
	団体戦	男子										10:00 -12:00 13:30 -15:45 16:00 -17:25 17:25 -18:50			
		女子											10:00 -12:00 13:30 -15:45 16:00 -17:25 17:25 -18:50		
		混合												10:00 -12:00 13:30 -15:45 16:00 -17:25 17:25 -18:50	

競技名：自転車競技(ロード)

会場名	種目名		14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月	25 火	26 水
日本サイクルスポーツセンター	スプリント	男子				9:00 -15:30									
		女子				9:00 -15:30									
	個人タイムトライアル	男子							9:00 -12:30						
		女子							13:00 -14:30						
	個人ロードレース	男子									9:00 -12:30				
		女子									13:00 -15:00				
	ポイントレース	男子					14:00 -15:00								
		女子					13:00 -13:45								

競技名：サッカー

会場名	種目名		14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月	25 火	26 水
Ｊヴィレッジ		男子	12:00- 16:30-		12:00- 16:30-		12:00- 16:30-		12:00- 16:30-		12:00- 16:30-		12:00- 16:30-	17:30-	
		女子		12:00-		12:00-		12:00-		12:00-		12:00-		10:00- 12:00-	

競技名：ゴルフ

会場名	種目名		14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月	25 火	26 水
若洲ゴルフリンクス	個人戦	男子					8:30-	8:30-	8:30-						
		女子					8:55-	8:55-	8:35-						
	男女混合チーム戦	混合								8:30-					

競技名：ハンドボール

会場名	種目名		14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月	25 火	26 水
駒沢オリンピック公園 総合運動場 屋内球技場		男子			10:00 -12:00 13:00 -15:00 16:00 -18:00 19:00 -21:00	10:00 -12:00 13:00 -15:00 16:00 -18:00 19:00 -21:00		10:00 -12:00 13:00 -15:00 16:00 -18:00 19:00 -21:00		10:00 -12:00 13:00 -15:00 16:00 -18:00 19:00 -21:00		10:00 -12:00 13:00 -15:00 16:00 -18:00 19:00 -21:00		10:00 -12:00 13:00 -15:00 16:00 -18:00 19:00 -21:00	

競技名：柔道

会場名	種目名		14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月	25 火	26 水
東京武道館	-60kg	男子			9:30- 15:05- 15:55-										
	-66kg	男子			9:30- 15:20- 16:20-										
	-73kg	男子			10:35- 15:30- 16:40-										
	-81kg	男子				9:30- 15:05- 16:05-									
	-90kg	男子				9:55- 15:20- 16:30-									
	-100kg	男子				10:00- 15:30- 16:55-									
	+100kg	男子				10:20- 15:35- 17:20-									
	-48kg	女子			11:00- 15:00- 15:40-										
	-52kg	女子			10:00- 15:10- 16:05-										
	-57kg	女子			10:40- 15:25- 16:30-										
	-63kg	女子				10:25- 15:00- 15:55-									
	-70kg	女子				10:40- 15:10- 16:20-									
	-78kg	女子				10:05- 15:25- 16:40-									
	+78kg	女子				10:10- 15:35- 17:05-									
	団体戦	男子					9:30- 13:55- 14:35-								
		女子					10:30- 13:35- 14:20-								

競技名：空手

会場名	種目名		14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月	25 火	26 水
東京武道館	-60kg	男子											9:30- 15:00- 15:55-		
	-67kg	男子											9:30- 15:15- 16:15-		
	-75kg	男子											9:50- 15:30- 16:35-		
	-84kg	男子											10:00- 15:45- 17:00-		
	+84kg	男子										12:40- 15:40- 16:00-			
	-50kg	女子											13:00- 15:05- 16:05-		
	-55kg	女子											10:50- 15:20- 16:25-		
	-61kg	女子											10:15- 15:35- 16:50-		
	+68kg	女子										13:00- 15:50- 16:10-			
	形	男子										9:30- 14:00- 14:35-			
		女子										10:00- 14:10- 14:50-			
	形　団体戦	女子										11:15- 14:20- 15:00-			
	組手　団体戦	男子												9:30- 12:05- 12:55-	
		女子												9:30- 11:45- 12:35-	

競技名：自転車競技(マウンテンバイク)

会場名	種目名		14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月	25 火	26 水
日本サイクル スポーツセンター	クロスカントリー オリンピック(XCO)	男子												11:15 -13:15	
		女子												9:00 -11:00	
	クロスカントリー ショートトラック (XCC)	男子											14:00 -14:45		
		女子											13:00 -13:45		

競技名：オリエンテーリング

会場名	種目名		14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月	25 火	26 水
日比谷公園・日比谷エリア	スーパースプリントリレー	混合			12:00 -13:30										
	スプリントディスタンス	男子		8:00 -10:00											
		女子		8:00 -10:00											
	スプリントリレー	混合			8:00 -10:00										
伊豆大島(裏砂漠)	ミドルディスタンス	男子							10:00 -14:00						
		女子							10:00 -14:00						
	ロングディスタンス	男子								9:00 -14:00					
		女子								9:00 -14:00					
	リレー	男子										10:00 -14:00			

競技名：射撃

会場名	種目名		14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月	25 火	26 水
味の素ナショナルトレーニングセンター・イースト	10m エアピストル 団体戦	混合						11:00 -11:30 13:20 -14:00							
	10m エアライフル 団体戦	混合					9:30 -10:00 11:00 -11:30 13:20 -14:00								
	10m エアピストル	男子				10:00 -11:15 14:45 -15:30									
		女子				12:15 -13:30 16:30 -17:15									
	10m エアライフル	男子			10:00 -11:15 14:45 -15:30										
		女子			12:15 -13:30 16:30 -17:15										
	25m ラピッドファイアピストル	男子											15:15 -15:45 16:15 -16:45 17:15 -17:45	10:45 -11:15 11:45 -12:15 12:45 -13:15 14:45 -15:45	

競技名：射撃

会場名	種目名		14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月	25 火	26 水
味の素ナショナルトレーニングセンター・イースト	25m ピストル	男子										9:00 -10:00 10:45 -11:15 12:45 -13:45			
		女子											9:00 -10:00 10:45 -11:15 12:45 -13:45		
	50m ライフル 3姿勢	男子								11:15 -12:45 14:15 -15:15					
		女子									11:15 -12:45 14:15 -15:15				
	50m ライフル伏射	男子						11:15 -12:05 13:30 -14:20 15:45 -16:30							
		女子							10:45 -11:35 13:15 -14:00						

競技名：水泳

会場名	種目名		14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月	25 火	26 水
東京アクアティクスセンター	50m 自由形	男子											10:09 -10:22 17:08 -17:16	 17:37 -17:45	
		女子										10:00 -10:09 17:08 -17:16	 17:00 -17:08		
	100m 自由形	男子									10:00 -10:18 17:08 -17:16	 17:00 -17:08			
		女子								10:00 -10:12 17:00 -17:08	 17:00 -17:08				
	200m 自由形	男子								10:12 -10:27 17:08 -17:17					
		女子												10:08 -10:20 17:08 -17:17	
	400m 自由形	男子							10:30 -10:56 17:38 -17:49						
		女子							11:19 -11:40 18:25 -18:37						
	800m 自由形	男子									10:57 -11:33	18:26 -18:41			
		女子										11:01 -11:27	18:30 -18:45		
	1500m 自由形	男子											10:50 -11:53	18:24 -18:47	
		女子								10:27 -11:15	18:30 -18:48				
	50m 背泳ぎ	男子										10:09 -10:18 17:16 -17:24			
		女子									10:44 -10:50 17:54 -18:02				
	100m 背泳ぎ	男子							10:00 -10:15 17:00 -17:08						
		女子											10:00 -10:09 17:54 -18:02		

競技名：水泳

会場名	種目名		14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月	25 火	26 水
東京アクアティクスセンター	200m 背泳ぎ	男子								11:33 -11:46 17:37 -17:46					
		女子												10:29 -10:44 18:15 -18:24	
	50m 平泳ぎ	男子									10:50 -10:57 18:22 -18:30				
		女子								11:27 -11:33 17:46 -17:54					
	100m 平泳ぎ	男子												10:00 -10:08 17:00 -17:08	
		女子									10:18 -10:27 17:16 -17:24				
	200m 平泳ぎ	男子								11:15 -11:27 18:14 -18:24					
		女子											10:22 -10:34 17:16 -17:26		
	50m バタフライ	男子							11:05 -11:19 18:17 -18:25						
		女子											10:44 -10:50 18:02 -18:10		
	100m バタフライ	男子											10:34 -10:44 17:46 -17:54		
		女子							10:56 -11:05 17:49 -17:57						
	200m バタフライ	男子												10:20 -10:29 17:45 -17:55	
		女子										10:46 -10:52 17:56 -18:06			

競技名：水泳

会場名	種目名		14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月	25 火	26 水
東京アクアティクスセンター	200m 個人メドレー	男子									10:27 -10:44 17:44 -17:54				
		女子							10:15 -10:30 17:08 -17:18						
	400m 個人メドレー	男子										10:33 -10:46 17:44 -17:56			
		女子										10:18 -10:33 18:41 -18:53			
	4x100m リレー	男子							11:40 -11:52 18:57 -19:08						
		女子							11:52 -12:04 19:08 -19:20						
		混合											11:53 -12:04 18:45 -18:57		
	4x200m リレー	男子										10:52 -11:01 19:13 -19:28			
		女子								11:46 -11:56 18:24 -18:39					
	4x100m メドレーリレー	男子												10:44 -10:52 19:19 -19:31	
		女子												10:52 -11:02 19:07 -19:19	
		混合									11:33 -11:45 19:08 -19:20				

競技名：卓球

会場名	種目名		14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月	25 火	26 水
東京体育館	シングルス	男子							13:30 -17:30	9:30 -17:00 17:50 -18:40					
		女子							9:30 -13:30	10:20 -16:10 17:00 -17:50					
	ダブルス	男子						9:30 -17:00 17:50 -18:40							
		女子						10:20 -16:10 17:00 -17:50							
	混合ダブルス	混合					9:30 -17:10 17:50 -18:40								
	団体戦	男子										9:30 -16:40	9:30 -19:20 17:30 -19:20		
		女子										9:30 -16:40	9:30 -19:20 12:10 -19:20		

競技名：テコンドー

会場名	種目名		14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月	25 火	26 水
中野区立総合体育館	-58kg	男子										10:00 -13:30 15:00 -18:00 18:30 -19:30 19:30 -20:30			
	-68kg	男子										10:00 -13:30 15:00 -18:00 18:30 -19:30 19:30 -20:30			
	-80kg	男子											10:00 -12:45 14:45 -16:45 16:45 -17:45 17:45 -18:45		

競技名：テコンドー

会場名	種目名		14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月	25 火	26 水
中野区立総合体育館	+80kg	男子											10:00 -12:45 14:45 -16:45 16:45 -17:45 17:45 -18:45		
	-49kg	女子										10:00 -13:30 15:00 -18:00 18:30 -19:30 19:30 -20:30			
	-57kg	女子										10:00 -13:30 15:00 -18:00 18:30 -19:30 19:30 -20:30			
	-67kg	女子											10:00 -12:45 14:45 -16:45 16:45 -17:45 17:45 -18:45		
	+67kg	女子											10:00 -12:45 14:45 -16:45 16:45 -17:45 17:45 -18:45		
	プムセ個人	男子									10:00 -12:20 12:30 -13:10 15:10 -15:50				
		女子									10:00 -12:20 12:30 -13:10 15:10 -15:50				
	プムセペア	混合									10:00 -12:20 12:30 -13:10 15:10 -15:50				

競技名：テニス

会場名	種目名		14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月	25 火	26 水
有明テニスの森	シングルス	男子			10:00-		10:00-		10:00-	10:00-		10:00-		10:00-	
		女子			10:00-		10:00-		10:00-	10:00-		10:00-		10:00-	
	ダブルス	男子				10:00-		10:00-		13:00-	10:00-		10:00-		
		女子				10:00-				13:00-	10:00-		10:00-		
	混合ダブルス	混合			13:00-	13:00-		13:00-	13:00-		13:00-	13:00-			

競技名：バレーボール

会場名	種目名		14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月	25 火	26 水
駒沢オリンピック公園 総合運動場 体育館		男子			10:00- 12:30- 15:00- 17:30-	10:00- 10:15- 15:15-	10:00- 12:30- 15:00-	10:00- 10:15- 15:00-	10:00- 12:30- 15:00-		10:00- 12:30- 15:00- 17:30-	10:00- 12:30- 15:00- 17:30-	10:00- 15:00-	10:00- 15:00-	
		女子			10:15- 12:45- 15:15-		10:15- 12:45- 15:15-		10:15- 12:45- 15:15-		10:15- 12:45- 15:15-	10:15- 12:45- 15:15-	12:30-	12:30- 17:30-	

競技名：レスリング(フリースタイル)

会場名	種目名		14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月	25 火	26 水
府中市立総合体育館	57kg	男子										10:00 -14:30	11:50 -12:05		
	65kg	男子										10:00 -14:30	12:05 -12:20		
	74kg	男子										10:00 -14:30	12:20 -12:35		
	86kg	男子										10:00 -14:30	12:35 -12:50		
	97kg	男子										10:00 -14:30	12:50 -13:05		
	125kg	男子										10:00 -14:30	13:05 -13:20		

競技名：レスリング(グレコローマン)

会場名	種目名		14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月	25 火	26 水
府中市立総合体育館	60kg	男子								10:00 -14:30	11:52 -12:07				
	67kg	男子								10:00 -14:30	12:07 -12:22				
	77kg	男子								10:00 -14:30	12:22 -12:37				
	87kg	男子								10:00 -14:30	12:37 -12:52				
	97kg	男子								10:00 -14:30	12:52 -13:07				
	130kg	男子								10:00 -14:30	13:07 -13:22				

大会サービスガイドの項目一覧

内容
はじめに
あいさつ
用語集
東京2025デフリンピック
主要日
大会運営体制
組織
ガバナンス
持続可能性
情報保障
連絡・情報提供方法
政治的行為等の禁止
選手団登録
スポーツエントリーの概要
タイムライン(日程・スケジュール)
登録関連書類
大会参加料の徴収
オンライン・マネジメント・システム(OMS)
スポーツエントリープロセス
オンライン・エントリー
最終提出及び締切り
IDカード
概要
発行場所
発行条件
大会参加時におけるIDカード
救急医療情報カード
聴力検査
通関及び貨物輸送
通関手順
携帯品又は別送品に対する免税
保険
到着時の税関手続
別送品手続
支払手段等の携帯輸出入の手続
銃器・弾薬
医薬品及び医療機器
入国
公式空港
入国日の指定等
短期査証発行手続
短期査証発給サポート

内容
入国プロセス
検疫
入国審査
手荷物受取
出国
公式空港
出国日の指定
出国手続
通常出国手続
宿泊
宿泊施設の予約
早期予約の必要性
早期予約のメリット
早期予約しなかった場合のデメリット
予約の手続
予約のスケジュール
予約のキャンセル
宿泊料の支払い
旅行契約の締結
宿泊施設の概要
宿泊先のサービス
各宿泊施設での対応
飲食
ランドリー
宿泊時の急病人等への対応
上記以外の宿泊
デフリンピックスクエア
設置期間・場所
ゾーンとアクセスコントロールポイント
施設案内
NYCマップ
デフリンピックスクエアでのルール
運営諸室
問合せ窓口
NDSF用会議室
救護所
選手交流ラウンジ
ウォームアップエリア
手荷物サービス
技術会議
スポーツ・インフォメーション・センター (SIC)
メディアセンター
飲食サービス

内容
セキュリティ
緊急時の対応
遺失物
デフリンピックスクエアのWi-Fi環境
競技
競技会場
競技スケジュール
競技用具
練習会場
大会期間中の練習会場
大会期間前の練習会場
提供されるサービス
計量
飲食サービス
清掃サービス
競技会場等のインターネット環境
救護サービス
アンチ・ドーピング
アンチ・ドーピングプログラム
啓発活動
大会期間中の運営
治療目的での使用に関する免除
表彰式
スポーツ・インフォメーション・デスク(SID)
会場における技術撮影
競技会場における遺失物
輸送
輸送の考え方
所要時間及びルート図
指定乗降地
選手団輸送
選手用バス時刻表
空港輸送
競技期間中の輸送
遠方で実施する競技の輸送
開閉会式輸送
観戦目的の輸送
自己手配で宿泊施設を予約した国の輸送
レンタカーの利用
車両認証/ 駐車許可証
荷物輸送
公共交通機関利用

内容
セレモニー
開閉会式
開閉会式のセキュリティ
開閉会式時携行禁止物品及び服装
表彰式
表彰時携行禁止物品
賞状・参加証及びメダルケースの配布
国旗及び国歌のデータ収集
会場警備
競技会場
会場における持込禁止物品及び制限品
ユニバーサルコミュニケーション
救護サービス
日本の医療制度(医療機関の受診方法を含む)
大会時の救護サービス
救急搬送
公衆衛生
保険
保険
対物損害保険
賠償責任保険
自動車保険
メディア
メディアに対するLOCの役割
メディア用IDカード
メディアセンター
会場向けメディアサービス
ブランド保護
ブランド保護及び使用
大会エンブレム
大会エンブレムの使用
大会公式マスコット
東京2025 デフリンピック応援隊
付録
会場マスタープラン
デフリンピックスクエアの全体図
競技会場・練習会場一覧
競技日程
競技種目一覧
東京- 日本の紹介
飲食施設の情報
公共交通機関の全体図
会場ゾーン別の気象情報
協賛企業

第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025 宿泊ガイド（第２版）項目一覧表

内容
【A】２０２４年９月３０日までに宿泊申込を行った選手団向け宿泊ガイド
概要と主なタイムライン
東京2025デフリンピック公式旅行代理店
宿泊予約管理
今後の宿泊に関する主なタイムライン
宿泊サービスの基本方針
客室提供保証期間
宿泊施設のカテゴリー
提供対象となる客室タイプ
宿泊料金に含まれるもの
宿泊料金に含まれないもの
宿泊料金の支払い
キャンセル規定
配宿プロセス
宿泊予約の申込
東京2025デフリンピックの配宿方針
配宿内容の通知と旅行契約の締結
2025年２月28日までの宿泊予約の変更
2025年４月１日以降の宿泊予約の変更
2025年４月１日以降の客室キャンセルの考え方
公式旅行代理店(JTB)を通じて宿泊予約をしなかった場合
【B】２０２４年１２月５日以降宿泊申込を行う選手団向け宿泊ガイド
概要と主なタイムライン
東京2025デフリンピック公式旅行代理店
宿泊予約管理
今後の宿泊に関する主なタイムライン
宿泊サービスの基本方針
客室提供保証期間
宿泊施設のカテゴリー
提供対象となる客室タイプ
宿泊料金に含まれるもの
宿泊料金に含まれないもの
宿泊料金の支払い
キャンセル規定

内容
配宿プロセス
宿泊予約の申込
東京2025デフリンピックの配宿方針
配宿内容の通知と旅行契約の締結
2025年２月28日までの宿泊予約の変更
2025年４月１日以降の宿泊予約の変更
2025年４月１日以降の客室キャンセルの考え方
公式旅行代理店(JTB)を通じて宿泊予約をしなかった場合
【共通】大会の輸送サービス
輸送サービス
提供期間
利用条件
公式空港について
来日・離日日の指定について
オリエンテーリング競技の移動について
提供サービス(予定)
荷物輸送
自転車輸送
伊豆大島への荷物輸送
添付書類
Appendix A：ホテルリスト(後日案内)
Appendix B：2025年４月１日以降の客室キャンセルの考え方
Appendix C：国立オリンピック記念青少年総合センター 案内図
Appendix D：競技スケジュール
Appendix E：競技会場MAP
Appendix F：都内競技会場とデフリンピックスクエア間の所要時間
Appendix G：地方競技会場案内資料

都スポーツイベントとの連携一覧

2023年度実施状況 ※実施日時順に掲載

事業名	日程	場所	主な取組内容
2023ジュニアスポーツアジア交流大会	8月25日(金)	駒沢オリンピック公園総合運動場、東京武道館	デフアスリートをゲストとして国際スポーツキャンプを実施
都立特別支援学校活用促進事業体験教室	10月1日(日)	八王子東特別支援学校	デフアスリートによるトークショー、デフ卓球の体験会を実施
レインボーライド・マルチスポーツ	11月23日(木・祝)	臨海部	デフアスリートがゲストとして参加、イベントのステージに登壇
チャレスポ！ TOKYO	1月20日(土)	東京体育館	デフアスリートによるパフォーマンス披露、デフスポーツ体験ブースを設置
TOKYO障スポ＆サポート	2月6日(火)配信	—	ホームページにデフスポーツボランティア向けの動画講座を掲載
パラスポーツ交流会	2月10日(土)	東京体育館	デフバレーボールを通じた交流会を実施

2024年度実施状況 ※実施日時順に掲載

事業名	日程	場所	主な取組内容
スポーツボランティア入門講座	6月5日(水)	東京体育館	デフリンピックに関連したボランティア講座を実施
2024ジュニアスポーツアジア交流大会	8月29日(木)	駒沢オリンピック公園総合運動場、東京武道館	デフアスリートをゲストとして国際スポーツキャンプを実施
スポーツ祭	9月15日(日)	東京都障害者総合スポーツセンター	デフアスリートのトークショーを実施
障害者スポーツ理解・啓発講習	9月28日(土)	東京武道館	デフアスリートによる講習会を実施
障害者スポーツ普及講習	9月28日(土)	東京武道館	デフ空手の体験会を実施
TEAM BEYOND ランニングワークショップ	10月5日(土)	世田谷区立総合運動場陸上競技場	デフアスリートをゲストとしてランニングワークショップを実施
スポーツフェスタ2024in東京体育館	10月14日(月・祝)	東京体育館	デフアスリートをゲストとしてデフ陸上体験を実施
パラスポーツ体験講座	10月14日(月・祝)	東京体育館	デフ陸上の体験会を実施
KOMAすぽ2024	10月14日(月・祝)	駒沢オリンピック公園総合運動場	デフアスリートによるトークショー、デフリンピック競技の体験会を実施

事業名	日程	場所	主な取組内容
スポーツの日記念事業	10月14日(月・祝)	東京武道館	デフゴルフ、デフボウリングの体験会を実施
スポーツの日記念事業	10月14日(月・祝)	東京アクアティクスセンター	デフアスリートをゲストとしてデフ水泳体験会を実施
「TOKYO FORWARD TOKYO2020レガシー展」第５回トークショー	10月26日(土)	SusHi Tech Square	デフアスリートをゲストとしてトークショーを実施
都立特別支援学校活用促進事業体験教室	11月２日(土)	城東特別支援学校	デフアスリートによるトークショー、デフサッカーの体験会を実施
TOKYO障スポ＆サポート	11月15日(金)配信	—	ホームページにデフスポーツボランティア向けの手話言語動画講座を掲載
スポーツボランティアスキルアップ講座	11月18日(月)	東京体育館	デフリンピックに関連したボランティア講座を実施
レインボーライド2024・マルチスポーツ	12月１日(日)	臨海部	デフアスリートがゲストとして参加、イベントのステージで登壇
障害者週間記念事業	12月８日(日)	東京都多摩障害者スポーツセンター	スタートランプ体験、デフリンピック種目紹介、手話言語・国際手話体験を実施
第２回TEAM BEYONDカンファレンス	１月27日(月)	ステーションコンファレンス東京	企業のデフスポーツ支援に取り組む好事例を紹介
東京都障害者スポーツ大会オープン競技(ろう空手競技)	２月９日(日)	東京武道館	デフ空手の競技会を実施
チャレスポ！ TOKYO	２月11日(火・祝)	東京体育館	デフアスリートによるトークショーを実施 会場内でデフスポーツ体験ブースを設置
TEAM BEYONDパラスポーツ体験プログラム	３月２日(日)	住友金属鉱山アリーナ青梅	デフアスリートをゲストとして、デフサッカーの体験会を実施
TAMAスポーツ祭	３月16日(日)	東京都多摩障害者スポーツセンター	デフアスリートによるトークショー、スタートランプや国際手話の体験会を実施 送迎バスをデフリンピック応援仕様にラッピング
TEAM BEYONDパラスポーツ体験プログラム	３月８日(土)	江東区夢の島総合運動場	デフアスリートをゲストとして、デフバスケの体験会を実施

2025年度実施状況 ※実施日時順に掲載

事業名	日程	場所	主な取組内容
スポーツボランティア入門講座	5月28日(水)	東京体育館	デフリンピックに関連したボランティア講義を実施
パラスポーツ体験講座	6月28日(土)	東京体育館	デフ卓球の体験会を実施
デフアスリートスタート練習タイム	6月28日(土) 9月27日(土) 11月23日(日)	東京都障害者総合スポーツセンター	スタートランプの練習会を実施
東京2020メモリアルデーイベント/駒沢体育館リニューアルイベント	7月6日(日)	駒沢オリンピック公園総合運動場体育館	デフアスリートをゲストとしてトークショー、デフスポーツ体験を実施
TEAM BEYOND「街なかパラスポット」	7月19日(土) ～21日(月・祝)	日本科学未来館	デフスポーツ応援漫画のパネルを掲出
フォローアップ講習会	8月16日(土)	東京都障害者総合スポーツセンター	デフスポーツをテーマにした障害理解を深める講習会を実施
第1回TEAM BEYOND カンファレンス	8月27日(水)	御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター ソラシティホール	企業におけるデフスポーツを含むパラスポーツ支援の好事例を発信
スポーツ祭	9月7日(日)	東京都障害者総合スポーツセンター	デフアスリートのトークショーを実施
障害者スポーツ理解・啓発講習	9月27日(土)	東京武道館	デフ柔道に関する講習会を実施
障害者スポーツ普及講習	9月27日(土)	東京武道館	デフアスリートによる講習会を実施
都立特別支援学校活用促進事業体験教室	9月28日(日)	葛飾ろう学校	デフアスリートによるトークショー、デフハンドボールの体験会を実施
スポーツフェスタ 2025 in国営昭和記念公園	10月4日(土)	国営昭和記念公園	手話ダンスを実施
都立特別支援学校活用促進事業体験教室	10月4日(土)	城東特別支援学校	デフアスリートによるトークショー、デフビーチバレーボール体験会を実施
スポーツフェスタ 2025 in 東京体育館	10月13日(月・祝)	東京体育館	デフサッカーの体験会、手話ダンスを実施
KOMA スポ PLAY PARK 2025	10月13日(月・祝)	駒沢オリンピック公園総合運動場	デフ陸上の体験会を実施
武道・スポーツフェスティバル2025	10月13日(月・祝)	東京武道館	東京都聴覚障害者連盟の協力のもと、デフリンピックの特設パネルを展示
アクアスポーツフェスティバル	10月13日(月・祝)	東京アクアティクスセンター	デフ水泳の体験会を実施
スポーツボランティアスキルアップ講座	10月16日(木)	東京体育館	国際手話についてのボランティア講座を実施
BEYOND STADIUM 2025	11月1日(土) 11月2日(日)	新宿住友ビル 三角広場	デフスポーツの体験コーナー、ステージコンテンツを実施

デフリンピック・フェスティバル実施状況

2023年度実施状況

・全国７ブロック(北海道、東北、関東、東海、近畿、中国・四国、九州)にて各１カ所開催した。

開催地/イベント名称	開催規模、内容	○イベントの主催等
○札幌市(北海道) ○「デフリンピック・フェスティバルinほっかいどう」	○2023年11月３日(金・祝) ○会場:東区民センター ○参加者:市民101人 ○内容:啓発映画上映、講演、パネルディスカッション(パラリンピアン、デフリンピアン)	○主催:(公社)北海道ろうあ連盟 ○後援・協力:北海道、北海道教育委員会、北海道障がい者スポーツ協会、デフ競技団体等
○いわき市(福島県) ○「デフリンピック・フェスティバル」	○2023年11月12日(日) ○会場:いわきFCパーク ○参加者:小学生32人 ○内容:かんたん手話言語講座、デフサッカー体験	○主催:(一社)福島県聴覚障害者協会 ○共催:福島県 ○協力:いわきFC、日本ろう者サッカー協会、日本ブラインドサッカー協会
○横浜市(神奈川県) ○「デフリンピック・フェスティバルinかながわ」	○2024年３月20日(水・祝) ○会場:新都市プラザ ○参加者:市民のべ約500人 ○内容:アスリートトークショー、手話言語講座、UDダンス、PRブース	○主催:(一社)神奈川県聴覚障害者連盟 ○共催:神奈川県
○伊豆市(静岡県) ○「デフリンピック・フェスティバルin東海」	○2023年10月22日(日) ○会場:サイクルスポーツセンター ○参加者:ジャパンマウンテンバイクカップ2023観客約500人 ○内容:デフリンピック啓発ブース、自転車競技写真展、PRグッズ配布	○主催:東海聴覚障害者連盟 ○連携:ジャパンマウンテンバイクカップ実行委員会(共催:静岡県、協力:静岡県聴覚障害者協会等)
○大阪市(大阪府) ○「デフリンピック・フェスティバルinおおさか」	○2024年３月20日(水・祝) ○会場:大阪市立鶴見区民センター ○参加者:市民319人 ○内容:デフアスリート紹介、デフリンピッククイズ、記念講演、福引	○主催:近畿ろうあ連盟 ○主管:(公社)大阪聴力障害者協会
○境港市(鳥取県) ○「デフリンピック・フェスティバルin鳥取」	○2024年３月23日(土) ○会場:境港市民交流センター ○参加者:市民約200人 ○内容:啓発映画上映、パネルディスカッション、ミニ手話言語講座、2025デフリンピック大会PR及び決意表明	○主催:(公社)鳥取県聴覚障害者協会 ○共催:鳥取県、境港市 ○後援・協力:鳥取県議会、境港市議会、鳥取県教育委員会、境港市教育委員会、鳥取県社会福祉協議会、境港市社会福祉協議会、中国地区ろうあ連盟、四国ろうあ連盟等
○春日市(福岡県) ○「デフリンピック・フェスティバルin九州」	○2023年11月５日(日) ○会場:クローバープラザ ○参加者:市民160人 ○内容:啓発映画上映、講演(デフアスリート)、デフアスリート交流・体験会	○主催:(社福)福岡県聴覚障害者協会 ○主管:福岡県ろうあ者スポーツ委員会 ○後援・協力:福岡県、九州聴覚障害者団体連合会

2024年度実施状況

・全国９カ所で開催した。2024年度は大規模集客施設でのイベント実施や自治体または民間の大規模集客イベントに組み入れる形で実施し、延べ約26,000人にデフリンピックの周知ができたことは効果的であった。

開催地/イベント名称	開催規模、内容	■フェスティバルの主催 〇イベントの主催等
〇福岡市(福岡県) 〇「東京2025デフリンピックを九州から盛り上げていこう！」	〇2024年９月８日(日) 〇会場:大丸福岡天神店　エルガーラ・パサージュ広場 〇参加者:市民約400人 〇内容:デフリンピックに関する手話言語教室・啓発ブース	■(社福)福岡県聴覚障害者協会 〇(一社)言葉のかけはし、(株)博多大丸九州探検隊
〇青森市(青森県) 〇「手話言語の国際デー 2024 in あおもり」	〇2024年９月23日(月・祝) 〇会場:青森県観光物産館アスパム 〇参加者:市民・観光客約500人 〇内容:啓発映画上映、手話言語・国際手話教室、しゅわしゅわデフリンピック(ダンス)、スタンプラリー、展示	■(一社)青森県ろうあ協会 〇主催:青森県、青森県ろうあ協会、青森県手話通訳士協会、青森県手話通訳問題研究会、青森県手話サークル連絡協議会
〇横浜市(神奈川県) 〇「デフリンピック・フェスティバル」	〇2024年９月28日(土) 〇会場:ららぽーと横浜 〇参加者:市民約350人 〇内容:デフリンピックPRブース、国際手話教室、ミニ手話言語教室	■(一社)神奈川県聴覚障害者連盟 〇共催:全日本ろうあ連盟、三井不動産商業マネジメント(株)
〇徳島市(徳島県) 〇「デフリンピック・フェスティバルinとくしま」	〇2024年10月14日(月・祝) 〇会場:県立障がい者スポーツセンター 〇参加者:市民約160人 〇内容:デフリンピック映画上映会、手話言語体験、スポーツ体験、展示	■(特非)徳島県聴覚障害者福祉協会 〇共催:四国ろうあ連盟、四国ろうあ連盟スポーツ委員会、徳島県パラスポーツ協会 〇後援・協力:徳島県、徳島市、他
〇富士見市(埼玉県) 〇「デフリンピック・フェスティバル」	〇2024年10月19日(土)・20日(日) 〇会場:ららぽーと富士見 〇参加者:市民約470人 〇内容:デフリンピックPR、紙芝居、展示、ミニ手話言語講座、書籍販売、ぬり絵	■(一社)埼玉県聴覚障害者協会 〇共催:全日本ろうあ連盟、三井不動産商業マネジメント(株) 〇協力:埼玉県手話通訳問題研究会、埼玉県手話サークル連絡協議会、埼玉県、富士見市、三芳町
〇江東区(東京都) 〇「デフリンピック・フェスティバル」	〇2024年10月27日(日) 〇会場:ららぽーと豊洲 〇参加者:市民約120人 〇内容:デフリンピックPRブース、手話言語・身振り学習コーナー、展示	■(公社)東京都聴覚障害者連盟 〇共催:全日本ろうあ連盟、三井不動産商業マネジメント(株)
〇亀岡市・京都市(京都府) 〇「デフリンピック・フェスティバルinきょうと」	(1)2024年11月９日(土) 〇会場:かめきたサンガ広場 〇参加者:約15,600人 (2)2024年12月14日(土)・15日(日) 〇会場:かたおかアリーナ京都 〇参加者:約8,200人 〇内容：(1)(2)とも　啓発チラシ配布、啓発動画視聴、ミニ手話言語体験コーナー、デフリンピック出場選手による質疑応答コーナー、展示	■近畿ろうあ連盟、(一社)京都府聴覚障害者協会 〇協力:(1)(株)京都パープルサンガ (2)スポーツコミュニケーションKYOTO(株)
〇かほく市・白山市(石川県) 〇(1)「デフリンピック気運 醸成事業」 (2)「パラスポーツフォーラム」	(1)2024年12月１日(日) 〇会場:かほく市総合体育館 〇参加者:プロ卓球チームの試合観戦者約50人 〇内容:デフリンピックPRブース、手話言語体験コーナー (2)2025年２月11日(火・祝) 〇会場:イオンモール白山 〇参加者:約80人 〇内容:手話言語体験、デフアスリートトークショー、デフリンピックPR	■(社福)石川県聴覚障害者協会 〇主催:(1)石川県 (2)石川県、石川県障害者スポーツ協会
〇名古屋市(愛知県) 〇「あいちパラスポPARK」	〇2025年２月22日(土) 〇会場:愛知県体育館 〇参加者:約250人 〇内容:日本手話言語・国際手話体験、パネル展示等	■(一社)愛知県聴覚障害者協会 〇主催:愛知県

商業施設を活用したイベントキャラバン開催一覧（2025年実施）

No.	開催日	開催場所	イベント等の名称	参加者数
1	3月23日	東京都 秩父宮ラグビー場	NTTジャパンラグビーリーグワン 2024-25 DIVISION1 第12節 東京サントリーサンゴリアス vs コベルコ神戸スティーラーズ	約6,700人
2	3月23日	栃木県 日環アリーナ栃木	宇都宮ブレックス×三遠ネオフェニックス戦	6,038人
3	4月2日	東京都 国立競技場	JAPAN FOOTBALL LIVE 2025 デフサッカー男子日本代表 vs クリアソン新宿	3,808人
4	4月27日	山形県 すぱーく中山	第1回デフモルック東日本交流大会in山形	約100人
5	5月3日	福岡県 福岡市博多区呉服町（明治通り）～福岡市役所前	第64回福岡市民の祭り 博多どんたく港まつり	約115万人
6	5月3～5日	広島県 平和大通り、平和記念公園	2025ひろしまフラワーフェスティバル	約170万7千人
7	5月11日	富山県 富岩運河環水公園	第39回富山県民歩こう運動推進大会	約850人
8	5月30～31日	東京都 迎賓館赤坂離宮	ともともフェスタ2025 ～迎賓館からはじまる「共生社会」～	約3,000人
9	6月4日	東京都 都市センターホテル	令和７年度全国手話言語市区長会総会	220人
10	6月3～15日	岩手県 いわて県民情報交流センター（アイーナ）	東京2025デフリンピック誰もが主役になれる社会を目指して、 デフスポーツ応援漫画展	約2,500人
11	6月21～22日	大分県 トヨタカローラ大分 祝祭の広場	第８回日本デフビーチバレーボール国際親善大会	約500人
12	6月22日	秋田県 秋田アルヴェ	東京２０２５デフリンピック応援イベントinあきた	約1,000人
13	6月22日	東京都内	サントリー社員向けイベント	約100人
14	6月28日	宮崎県 イオンモール宮崎	デフリンピック応援イベントinみやざき	延べ1,022人
15	6月29日	宮城県 松原運動公園サッカー場	JCカップサッカー東北地区大会	約100人
16	6月29日	福井県 西武福井店	デフリンピック応援イベントキャラバンinふくい	約300人
17	6月29日	鹿児島県 イオンモール鹿児島	デフリンピック応援イベントinかごしま	延べ735人

No.	開催日	開催場所	イベント等の名称	参加者数
18	6月29日	新潟県 デンカビッグスワンスタジアム	アルビレックス新潟ホームゲーム	約20,000人
19	7月5日	群馬県 ユーユー広場	JCカップサッカー関東地区大会	約250人
20	7月6日	熊本県 日奈久ドリームランドシー	JCカップサッカー九州地区大会	約300人
21	7月6日	沖縄県 ライカム沖縄	デフリンピック応援イベントinおきなわ	延べ435人
22	7月13日	新潟県 ユートピアくびきふれあいグラウンド	JCカップサッカー北陸信越地区大会	約250人
23	7月13日	熊本県 イオンモール熊本	デフリンピック応援イベントinくまもと	延べ870人
24	7月19～21日	東京都 日本科学未来館	パラスポーツ体験イベント「街なかパラスポット」	延べ8,087人
25	7月23～24日	青森県 ホテル青森	全国知事会in青森	約500人
26	7月26日	北海道 東光スポーツ公園	JCカップサッカー北海道地区大会	約200人
27	7月26日	佐賀県 イオンモール佐賀	デフリンピック応援イベントinさが	延べ576人
28	8月2日	長崎県 プラットおおむら1階ロビー	ながさきピース文化祭2025・東京2025デフリンピックのPRイベント	約200人
29	8月3日	香川県 三豊市緑ヶ丘総合運動公園	JCカップサッカー四国地区大会	約200人
30	8月3日	山口県 KDDI維新ホール	デフリンピック応援イベントinやまぐち	約500人
31	8月7日	東京都 二子玉川ライズ	東京2025デフリンピック100Days To Go! 楽しもう!"みる"からはじまる新発見!!	約78,000人
32	8月9日	福島県 うすい百貨店	東京2025デフリンピック100日前カウントダウンフェスタ 「デフスポふくしま」	1,074人
33	8月9日	兵庫県 ベイコム総合体育館サブアリーナ	ひょうご・ユニバーサルデイ	約400人
34	8月10日	三重県 LA・PITA東員スタジアム	JCカップサッカー東海地区大会	約200人
35	8月11日	島根県 イオンモール出雲	島根県から東京2025デフリンピックを盛り上げよう！	延べ1,099人

No.	開催日	開催場所	イベント等の名称	参加者数
36	8月16日	広島県 フジグラン東広島	東京2025デフリンピック全国キャラバンin東広島	約400人
37	8月23日	鳥取県 鳥取市(バードハット)	デフスポーツ＆デフリンピックイベントinとっとり	約550人
38	8月23日	愛知県 ららぽーと愛知東郷	デフリンピック応援イベントinあいち	延べ1,394人
39	8月24日	三重県 イオンモール東員	つなげよう！デフリンピックの輪・手話言語の輪・人々の輪	約170人
40	8月24日	東京都 フォーリス１階 「光と風の広場」	けやきフェスタ2025「よさこいin府中」	約40人
41	8月29日	香川県 イオンモール綾川	デフリンピック応援イベントinかがわ	延べ520人
42	8月29日	富山県 射水市役所	キャラバンカー登場！みんなで応援！東京2025デフリンピック	約30人
43	8月30日	長野県 長野Uスタジアム	長野県から、東京2025デフリンピックを盛り上げよう	約500人
44	8月30日	富山県 富山県総合運動公園 陸上競技場	J2カターレ富山ホームゲーム 競技場前ブース出店	約50人
45	8月30日	岡山県 岡山県浅口市健康福祉センター	キャラバンカー登場！みんなで応援！東京2025デフリンピック	約250人
46	8月31日	東京都 有楽町朝日ホール	第42回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト	約400人
47	9月3～8日	大阪府 大阪・関西万博会場内 展示会場 EXPOメッセ 「WASSE」イベントホール	Sports Future Lab ～スポーツがつくる未来～	延べ8万人
48	9月6日	愛媛県 イオンスタイル松山	盛り上がろう！東京2025デフリンピック応援イベントinえひめ	延べ1,193人
49	9月7日	石川県 金沢ゴーゴーカレー スタジアム	ツエーゲン金沢と連携した東京2025デフリンピック開催に向けた県内機運醸成イベント	延べ316人
50	9月16日	徳島県 イオンモール徳島	デフリンピック応援イベントinとくしま	延べ261人
51	9月21日	岩手県 いわぎんスタジアム	デフリンピック応援イベントinいわて	約1,700人
52	9月23日	埼玉県 りそなコエドテラス	東京2025デフリンピック応援イベントin川越	延べ1,500人
53	9月23日	大阪府 イオンモール茨木	デフリンピック応援イベントinおおさか	約200人

No.	開催日	開催場所	イベント等の名称	参加者数
54	9月23日	千葉県 イオンモール船橋	デフリンピック応援イベントinちば	延べ4,920人
55	9月23日	青森県 観光物産館	デフリンピック応援イベントinあおもり	約885人
56	9月23日	神奈川県 ボッシュホール	手話の日＆手話言語の国際デー 2025 ～東京2025デフリンピックを成功させよう！～	約3,500人
57	9月23日	岡山県 杜の街グレース	東京2025デフリンピック壮行会inOKAYAMA	約4,000人
58	9月27日	高知県 イオンモール高知	東京2025デフリンピック応援イベントin高知	約220人
59	9月29日	和歌山県 イオンモール和歌山	デフリンピック応援イベントinわかやま	延べ114人
60	10月1日	群馬県 イオンモール高崎	デフリンピック応援イベントinぐんま	延べ1,365人
61	10月2日	奈良県 イオンモール高の原	デフリンピック応援イベントinなら	延べ1,035人
62	10月4日	東京都 ららぽーと豊洲	デフリンピック応援イベントinとうきょう	延べ2,950人
63	10月4日	和歌山県 カッパーク	きこえなくても輝ける！ デフリンピックを知って応援しよう！	約2,000人
64	10月5日	栃木県 道の駅ろまんちっく村	東京2025デフリンピック応援イベントinうつのみや	約1,000人
65	10月5日	大阪府 高石市立総合体育館	第1回デフモルック西日本交流大会in大阪	約60人
66	10月7日	京都府 イオン京都洛南ショッピングセンター	デフリンピック応援イベントinきょうと	延べ533人
67	10月11日	東京都 日比谷公園	HIBIYA PARK TERRACE	ワークショップは 雨天のため中止
68	10月11日	和歌山県 和歌山商工会議所	第77回わかやま商工まつり	約10,000人
69	10月12日	静岡県 ららぽーと磐田	デフリンピック応援イベントinしずおか	延べ893人
70	10月12日	神奈川県 ららぽーと海老名	デフリンピック応援イベントinかながわ	延べ374人
71	10月18日	茨城県 イオンモール下妻	デフリンピック応援イベントinいばらき	延べ1,550人

No.	開催日	開催場所	イベント等の名称	参加者数
72	10月18～19日	岐阜県 岐阜メモリアルセンター	ねんりんピック岐阜2025	約600,000人
73	10月18日	北海道 三井アウトレットパーク 札幌北広島	デフリンピック応援イベントinほっかいどう	延べ200人
74	10月18～19日	福島県 あづま総合運動公園内	LIVE AZUMA 2025	約43,000人
75	10月23日	岐阜県 中部学院大学 関キャンパス講堂	東京2025デフリンピックPR地域市民交流会in中部学院大学	約250人
76	10月25日	兵庫県 ららぽーと甲子園	デフリンピック応援イベントinひょうご	延べ1,210人
77	10月25～26日	岐阜県 岐阜県庁及び周辺	第36回岐阜県農業フェスティバル	約151,000人
78	11月1日	静岡県 静岡大学静岡キャンパス	手話ふれあいフェスタin静岡大学	約350人
79	11月2日	滋賀県 三井アウトレットパーク 滋賀竜王	デフリンピック応援イベントinしが	延べ320人
80	11月2日	愛知県 ナディアパーク	開催直前応援イベント『東京２０２５デフリンピック』 地元を代表して出場する選手たちにエールを送ろう！！	約200人
81	11月2日	東京都 浅草　浅草寺	デフリンピック応援イベントin浅草寺	約1,500人
82	11月3日	石川県 小松総合体育館	デフスポーツ体験イベント ～音のないデフスポーツの世界を体験しよう～	約60人
83	11月7～8日	東京都 東京たま未来メッセ	SPOJAM TAMA スポーツ産業展示体験会	約350人
84	11月8日	山梨県 イオンモール甲府昭和	デフリンピック応援イベントinやまなし	延べ300人
85	11月8日	福島県 福島県あづま総合運動公園内	東京２０２５デフリンピックサッカー競技開幕直前イベント デフサッカー日本代表エキシビションマッチ	約500人
86	11月9日	宮城県 三井アウトレットパーク 仙台港	デフリンピック応援イベントinみやぎ	延べ1,270人
87	11月13日	東京都 国立オリンピック記念青少年センター	大会直前応援イベント	約2,000人

透明ディスプレイ設置施設一覧（令和７年度）

No.	施設名
1	都庁舎総合案内
2	東京都人権プラザ
3	都民情報ルーム
4	大島支庁
5	千代田都税事務所
6	立川都税事務所
7	東京都消費生活総合センター
8	東京体育館
9	駒沢オリンピック公園総合運動場
10	東京武道館
11	有明テニスの森公園テニス施設
12	livedoor URBAN SPORTS PARK（有明アーバンスポーツパーク）
13	海の森水上競技場
14	夢の島公園アーチェリー場
15	カヌー・スラロームセンター
16	大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場
17	東京アクアティクスセンター
18	味の素スタジアム
19	東京都障害者総合スポーツセンター
20	東京都多摩障害者スポーツセンター
21	東京都パラスポーツトレーニングセンター
22	若洲海浜公園ヨット訓練所
23	有明アリーナ
24	京王アリーナTOKYO(武蔵野の森総合スポーツプラザ)
25	福祉局障害者施策推進部執務室内の窓口
26	東京都心身障害者福祉センター
27	東京都心身障害者福祉センター多摩支所
28	障害者福祉会館
29	東京観光情報センター　都庁
30	東京観光情報センター　バスタ新宿
31	東京観光情報センター　羽田空港
32	東京観光情報センター　京成上野
33	東京観光情報センター　多摩
34	全国観光PRコーナー
35	日比谷公園
36	若洲海浜公園
37	中央ろう学校

No.	施設名
38	大塚ろう学校
39	葛飾ろう学校
40	東京都立中央図書館
41	東京都立多摩図書館
42	都道府県会館東京都事務室
43	大島支庁（※追加）
44	大島支庁新島出張所
45	財務局経理部執務室内の窓口
46	中央都税事務所
47	港都税事務所
48	新宿都税事務所
49	文京都税事務所
50	台東都税事務所
51	墨田都税事務所
52	目黒都税事務所
53	渋谷都税事務所
54	荒川都税事務所
55	東京都江戸東京博物館(※休館中)
56	江戸東京たてもの園
57	東京都庭園美術館
58	東京都現代美術館
59	東京都渋谷公園通りギャラリー
60	東京文化会館
61	東京都住宅供給公社都営募集センター
62	福祉局生活福祉部執務室内の窓口
63	福祉局高齢者施策推進部執務室内の窓口
64	東京都西多摩福祉事務所
65	西多摩くらしの相談センター
66	東京都立府中療育センター
67	東京都立中部総合精神保健福祉センター
68	東京都立多摩総合精神保健福祉センター
69	東京都西多摩保健所
70	東京都多摩立川保健所
71	東京都多摩小平保健所
72	東京都健康安全研究センター
73	東京都立広尾病院
74	東京都立荏原病院

No.	施設名
75	東京都立多摩総合医療センター
76	東京都立神経病院
77	東京都立産業貿易センター台東館
78	東京都立産業貿易センター浜松町館
79	東京都立多摩産業交流センター
80	駒沢オリンピック公園
81	代々木公園
82	武蔵野の森公園
83	浜離宮恩賜庭園
84	神代植物公園
85	潮風公園
86	恩賜上野動物園
87	多摩動物公園
88	葛西臨海水族園
89	井の頭自然文化園
90	東京都立一橋高等学校
91	東京都立浅草高等学校
92	東京都立六郷工科高等学校
93	東京都立荻窪高等学校
94	東京都立杉並総合高等学校
95	東京都立竹台高等学校
96	東京都立田柄高等学校
97	東京都立南葛飾高等学校
98	東京都教育相談センター
99	人事委員会事務局執務室内の窓口
100	東京消防庁本部庁舎
101	東京消防庁消防防災資料センター（消防博物館）
102	警視庁遺失物センター
103	万世橋警察署
104	麻布警察署
105	渋谷警察署
106	新宿警察署
107	池袋警察署
108	上野警察署
109	四谷警察署信濃町交番
110	東京辰巳アイスアリーナ

東京2025デフリンピック応援隊一覧

キャラクター名	所属団体
ベコ太郎	福島県
ふじっぴー	静岡県
SUSIE(スージー)	東京都スポーツ文化事業団
ふちゅこま	東京都府中市
キビタン	福島県
かながわキンタロウ	神奈川県
コトミちゃん	東京都江東区
タッタカくん	東京都三鷹市
はねぴょん	東京都大田区
うまべぇ	東京都東大和市
チッキー＆クラちゃん	公益財団法人 東京都スポーツ協会
ふわっぴー	埼玉県富士見市
コバトン・さいたまっち	埼玉県
品川区３競技応援キャラクター（シナカモン、ビーチュウ、やたたま）	東京都品川区
ビュー坊	東京都足立区
あいちゃん	神奈川県愛川町
いこいーな	東京都西東京市
みらいくん　のぞみちゃん	埼玉県三芳町
菊松くん	福島県二本松市
はなてらすちゃん	三重県伊勢市
ぽぽたん	埼玉県朝霞市
ノーマくん・ライちゃん	埼玉県さいたま市
つなが竜ヌゥ	埼玉県さいたま市
もりりん	神奈川県秦野市
くろしおくん	高知県
トライくん	大阪府東大阪市
くるりん	東京都立川市
いるティー	埼玉県入間市
ふじキュン♡	神奈川県藤沢市
すだちくん	徳島県
はちくん	秋田県大館市
ゆりも	株式会社ゆりかもめ （東京都事業協力団体）
しぶさわくん	東京都北区・ 東京北区観光協会

キャラクター名	所属団体
おりぴぃ	埼玉県狭山市
つちまる	茨城県土浦市
ときも	埼玉県川越市
トリピー	鳥取県
かめぼう	東京都
きいちゃん	和歌山県
ダイトン	大阪府大東市
もずやん	大阪府
つげさん	大阪府貝塚市
ちっくん	茨城県筑西市
きゅぽらん	埼玉県川口市
りんりんちゃん	東京都板橋区
んだッチ	秋田県
ちかっぱー	東京都昭島市
ねり丸	東京都練馬区
くっすん	大阪府四条畷市
新宿あわわ	新宿区食品衛生協会
ひこぼしくん	大阪府枚方市
ガラスケ	大阪府門真市
はむりん	東京都羽村市
玄武岩の玄さん	兵庫県豊岡市
おりひめちゃん	大阪府交野市
むすび丸	宮城県
ちきりくん	大阪府岸和田市
ココロン	宮城県仙台市
かいちゃん＆つぶちゃん	埼玉県三郷市
とっぴー	大阪府富田林市
朝来市ちゃすりん	兵庫県朝来市
みのりちゃん	千葉県松戸市
ニンニンくん®	東京都清瀬市
ヤマトン	神奈川県大和市
いそべぇ・あおみ	神奈川県大磯町
すいっぴー	神奈川県大井町
なかまる	神奈川県中井町
よいしょの金太郎	神奈川県南足柄市
カパル	公益財団法人志木市文化スポーツ振興公社
コダイくん・ロマンちゃん	大阪府和泉市

キャラクター名	所属団体
あじさいちゃん	神奈川県開成町
あゆコロちゃん	神奈川県厚木市
さがみん	神奈川県相模原市
アビリス	厚生労働省所管法人＜独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構＞
たか坊・ふう子	兵庫県多可町
はばタン	兵庫県
かんだちくん	青森県東通村
陣たくん	兵庫県赤穂市
しーたん	兵庫県宍粟市
なのは	兵庫県洲本市
はちかづきちゃん ねや丸くん	大阪府寝屋川市
ふくまるくん	大阪府池田市
ぼっくりん	兵庫県高砂市
トコろん	埼玉県所沢市
加東　伝の助	兵庫県加東市
はぴりゅう	福井県
いなぼう	兵庫県猪名川町
ウェルピー	兵庫県加古川市
ゾウキリン	埼玉県新座市
時のわらし	兵庫県明石市
都希(とっきー)	大阪府大阪市都島区
アイディ	東京都世田谷区・公益財団法人世田谷区スポーツ振興財団
あべのん	大阪府大阪市阿倍野区
あまっこ	兵庫県尼崎市
城南ウサギ	東京都立城南特別支援学校
いばらき童子	大阪府茨木市
マッキー	大阪府松原市
すみちゃん	大阪府大阪市住吉区
市川梨丸	千葉県市川市・ 市川市動植物園
キッピーファミリー (キッピー・ハッピー・チャッピー)	兵庫県三田市
汗一平・風さやか	千葉県船橋市

キャラクター名	所属団体
やずぴょん	鳥取県八頭町
くにニャン	東京都国立市
堺市ハニワ部長・CHO (Chief Haniwa Officer)	大阪府堺市
はにたん	大阪府高槻市
イヌナキン	大阪府泉佐野市
ろっぴー	鳥取県立鳥取聾学校
まなりくん	大阪府藤井寺市
オッサンショウオ	鳥取県日南町
丹波竜のちーたん	兵庫県丹波市
モックル	大阪府河内長野市
もり吉	大阪府守口市
みやたん	兵庫県西宮市
滝ノ道ゆずる	大阪府箕面市
サカエル＆みそさかい	大阪府堺市
ニッシーちゃん	大阪府堺市
みみちゃん	大阪府堺市
かしぴょん	大阪府柏原市
つぶたん	大阪府羽曳野市
えぼし麻呂とミーナ	神奈川県茅ヶ崎市
ふわぽん	兵庫県神戸市・ 神戸市社会福祉協議会
しろまるひめ	兵庫県姫路市
大番頭　船えもん	千葉県船橋市
円心くんとエイトちゃん	兵庫県上郡町
ゆめるん	兵庫県南あわじ市
いなっち	兵庫県稲美町
あわ神・あわ姫	兵庫県淡路市
カーミン	兵庫県神崎郡神河町
たみまる	兵庫県伊丹市
ひまりん	兵庫県神崎郡市川町
ツージィ	大阪府大阪市大正区
たてよこさん・ てんいちさん	兵庫県播磨町
のんちゃん・すーちゃん	大阪府大阪市北区
こぶしの みのりちゃん	大阪府大阪市東淀川区
マチカネくん	大阪府豊中市
たじりっち	大阪府田尻町
あら坊	東京都荒川区

キャラクター名	所属団体
ジャンプくん	大阪府泉南郡熊取町
メジーナちゃん	大阪府泉南郡熊取町
すいたん	大阪府吹田市
とり奉行 骨付きじゅうじゅう	香川県丸亀市
京極くん	香川県丸亀市
うちっ娘ちゃん	香川県丸亀市
きさポン	千葉県木更津市
さやりん	大阪府大阪狭山市
赤とんぼくん・あかねちゃん	兵庫県たつの市
おまっちぇ	島根県松江市
たけ のこ りん	京都府向日市
コスモちゃん	大阪府大阪市城東区
おづみん	大阪府泉大津市
きんたくん	兵庫県川西市
にっしー	大阪府大阪市西区
泉南熊寺郎 (せんなんくまじろう)	大阪府泉南市
たっけー☆☆	東京都福生市
のん太	広島県東広島市・ 東広島市観光協会
はなてぃ	大阪府阪南市
とちまるくん	栃木県

キャラクター名	所属団体
ナイチュウ	栃木県
さざぴー	大阪府大阪市住之江区
「みさっきー」と 「みさきーちょ」	大阪府泉南郡岬町
生野区マスコットキャラクター　いくみん	大阪府大阪市生野区
つるりっぷ	大阪府大阪市鶴見区
たっぴー	岡山県立岡山聾学校
スーパーポンポコジャガピーにしなりくん	大阪府大阪市西成区
ぼうじぃ	兵庫県揖保郡太子町
フッピィ＆クッピィ	大阪府大阪市福島区
夢ちゃん	大阪府大阪市淀川区
ハニワこうてい	大阪府八尾市・八尾市立 しおんじやま古墳学習館
ひゅーペン	大阪府八尾市
ヤッタくん	大阪府八尾市
に～よん	大阪府大阪市西淀川区
☆ラビット	外務省
ジオンくん	兵庫県美方郡香美町
みづまろくん	大阪府三島郡島本町
このはちゃん	大阪府大阪市此花区
ゆりーと	東京都

東京2025デフリンピック実施に係る主な会議体の開催実績

＜ICSDレポートミーティング＞

	開催日
第１回	2023年９月13日(水)
第２回	2023年12月６日(水)
第３回	2024年３月21日(木)

＜ICSD連絡会＞

	開催日
第１回	2024年９月24日(火)
第２回	2024年10月24日(木)
第３回	2024年12月24日(火)
第４回	2025年１月30日(木)
第５回	2025年２月25日(火)
第６回	2025年３月25日(火)
第７回	2025年５月７日(水)
第８回	2025年６月11日(水)
第９回	2025年７月23日(水)
第10回	2025年８月22日(金)

＜デフリンピック運営委員会＞

	開催日	主な議題
第１回	2023年４月12日(水)	・エンブレムの制作について ・全国への気運醸成の推進について ・社会的・文化的プログラムの検討について
第２回	2023年８月７日(月)	・「全国への気運醸成の推進事業」 ・「第25回夏季デフリンピック競技大会東京2025 大会概要」の策定について
第３回	2023年11月７日(火)	・諸委員会の委員の選任等について ・「第25回夏季デフリンピック競技大会東京2025開催基本計画」の策定について
第４回	2023年12月18日(月)	・大会基本計画を踏まえた今後の対応について
第５回	2024年３月６日(水)	・2024年度事業計画(案)について ・2024年度予算(案)について
第６回	(書面決議)2024年３月21日(木)～26日(火)	・情報公開審査会の委員の選任について
第７回	2024年５月27日(月)	・2024年度デフリンピック・フェスティバルについて
第８回	2024年10月22日(火)	・デフリンピック・フェスティバル開催について
第９回	(書面開催)2024年12月23日(月)	・東京2025デフリンピック「大会規模(計画額)」の収入について ・東京2025デフリンピック　開閉会式について
第10回	2025年３月６日(木)	・2025年度事業計画(案)について ・2025年度予算(案)について
第11回	2025年６月９日(月)	・2025年度予算の修正について
第12回	2025年10月31日(金)	・国際手話通訳者及び手話言語通訳者の養成等について
第13回	2026年1月21日(水)	・大会実施報告について ・DEAF SPORTS HOUSEの設置と実績について ・日本手話言語による解説について

※2026年１月時点

＜2025年デフリンピック大会開催に向けた準備運営体制に関する検討会＞

	開催日	主な議題
第１回	2022年11月22日(火)	・検討会の目的 ・2025年デフリンピック大会の概要 ・大会の準備運営体制の確立に向けて
第２回	2023年１月24日(火)	・国際スポーツ大会への東京都の関与のガイドラインについて ・2025年デフリンピック大会の準備運営体制について(案) ・2025年デフリンピック大会におけるガバナンスの方向性(案)

＜2025年デフリンピック大会に係る大会準備連携会議＞

	開催日	主な議題
第１回	2023年２月17日(金)	・大会までのロードマップについて ・全日本ろうあ連盟と東京都の業務分担、体制図について ・大会規模について
第２回	2023年３月17日(金)	・大会運営組織における2023年度の事業計画(案)及び予算(案)について
第３回	2023年５月17日(水)	・2023年度デフリンピック運営委員会の事業計画案について ・大会開催基本計画について ・2023年度デフリンピックの都内気運醸成に向けた取組について
第４回	2023年８月22日(火)	・デフリンピック運営委員会における検討状況について ・デフリンピック大会運営にかかるアスリート会議について ・第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025大会概要
第５回	2023年11月22日(水)	・第25回デフリンピック競技大会 東京2025開催基本計画 ・デフリンピック運営委員会における取組 ・都の気運醸成に関する大会２年前の取組
第６回	2023年12月26日(火)	・東京2025デフリンピック「大会規模(計画額)」について
第７回	2024年３月26日(火)	・東京2025デフリンピックロードマップについて ・東京2025デフリンピックに係る寄附・協賛について ・デフリンピック運営委員会における取組
第８回	2024年６月24日(月)	・デフリンピック運営委員会における取組 ・東京2025デフリンピック応援隊・公式マスコットについて ・デフリンピックスクエアについて
第９回	2024年11月13日(水)	・デフリンピック・フェスティバル開催について ・ボランティア募集について ・大会１年前の取組
第10回	(書面開催)2024年12月23日(月)	・東京2025デフリンピック「大会規模(計画額)」の収入について ・東京2025デフリンピック開閉会式について
第11回	2025年３月26日(水)	・デフリンピック・フェスティバル開催について ・ボランティアについて ・2024年度デフリンピック気運醸成の都の主な取組 ・「ビジョン 2025 アクションブック バージョンアップ」について ・競技会場・競技日程について ・協賛企業の状況等について ・キャッシュレス募金について ・さくらキャンペーンについて

	開催日	主な議題
第12回	2025年６月18日(水)	・2024年度デフリンピック・フェスティバル実施報告 ・未来へつながるプログラムについて ・2025年度デフリンピック気運醸成の東京都の主な取組について ・東京2025デフリンピック セッションスケジュールについて ・東京2025デフリンピックの観戦に係る今後の予定 ・キャッシュレス募金について ・協賛契約の状況等について
第13回	2025年11月５日(水)	・国際手話通訳者及び日本手話言語通訳者について ・大会への子どもの参画について ・デフリンピック気運醸成に係る大会直前・大会時の東京都の主な取組について ・ユニバーサルコミュニケーションの促進に係る大会時の東京都の取組について ・選手への対応について ・観客への対応について ・メディア関係について ・デフリンピックスクエアについて
第14回	2026年１月23日(金)	・大会実績報告について ・大会報告書について ・大会収支の今後の対応について

※2026年１月時点

＜東京2025デフリンピックに係る大会準備実務者会議＞

	開催日	主な議題
第１回	2025年9月10日(水)	・会議の設置目的等 ・手話言語通訳者の養成について ・輸送・宿泊について ・選手・関係者向けのサービスについて
第２回	2025年11月5日(水)	・セキュリティ体制について ・医療体制等について ・多様な人々の参画について ・デフリンピックスクエアの設置について ・DEAF SPORTS HOUSE について ・ユニバーサルコミュニケーション(ＵＣ)について
第３回	2026年1月23日(金)	・大会の振り返り （東京都スポーツ文化事業団デフリンピック準備運営本部） ・大会の振り返り（全日本ろうあ連盟デフリンピック運営委員会） ・大会の振り返り（東京都）

＜2025年デフリンピック東京大会推進議員連盟＞

	開催日	主な議題
第１回	2022年12月７日(水)	議連の設立、東京大会の概要説明
第２回	2023年２月９日(木)	認知度の向上、国への協力の働きかけ
第３回	2023年５月24日(水)	大会準備状況、政府への要望
第４回	2023年11月28日(火)	気運醸成に向けた取組、大会開催基本計画、閣議了解
第５回	2024年３月15日(金)	全国と都の気運醸成の取組、閣議了解
第６回	2024年12月12日(木)	気運醸成の取組、１年前の都の取組、スポーツ庁の取組
第７回	2025年６月17日(火)	大会の準備状況及び都の取組、スポーツ庁の取組
第８回	2025年11月6日(木)	直前の準備状況
第９回	2025年12月9日(火)	大会の総括、議連の解散

印刷物一覧

1 会場装飾

基本ツール

【大会ロゴバナー】

〇基本デザイン





〇競技運営上配慮が必要な競技(バドミントン、卓球、テニス、射撃、バスケットボール)





【のぼり】



【ロールアップバナー】



【スポンサーボード】



【会見バックパネル】



各会場・競技特性に合わせた特注装飾

【A型ボード】



【テーブルバナー】



【屋外タイトルバナー（例：東京体育館）】



【階段シート（東京武道館）】





【ウェルカムボード
（例：駒沢オリンピック公園総合運動場　陸上競技場）】



【ガラスボード（京王アリーナＴＯＫＹＯ）】



【フォトスポットバナー（Ｊヴィレッジ）】



【フォトスポットパネル(例：日本サイクルスポーツセンター、東京アクアティクスセンター)】





2 主なPRグッズ

【公式ポスター】



【さくらポスター】



【PRカード】



【大会エンブレムポスター】



【応援アンバサダーポスター】



【デフアスリートポスター】



競技御覧等一覧・競技視察一覧

日付	競技名	会場	
11月15日(土)	開会式	東京体育館	秋篠宮皇嗣殿下
			秋篠宮皇嗣妃殿下
			佳子内親王殿下
			悠仁親王殿下
11月16日(日)	オリエンテーリング	日比谷公園	秋篠宮皇嗣妃殿下
	柔道	東京武道館	三笠宮寛仁親王妃信子殿下
11月19日(水)	デフリンピックスクエア	国立オリンピック記念青少年総合センター	秋篠宮皇嗣妃殿下
11月20日(木)	水泳	東京アクアティクスセンター	秋篠宮皇嗣殿下
			秋篠宮皇嗣妃殿下
11月23日(日)	オリエンテーリング	伊豆大島(裏砂漠)	秋篠宮皇嗣妃殿下
			悠仁親王殿下
11月24日(月)	空手	東京武道館	佳子内親王殿下
	卓球	東京体育館	佳子内親王殿下
11月25日(火)	サッカー	Ｊヴィレッジ	高円宮妃殿下
	自転車(MTB)	日本サイクルスポーツセンター	彬子女王殿下
	テニス	有明テニスの森	佳子内親王殿下
	水泳	東京アクアティクスセンター	天皇陛下 皇后陛下 愛子内親王殿下
	バレーボール	駒沢オリンピック公園総合運動場体育館	秋篠宮皇嗣妃殿下
11月26日(水)	閉会式	東京体育館	佳子内親王殿下

会議体

2025年デフリンピック大会に係る大会準備連携会議

職名	所属	氏名
委員	一般財団法人全日本ろうあ連盟常任理事、事務局長	久松 三二
委員	東京都	渡邉 知秀
委員	スポーツ庁参事官	八木 和広(～2023年8月)
		柿澤 雄二(2023年11月～2024年12月)
		小川 哲史(2025年3月～)
委員	公益財団法人日本オリンピック委員会常務理事	籾井 圭子(～2023年5月)
		星 香里(2023年8月～)
委員	公益財団法人日本パラスポーツ協会	藤原 正樹
委員	弁護士	三好 豊
委員	公認会計士	中村 友理香
事務局	一般財団法人全日本ろうあ連盟	ー
事務局	東京都	ー

デフリンピック運営委員会

職名	所属	氏名
委員長	一般財団法人全日本ろうあ連盟常任理事、事務局長	久松 三二
副委員長	医師	薬師寺 道代
委員	国立大学法人筑波技術大学学長	石原 保志
委員	公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会会長	延與 桂
委員	一般財団法人全日本ろうあ連盟理事	太田 陽介(～2025年6月)
委員	一般社団法人山梨県聴覚障害者協会事務所長	小椋　武夫(2025年6月～)
委員	弁護士	畑中 淳子
委員	デフリンピック選手	早瀬 久美(～2025年6月)
委員	デフリンピック選手	松橋 早友梨(2025年6月～)
委員	東京都	横山 英樹(～2024年5月)
委員	東京都	古屋 留美(2024年5月～2025年6月)
委員	東京都	渡邉 知秀(2025年6月～)
事務局	デフリンピック運営委員会事務局	ー

東京2025デフリンピックに係る大会準備実務者会議

職名	所属	氏名
委員	一般財団法人全日本ろうあ連盟 副理事長	河原 雅浩
委員	東京都	渡邉 知秀
委員	一般財団法人全日本ろうあ連盟 常任理事	久松 三二
委員	東京都スポーツ文化事業団 デフリンピック準備運営本部 本部長	小室 明子
事務局	東京都	ー

協賛者

トータルサポートメンバー

株式会社アシックス
トヨタ自動車株式会社
ソフトバンク株式会社
株式会社ジェイ・ブロード
株式会社ＴＢグループ
東京新聞（中日新聞東京本社）
株式会社ウォーターネット
塩野義製薬株式会社
株式会社ニシ・スポーツ
東京メトロポリタンテレビジョン株式会社
日本卓球株式会社
株式会社Asian Bridge
渥美坂井法律事務所・外国法共同事業
LINEヤフー株式会社
ヨネックス株式会社
SYNC25
株式会社はとバス
株式会社光文堂インターナショナル
株式会社ゼンリンデータコム
リオン株式会社
住友電設株式会社
アデッソ株式会社
株式会社ジャパンディスプレイ
株式会社リードビジョン
岡山放送株式会社
アマゾンジャパン合同会社
株式会社JTB
株式会社読売新聞東京本社
株式会社朝日新聞社
株式会社TBSホールディングス
サステナビリティ創造センター
ＳＭＢＣ日興証券株式会社
ケイアイスター不動産株式会社
株式会社アイシン
東日本旅客鉄道株式会社
株式会社ＴＯＷＡ
太平電業株式会社
株式会社INPEX
東京地下鉄株式会社
社会福祉法人友愛十字会
アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社
株式会社大林組
デマント・ジャパン株式会社
株式会社オープンハウスグループ
株式会社日本コクレア
公益財団法人山田昇記念財団
株式会社オリエントコーポレーション
東京パワーテクノロジー株式会社
大塚製薬株式会社
株式会社フジミインコーポレーテッド
文化シヤッター株式会社
株式会社スーパーアルプス
株式会社博報堂テクノロジーズ
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
株式会社博報堂ＤＹアイ・オー
一般財団法人日本財団電話リレーサービス
日本郵政株式会社
一般社団法人東京地区ライオンズ
一般社団法人ミス日本協会
ダイダン株式会社
株式会社帝国ホテル
株式会社サンケイリビング新聞社
三井住友トラストグループ株式会社
東武タワースカイツリー株式会社
三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
清水建設株式会社
野村ホールディングス株式会社
株式会社ＴＯＫＹＯ　ＴＯＷＥＲ
富士通株式会社
独立行政法人都市再生機構東日本都市再生本部
株式会社マツキヨココカラ＆カンパニー
一般社団法人アスリートネイル協会
三井不動産株式会社
一般社団法人日比谷エリアマネジメント
株式会社リオネットセンター城南
小田急電鉄株式会社
Coltテクノロジーサービス株式会社
ダイタンホールディングス株式会社
株式会社みずほ銀行
スターバックスコーヒージャパン株式会社
株式会社ヨコブリシ
有限会社エピスタ
ビュージックスジャパン株式会社
西武レクリエーション株式会社
西武鉄道株式会社
FILLTUNE株式会社
公益社団法人東京都鍼灸師会
株式会社東京交通会館
京王電鉄株式会社
巴山建設株式会社
パナソニックコネクト株式会社
東急電鉄株式会社
一般社団法人ことばインターナショナル
株式会社フジテレビジョン
MSD株式会社

ゲームズサポートメンバー

住友電設株式会社
株式会社ニシ・スポーツ
ヨネックス株式会社
株式会社モリタ製作所
太平電業株式会社
東京パワーテクノロジー株式会社
清水建設株式会社
一般社団法人日本スポーツ歯科医学会
ライフネット生命保険株式会社
山崎製パン株式会社
サノフィ株式会社
ＡＫコーポレーション株式会社
みずほ信託銀行株式会社
伊豆箱根鉄道株式会社
メリダジャパン株式会社
株式会社ポピンズエデュケア
大東紡エステート株式会社
株式会社キャスト・ワークス
株式会社ティーケーラボ
えびすや土産店
株式会社カインズ
CCCMKホールディングス株式会社
株式会社リコー
株式会社鼓月
株式会社岩手リオン補聴器センター
日機通商株式会社
株式会社マルズ
戸田ビルパートナーズ株式会社
SBI損害保険株式会社
東京都農業協同組合中央会
株式会社キザシオ
株式会社エムゴールド
東京ボウリング場協会
株式会社小糸製作所
Hapbeat合同会社
株式会社方角
平林金属株式会社
株式会社ＣＣＨサウンド
株式会社アイエスゲート
ベーカー＆マッケンジー法律事務所
(外国法共同事業)
株式会社コヤマドライビングスクール
合同会社StudioKAI
祥恵株式会社
When I was young株式会社
株式会社グランバー東京ラスク
サントリーホールディングス株式会社
株式会社ArtSpaceDragonFly
株式会社日立製作所
東急リバブル株式会社
株式会社ハイレゾ
株式会社NTTコノキュー
コンパスグループ・ジャパン株式会社

みるTechサポートメンバー

株式会社オリィ研究所
サイナーズ株式会社
一般社団法人ハートウェアラボ
Insta Chord 株式会社
ハロームービー株式会社
株式会社POCKET RD
株式会社オンテロープ
株式会社スマートスタート
株式会社ロジリシティ
Hapbeat合同会社
一般社団法人日本eスポーツ協会
株式会社EG
LiNKX株式会社
株式会社日伸
タクタス
クラスター株式会社
ソニーグループ株式会社
株式会社meleap
SoundUDコンソーシアム
(事務局：ヤマハ株式会社)
株式会社シー・エヌ・エス
株式会社ラディックス

寄附をいただいた方々

寄附をいただいた方々（敬称略）

1	中嶋正宏
2	渡邉知秀
3	石嶋和雅
4	田口夏男
5	鵜飼順三
6	清水洋子
7	東芝労働組合府中支部
8	一般財団法人東京マラソン財団 スポーツレガシー事業
9	栗原秀行
10	滑川里美
11	見村和彦
12	浦安市手話奉仕員養成講座(前期)有志
13	SUMレコード 「あきらめない！一緒に」制作班
14	髙井実千枝
15	牧野みどり
16	吉野万智子
17	同前直昌
18	石井英雄
19	風野由里子
20	岡安梓
21	中村里花子
22	渡辺秀一
23	榎本ゆき
24	南修司郎
25	白石弥生子
26	千葉友子
27	松田薫
28	亀割
29	愛甲みどり
30	高橋京子
31	小林規岳
32	野田範海意
33	須藤和恵
34	田之頭真由美
35	芦川紘子
36	南澤千恵子
37	酒井佳和
38	岡崎恵子
39	馬場唯菜
40	芳賀知大
41	松下紀江
42	瀧美和子
43	菅井さゆり
44	本田均
45	石黒聡
46	松川亜樹子
47	増田眞美子
48	サトウミキ
49	後藤潔
50	佐藤聖
51	佐々木信壱
52	扇谷裕子
53	川嶋郁美
54	井口ちづか
55	遠藤裕子
56	HOMIE手話塾
57	藤代國忠
58	松本保
59	いろは耳鼻咽喉科
60	山口大学手話サークルOB会
61	蒲郡市立蒲郡西部小学校
62	一般社団法人東京地区ライオンズ
63	愛媛県立宇和特別支援学校聴覚障がい部門
64	モリマーグループ 森 修
65	手話サークル江東
66	日進工具株式会社
67	荻原直士
68	横須賀市聴覚障害者　親の会
69	株式会社ライフイノベーション
70	松山真
71	吉田憲史
72	柴田正
73	横須賀市立ろう学校PTA
74	公益社団法人東京都宅地建物取引業協会
75	神田千代子
76	株式会社タミヤホーム
77	石島秀哉
78	今場秀典
79	玄和堂歯科診療所
80	特定非営利活動法人スケッチブック
81	宮城県立聴覚支援学校　有志
82	石橋拓也
83	工藤美由紀
84	鈴木一義
85	下関手話青い鳥の会
86	後藤祐希
87	成田正英
88	小林孝史
89	東京JC茶道同好会
90	関谷耳鼻咽喉科　補聴器外来 （サカエきこえの相談室）
91	田島義資
92	健歯歯科
93	星川義彦
94	三上篤史
95	石渡慎一
96	海老原義治
97	ラグビーのまち府中サポーターズ

※お名前の公表に同意いただいた方のみを掲載しています。

協力団体

※本一覧は、法人格（一般財団法人、株式会社等）を除いた名称を基準に、五十音順で掲載している。

	団体名
1	いわき市医療センター
2	大島医療センター
3	一般社団法人ガールスカウト東京都連盟
4	株式会社グランドボウル
5	独立行政法人国立青少年教育振興機構
6	独立行政法人国立病院機構 東京医療センター
7	サインエール応援団
8	公益財団法人G-7奨学財団
9	株式会社Ｊヴィレッジ
10	JFAメディカルセンター整形外科クリニック
11	公益財団法人JKA
12	株式会社ジェイコム東京
13	一般社団法人静岡県医師会
14	一般社団法人静岡県言語聴覚士会
15	公益社団法人静岡県聴覚障害者協会
16	公益財団法人JAPAN BOWLING
17	首都高速道路株式会社
18	順天堂大学医学部附属静岡病院
19	昭和女子大学
20	公益財団法人全日本空手道連盟
21	公益財団法人全日本柔道連盟
22	一般社団法人全日本テコンドー協会
23	一般社団法人全日本ろう者空手道連盟
24	日本ろう者空手道連盟
25	国立大学法人筑波技術大学
26	株式会社テレビ静岡
27	東海汽船株式会社
28	東京高速道路株式会社
29	東京港埠頭株式会社
30	東京慈恵会医科大学附属病院
31	東京商工会議所
32	東京私立初等学校協会
33	一般財団法人東京私立中学高等学校協会
34	株式会社東京スタジアム
35	公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構 東京都聴覚障害者連盟
36	公益社団法人東京都医師会
37	東京都華道茶道連盟
38	公益財団法人東京観光財団
39	一般社団法人東京都言語聴覚士会
40	公益財団法人東京都公園協会
41	東京都公衆浴場業生活衛生同業組合
42	東京都高等学校体育連盟テニス専門部
43	公益財団法人東京都私学財団
44	公益社団法人東京都障害者スポーツ協会
45	公益財団法人東京都水泳協会
46	公益財団法人東京都スポーツ協会
47	一般社団法人東京都卓球連盟
48	一般社団法人東京都バスケットボール協会
49	東京都バドミントン協会
50	公益財団法人東京都バレーボール協会
51	東京都ハンドボール協会
52	東京都ビーチバレーボール連盟
53	東京都ボウリング連盟
54	一般財団法人東京マラソン財団
55	地方独立行政法人東京都立病院機構
56	公益財団法人東京都歴史文化財団
57	一般社団法人東京バス協会
58	公益財団法人東京防災救急協会
59	公益財団法人東京陸上競技協会
60	一般財団法人トヨタ・モビリティ基金
61	成田国際空港株式会社
62	公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構
63	公益社団法人日本オリエンテーリング協会
64	公益財団法人日本オリンピック委員会
65	一般社団法人日本言語聴覚士協会
66	日本空港ビルデング株式会社
67	東京国際空港航空会社運営協議会
68	東京国際空港ターミナル株式会社
69	公益財団法人日本ゴルフ協会
70	一般財団法人日本サイクルスポーツセンター
71	公益財団法人日本財団
72	公益財団法人日本サッカー協会
73	公益財団法人日本自転車競技連盟
74	一般社団法人日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会
75	公益財団法人日本水泳連盟
76	公益財団法人日本スポーツ協会
77	独立行政法人日本スポーツ振興センター
78	一般社団法人日本スポーツフェアネス推進機構
79	日本青年団協議会
80	公益財団法人日本卓球協会
81	公益財団法人日本テニス協会
82	日本デフオリエンテーリング協会
83	特定非営利活動法人日本デフゴルフ協会
84	一般社団法人日本デフ水泳協会
85	特定非営利活動法人 日本デフバスケットボール協会
86	一般社団法人日本デフバドミントン協会
87	一般社団法人日本デフバレーボール協会
88	一般社団法人日本デフビーチバレーボール協会
89	一般社団法人日本デフボウリング協会
90	一般社団法人日本デフ陸上競技協会
91	日本テレビ放送網株式会社
92	公益財団法人日本バスケットボール協会
93	特定非営利活動法人日本パラ射撃連盟
94	公益財団法人日本パラスポーツ協会
95	公益財団法人日本バレーボール協会
96	公益財団法人日本ハンドボール協会 （デフハンドボール専門委員会含む）
97	公益社団法人日本ライフル射撃協会
98	公益財団法人日本陸上競技連盟
99	一般社団法人日本臨床耳鼻咽喉科医会
100	公益財団法人日本レスリング協会
101	一般社団法人日本ろうあ者卓球協会
102	一般社団法人日本ろう自転車競技協会
103	一般社団法人日本ろう者サッカー協会
104	一般社団法人日本ろう者柔道協会
105	一般社団法人日本ろう者テニス協会
106	日本ろう者ライフル射撃協会
107	沼津市立病院
108	株式会社日比谷アメニス
109	一般社団法人日比谷エリアマネジメント
110	一般社団法人福島県医師会
111	一般社団法人福島県言語聴覚士会
112	一般財団法人福島県サッカー協会
113	一般社団法人福島県聴覚障害者協会
114	福島県ふたば医療センター附属病院
115	福島テレビ株式会社
116	公益財団法人ミズノスポーツ振興財団
117	一般財団法人民族衣裳文化普及協会
118	明治神宮外苑

年表～東京2025デフリンピックの軌跡～

月	日	主な出来事
2018年(平成30年)		
3	11	連盟理事会で「招致チーム」の設置　＜連盟＞
6	10	第66回全国ろうあ者大会（大阪）で「デフリンピック日本招致に関わる特別決議」が採択　＜連盟＞
7	2	超党派による「障がい者スポーツ・パラリンピック推進議員連盟　スペシャルオリンピックス支援ワーキングチーム・デフリンピック支援ワーキングチーム」の合同会議で、デフリンピック日本招致について決議
2019年(令和元年)		
12	11	ICSD総会（イタリア）で2025年日本招致取組状況を報告　＜連盟＞
2020年(令和２年)		
1	20	ICSDカン・チェン会長及びドミトリー・レブロフ事務総長を日本に招聘し、菅義偉官房長官、橋本聖子東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会担当大臣、小池百合子都知事、スポーツ庁、JOC、JPC等と面談
10	24	「デフリンピック準備室」の開設　＜連盟＞
2021年(令和３年)		
11	28	ICSD臨時総会（スイス）で招致活動の進捗状況報告、ICSD副会長に大杉豊氏を連盟から推薦、当選　＜連盟＞
12	3	「デフリンピック2025招致」について、東京都聴覚障害者連盟から都内区市議会へ要望書を提出
2022年(令和４年)		
5	1	「第24回夏季デフリンピック競技大会」がブラジル・カシアス・ド・スルで開幕
5	15	「第24回夏季デフリンピック競技大会」がブラジル・カシアス・ド・スルで閉幕
6	1	令和4年東京都議会第二回定例会において、東京都知事の所信表明で2025年デフリンピック開催に言及 ＜都＞
9	8	2025年デフリンピックの開催に立候補　＜連盟＞
9	10	ICSD総会（オーストリア）で東京が2025年デフリンピックの開催地に正式決定
11	22	「2025年デフリンピック大会開催に向けた準備運営体制に関する検討会」の設立
12	7	「2025年デフリンピック東京大会推進議員連盟」の設立
12	26	「国際スポーツ大会への東京都の関与のガイドライン」の策定　＜都＞
2023年(令和５年)		
2	7	「ビジョン2025 スポーツが広げる新しいフィールド 全ての人が輝くインクルーシブな街・東京へ」の策定 ＜都＞
2	13	ICSD、連盟、連盟スポーツ委員会で、「第25回夏季デフリンピック競技大会に関する開催契約」を締結
2	14	「2025年デフリンピック大会に係る大会準備連携会議」の設立　＜連盟＞
3	30	2025年デフリンピック大会エンブレムの制作開始
3	31	連盟及び都で「2025年デフリンピック大会の準備・運営に関する基本協定書」、都及び事業団で「2025年デフリンピック大会の準備・運営に関する協定書」を締結
4	1	連盟内に「デフリンピック運営委員会」を設置　＜連盟＞
4	1	事業団内に「デフリンピック準備運営本部」を設置　＜事業団＞
4	1	令和5年度東京都国際手話普及促進事業の開始　＜都＞
4	20	「契約・調達管理会議」の設置
5	1	「コンプライアンス委員会」、「利益相反管理委員会」、「内部通報制度」の設置　＜連盟＞
5	31	東京2025デフリンピックに向けた登録国際手話通訳者試験の開始　＜連盟＞
6	16	「デフリンピック大会運営にかかるアスリート会議」の設置　＜事業団＞
8	1	「コンプライアンス委員会」、「公益通報制度」の設置　＜事業団＞

月	日	主な出来事
2023年(令和５年)		
8	18	「TOKYO FORWARD 2025」特設Webサイト・公式Instagramの開設　＜都＞
8	22	「第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025 大会概要」の策定、競技会場の公表
8	22	東京2025デフリンピック大会サイトの開設　＜事業団＞
8	24	2025年デフリンピック大会エンブレムデザイン最終候補案の発表
9	3	2025年デフリンピック 大会エンブレムをえらぼう!～中高生によるエンブレムデザイン投票グループワーク・発表イベント～ を開催、東京2025デフリンピック大会エンブレムが決定
9	13	「利益相反マネジメント委員会」の設置　＜事業団＞
10	6	東京2025デフリンピック応援アンバサダー就任（長濱ねるさん、川俣 郁美さん、KIKI）＜都＞
10	22	「デフリンピックフェスティバルin東海」の開催　＜連盟＞
11	3	「デフリンピックフェスティバルinほっかいどう」の開催　＜連盟＞
11	5	「デフリンピックフェスティバルin九州」の開催　＜連盟＞
11	11	「情報公開審査会」の設置　＜連盟＞
11	12	「デフリンピックフェスティバル（ふくしま）」の開催　＜連盟＞
11	13	デフリンピックや手話言語を学べるハンドブック「学ぼう!デフリンピック」を公開　＜都＞
11	15	「みるカフェ」を期間限定でオープン（～ 11/26）（大会2年前）　＜都＞
11	22	「第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025　開催基本計画」の策定
12	26	「東京2025デフリンピックに係る大会規模（計画額）」の公表
2024年(令和６年)		
1	17	東京2025デフリンピック応援アンバサダー就任（朝原宣治さん）　＜都＞
1	26	「ビジョン2025 アクションブック」の策定　＜都＞
2	10	「選手団向け大会ガイドブック」の策定
2	13	ダンス楽曲「しゅわしゅわ☆デフリンピック!」の公開　＜都＞
2	14	事業団公式Xアカウントの開設　＜事業団＞
2	16	第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025及び東京2025世界陸上競技選手権大会に係る閣議了解
2	25	「アスリート交流イベント for KIDS」の開催　＜都＞
3	2	「第20回冬季デフリンピック競技大会」がトルコ・エルズルムで開幕
3	6	「東京2025デフリンピックにおける収入確保及び分配に関する合意書」を締結
3	7	「第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025寄附金募集要綱」の策定　＜事業団＞
3	7	「第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025 協賛要綱」の策定　＜事業団＞
3	12	「第20回冬季デフリンピック競技大会」がトルコ・エルズルムで閉幕
3	20	「デフリンピックフェスティバルinかながわ」の開催　＜連盟＞
3	20	「デフリンピックフェスティバルinおおさか」の開催　＜連盟＞
3	21	「第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025 宿泊ガイド」の策定　＜事業団＞
3	22	東京2025デフリンピックの開催に向けた寄附・協賛の募集開始　＜事業団＞
3	23	「デフリンピックフェスティバルin鳥取」の開催　＜連盟＞
4	1	令和6年度東京都国際手話普及促進事業の開始　＜都＞
4	25	事業団公式Instagramの開設　＜事業団＞

月	日	主な出来事
5	9	スペシャルトークショー「音のない世界と “つながる”」の開催（大会555日前） ＜都＞
5	24	東京2025デフリンピック　クラウドファンディングの募集開始（～ 7/25） ＜事業団＞
6	11	東京2025デフリンピック大会公式マスコットが「ゆりーと」に決定
6	11	東京2025デフリンピック応援隊を結成
6	11	東京2025デフリンピック大会メインカラーの公表
6	14	38箇所の都有施設に、音声を多言語で表示する透明ディスプレイを設置　＜都＞
6	24	「デフリンピックスクエア」を国立オリンピック記念青少年総合センターに設置することを公表　＜事業団＞
7	3	都内区市町村の全小学校4 ～ 6年生約34万人に「学ぼう!デフリンピック」を配布（大会500日前） ＜都＞
7	19	「学ぼう!デフリンピック」特別授業の開催　＜都＞
9	1	東京2025デフリンピック 子供たちが決めるメダルデザインの投票開始　＜事業団＞
9	20	東京2025デフリンピックに向けた企業交流会の開催　＜事業団＞
9	28	「デフリンピック・フェスティバル（かながわ）」の開催　＜連盟＞
9	30	事業団と筑波技術大学との連携協定の締結　＜事業団＞
10	6	「子供スポーツ体験教室」の開催（10/6,12/14,1/19,3/1）＜都＞
10	11	東京2025デフリンピックのボランティア募集概要の公表　＜都＞
10	14	「デフリンピック・フェスティバルinとくしま」の開催　＜連盟＞
10	19	「デフリンピック・フェスティバル（埼玉）」の開催（～10/20） ＜連盟＞
10	27	「デフリンピック・フェスティバル（東京）」の開催　＜連盟＞
10	30	ICSDの各競技のSDによる会場視察（～ 11/1） ＜事業団＞
11	7	「東京2025デフリンピック開閉会式検討部会」の設置　＜事業団＞
11	9	「デフリンピック・フェスティバルinきょうと」の開催　＜連盟＞
11	13	選手団専用ページの開設　＜事業団＞
11	13	東京2025デフリンピック競技日程一覧表の公開　＜事業団＞
11	13	「第1回東京2025デフリンピックプレスセミナー」の開催　＜事業団＞
11	13	「第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025 宿泊ガイド（第2版）」の策定　＜事業団＞
11	15	「東京2025デフリンピック 1 Year To Go !」の開催（～ 11/16） ＜都＞
11	15	東京2025デフリンピックメダルデザインの発表　＜事業団＞
11	15	東京2025デフリンピックのボランティア募集開始　＜都＞
11	15	デフアスリートに届ける新しい応援スタイル「サインエール」の発表　＜都＞
11	18	選手団団長セミナーの開催
11	23	「みるテクノ　in 立川」の開催（～ 11/24）＜都＞
11	29	東京2025デフリンピックに向けた駐日外国公館向け説明会の開催
12	14	「デフリンピック・フェスティバルinきょうと」の開催　＜連盟＞
12	23	「東京2025デフリンピック「大会規模（計画額）」の収入について」の公表
2025年(令和７年)		
1	31	「ビジョン2025 アクションブック バージョンアップ」の策定　＜都＞
2	6	「みるカフェ」を期間限定でオープン（～ 2/14） ＜都＞
2	14	マラソン競技会場（東京高速道路及び首都高速道路高速八重洲線の一部）及び練習会場等の公表
2	21	東京2025デフリンピック キャッシュレス募金の受付開始　＜事業団＞
2	28	東京2025デフリンピック協賛企業・団体交流会の開催　＜事業団＞

月	日	主な出来事
3	6	事業団公式YouTubeアカウントの開設　＜事業団＞
3	17	「さくらキャンペーン～大会メインカラーは桜色!みんなで盛り上げよう～」の実施（～ 3/30）　＜事業団＞
3	17	東京2025デフリンピック Amazon Payによるキャッシュレス募金の受付開始　＜事業団＞
3	19	東京2025デフリンピックのボランティア3,500人の当選を公表　＜都＞
3	25	広報発信にかかる事業協力検討協定の締結　＜事業団＞
4	24	事業団と独立行政法人国立青少年教育振興機構における「デフリンピックスクエア」の設置・運営に向けた協力協定の締結　＜事業団＞
5	8	開閉会式出演者オーディションの募集開始　＜事業団＞
5	9	デフリンピック特別授業「きこえないってどんな世界?」の開催（大会200日前）　＜都＞
5	14	「救急救命に関する講習」を実施（5/14,15）　＜事業団＞
5	22	東京2025デフリンピックに向けた国際手話通訳者及び日本手話言語通訳者養成スキルアップ研修会の実施（～8/21）　＜連盟＞
6	12	東京2025デフリンピック「つながる募金」によるキャッシュレス募金の受付開始　＜事業団＞
6	15	キャラバンカー出発セレモニー（岩手）の開催、巡回開始　＜連盟＞
6	18	セッションスケジュール（種目別競技実施スケジュール）の公表　＜事業団＞
6	18	メディア専用ページの開設　＜事業団＞
6	18	「第2回東京2025デフリンピックプレスセミナー」の開催　＜事業団＞
6	19	「第1回東京2025デフリンピック 宿泊施設研修会」の開催　＜事業団＞
7	1	透明ディスプレイを設置する都有施設を110箇所に拡大　＜都＞
7	29	ICSD主催団体競技組合せ抽選の実施（バスケットボール、サッカー、ハンドボール、バレーボール）
7	29	東京2025デフリンピック プレス向け説明会及び協賛企業・団体交流会の開催　＜事業団＞
7	29	東京2025デフリンピック観戦案内の公表　＜事業団＞
8	3	「東京2025デフリンピック カウントダウンツアー」の実施（～ 11/14）　＜都＞
8	7	「東京2025デフリンピック 100 days to go!」を開催　＜都＞
8	7	開会式・閉会式一般観覧者の募集開始　＜事業団＞
9	5	「東京2025デフリンピックに係る大会準備実務者会議」の設置
9	20	東京2025世界陸上において円盤投 湯上剛輝選手（東京2025デフリンピック日本代表）を「サインエール」で応援＜都＞
9	23	都内区市町村の全小学校新4年生約13 万人に「学ぼう!デフリンピック」を配布＜都＞
9	23	「ユニバーサル・チャットボード」の作成　＜事業団＞
9	25	「第2回東京2025デフリンピック 宿泊施設研修会」の開催　＜事業団＞
9	28	デフリンピック50日前記念トークセッション「ふたつの世界をつなぐ存在 ～手話通訳士の魅力～」の開催 ＜都＞
10	4	国際手話人材活用促進事業の実施（10/4・5・11・12）　＜都＞
10	9	東京2025デフリンピックに向けた日本手話言語解説のための集中研修会の実施（～ 10/31）　＜連盟＞
10	15	デフリンピック1か月前記念イベント「アスリート特別授業」の開催　＜都＞
10	29	メディアガイドの策定　＜事業団＞
11	1	「オールウェルカムTOKYO ～デフ・スペシャル～」を実施（～ 11/30）　＜都＞
11	5	「東京2025デフリンピック競技観戦ガイド」の策定　＜事業団＞
11	5	「第3回東京2025デフリンピック プレスセミナー」の開催　＜事業団＞
11	14	キャラバンカー到着セレモニーの開催　＜連盟＞
11	14	デフリンピックスクエアオープニングイベントの開催

月	日	主な出来事
11	14	第1回記者会見の実施　＜事業団＞
11	14	第1回選手団団長会議の実施
11	15	東京2025デフリンピック 開会式
11	15	デフリンピックスクエアオープン（～11/26）
11	17	プレス説明会の実施　＜事業団＞
11	20	第2回記者会見の実施　＜事業団＞
11	22	「スポーツFUN PARK ～スポーツとサステナブルライフの祭典～」の開催(～11/24)　＜都＞
11	26	東京2025デフリンピック 閉会式
11	26	第2回選手団団長会議の実施　＜事業団＞
11	26	第3回記者会見の実施　＜事業団＞
2026年(令和８年)		
1	30	「ビジョン2025 レガシーブック」の策定　＜都＞
1	30	「東京2025デフリンピック大会収支の見通し」の公表
2	2	「東京2025デフリンピック協賛企業・団体感謝の集い」の開催　＜事業団＞
2	12	「デフスポーツ支援感謝の集い」の開催　＜連盟＞

第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025　大会報告書

2026年３月発行

印刷物規格表第２類
印刷番号（7）81

編集・発行　一般財団法人全日本ろうあ連盟
住所　東京都新宿区原町三丁目61番

東京都スポーツ推進本部
住所　東京都新宿区西新宿二丁目８番１号

公益財団法人東京都スポーツ文化事業団デフリンピック準備運営本部
住所　東京都江東区青海二丁目４番24号


DEAFLYMPICS
TOKYO 2025
25TH SUMMER DEAFLYMPICS